実務経験のある教員が担当する授業科目一覧

注）網掛けの科目は学年進行により令和4年度以降開設

生活科学科

01	生活学的法律論	2	講義
02	生活学的経済論	2	講義
03	生活学的社会論	2	講義
04	日本国憲法	2	講義
05	生活化学	2	講義
06	運動健康論	2	演習
07	キャリアデザインⅡ	1	演習
08	社会福祉調査の基礎	2	講義
09	チームマネジメント	1	講義
10	ソーシャルワークの基礎と専門職(専門)	2	講義
11	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	2	講義
12	医学概論	2	講義
13	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	講義
14	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	講義
15	福祉サービスの組織と経営	2	講義
16	権利擁護を支える法制度	2	講義
17	刑事司法と福祉	2	講義
18	ソーシャルワーク演習	2	演習
19	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	2	演習
20	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	2	演習
21	介護福祉概論	2	講義
22	介護の基本Ⅰ	2	講義
23	介護の基本Ⅱ	2	講義
24	介護の基本Ⅲ	2	講義
25	生活支援技術A	2	演習
26	生活支援技術B	2	演習
27	生活支援技術C	2	演習
28	生活支援技術D	1	講義
29	介護過程Ⅰ	2	講義
30	介護過程Ⅱ	1	演習
31	介護過程Ⅲ	2	演習
32	介護過程Ⅳ	1	演習
33	介護総合演習Ⅰ	1	演習
34	介護総合演習Ⅱ	1	演習
35	介護総合演習Ⅲ	1	演習
36	介護総合演習Ⅳ	1	演習
37	介護実習Ⅰ－1	2	実験/実習
38	介護実習Ⅰ－2	4	実験/実習
39	介護実習Ⅱ	4	実験/実習
40	認知症の理解A	2	講義
41	認知症の理解B	2	講義
42	こころのしくみと機能	2	講義
43	医療的ケアⅠ	4	講義
44	医療的ケアⅡ	1	講義・演習
45	人体の構造と機能	2	講義
46	こころとからだのしくみA	2	講義
47	こころとからだのしくみB	2	講義
48	衣造形学演習	2	講義・演習
49	衣造形学実習Ⅰ	1	実験/実習
50	調理学演習.	2	実験/実習
51	消費生活論	2	講義
52	社会福祉調査の基礎	2	講義
53	衣造形学演習	2	講義・演習
54	衣造形学実習Ⅰ	1	実験/実習
55	調理学演習.	2	実験/実習
56	建築設備	2	講義
57	建築法規Ⅰ	2	講義
58	建築法規Ⅱ	2	講義
59	建築構造Ⅱ	2	講義
60	建築施工	2	講義

実務経験のある教員が担当する授業科目一覧

生活科学科

生活総合コース

01	生活学的法律論	2 講義
02	生活学的経済論	2 講義
03	生活学的社会論	2 講義
04	日本国憲法	2 講義
05	生活化学	2 講義
06	運動健康論	2 演習
07	キャリアデザインⅡ	1 講義
08	生活経済学	2 講義
09	消費生活論	2 講義
10	社会調査法	2 講義
11	健康生活論	2 講義
12	衣造形学演習	2 講義・演習
13	衣造形学実習Ⅰ	1 実験/実習
14	調理学演習.	2 実験/実習

福祉コース

01	生活学的法律論	2 講義
02	生活学的経済論	2 講義
03	生活学的社会論	2 講義
04	日本国憲法	2 講義
05	生活化学	2 講義
06	運動健康論	2 演習
07	キャリアデザインⅡ	1 演習
08	社会調査法	2 講義
09	ケアマネジメント	1 講義
10	社会福祉援助技術論Ⅱ	2 講義
11	社会福祉援助技術論Ⅲ	2 講義
12	医学一般	2 講義
13	地域福祉論Ⅰ	2 講義
14	地域福祉論Ⅱ	2 講義
15	福祉行財政と福祉計画	2 講義
16	福祉サービスの組織と経営	2 講義
17	権利擁護と成年後見制度	2 講義
18	相談援助演習Ⅰ	2 演習
19	相談援助演習Ⅱ	2 演習
20	相談援助演習Ⅲ	2 演習
21	介護の基本Ⅱ	4 講義
22	介護の基本Ⅲ	4 講義
23	生活支援技術A	2 演習
24	生活支援技術B	2 演習
25	生活支援技術C	2 演習
26	生活支援技術D	1 講義
27	介護過程Ⅰ	2 講義
28	介護過程Ⅱ	1 演習
29	介護過程Ⅲ	2 演習
30	介護過程Ⅳ	1 演習
31	介護総合演習Ⅰ	1 演習
32	介護総合演習Ⅱ	1 演習
33	介護総合演習Ⅲ	1 演習
34	介護総合演習Ⅳ	1 演習
35	介護実習Ⅰ－1	2 実験/実習
36	介護実習Ⅰ－2	4 実験/実習
37	介護実習Ⅱ	4 実験/実習
38	認知症の理解A	2 講義
39	認知症の理解B	2 講義
40	こころのしくみと機能	2 講義
41	医療的ケアⅠ	4 講義
42	医療的ケアⅡ	1 講義・演習
43	人体の構造と機能	2 講義
44	こころとからだのしくみA	2 講義
45	こころとからだのしくみB	2 講義
46	衣造形学演習	2 講義・演習
47	調理学演習.	2 実験/実習

建築デザインコース

01	生活学的法律論	2 講義
02	生活学的経済論	2 講義
03	生活学的社会論	2 講義
04	日本国憲法	2 講義
05	生活化学	2 講義
06	運動健康論	2 演習
07	キャリアデザインⅡ	1 演習
08	消費生活論	2 講義
09	社会調査法	2 講義
10	衣造形学演習	2 講義・演習
11	調理学演習.	2 実験/実習
12	建築設備	2 講義
13	建築法規Ⅰ	2 講義
14	建築法規Ⅱ	2 講義
15	建築構造Ⅱ	2 講義
16	建築施工	2 講義

実務経験のある教員が担当する授業科目一覧

食物栄養学科

01	生活学的法律論	2	講義
02	生活学的経済論	2	講義
03	生活学的社会論	2	講義
04	日本国憲法	2	講義
05	生活化学	2	講義
06	運動健康論	2	演習
07	キャリアデザインⅡ	1	演習
08	臨床医学Ⅰ	2	講義
09	臨床医学Ⅱ	2	講義
10	病理学	2	講義
11	微生物学	2	講義
12	臨床検査実習.	1	実験/実習
13	臨床栄養学Ⅱ	2	講義
14	栄養管理学Ⅰ	2	講義
15	栄養管理学Ⅱ	2	講義
16	臨床栄養学実習Ⅰ	1	実験/実習
17	臨床栄養学実習Ⅱ	1	実験/実習
18	公衆栄養学Ⅰ	2	講義
19	公衆栄養学Ⅱ	2	講義
20	公衆栄養学実習	1	実験/実習

実務経験のある教員が担当する授業科目一覧

地域創成学科

1	情報処理Ⅰ	2	演習
2	キャリアデザインⅡ	1	演習
3	生涯学習概論	2	講義
4	図書館概論	2	演習
5	博物館概論	2	演習
6	デザイン論	2	講義
7	情報処理Ⅱ	2	講義
8	情報処理Ⅲ	2	実技
9	考古学	2	実験/実習
10	介護概論	2	講義
11	CG基礎Ⅰ	1	講義
12	CG基礎Ⅱ	1	講義
13	考古学実習	2	講義
14	Webデザイン	1	講義
15	図書館サービス概論	2	講義
16	図書館情報資源概論	2	演習
17	情報資源組織論	2	演習
18	図書館情報技術論	2	講義
19	図書館制度・経営論	2	講義
20	情報サービス論	2	
21	情報サービス演習	2	
22	情報資源組織演習	2	
23	図書館基礎特論	1	
24	図書館情報資源特論	1	
		42	

健康栄養学科

1	日本国憲法	2	講義
2	健康スポーツ論	1	講義
3	スポーツ実技	1	実技
4	キャリアデザインⅡ	1	演習
5	病理学	2	講義
6	食品学Ⅰ	2	講義
7	食品学Ⅱ	2	講義
8	食品衛生学	2	講義
9	食品学実験	1	実験/実習
10	食品衛生学実験	1	実験/実習
11	公衆栄養学	2	講義
12	食商品学	2	講義
		19	

幼児教育学科

1	日本国憲法	2	講義
2	健康スポーツ論	1	講義
3	キャリアデザインⅡ	1	演習
4	教育・保育課程論	2	講義
5	子どもの健康と安全	1	講義
6	社会福祉	2	講義
7	特別支援教育基礎論	2	演習

実務経験のある教員が担当する授業科目一覧

専攻科　文化学専攻

1	日本古代の歴史と文化	4 講義
2	考古学特論	4 講義
3	日本の考古学	4 講義
4	考古学演習	4 演習
		16

令和3年度

科目名	生活学的法律論	**対象 単位数 必選**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木　康元		
開講期	後期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける☒ 〔授業全体の内容の理解〕☒ 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう☒ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕☒ 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること☒ 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕☒ 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける☒ 〔授業全体の内容の理解〕☒ 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう☒ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕☒ 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること		
受講資格	家政学部１年	**成績評価 方法**	ペーパー試験と出席の程度を考慮する
教科書	その都度指定する		
参考書	その都度指定する		
学生への要望	法律一般につき興味をもって欲しい☒		
オフィスタイム	授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室☒ 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	家族法とは	民法における家族法位置づけと家族の意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	婚姻（１）	婚姻の意味と婚約等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	婚姻（２）	婚姻の効力→婚姻をすると、夫婦はどのような義務を負うのか	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	離婚（１）	離婚の意味と実態等について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	離婚（２）	離婚の方法と実務から見た問題点について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	内縁	内縁の意味とその法的意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	親子（１）	親子の種別（実子・養子）と法的効果について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	親子（２）	親権の意味と内容について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	扶養	法律上の扶養義務者と現代的変遷について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	相続の基礎	相続の意味と現代的特色	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	相続人	誰が相続人になるのか、相続人に相続させたくない場合は	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	相続の効力（１）	遺産承継について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	相続の効力（２）	相続分と遺産分割について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	遺言	遺言の意義・方式等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	成年後見	成年後見制度について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	生活学的経済論	**対象 単位数 必選**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川　貴弘		
開講期	前期		
授業概要	本授業の目的は、生活と密接にかかわる経済の基礎知識の習得と経済学的視点の確立である。不景気・デフレーション・円高・円安・インフレーション・消費生活・生活経済等、普段からニュースや新聞で取り上げられるものであるが、これらの経済的事象は私達の生活と密接にかかわっている。これら経済的事象を経済学的視点で見る目を養うことを本授業の目的としたい。☒ なお、在北京日本国大使館経済部での勤務経験を活かし、授業の中で経済統計の見方、マクロ経済の理論と実際について採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 在北京日本国大使館経済部専門調査員として主に中国経済の分析に従事。 ☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☒ 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☒ 【位置づけ・水準】　GU1109		
達成目標	【単位認定の最低基準】　☒ 経済的事象を経済的視点で見る目を養うことを到達目標とする。この目標の７割程度の達成をもって単位認定の最低基準とする。☒ ☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】　他との協調、人間形成		
受講資格	家政学部 生活科学科 1年生 ☒ 家政学部 食物栄養学科 1年生	**成績評価 方法**	①小テスト30点（15点×２回）☒ ②レポート70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	伊藤元重「はじめての経済学（上）（下）」日経文庫、他必要に応じ授業の中で紹介する。		
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる経済関連の問題について関心を持つようにすること。		
オフィスタイム	火曜日　3コマ　水曜日4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について解説する。☒ 経済学とは何かを説明する第一の例としてインフレーションとデフレーションを取り上げ、両者が私達の生活に与える影響について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	経済学とは何か②	第二の例として円安と円高を取り上げ、両者が私達の生活にどのような影響を与えるのかについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	経済学とは何か③	経済学をめぐって行われてきた政策論争（自由貿易vs保護貿易）について学修することを通じて経済学への理解を深める。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	消費生活と経済①	消費と消費者の概念について、消費者の権利と責任について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	消費生活と経済②	様々な消費者問題とクーリングオフについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	消費生活と経済③	グリーンコンシューマーとフェアトレードの概念について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	消費生活と経済④	消費生活と経済について総まとめ。 小テスト1回目	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	30
8	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査①	世界と日本の家計研究の歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査②	エンゲルの法則とエンゲル係数の概念について学修する。近年のエンゲル係数の動向について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
10	食料・食品と経済①	食料自給率、食と流通等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	食料・食品と経済②	食と環境、食品廃棄物問題等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	30
12	行動経済学とその概要①	行動経済学とは何か、その概要について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
13	行動経済学とその概要②	行動経済学について、ナッジ（nudge）理論を元にその事例を紹介する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
14	地域経済～郡山市の経済について①	地域経済とは何かを解説した上で、私達が住んでいる郡山市の経済とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
15	地域経済～郡山市の経済について② まとめ	郡山市の経済とその特徴について学修する（前回の続き）。これまでの学修内容を確認する。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

令和3年度

科目名	生活学的社会論	**対象 単位数 必選**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川　貴弘		
開講期	前期		
授業概要	私達は社会の中で生きており、生活と社会は切り離して考えることはできない。本授業では、私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているか、すなわち現代社会の特性、人と社会との関係、社会問題とその背景について理解を深め、考察する力を養うこと、更に社会と切り離せない生活の多様性についても理解することを目的としている。 なお、本講義では、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方、活用の仕方についても採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。　☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。 【位置づけ・水準】　GU1108		
達成目標	【単位認定の最低基準】 私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているかについて、理解を深め、考察する力を養うことを目標とする。この目標の７割程度の達成をもって単位認定の最低基準とする。		
受講資格	家政学部 生活科学科 1年生 ☒ 家政学部 食物栄養学科 1年生	**成績評価 方法**	①小テスト30点（15点×２回）☒ ②レポート70点
教科書	プリントを配布する。☒		
参考書	浅野智彦編著「社会学のことが面白いほどわかる本」、中経出版　他		
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる社会の問題について関心を持つようにすること。		
オフィスタイム	火曜日　3コマ　水曜日4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法について説明する。☒ 『社会』とは何か、今の日本『社会』はどのような状態にあるか、その一例として少子高齢化社会について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	少子高齢化社会と日本と世界①	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、日本の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	少子高齢化社会と日本と世界②	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、世界各国の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	少子高齢化社会と日本と世界③	平均寿命、平均余命、健康寿命などの概念、それら指標の現状ついて概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	社会と仕事・家族①	家族とその役割について学修する。 家庭において起こる問題―DVと児童虐待について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	社会と仕事・家族②	フリーターとニート（ひきこもりを含む）、日本的雇用慣行について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	社会と仕事・家族③	正規雇用と非正規雇用、働くことの意義について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
8	社会と自己と他者①	癒しと宗教、社会的自我と個人のアイデンティティについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	社会と自己と他者②	癒しと宗教、社会学から見た自殺問題について学修・考察する。小テスト（1回目予定）☒	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60
10	社会と国家①	社会学から見た国家（ルールと権力）、平等な社会と格差について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	社会と国家②	厚生労働省とその取り組み（１）年金制度、社会保障制度、介護保険制度について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	社会と国家③	厚生労働省とその取り組み（２）医療保険制度とその仕組みについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
13	社会と国家④	厚生労働省とその取り組み（３）「健康日本21」等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
14	社会と国家⑤	「地域保健法」と保健所の役割について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
15	まとめ	これまでの学修内容の確認と小テストの内容について復習する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

令和3年度

科目名	日本国憲法	**対象 単位数 必選**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木　康元		
開講期	前期		
授業概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。☒ 履修カルテ評価項目☒ ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。☒ ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。☒ ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。☒ 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。☒		
達成目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。☒ 履修カルテ評価項目☒ ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。☒ ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。☒ ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。☒ ☒		
受講資格	家政学部１年生	**成績評価 方法**	ペーパー試験(80%)と出席状況(20%)
教科書	憲法【第二版】☒ 弘文堂		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。		
オフィスタイム	火曜日☒ 授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室☒ 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特色、日本国憲法の歴史☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下の平等の意義☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	基本的人権⑦	経済的自由権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	基本的人権⑧	財産権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	基本的人権⑨	その他の人権について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	統治機構①	国会☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	統治機構②	内閣☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	統治機構③	裁判所☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	生活化学	**対象 単位数 必選**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択
担当教員	大西　弘太郎		
開講期	前期		
授業概要	生活科学部での専門科目学習において重要な化学系各講義を理解するための化学的基礎学力および知識の修得を目指す。高校化学の復習・補完および教職課程に必要な有機化学、食品化学、環境化学など専門化学系科目の導入知識の修得を目指す。 ☒ ☒ 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。☒ 実務経験：医師として医療機関に勤務している。 ☒ ☒ 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。 ☒ ☒ 位置づけ・水準 GU1112		
達成目標	原子の構造と化学結合についての化学的基礎知識を修得する。☒ 化学結合論に基づいた代表的な有機化合物の立体構造の推察力及び表現力を獲得する。☒ 有機化合物の構造と命名法の理解と代表的な有機化合物の命名能力を獲得する。☒ ☒ 単位認定の最低基準：化学的基礎知識が習得されていること。 ☒ ☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：他との協調、人間形成。		
受講資格	生活科学科社会福祉コース 1年☒ 生活科学科建築デザインコース 1年	**成績評価 方法**	小テスト　(20%) ☒ 筆記試験　(80%)
教科書	なし		
参考書	生理学・生化学につながる　ていねいな化学(羊土社)		
学生への要望	講義での学習内容は、高校化学の復習に基づく化学的基礎知識を70%、専門化学系科目の導入知識を30%に設定している。１年後期以降に受講する専門化学系科目の準備として、本講義の学習内容をほぼ完全に理解・修得することが望ましい。☒ 学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。		
オフィスタイム	臨床医学研究室☒ 火曜日　13:00～17:00。☒ 木曜日　15:00～17:00。 ☒ 金曜日　08:30～17:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	物質の構成と原子構造	物質の構成。☒ 原子構造と周期表。	物質は何でできている？、粒子は常に動いている！、元素と原子と分子ってどう違うの？、荷電って何？、周期表って何？、等々……。	120
2	化学結合	イオン同士の結びつき、イオン結合。原子同士の結びつき、共有結合。金属同士の結びつき、金属結合。	イオンって何？、イオン結合って何？、共有結合って何？、ファンデルワールス力って何？、金属結合って何？、等々……。	120
3	物質量	原子量、分子量、式量。☒ 物質量と化学反応式。	原子量、分子量、式量って何？、質量って何？、体積、密度って何？、溶媒・溶質・溶液って何？、モル濃度って何？、化学反応式って何？、等々……。	120
4	酸と塩基。☒ 酸化還元反応。	酸と塩基。酸化還元反応。	酸、塩基とは？、酸・塩基の価数とは？、酸・塩基の強弱は電離度で決まる！、酸性・中性・塩基性、pH、中和、塩って何？。酸化と還元の3つの定義。電池の仕組み。	120
5	酵素反応と酸塩基平衡	酵素反応。☒ 体液の酸塩基平衡。	化学反応にも速度がある、化学反応による熱の出入り、化学反応にはエネルギーが必要、酵素は体内の化学反応を促進する。化学反応には方向性がある、平衡状態が崩れたらどうなるの？、pHの変化をやわらげる働き。	120
6	生体を構成する物質	糖質、脂質、タンパク質、核酸。	からだは有機物で出来ている。	120
7	気体の性質	気体・液体・固体、温度と状態、理想気体方程式。	物質の状態(特に気体について)予習復習をしましょう。	120
8	炭素化合物	アルカン。アルケン。シクロアルカン、シクロアルケン。	それぞれについて予習復習をしましょう。	120
9	官能基	アルコールとエーテル。アルデヒド。ケトン。カルボン酸。エステル。アミンとアミド。	それぞれについて予習復習をしましょう。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	芳香族	芳香族化合物。	芳香族について予習復習をしましょう。	120
11	色素	色素。	色素について予習復習をしましょう。	120
12	香り、味	香り、味。	香り、味について予習復習をしましょう。	120
13	高分子	高分子とは何か？。ポリエチレンとその仲間。ナイロンとその仲間。ゴム・プラスチック・合成繊維など。	高分子について予習復習をしましょう。	120
14	環境化学	環境化学。	環境化学について予習復習をしましょう。	120
15	まとめ	総合討論。	講義の内容・程度・分量などについて全体的に討論をしましょう。	120

令和3年度

科目名	運動健康論	**対象 単位数 必選**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択
担当教員	佐藤　浩明		
開講期	通年		
授業概要	GU1119☒ 生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性を理解し、生涯にわたり自分の健康や体力に配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技、講義を通じて学びます。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミニュケーションや協調性を指導します。 ☒ ①運動と健康の関連を理解し、健康の在り方について学びます。☒ ②スポーツの意義を理解し、人間力について学びます。☒ ③運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。☒ ④運動を通して、基礎体力の維持、向上する方法について学びます。☒ ⑤授業最後にレポート等は返却し口頭またはコメントで説明します。		
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得する と共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける。レポート、実技テスト等を受けることを最低基準とする☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】☒ ・他との協調　・人間形成☒ 【食物栄養学科】食と健康の職人的専門として人々の健康と生活の向上に寄与するという意識と責任をもっている☒ スポーツを通して人間として人格形成を志向、自己の専門知識と技術を社会のために活かし、社会責任を果たす事ができる		
受講資格	家政学部 人間生活学科　生活総合コース 1年 2単位 選択☒ 家政学部 人間生活学科　福祉コース 1年 2単位 選択☒ 家政学部 人間生活学科　建築デザインコース 1年 2単位 選択家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択☒ ☒ ☒ ※教職課程履修者は必修	**成績評価 方法**	平常点30点（取組姿勢）　試験・提出物70点（実技・レポート）☒ ※本科目は実技を含むため、出席、積極的な取組みも重視します。
教科書	特になし（必要に応じて資料等を配布します）		
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：㈶日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメゾット：高橋書店」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」		
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。☒ 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）		
オフィスタイム	火・木の9:00～16:00まで創学館NO4研究室☒ 佐藤		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明　②服装、準備物の確認（注意事項含む）　③グループ分け	運動着、水分の準備をしてくる事	30
2	縄跳び①／からだづくりの運動	【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）☒ ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	縄跳び②／からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コーディネーショントレーニング　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）☒ ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
4	縄跳び③／からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コーディネーショントレーニング　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）☒ ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
5	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
6	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
8	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃☒	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
9	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
10	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	0
12	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
13	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
14	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
15	実技のまとめ	≪まとめとして実技試験を行う≫☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）②レクリエーションゲーム　③実技試験　④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）　⑤体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	第16回　オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状　オリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツの持つ魅力について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
17	第17回　生活と健康について①	≪健康とは何か≫☒ ☒ 健康について考える導入として、「健康の定義」をＷＨＯ（世界保健機関）の憲章をふまえ、様々な角度から学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
18	第18回　生活と健康について②	≪生活習慣病の原因・対策・予防と運動≫☒ ☒ ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し、運動との関係について学びます。☒ ②運動・休養と健康について学びます。☒ 。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
19	第19回　生活と健康について③	≪大学生の健康≫☒ ☒ 大学生の生活に潜む危険要因について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
20	第20回　生活とスポーツについて①	≪スポーツとは何か≫☒ ☒ スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
21	第21回　生活とスポーツについて②	≪生涯スポーツについて≫☒ ☒ 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う　②観る　③支える　④調べるの視点から学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
22	第22回　生活とスポーツについて③	≪大学生とスポーツ≫☒ ☒ 大学生になり高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康に興味を持ち、運動やスポーツにどう関わることができるかについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
23	第23回　スポーツから学ぶ①	≪フェアプレーについて≫☒ ☒ スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常の生活や、普段の行動にも通じるものがあります。☒ ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
24	第24回　スポーツから学ぶ②	≪メンタルトレーニング≫☒ ☒ 常に結果が求められるスポーツ選手（アスリート）のメンタルトレーニング、ポジティブシンキング、行動基準について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	0
25	第25回　スポーツから学ぶ③	≪目標設定≫☒ ☒ スポーツ選手（アスリート）の行動基準から自分の目標設定の方法について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	0
26	第26回　健康増進のための身体運動について①	≪体力とは≫☒ ☒ ①体力の概念と体力要素（身体的要素　精神的要素）について学びます。☒ ②運動の原理原則について理解し、効果的な運動の方法について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
27	第27回　健康増進のための身体運動について②	≪エクササイズの方法について☒ ☒ 健康の保持増進やからだをつくるための方法（①有酸素運動　②筋力トレーニング　③ストレッチ　④バランス　等）や実施する際のポイントについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	第28回　コンディショニングについて	≪からだの調子を良くする・怪我の予防・対処方法≫☒ ☒ ①コンディショニングを崩す原因を理解し予防方法について学びます。☒ ②怪我の予防、応急処置の基本、熱中症対策について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
29	第29回　健康的な生活について①	≪ライフスタイルについて≫☒ ☒ 自分のライフスタイル（生活習慣・運動習慣）を客観的に理解し、健康的な生活を過ごすための方法について学びます。☒ ☒ ☒ ☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
30	第30回　健康的な生活について②	≪良い習慣について≫☒ ☒ 行動を邪魔する要因を理解し、運動習慣をつける方法について学びます。☒ ※『健康なからだをつくる』をテーマに自分のライフスタイルについて考えます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

令和3年度

科目名	キャリアデザインII	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 1単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 1単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 1単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 1単位 選択
担当教員	森　みい		
開講期	前期		
授業概要	【授業のねらい】☒ 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。☒ 　インターンシップ終了後に、課題・レポート提出及び、インターンシップ報告会を行い、課題についてフィードバックを行います。 ☒ 【授業の概要】☒ インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期6回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（3日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、就職指導にあたっている経験を活かし授業を行います。☒ ☒ ☒ GC1118☒		
達成目標	【授業終了時の達成目標】☒ 　インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、課題解決力を養っていきます。また、新たな学習意欲の契機となるように、仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解や充実感を感じ、人々の生活向上や社会に貢献ができることを目標とします。		
受講資格	特になし	**成績評価 方法**	就業体験６０％・報告会20％・提出物20％「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日９:００～12:30　水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	インターンシップの概要☒ 4/8(Ｖコマ) ☒	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップに必要な書類についての確認する 。☒	就業体験先の希望調査があるので、企業・業界研究をしておく。 インターンシップの目標を設定する。	30
2	インターンシップの心構え☒ 5/13(Ｖコマ)	昨年のインターンシップを参考に自分は何を学びたいのか明確な目標を設定していく。	インターンシップを通して、企業や業界の働きについて考える。	30
3	インターンシップの心構え☒ 5/27(Ｖコマ)	働く人の話を聞き、仕事の内容、組織での関りを学び、インターンシップの考えを深化させていく。	インターンシップは具体的にどのように考えていくか、社会人の話を聞き、企業研究をする。	30
4	企業研究 (講演)☒ 6/3 (Ｖコマ) ☒ ☒ ☒	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。また、人生をどのように生きていく、自分の将来のキャリアプランを考える。	企業の働きから、社会の動向を学び、働く事への理解を深める。	30
5	事前指導☒ (ビジネス文書作成)☒ 6/17Ｖコマ) ☒	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。☒	手紙の書き方、ビジネスでのメール送信、電話の掛け方等、一般的なナマーを確認しておく。	30
6	事前指導☒ （マナー講座)☒ 7/1（Ｖコマ）☒	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。☒業体験先との打合せを始める。	挨拶・言葉遣いを実践で学んでいくので、印象のいいマナーを日常から意識をして練習する。	30
7	直前指導☒ (インターンシップ先の企業研究)7/15（Ｖコマ） ☒ ☒	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	インターンシップ先にアポイントを取り担当者と打合せをする。電話の掛け方、インターンシップに向けてマナーの練習をする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	インターンシップ 実施 1班8/18～8/20 2班8/25～8/27 ☒	各企業において、夏季休業中（8月中旬～下旬)に3日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	企業研究及び交通手段の確認をする。インターンシップ先の企業研究を行い、最終確認をする。	30
9	インターンシップ報告会☒ 9/2　（Ⅰコマ）　☒	事後報告会として、クループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会の準備と提出物の最終確認をする。	30
10	インターンシップ報告会 ☒ 9/2 （Ⅱコマ）　☒ ☒	事後報告会として、代表者の報告を企業の方も参加して実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会で発表し、報告者の発表から課題を考えていく。	30

令和3年度

科目名	消費生活論	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	長谷川　貴弘		
開講期	前期		
授業概要	大きく変化する社会情勢の中、消費者を取り巻く環境は変化し続けており、消費者問題の内容も時代とともに変貌している。現代における諸問題を把握し、日常生活の中の身近な問題として捉え、学生自らが安全・安心な生活を送ることができるようになることを目指す。☒ また、消費生活に関する法律、政策、行政や企業の取り組みを理解し消費者教育を実践できるようになることを目指す。☒ なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方・活用の仕方、法律と行政組織について採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☒ 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☒ 【位置づけ・水準】　DS2324		
達成目標	【単位認定の最低基準】　☒ 下記①～③の目標の８割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。☒ ①消費者問題の実情を知り、課題を見出し、その解決策の方向性を見出すことができる。☒ ☒ ②日常生活の中で実践することができる自立した消費者の育成のために学生自身の消費者力を高める。☒ ③政策、法律、行政や企業の取り組み等を理解し、消費者力検定にチャレンジできるだけの能力を養う。☒ ☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】　論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任		
受講資格	家政学部人間生活学科生活総合コース、建築デザインコース 3年生	**成績評価 方法**	①小テスト30点（15点×２回）☒ ②課題（消費者問題に関するレポート）70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	ハンドブック消費者2014（消費者庁企画課）他		
学生への要望	現代消費生活における課題を捉えるために、次のことを要望する。☒ ①新聞をよく読み、消費生活に関する記事を収集する。☒ ②消費者力検定に挑戦し、幅広い知識の習得を目指す。		
オフィスタイム	火曜日　3コマ　水曜日　4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の目的および授業計画について説明（内容、評価方法について等）☒、消費者を取り巻く社会経済情勢と消費者行動・意識について学修する。☒ ☒	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
2	消費者問題の変遷	年代ごとにどのような消費者問題が発生したか概観し、様々な消費者問題の背景にある社会の情勢を読み取る。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
3	消費者行政の変遷①	消費者問題に対応してどのような政策が行われたか概観し、消費者問題に対処するための機関　～消費者庁の誕生、国民生活センター、消費生活センターの役割～について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
4	消費者行政の変遷②	前回に続いて、消費者庁、国民生活センター、消費生活センターの役割について動画教材の視聴等も通じて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
5	消費者の権利と責任①	消費者基本法、消費者の権利と責任☒消費者保護の概念について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
6	消費者の権利と責任②	前回に続いて、消費者基本法、消費者の権利と責任☒消費者保護の概念について動画教材の視聴なども通じて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
7	自立した消費者を目指して①契約とは	契約の意味、☒成年者契約☒契約に関するトラブルについて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
8	自立した消費者を目指して②経済	消費者契約法☒特定商取引法について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
9	自立した消費者を目指して③食	食品の安全・安心☒新しい食品表示制度について学修する。☒ ☒	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
10	自立した消費者を目指して④生活用品	消費生活用製品安全法について学修する。 小テスト（1回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	消費生活と環境～循環型社会のための法制度①	持続可能な社会の構築と法律⊠グリーンコンシューマーの概念、⊠続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
12	消費生活と環境～循環型社会のための法制度②	持続可能な社会の構築と法律⊠グリーンコンシューマーの概念、⊠続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。（前回の続き）	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
13	消費者教育・啓発活動	一般消費者に向けてどのような消費者教育が行われているか学修する。⊠	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
14	公平かつ自由な競争の促進	独占禁止法、不正競争防止法、その他各種制度について学修する。	消費者問題について、これまでの学修内容と自身で調べたことを元にレポートを作成する。	60
15	まとめ	消費者力検定とその内容について理解を深め、過去問等にチャレンジする。 小テスト（2回目） ⊠	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。	60

令和3年度

科目名	衣造形学演習	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
担当教員	瀬谷　真理子		
開講期	前期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] ☒ 立体構成（洋裁）学を基に、衣服の成り立ちについての理解を深める。また、パターンの活用方法を習得することにより、体型と構成の関連性を理解し、着心地の良い作品を作る。製作実習により衣生活の重要性を学ぶとともに快適な衣生活の提案ができるように知識と技術の修得を目指す。更に、教員養成に向け、高等学校で家庭科教育に携わってきた経験を生かした指導を行い、基礎的技術の習得のために作品製作（基礎縫い、ブラウス）をとおして実践力向上を目指すとともに、教科指導としての在り方についても理解を深め、基本から応用までの技術修得を目指す。 また、中学校「技術・家庭」家庭分野の被服製作としても活用されるアウターパンツについて、前半での学びの応用として主体的に製作実習する。ワークシートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 [授業全体の内容の概要] ☒ 基本的な被服製作実習を通し技術の修得と定着を図るとともに、教員としての資質を育むため選択製作実習を取り入れ主体的に製作できる力を養う。 [実務経歴]　福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準　HL2233		
達成目標	①体の機能や形態を理解するとともに立体構成（洋裁）とは何かを理解できる。☒ ②家庭科教育における衣生活分野を学ぶ意味について理解し、製作実習に必要な力を養う。☒ ③基本的な洋裁技術を修得するとともに、教科指導上の課題について理解し実践力を養う。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的な評価が達成度７割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	上記対象学生、教職履修学生	**成績評価 方法**	①授業への意欲・態度　10%　、②課題：部分作品（パターン、袖、衿等）20%　、③完成作品（基礎縫い、ブラウス製作、選択製作）60%、④課題（評価票等）10%　として、①から④までの総合評価により60%以上を合格とする。
教科書	自作テキスト配付、プリント配付。		
参考書	文部科学省後援：全国高等学校家庭科被服製作技術検定指導要項、「ファッション造形基礎」「パターン・裁断・縫い方の基礎の基礎」文化出版局、 文化ファッション大系　改訂版・服飾造形講座「ブラウス・ワンピース」文化出版局		
学生への要望	１．主体的・意欲的に取り組むこと。２．実習用具、材料は指示通り各自用意すること。３．製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進度を揃え、完了できるように心掛けること。		
オフィスタイム	家政学館４Ｆ被服学研究室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	オリエンテーション 1）被服製作に必要な実習用具について理解する。 2）衣生活における製作の意味を考える。	シラバスを確認し演習内容を理解する	20
2	実習内容と留意事項について	1）実習計画の提示☒ 2）体型と立体構成について☒ 3）被服製作の基本	シラバスを確認し演習内容を理解する ワークシートの整理	30
3	被服製作における基本	1）洋裁の基礎知識☒ 2）基本的技術の確認と定着 3）基礎縫いの実施と評価	ワークシートの整理	30
4	被服製作における基本	1）洋裁の基礎知識☒ 2）基本的技術の確認と定着 3）基礎縫いの実施と評価	ワークシートの整理	30
5	被服製作	1）パターンの記号を学ぶ☒ 2）パターンの利用の仕方と指導上の留意点を学ぶ	ワークシートの整理	30
6	ブラウスパターン作図	1）ブラウスのパターンを選定　☒ 2）ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出☒ 3）使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ	パターンの展開方法を理解する	30
7	ブラウス製作①ー基本を学ぶー	1）パターン修正　☒ 2）裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ☒	パターンの展開方法を理解する 裁断前の準備について理解する ワークシートの作成	30
8	ブラウス製作②ー基本を学ぶー	1）本縫い☒ 2）縫い代始末方法を学ぶ。a、ジグザグミシンの方法。b、ロックミシン　c、端ミシン☒ 3）接着芯の理解と取り扱いを学ぶ	パターンの展開方法を理解する 裁断前の準備について理解する ワークシートの作成	30
9	ブラウス製作③	ロックミシンの必要な個所を確認する。ロックミシンの使い方を学ぶ。ロックミシンを活用して縫いしろ始末を行う。※安全面に留意して、布地の扱いに配慮しながらロックミシンをかける。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	ブラウス製作④	身頃本縫い　まち針の打ち方、躾のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。☒身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
11	ブラウス製作⑤	身頃本縫い　まち針の打ち方、躾のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。ポケットを作り、身ごろにポケットをつける。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
12	ブラウス製作⑥	表衿と裏衿の特徴を理解し、確認を行い、衿つくりを実施する。角衿の場合のきれいな角の出し方について、実技により学ぶ。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する 衿について提出できるように準備する	30
13	ブラウス製作⑦	デザインを生かした技法について学び、実践する。身ごろのヨークと肩、後ろ身ごろにタック寄せ、ギャザー寄せ等の手法を理解して身ごろの構成を考えながら製作する。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
14	ブラウス製作⑧	衿と身ごろとの関係を理解して、きれいにつけて仕上げるための方法について学ぶ。待ち針の役割を理解し、待ち針の打ち方を実践できるようにする。バランスを考えながら身ごろに衿がつけられるようにする。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
15	ブラウス製作⑨	バイアステープの役割について学び、衿付け縫い代始末の方法として扱い方を理解する。衿付け縫い代の始末をする。切り込みの必要性について理解し、きれいな仕上げに向けて実践する。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
16	ブラウス製作⑩	袖付けを行う。左右の確認と身ごろとの関係に留意して立体的に仕上げることの構成上のポイントを学び、袖をつける。 袖下脇縫いを行う。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
17	ブラウス製作⑪	見返しと裾の始末を行い、仕上げを行う。 ミシンによるボタンホールの製作、ボタン穴の開け方を学ぶ。ボタンのつけ方を学ぶ。☒	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
18	ブラウス製作⑫ー相互評価ー	1）仕上げ 2）着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 3）自己評価票を作成して提出	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
19	選択製作ーアウターパンツ①	1）製作計画の作成 2）デザイン、型紙作成	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
20	選択製作ーアウターパンツ②	1）製作計画の作成 2）デザイン、型紙作成	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
21	選択製作ーアウターパンツ③	1）製作計画の作成 2）裁断	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
22	選択製作ーアウターパンツ④	縫い代始末、しるしつけ☒	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
23	選択製作ーアウターパンツ⑤	1）縫い代始末、しるしつけ 2）ポケット付け	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
24	選択製作ーアウターパンツ⑥	脇縫い、また下縫い、また上縫い	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
25	選択製作ーアウターパンツ⑦	ウエストの始末、裾の始末	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
26	選択製作ーアウターパンツ⑧	仕上げ、相互評価	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
27	選択製作ーアウターパンツ⑨	ウエストの始末、裾の始末	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
28	選択製作ーアウターパンツ⑩	仕上げ、相互評価	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
29	総合評価	作品提出と共に、レポート課題の提出☒ ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	レポートの作成	60
30	総合評価	作品提出と共に、レポート課題の提出☒ ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	レポートの作成	60

令和3年度

科目名	衣造形学実習Ⅰ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 1単位 選択
担当教員	瀬谷　真理子		
開講期	後期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] ☒ 快適な衣生活を創造し実践できるよう生活空間の中での衣生活を見つめ、実習を通し、より良い衣生活の創成をするために必要なものとは何か考えていくとともに知識と技術の修得を目指す。更に、高等学校で家庭科教育に携わってきた経験を生かした指導を行い、基礎的技術の習得のため、実践力を高めながら、基本から応用までの技術修得を目指す。製作に関するワークシートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。☒ [授業全体の内容の概要]☒ 伝統的な和裁技法にそって、大裁女物単衣長着（浴衣）の製作を行う。実習を通して和服について理解を深め、確実な基本的技術の修得を目指す。 基本的な被服製作実習を通し技術の修得と定着を図るとともに、資質を育むため主体的に製作できる力を養う。 [実務経歴]　福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準　HU2233		
達成目標	①体の機能や形態を理解するとともに平面構成（和裁）について理解できる。 ②家庭科教育における衣生活分野を学ぶ意味について理解し、製作実習に必要な力を養う。 ③基本的な和裁技術の修得と伝統文化としての和服について、理解を深めながら実践力を養う。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的な評価が達成度７割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力		
受講資格	上記対象学生。	**成績評価 方法**	①授業に取り組む姿勢20%　②途中課題（袖、肩当）１0%　③完成作品（浴衣）５0%　④課題（レポート、テスト）２0% ①から④の総合評価60%以上で合格となる。
教科書	被服構成実習（平面構成）担当者作成の独自のテキスト		
参考書	授業内で随時紹介。		
学生への要望	１．遅刻・欠席をせずに主体的に熱心に取り組むこと。２．実習用具、材料は指示通り各自用意すること。３．製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進度を揃え完成できるように心掛けること。		
オフィスタイム	家政学館４Ｆ被服学研究室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	演習内容と留意事項	１）生活の中の衣生活について基本的理念を学ぶ。　２）平面構成（和服）について　３）実習計画の提示　４）必要材料・用具について説明　５）平面構成とは何かを理解させ、和服の変遷を学ぶ	シラバスを確認し演習の内容を理解する	30
2	基礎的技法を学ぶ	和服となる反物について理解し、扱いについて学ぶ。和裁に使われる基本的技法について、理解させ、既習内容の整理と確認、技術を習得する。	縫い方の名称を確認する。実践して定着に結び付ける。	30
3	大裁女物単衣長着製作	１）沿革　２）各部名称及び寸法について　３）仕立て上がり寸法の決め方 ※日本の民族衣装である着物について、お互いに話しあいながら理解を深められるようグループワークを実施する。	和服について理解を深める。特有の部分名称を理解する。ワークシートをまとめる。	30
4	大裁女物単衣長着製作	各部名称及び寸法について、自分のサイズを確認して割り出す。仕立て上がり寸法の決め方について理解し、用布見積もりの仕方を理解して実践する。	寸法票の作成と仕立て上がり寸法から用布見積もりを実際に算出して、ワークシートに記入する。添削を受ける。	30
5	大裁女物単衣長着製作	仕立て上がり寸法の決め方について理解し、用布見積もりを縮尺の方眼紙で実施して理解する。	用布見積もりを実際に算出して、方眼紙で作成する。提出して添削指導を受ける。 ワークシートをまとめる。	30
6	大裁女物単衣長着製作	キズや染むらの確認と布地の表裏、糸印つけにより、確認しやすく裁断準備をする。一反から着物ができる日本人の知恵を知り、裁断方法を修得する。	テキストで確認し、ワークシートをまとめる。	30
7	大裁女物単衣長着製作	柄合わせを説明し、縦・横模様、柄物などの裁ち方練習を行い、裁ち方、柄合わせ方法を学ぶ。裁ち切り寸法の確認をし積もる。袖４枚、身頃４枚、裁ち切り衽２枚、残り布の確認。寸法、枚数確認後、必ず担当教員の指示を受けて裁断する。	テキストで確認し、ワークシートをまとめる。提出し、確認を受ける。裁ち方をプリントで事前確認し、イメージをつかむ。	30
8	大裁女物単衣長着製作	柄合わせによる前衽、うち袖、後ろ身ごろに糸印をつける。和裁の印付けの基本としてへらの使い方を学び、印付け準備を行う。	テキストで確認し、ワークシートをまとめる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	大裁女物単衣長着製作 （袖）	1）袖の印つけ　　a、袖下袋縫いの中縫い。　b、本縫い。　c、丸みの整え方。　d、形の整え方。　e、袖口の三つ折りぐけ。f、袖幅の決め方（同じ袖を作らないよう注意）。袖の形態を学ぶ。	袋縫い、丸み整え方法を事前に確認する。授業後は、縫い方を再確認する。ワークシートをまとめる。	30
10	大裁女物単衣長着製作（袖完成及び提出）	1）袖の印つけ　　a、袖下袋縫いの中縫い。　b、本縫い。　c、丸みの整え方。　d、形の整え方。　e、袖口の三つ折りぐけ。f、袖幅の決め方（同じ袖を作らないよう注意）。袖の形態を学ぶ。	袋縫い、丸み整え方法を事前に確認する。授業後は、縫い方を再確認する。ワークシートをまとめる。	30
11	大裁女物単衣長着製作（背縫い、袖）	1）身頃背縫い　　柄合わせを確認し、衿肩明きを確認後各自の寸法に合わせて切る。後ろ身頃の背を二度縫いする。☒ 2）袖の柄合わせ　背縫いの衿肩明きを右手に持ち手前にきせをかけてコテ（アイロン）を掛け、表にして身頃と袖の柄合わせをし、袖の身頃側に糸印をする。着物の柄合わせ方法を学ぶ。☒ ※着物の柄あわせ方法を学び、美しい着物の制作を目指す。	縫い方をテキストで確認して実施。ワークシートをまとめる。	30
12	大裁女物単衣長着製作（身ごろ）	印付けの仕方を確認して、身ごろの印付けの順序、仕立て上がり寸法の確認を行い、後ろ身ごろの印付けを行う。和服の特徴でもある衿肩明きの理解を深め、印付けと扱いを学ぶ。	テキストで確認し、ワークシートをまとめる。	30
13	大裁女物単衣長着製作（身頃印付け、肩当て、居敷当て）	1）身頃のくりこし　　和服独自の仕立て方法を学ぶ。（くりこしとは。）　　2）身頃の印つけ　　身丈、肩幅、袖付け、身八ツ口、後ろ幅の印をつける。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
14	大裁女物単衣長着製作（身頃印付け、肩当て、居敷当て）	肩当て、居敷当作り　折り伏せ縫い方法を学ぶ。☒	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
15	大裁女物単衣長着製作（身頃印付け、肩当て、居敷当て）	身ごろに肩当てをつける。居敷当を身ごろに縫い付けて仕上げる。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
16	大裁女物単衣長着製作（衽印つけ及びつけ）	衽の印付けを行う。身ごろとの関係を理解して仕立て上がり寸法の確認を行い、製作準備をする。上前衽の確認と前身ごろとのつながりを理解する。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
17	大裁女物単衣長着製作（衽印つけ及びつけ）	衽付け準備として、衿下を三つ折りぐけする。前身ごろを確認して衽付け準備をする。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
18	大裁女物単衣長着製作（衽つけ）	衽付けを行い、縫いしろを耳ぐけで仕上げる。※和服の仕上げに欠かせない、きせの手法を丁寧に行うことで仕上がりが美しくなることを理解する。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
19	大裁女物単衣長着製作（衿の印付け）	衿の印付け、かけ衿の印付け、共付の手法を学び、縫い付ける。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
20	大裁女物単衣長着製作（衿付け）	衿付けの準備として、待ち針の役割が大きいことを学ぶ。待ち針の打ち方を理解して実践する。釣り合いを教員に確認してもらう。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
21	大裁女物単衣長着製作（衿付け）	衿を縫い付ける。三つ衿芯の役割を理解し、三つ衿芯を縫いつける。衿を整える。衿先の始末の手法を学ぶ。理解して実践する。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
22	大裁女物単衣長着製作（衿付け）	衿を出来上がりに整えて折り、釣り合いを丁寧に確認する。本ぐけの準備としてしつけが大切であることを理解し、バランスよく待ち針を打ち、しつけをする。本ぐけの手法を確認してくける。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
23	大裁女物単衣長着製作（脇縫い）	身ごろを整え、脇縫いの準備を行う。印の確認を行い、仕立て上がり寸法を確認して待ち針を打ち、脇縫いを行う。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
24	大裁女物単衣長着製作（脇始末）	脇始末。脇の縫い代に基礎縫い通りに耳ぐけし、脇の始末を学ぶ。	和服の仕立て方法を事前確認する。ノートをまとめる	30
25	大裁女物単衣長着製作（裾）	裾の始末を行う。裾を整え三つ折りする。裾のつま先角の作り方として額縁仕立てを理解して実践する。 2）袖つけ　　a、左右の袖確認後つける。　　b、袖の縫い代と肩当ての始末。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
26	大裁女物単衣長着製作（裾）	裾の始末を行う。裾を整え三つ折りぐけを行う。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
27	大裁女物単衣長着製作（袖付け）	左右の袖を確認後、袖付けの仕方を理解して待ち針を打ち、縫いつける。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
28	大裁女物単衣長着製作（袖付け）	袖の縫い代の始末を身ごろに響かないように準備をして、耳ぐけを行い、仕上げる。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
29	着装実習及び評価	1）着装実習　　着装方法を学び、美しい装いとは何かを学ぶ。お互いに着付けすることを通して、美しい装いについて考える。また、和服の成り立ちの意味を発表する。☒ 2）評価　　a、仕上げ。　　b、畳み方を学ぶ。 c、寸法確認後レポートを作成する。 ☒ ※評価方法を学び、教育者として指導していけるように学修する。	着装方法を事前に確認する。ワークシートをまとめる。自己評価を行い、自己評価票の作成をする。着装実習後、相互評価を行う。	30
30	着装実習及び評価	授業内容の全体を振り返り、和服製作についての理解を深め授業のまとめを行う。確認テストの実施（本だたみ、ペーパーテスト）	テキストの整理とワークシート内の点検、自己評価票と作品の最後の仕上げと提出準備を行う。	30

令和3年度

科目名	調理学演習	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	瀬谷　真理子,大泉　由美		
開講期	前期		

授業概要	調理の基本的な知識と技術を修得するために、家庭科教育における調理実習の献立をふまえ、代表的な料理（日本料理、西洋料理、中国料理）を演習することにより、教科指導において必要な実践力を高める。下ごしらえから盛り付けまでの流れを計画し、一人一人が個別に実践することにより、着実な技術を身につけていく。演習を通じて，調理学の基本的な知識と技術を修得するとともに食材の栄養価や色・形・味などの調理による変化とその理由を五感で理解しながら探究的な視野を大切にしてレポートを作成する。また、人々の暮らしにおける食生活を意識した状態別献立を取り入れ、日常食や行事食等、伝統的な食文化も大切にしながら調理における技術としての実践力を高め、自宅での実践により、調理に関する応用力を身につける。☒ポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 また，高等学校の家庭科や中学校の家庭科において、教える立場からの指導方法を含めながら実践することにより、基本的知識と技術の定着を図り、家庭科教員としての資質を身につける。さらに福島県高等学校の家庭科教育における実務経験を生かしながら実践的な教科指導に向けた応用力を養う。 　実務経歴：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準　HL2336☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒
達成目標	中学・高校の家庭科教師としての指導力や家庭での調理を実践するための基本的な知識や技術を修得することを目標とする。☒ ①野菜・果物、魚・肉などの食材に適した調理技術を修得し、指導することができる。☒ ②和洋中華料理の基本を修得し指導することができるとともに、調理上必須となる食品衛生、環境負荷削減の知識を修得し、行動できる。☒ ③日常的な献立から状態別献立、行事食までの調理について、基礎的な知識技術を習得し、実践できる。 単位認定の最低基準は、上記の①～③の総合的評価が達成度７割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力☒ 位置付け・水準 HU2336 ☒

受講資格	上記対象学生、教職履修者は必修	成績評価 方法	①授業態度：２０%、②実技：４０%、③レポート：４０%とし、①から③の総合評価により６０%以上で合格とする。

教科書	「基礎から学ぶ調理実習」オーム社　☒ プリント配布
参考書	「フードデザイン」教育図書、家庭科教育振興会　全国高等学校家庭科技術検定実施要項
学生への要望	準備から後片付けまでが調理学演習の一環と考え，積極的に取り組むこと．☒ また，豊かな食生活は家族団欒を営む基礎となることを理解し，実習後は自宅での実践（復習）を必ず実施し，家族とのコミュニケーションを深める一助とすることを期待する．
オフィスタイム	被服学研究室（家政学館４階）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／食材の下ごしらえ・切り方など	シラバスにそって授業の概要や到達目標，評価方法などを説明する．授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅で実践の必要性を認識する．☒	本日の講義内容をまとめ，問題点をピックアップする．	30
2	ガイダンス（1） 実習室・調理器具について・授業の進め方や評価方法	調理実習室の使い方、調理器具の使い方、洗い方、手入れ等について基本を学ぶ。使用していく教科書を用いて、調理の基本、調理実習時の衛生管理について理解させる。食することの意味について考え、デスカッションする。	本日の講義内容をまとめ，問題点をピックアップする．ワークシートの作成を行う。	30
3	ガイダンス（2） 文化鍋の使い方／西洋料理①	【文化鍋での炊飯とドライカレー，春野菜のスープ，いちごのミルクゼリー】のつくり方を学ぶ。 ①炊飯の原理を理解し、文化鍋での炊飯の仕方を学ぶ。 ②ゼラチンの特徴と扱い方を学ぶ。 ③果物の扱いについての基本を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
4	ガイダンス（2） 文化鍋の使い方／西洋料理①	【文化鍋での炊飯とドライカレー，春野菜のスープ，いちごのミルクゼリー】のつくり方を学ぶ。 ①炊飯の原理を理解し、文化鍋での炊飯の仕方を学ぶ。 ②ゼラチンの特徴と扱い方を学ぶ。 ③果物の扱いについての基本を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	日本料理① 旬の食材を使った調理	旬の食材を使った調理について学ぶ。【たけのこご飯、若竹汁、たけのこの天ぷら、いちご大福】☒ ①たけのこの下ごしらえと部位別調理 ②炊き込み飯の種類と作り方 ③だしの取り方 ④揚げ物について、衣のつくり方と揚げ方 ⑤白玉粉の特徴と取り扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
6	日本料理① 旬の食材を使った調理	旬の食材を使った調理について学ぶ。【たけのこご飯、若竹汁、たけのこの天ぷら、いちご大福】☒ ①たけのこの下ごしらえと部位別調理 ②炊き込み飯の種類と作り方 ③だしの取り方 ④揚げ物について、衣のつくり方と揚げ方 ⑤白玉粉の特徴と取り扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
7	西洋料理② 西洋料理の基本	【コンソメジュリアン，グラタン，グリーンサラダ，ブラマンジェ】　代表的な西洋料理の基本を学ぶ. ①ホワイトソースの理解、作り方 ②エビの下ごしらえと扱い ③ドレッシングの基本と作り方 ④コーンスターチの特徴と扱い方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
8	西洋料理② 西洋料理の基本	【コンソメジュリアン，グラタン，グリーンサラダ，ブラマンジェ】　代表的な西洋料理の基本を学ぶ. ①ホワイトソースの理解、作り方 ②エビの下ごしらえと扱い ③ドレッシングの基本と作り方 ④コーンスターチの特徴と扱い方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
9	日本料理② 丼物、和え物、澄まし汁の基本	【そぼろ飯、吉野鶏の澄まし汁、青菜のごま和え、フルーツ羹】　日常的な和風献立の基本を学ぶ。 ①そぼろのつくり方 ②煮出し汁の取り方と澄まし汁 ③野菜のゆで方と和え物の要領 ④寒天の扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
10	日本料理② 丼物、和え物、澄まし汁の基本	【そぼろ飯、吉野鶏の澄まし汁、青菜のごま和え、フルーツ羹】　日常的な和風献立の基本を学ぶ。 ①そぼろのつくり方 ②煮出し汁の取り方と澄まし汁 ③野菜のゆで方と和え物の要領 ④寒天の扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
11	中国料理①	【青椒肉絲、黄花湯、奶豆腐】 代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。※一品を実技テストを兼ねて行う。 ①中国料理の基本と特徴 ②寒天の扱い方 ③とろみのあるスープ（湯）のつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
12	中国料理①	【青椒肉絲、黄花湯、奶豆腐】 代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。※一品を実技テストを兼ねて行う。 ①中国料理の基本と特徴 ②寒天の扱い方 ③とろみのあるスープ（湯）のつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	中国料理②	【什錦炒飯、涼拌三絲、西米椰汁】　日常的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①炒飯の要領、食材の扱い ②はるさめの扱い方 ③薄焼き卵のつくり方 ④和え物の要領 ⑤タピオカの扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
14	中国料理②	【什錦炒飯、涼拌三絲、西米椰汁】　日常的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①炒飯の要領、食材の扱い ②はるさめの扱い方 ③薄焼き卵のつくり方 ④和え物の要領 ⑤タピオカの扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
15	状態別献立①　～高齢者向け和風献立～	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそぼろあんかけ】　①炊き込みご飯のつくり方　②各食材の扱い　③しんじょの扱い　④そぼろあんのつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
16	状態別献立①　～高齢者向け和風献立～	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそぼろあんかけ】　①炊き込みご飯のつくり方　②各食材の扱い　③しんじょの扱い　④そぼろあんのつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
17	状態別献立②　～子供向け洋風献立～	状態別献立として、実施する。子供向け（幼児・児童期）の献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【チキンピラフ、じゃがいもときのこのクリーム煮、トマトカップサラダ、二色ゼリー】　①ピラフのつくり方、米の扱い方を理解する。　②クリーム煮の基本を理解する。　③トマトの扱い方を理解する。　④ゼラチンの扱いと応用調理	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
18	状態別献立②　～子供向け洋風献立～	状態別献立として、実施する。子供向け（幼児・児童期）の献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【チキンピラフ、じゃがいもときのこのクリーム煮、トマトカップサラダ、二色ゼリー】　①ピラフのつくり方、米の扱い方を理解する。　②クリーム煮の基本を理解する。　③トマトの扱い方を理解する。　④ゼラチンの扱いと応用調理	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
19	状態別献立③　～成人向け和風献立～	状態別献立として、実施する。成人向けの献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【肉じゃが、菜飯、切り身魚のホイル焼き、カブと油揚げの味噌汁】　①基本的な煮物のつくり方 ②ホイル焼きの要領 ③味噌汁の基本	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	状態別献立③　～成人向け和風献立～	状態別献立として、実施する。成人向けの献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【肉じゃが、菜飯、切り身魚のホイル焼き、カブと油揚げの味噌汁】　①基本的な煮物のつくり方 ②ホイル焼きの要領 ③味噌汁の基本	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
21	中国料理③	【古老肉、涼拌海蜇、栗米湯】　日本で好まれる中国料理を実施する。 ①中国料理の溜菜の要領を学ぶ ②くらげの扱いを理解する ③とろみのあるスープの応用について	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
22	中国料理③	【古老肉、涼拌海蜇、栗米湯】　日本で好まれる中国料理を実施する。 ①中国料理の溜菜の要領を学ぶ ②くらげの扱いを理解する ③とろみのあるスープの応用について	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
23	弁当料理	日常食の一つとして昼食の献立を弁当料理として、基本的な理解と実践を行う。※盛り付けの実技テストを行う ①主菜、副菜への理解 ②常備菜のつくり方 ③彩の工夫	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
24	弁当料理	日常食の一つとして昼食の献立を弁当料理として、基本的な理解と実践を行う。※盛り付けの実技テストを行う ①主菜、副菜への理解 ②常備菜のつくり方 ③彩の工夫	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
25	行事食①　誕生日の献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。※一品を実技テストとして行う。【ハンバーグステーキ、クラムチャウダー、フルーツサラダ】 ①ひき肉を使った焼き物のつくり方 ②つなぎ材料の役割とその割合 ③貝類の扱い、煮込み方　④果物の扱い、ソースのつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
26	行事食①　誕生日の献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。※一品を実技テストとして行う。【ハンバーグステーキ、クラムチャウダー、フルーツサラダ】 ①ひき肉を使った焼き物のつくり方 ②つなぎ材料の役割とその割合 ③貝類の扱い、煮込み方　④果物の扱い、ソースのつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
27	行事食②　七夕祭りの献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【ちらし寿司、澄まし汁、青菜の辛し和え、フルーツみつ豆】 ①酢飯のつくり方 ②だし汁の取り方 ③青菜の扱い方　④寒天の扱いと白玉粉の扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	行事食②　七夕祭りの献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【ちらし寿司、澄まし汁、青菜の辛し和え、フルーツみつ豆】 ①酢飯のつくり方 ②だし汁の取り方 ③青菜の扱い方　④寒天の扱いと白玉粉の扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
29	行事食③　敬老の日の献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【天ぷら、茶わん蒸し、豆ごはん、水ようかん】　①揚げ衣のつくり方　②卵の性質、蒸し物の要領 ③寒天の扱い		60
30	行事食③　敬老の日の献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【天ぷら、茶わん蒸し、豆ごはん、水ようかん】　①揚げ衣のつくり方　②卵の性質、蒸し物の要領 ③寒天の扱い		60

令和3年度

科目名	建築設備	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 2単位 必修
担当教員	藤田　延幸		
開講期	前期		
授業概要	授業の到達目標及びテーマ☒ 快適な住生活をおくるための建築設備（給排水、空調、電気）について理解する。☒ [履修カルテの評価項目]☒ ○基本的な設備機器の種類とシステムについて。 ○新エネルギーについての知識とエネルギー問題について 授業の概要☒ 　快適な住生活をおくるために建築設備は必要不可欠なものである。近年は省エネルギー等により設備システムを効率よく使用することが求められている。本講義では基本的な建築設備の種類とそのシステムを理解するとともに、新エネルギーについての知識も学習する。☒ 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。☒		
達成目標	授業の到達目標及びテーマ☒ 快適な住生活をおくるための建築設備（給排水、空調、電気）について理解する。☒ [履修カルテの評価項目]☒ ○基本的な設備機器の種類とシステムについて。 ○新エネルギーについての知識とエネルギー問題について 授業の概要☒ 　快適な住生活をおくるために建築設備は必要不可欠なものである。近年は省エネルギー等により設備システムを効率よく使用することが求められている。本講義では基本的な建築設備の種類とそのシステムを理解するとともに、新エネルギーについての知識も学習する。☒		
受講資格	人間生活学科建築デザインコース４年生	**成績評価 方法**	定期試験により評価します。
教科書	「初学者の建築講座　建築設備（第二版）」著：大塚雅之　市ヶ谷出版社		
参考書	配付資料を使用します。		
学生への要望	積極的に授業に参加すること。		
オフィスタイム	月曜日授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の概要説明	授業の概要説明	授業内容を整理する。	30
2	建築計画と設備計画の関わりを講義し、設備の役割、意義を考える。	建築計画と設備計画の関わりを講義し、設備の役割、意義を考える。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	給排水設備について	給排水設備について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	住宅の中で最も設備が集中する台所、浴室、トイレ等の給排水設備の計画について	住宅の中で最も設備が集中する台所、浴室、トイレ等の給排水設備の計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	事務所ビルの給排水設備の計画について	事務所ビルの給排水設備の計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	事務所ビルの空調システムについて	事務所ビルの空調システムについて	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	事務所ビルの機械換気の種類と方式、全熱交換機の仕組みについて	事務所ビルの機械換気の種類と方式、全熱交換機の仕組みについて	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	住宅の電気設備計画について	住宅の電気設備計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	事務所ビルの電気設備計画について	事務所ビルの電気設備計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	ガス設備、消火設備、給湯設備、通信設備等について	ガス設備、消火設備、給湯設備、通信設備等について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	防災設備について	防災設備について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	建築物のライフサイクルからＬＣＥやＬＣＣＯ２について	建築物のライフサイクルからＬＣＥやＬＣＣＯ２について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	新エネルギー（燃料電池、地下水、風力等）の設備への応用について	新エネルギー（燃料電池、地下水、風力等）の設備への応用について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	太陽エネルギー利用について	太陽エネルギー利用について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	「エネルギー使用の合理化に関する法律」について	「エネルギー使用の合理化に関する法律」について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	建築法規Ⅰ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
担当教員	佐久間　保一		
開講期	後期		
授業概要	建築設計、施工において、建築法規を正しく理解することは、建築に携わる者の倫理上の第一歩です。本講義ではまず、めまぐるしく変わる建築法規の成り立ちを理解します。さらに単体規定、集団規定の基本的法規を学びます。☒ 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。		
達成目標	建築設計、施工において、建築法規を正しく理解することは、建築に携わる者の倫理上の第一歩です。本講義ではまず、めまぐるしく変わる建築法規の成り立ちを理解します。さらに単体規定、集団規定の基本的法規を学びます。		
受講資格	建築デザインコース	**成績評価 方法**	定期試験
教科書	「図説やさしい建築法規」学芸出版社、「建築関係法令集」井上書院		
参考書	「図説やさしい建築法規」学芸出版社、「建築関係法令集」井上書院		
学生への要望	建築士試験問題を解くこと。実生活の中で法律を意識すること。		
オフィスタイム	水曜日授業開始前（創学館２階教務部内非常勤講師室）、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス、建築法規の成り立ち	これからの授業の進め方及び、建築法規を学ぶことの意義について、建築に携わる者の倫理面から講義します。次に基準法、政令、条例、告示等の法の成り立ち、及び法規上の接続詞や数量の読み方について解説します。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	建築法令集の活用法	建築関連法令集に、建築基準法、建築士法、都市計画法、建設業法、等の各法規及び各項目のインデックスを貼ります。このことにより法令集の概要及び成り立ちを理解します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	用語の定義1	建築で用いる用語（居室、新築、修繕、軒の高さ等）の定義について学びます。建築法規のみならず、実務においても基礎となる用語であることから、正しい理解が求められます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	用語の定義2	延焼の恐れのある部分、建築物の高さの定義、及び算出方法を学びます。このことから人間の生命を守る建築を創造することの責務について考えます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	敷地面積、建築面積、延面積の計算	敷地面積について、道路との関連について学びます。地下や軒の出がある場合の建築面積、延べ面積について、定義及び算出方法を学びます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	一般構造１	単体規定のあらましについ解説します。次に換気の重要性及び定義について学びます。天井の高さの定義及び算出方法について学習します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	一般構造2	居室における採光の重要性について学びます。次に有効採光面積の定義、及び算出方法について居室の定義を復習しながら学習します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	一般構造3	防火に関する用語（耐火構造、準耐火構造）の他、防火地域や準防火地域等のついて等について学びます。それぞれの相違をよく理解することが必要です。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	用途地域1	集団規定のあらましについて解説します。次に都市計画地域、市街化区域、市街化調整区域、用途地域等、さらに用途制限の考え方について説明します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	用途地域2	引き続き用途地域による用途制限について学びます。法令集の用途制限に関する別表をよく理解することが求められます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	建蔽率の定義及び計算	用途地域、建蔽率の定義、及び算出方法について学びます。建築設計の基礎となるものであることから確実に理解するよう講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	容積率の定義及び計算	容積率の定義及び算出方法について学びます。建築設計の基礎となるものであることから確実に理解するよう講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	高さ制限１	建築物の高さを制限する道路斜線、隣地斜線、北側斜線について説明します。なかなか理解が難しい内容ですが都市計画との関連を説明しながら確実に理解するよう、講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	高さ制限2	引き続き道路斜線、隣地斜線北側斜線についての定義、及び計算方法について学びます。なかなか理解が難しい内容ですが都市計画との関連を説明しながら確実に理解するよう、講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	避難経路について	建築物における避難経路の確保のしかた及び二方向非難等の避難経路についいて解説します。このことから、人間の生命を守る建築物を創造することの責務について考えます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	建築法規Ⅱ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 必修
担当教員	佐久間　保一		
開講期	前期		
授業概要	建築法規Ⅰに引き続き、建築関連の法規を学び、設計・施工における法遵守の意義を学ぶ。建築基準法の構造強度、防火と内装制限，及び都市計画法、建築士法、建設業法等の重要ポイントを理解する。さらに建築士試験問題を解く実力を付ける。☒ 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 ☒ 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。 ☒		
達成目標	建築法規Ⅰに引き続き、建築関連の法規を学び、設計・施工における法遵守の意義を学ぶ。建築基準法の構造強度、防火と内装制限，及び都市計画法、建築士法、建設業法等の重要ポイントを理解する。さらに建築士試験問題を解く実力を付ける。☒ ☒		
受講資格	建築デザインコース☒	**成績評価 方法**	定期試験☒
教科書	「初めての建築法規」学芸出版社☒ 「建築関係法令集」☒		
参考書	「初めての建築法規」学芸出版社☒ 「建築関係法令集」☒		
学生への要望	建築士試験問題を解くこと☒		
オフィスタイム	授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室☒ 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス　建築法規Ⅰの復習	授業の進め方の説明。建築法規Ⅰにおいて、理解が不十分であった項目を重点的に復習する。☒ 最近の建築法令の動き。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	構造強度（木造）１	木造建築の構造強度に関する基準法、及び同施行令について理解する。☒ 柱や梁で構成された木造在来工法についても復習する。☒ ＊建築物の高さについて復習する。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	構造強度（木造）２	施行令40～45条の地震や風圧に耐える木造住宅の意味を理解し、軸組み（壁量）計算方法を学ぶ。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	構造強度（木造）３	前授業に引き続き、施行令40～45条の地震力や風圧力に耐える木造住宅の意味を理解し軸組み（壁量）計算方法☒ を学ぶ。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	構造強度（木造）４	前授業に引き続き、施行令40～45条の地震力や風圧力に耐える木造住宅の意味を理解し軸組み（壁量）計算方法を☒ 学び、告示による建築端部の壁量計算方法を学ぶ。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	構造強度（木造）５　組石造	壁量計算の小テストにより、理解したことを確認する。施行令54条の組石造についての関連法規を学ぶ。☒ 併せて、組石造について理解する。☒	教科書を読む。小テスト対策をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	構造強度　補強コンクリートブロック造　鉄筋コンクリート造	施行令62条等の補強コンクリートブロック造についての関連法規を学ぶ。併せて、補強コンクリートブロック造について☒ 理解する。また、施行令72条等鉄筋コンクリートにおける関連法規を学ぶ。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	構造強度　鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造における、かぶり厚さ、柱の径等についてのポイントを学ぶ。併せて、鉄筋コンクリート造の構造につい☒ て学ぶ。☒	教科書を読む。小テスト対策をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	構造強度　荷重と外力	固定荷重、積載荷重、積雪荷重、風圧力、地震力等の荷重と外力が、法規によってどのように記載されているか、その☒ 意味を理解する（（施行令84条～）☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	防火と内装制限	屋根や外壁、防火壁等の防火に関わる関連法規及び、室内の内装制限を受ける建物について学び、安心安全な建築☒設計について考える（施行令112条他）☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	建築士法	建築士でなければ設計できない建築、建築士事務所の仕事について、建築士法に則りながら理解する。☒建築士の責務の重要さを学ぶ。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	都市計画法	都市計画法における、都市計画区域、市街化区域、市街化調整区域、開発行為について学ぶ。また用途地域について☒復習し、建築基準法との関連を確認する。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	建設業法　ハートビル法　消防法、品格法等	建設業法、ハートビル法、消防法、品格法等の関連法規の概要を学び、建築がたくさんの法律によって規制されている☒ことを理解する。福島県条例と地域の景観条例の説明。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	復習１	建築法規に関して、これまでの授業において理解があいまいであった箇所を復習、確認する。☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	復習２	前授業に引き続き、建築法規に関して、これまでの授業において理解があいまいであった箇所を復習、確認する。☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	建築構造 II	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
担当教員	高橋　真里		
開講期	前期		
授業概要	建築物を形作る建築工法には多くの種類があり、それぞれの特徴を持っている。本授業では、建築構造 I に続き、「鉄筋コンクリート構造」、「鋼構造」の骨組みや仕上げの構成について理解することを目的としている。課題・レポートは添削・返却し、コメントによるフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準　HA2212☒ 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務。その経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務。		
達成目標	【履修カルテの評価項目】☒ ①鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造、鋼構造の基本的骨組みについて理解できたか。 ②木構造と鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造、鋼構造の設計上の違いについて明確に理解できているか。 ③鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造、鋼構造の経済スパン並びに適正スパンを理解し、適切なプランニングができるか。 単位認定の最低基準：「授業内容の7割を理解していること」☒ ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力、問題解決力」「倫理観、社会的責任」		
受講資格	建築デザインコース	**成績評価 方法**	小テスト50%、レポート30%、課題提出20%
教科書	建築構造☒ 実教出版		
参考書	適宜紹介		
学生への要望	積極的に建築物を見学することや多くの建築雑誌に目を通して、建築構造を身近に感じるよう心がけること。		
オフィスタイム	月曜日8:50～10:20、10:30～12:00、12:50～14:20、14:30～16:00☒ 水曜日8:50～10:20☒ 生活科学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	建築構造の概要説明。建築構造 II で扱う範囲について説明し、受講上の留意点について確認する。	授業内容をテキストで復習	45
2	鉄筋コンクリート構造の特徴と構造形式	鉄筋コンクリート構造の一般的な特徴を把握させ一般的に用いられている構造形式を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
3	鉄筋の種類や規格	鉄筋の種類による形状・規格・表示方法を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
4	コンクリートの種類と性能	コンクリートのあらまし、特徴、種類を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
5	基礎の形式	地盤の性質、基礎各部の構成と種類、設計上の注意点について理解させる	授業内容をテキストで復習	45
6	主体構造	ラーメンを中心に、部材構成・断面の大きさのめやす・鉄筋の役割・組み方の基本、基準等について理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
7	外部仕上げ	外部仕上げについて、各部位の要求性能に合った材料を適切に選択できるように理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
8	内部仕上げ	内部仕上げについて、各部位の要求性能に合った材料を適切に選択できるように理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
9	壁式構造、プレストレスコンクリート構造	壁式構造、プレストレスコンクリート構造の構造形式の概略について理解させる。	レポート準備	60
10	鋼構造の特徴と構造形式	鋼構造の一般的な特徴を把握させ、一般的に用いられている構造形式を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
11	鋼と鋼材、鋼材の接合	鋼の特性、鋼材の規格、接合の種類・方法等を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
12	基礎の形式	鋼構造に適した基礎の種類・形式について理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
13	骨組の構成と部材 1	ラーメン構造の特徴と部材構成、名称、働きについて理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
14	骨組の構成と部材 2	トラス構造の特徴と部材構成、名称、働きについて理解させる。	レポート準備	60
15	外部仕上げ、内部仕上げ	鋼構造の外部・内部仕上げについて、各部位の要求性能に合った材料を適切に選択できるように理解させる。	授業内容をテキストで復習	45

令和3年度

科目名	建築施工	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 必修
担当教員	堀井　勝典		
開講期	前期		
授業概要	（１）施工法の基礎的知識の理解 （２）実際の建物（設計図・ＯＨＰ・ビデオ）の紹介 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計会社社長を務め、その経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計会社社長を務める。		
達成目標	（１）施工法の基礎的知識の理解 （２）実際の建物（設計図・ＯＨＰ・ビデオ）の紹介		
受講資格	人間生活学科建築デザインコース３年	**成績評価 方法**	出席（５０％）　試験（５０％）
教科書	建築施工教科書		
参考書	特に指定しないが、資料を配付する。☒		
学生への要望	とにかく授業に出ること		
オフィスタイム	水曜日授業開始前（創学館２階教務部内非常勤講師室）、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	序説	建築施工のあらまし、施工法の変遷について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	契約と見積	建築の見積・契約等の流れについて	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	工事計画・管理	工事計画・管理等の説明	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	仮設工事	何も作らない工事としての認識	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基礎工事	土工事、山留工事、基礎工事の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	鉄筋コンクリート工事	鉄筋工事、型枠工事の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	鉄筋コンクリート工事	コンクリートの性質、調合について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	鉄筋コンクリート工事	コンクリート工事の検査体制	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	鉄筋コンクリート工事	施工、各種コンクリート工事について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	鉄骨工事	工事作業、現場作業のあらまし	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	木工事	現場施工、各種工法の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	内外装仕上工事	各仕上げ工事の概要と施工法について（その１）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	内外装仕上工事	各仕上げ工事の概要と施工法について（その２）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	付帯設備工事	生活に必要な設備工事について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	まとめ	施工法のまとめ。補足説明。	授業内容、配付資料を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	介護福祉概論	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修
担当教員	廣野　正子		
開講期	前期		
授業概要	介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援などに関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。☒ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、最終授業で全体のフィードバックを行います。 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護実践の基本について授業を行う。☒ 実務経歴：特別養護老人ホームにおいて介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 位置づけ・水準　DW2103☒		
達成目標	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。 ①介護の意義を理解し、介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉えることができるか。 ② 尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解できたか。 ③地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解できるようにする。 単位認定の最低基準： 介護福祉の意義と倫理について8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	生活科学科	**成績評価 方法**	筆記試験　70%　課題30%
教科書	中央法規出版☒介護福祉士養成講座テキスト　「介護の基本Ⅰ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	介護を実践する際の基本となる理論であることを理解し、積極的に身に着けられるように自学・自習に励むこと。		
オフィスタイム	・水曜日　Ⅰ時限　・木曜日　Ⅱ時限 創学館４階　№１研究室☒		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	介護の基本Ⅰの学び方 シラバスの説明 介護福祉士・社会福祉士としての実践 DVD「福祉の現場から」	DVDを参考に、将来像についてまとめる	30
2	介護福祉とは	介護の成り立ち 1）介護の成り立ち	「介護」に対してのイメージについてまとめる	30
3	介護福祉とは	介護の成り立ち 2）専門職による「介護」が誕生した社会背景	演習1-1に取り組み意見を発表できるようにまとめる	30
4	介護福祉とは	演習1-1について発表、グループディスカッション 介護の概念の変遷 1）1970年代ー介護サービスの量的拡充	授業の中で指示されたことをまとめる	30
5	介護福祉とは	1970年代の家庭における介護（認知症高齢者）の実際 『恍惚の人』を鑑賞	『恍惚の人』から家庭における介護について考察する	30
6	介護福祉とは	介護の概念の変遷 2）1980年代ー介護サービスの質的向上 3）1990年代ー今日の介護実践における基本的な概念	授業の中で指示されたことをまとめる	60
7	介護福祉とは	介護の概念の変遷 4）2000年以降ー今日の介護サービスの基本的枠組み p38身体拘束を考える（DVD）	演習1-2に取り組み意見を発表できるようにまとめる	30
8	介護福祉とは	演習1-2について発表、グループディスカッション 介護福祉の基本理念 1）介護福祉の理念 2）尊厳を支える介護	演習1-3に取り組み意見を発表できるようにまとめる	60
9	介護福祉とは	演習1-3について発表、グループディスカッション 介護福祉の基本理念 3）自立を支える介護	演習1-4に取り組み意見を発表できるようにまとめる	60
10	介護福祉士の役割と機能	演習1-4について発表、グループディスカッション 介護福祉士の活動の場と役割 1）地域包括ケアシステム 2）介護予防	授業の中で指示されたことをまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士の活動の場と役割 3）医療的ケア 4）人生の最終段階の支援 5）災害時の支援	演習２-1介護福祉士の活動する場と役割	30
12	介護福祉士の役割と機能	演習2-1について発表 事例から自立支援を考える【ハルさんの物語】	自立支援とはどのようなことか、ハルさんの事例から具体的にあげてまとめる	30
13	介護福祉士の役割と機能	事例から自立支援を考える【ハルさんの物語】 本人、家族の視点から考える	授業の中で指示されたことをまとめる	30
14	介護福祉士の役割と機能	社会福祉士及び介護福祉士法 1）社会福祉士及び介護福祉士法 2）社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定	演習2-2、演習2-3に取り組み、発表できるようにまとめる	30
15	総括	1．心身の状況に応じた介護を考える 2．介護福祉士の義務規定	授業の中で指示されたことをまとめる	60

令和3年度

科目名	介護の基本Ⅰ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年2単位 選択
担当教員	廣野　正子		
開講期	通年		
授業概要	介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援などに関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。☒ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、最終授業で全体のフィードバックを行います。☒ 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護実践の基本について授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ 位置づけ・水準　HW2143		
達成目標	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。☒ ①介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解できたか。 ②地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解できるようにする。 ③ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解できたか。 単位認定の最低基準： 介護福祉の専門性と倫理について8割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	人間生活学科　福祉コース	**成績評価 方法**	筆記試験　70%　課題30%
教科書	中央法規出版☒ 介護福祉士養成講座テキスト☒ 「介護の基本Ⅰ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	介護を実践する際の基本となる理論であることを理解し、積極的に身に着けられるように自学・自習に励むこと。		
オフィスタイム	・水曜日　Ⅰ時限　・木曜日　Ⅱ時限 創学館４階　№１研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	介護の基本Ⅰの学び方 シラバスの説明 介護福祉士・社会福祉士としての実践（DVD福祉の現場から）	DVDを参考に、将来像についてまとめる	30
2	介護福祉とは	介護の成り立ち １）介護の成り立ち	「介護」に対してのイメージについてまとめる	30
3	介護福祉とは	介護の成り立ち ２）専門職による「介護」が誕生した社会背景	演習1-1に取り組み意見を発表できるようにまとめる	30
4	介護福祉とは	演習1-1について発表、グループディスカッション 介護の概念の変遷 １）1970年代ー介護サービスの量的拡充 ２）1980年代ー介護サービスの質的向上	授業の中で指示されたことをまとめる	30
5	介護福祉とは	1970年代の家庭における介護（認知症高齢者）の実際 『恍惚の人』を鑑賞	『恍惚の人』から家庭における介護について考察する	30
6	介護福祉とは	介護の概念の変遷 ３）1990年代ー今日の介護実践における基本的な概念	授業の中で指示されたことをまとめる	60
7	介護福祉とは	介護の概念の変遷 ４）2000年以降ー今日の介護サービスの基本的枠組み	演習1-2に取り組み意見を発表できるようにまとめる	30
8	介護福祉とは	演習1-2について発表、グループディスカッション 介護福祉の基本理念 １）介護福祉の理念 ２）尊厳を支える介護	演習1-3に取り組み意見を発表できるようにまとめる	60
9	介護福祉とは	演習1-3について発表、グループディスカッション 介護福祉の基本理念 ３）自立を支える介護	演習1-4に取り組み意見を発表できるようにまとめる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	介護福祉士の役割と機能	演習1-4について発表、グループディスカッション 介護福祉士の活動の場と役割 1）地域包括ケアシステム 2）介護予防	授業の中で指示されたことをまとめる	30
11	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士の活動の場と役割 3）医療的ケア 4）人生の最終段階の支援	授業の中で指示されたことをまとめる	30
12	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士の活動の場と役割 5）災害時の支援	演習２-1介護福祉士の活動する場と役割	30
13	介護福祉士の役割と機能	演習2-1について発表、グループディスカッション 事例から自立支援を考える【ハルさんの物語】	授業の中で指示されたことをまとめる	30
14	介護福祉士の役割と機能	事例から自立支援を本人、家族の視点から考える【ハルさんの物語】	自立支援とはどのようなことか、ハルさんの事例から具体的にあげてまとめる	30
15	中間まとめ	介護福祉と自立支援の意義について総括	授業のなかで説明されたことについて、レポートを作成する。	120
16	通所介護の実践	介護実習Ⅰ-1から通所介護からの気づきをまとまる	授業の中で指示されたことをまとめる	60
17	通所介護の実践	介護実習Ⅰ-1から通所介護からの気づきを発表する グループワークにて考察を深める	授業の中で指示されたことをまとめる	30
18	介護福祉士の役割と機能	社会福祉士及び介護福祉士法 1）社会福祉士及び介護福祉士法 2）社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定	演習2-2、演習2-3に取り組み、発表できるようにまとめる	60
19	介護福祉士の役割と機能	演習2-2、2-3について発表、グループディスカッション 介護福祉士養成カリキュラムの変遷	授業の中で指示されたことをまとめる	30
20	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士を支える団体	授業の中で指示されたことをまとめる	30
21	介護福祉士の倫理	介護福祉士の倫理 1）介護実践における倫理	授業の中で指示されたことをまとめる	30
22	介護福祉士の倫理	介護福祉士の倫理 1）介護実践における倫理 2）倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応	授業の中で指示されたことをまとめる	30
23	介護福祉士の倫理	日本介護福祉士会の倫理綱領 1）日本介護福祉士会倫理綱領	演習3-1に取り組み意見を発表できるようにまとめる	60
24	自立に向けた介護福祉のあり方	演習3-1について発表、グループディスカッション 自立支援の考え方 1）自立支援とは 2）自立支援とエンパワメントの考え方	演習4-1に取り組み意見を発表できるようにまとめる	60
25	自立に向けた介護福祉のあり方	演習4-1について発表、グループディスカッション 自立支援とリハビリテーション 1）リハビリテーションとは 2）リハビリテーションの実際	授業の中で指示されたことをまとめる	30
26	自立に向けた介護福祉のあり方	自立支援とリハビリテーション 3）リハビリテーションを考えるうえでの障害の理解と評価 4）リハビリテーションの自立のとらえ方 5）リハビリテーションの介護福祉士の役割	演習4-3、4-4に取り組み意見を発表できるようにまとめる	60
27	自立に向けた介護福祉のあり方	演習4-3、4-4について発表、グループディスカッション 自立支援と介護予防 1）介護予防の概要 2）介護予防の種類と特徴	授業の中で指示されたことをまとめる	30
28	自立に向けた介護福祉のあり方	自立支援と介護予防 3）高齢者の身体特徴と介護予防 4）介護予防の実際	授業の中で指示されたことをまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	自立に向けた介護福祉のあり方	自立支援と介護予防 5）自立支援と介護予防 6）介護予防における介護福祉士の役割	演習4-5に取り組み意見を発表できるようにまとめる	60
30	介護の基本Ⅰ（まとめ）	演習4-5について発表、グループディスカッション 介護の基本Ⅰの全体について総括	授業の中で指示されたことをまとめる	60

令和3年度

科目名	生活支援技術A	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年2単位 選択
担当教員	廣野　正子,		
開講期	前期		
授業概要	生活支援とはなにかを理解し、生活での「動く」ことは生きることの基本であり、暮らしを支えるために不可欠な移動や移乗の動きを支援する技術を体験的に学ぶ。また、身じたくの意義・目的を理解するとともに、利用者の状態や状況に応じて安全で自立・自律を尊重した、満足の得られる身じたくの介護について学ぶ。基本的な技術を実践するなかで、身体状況に合わせた方法をその都度ディスカッションしながら方法の検討を通して身につける。☒ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、実技試験の結果を個々にフィードバックを行います。☒ ＜授業担当者＞☒ 第 1回～第16回：廣野担当☒ 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームの相談援助の実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。☒ 第17回～第30回：茂木担当☒ 実務経験：看護職としての実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。☒ 実務経歴：福島県立医科大学附属病院において、看護師として看護業務に従事。☒ 【履修カルテの評価項目】☒ ①対象者の機能など状態に合わせ能力を活用・発揮し自立支援するための方法が実践できたか ②移動の介護は日常生活を送るうえで基本となる動作を支える介護であることが理解できたか ③身じたくに関する生活習慣と装う楽しみのための知識と技術を理解できたか 位置づけ・水準　HW2107		
達成目標	「移動」「身じたく」における生活支援技術の根拠と、知識・技術の基礎から応用まで学び、現場での実践で活用できる能力を身につける。また、利用者の心身状態を理解し、どのような状態であっても尊厳と自律・自立を考慮した、個別に対応できる能力を修得する。☒ ①「移動」の意義と目的について理解し、基本的な「移動」支援技術を修得し実践できる。 ②「身じたく」の意義と目的について理解し、基本的な「身じたく」支援技術を修得し実践できる。 ③身体機能、こころの状態に合わせたコミュニケーションを活用して支援することができる。 単位認定の最低基準： 生活支援の意義とその技術について8割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力		
受講資格	人間生活学科福祉コース	**成績評価 方法**	実技50% 定期試験50％
教科書	中央法規出版☒ 介護福祉士養成講座テキスト☒ 「生活支援技術」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
参考書	授業の中で、随時紹介		
学生への要望	自学・自習に励み技術ついては確実に身につけ、介護実習で実践できるようにしておくこと。		
オフィスタイム	・水曜日　Ⅰ時限　・木曜日　Ⅰ時限 創学館４階№１研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・生活の理解と生活支援の考え方	①授業概要の説明及び留意点 ②生活支援の考え方 ③生活文化、ライフヒストリーなど生活様式の違い	学生自身の生活文化、生活の中での自己決定、生きがいについて発表できるようにまとめる	30
2	ガイダンス・生活の理解と生活支援の考え方	☒「生活支援技術」を学ぶことの意義について ⑤自己決定の支援、楽しみや生きがいの支援の理解 ⑥生活支援に活かすICF ⑦ボディメカニクスを理解した介助	一日の日常生活で移動場面、移動回数、移動時間をチェックしまとめる。	30
3	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護（体位変換）	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護について学ぶ。 ①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②体位変換を状態（自立度が高い、一部介助が必要、全介助が必要）に合わせた介助方法 ③介護支援ロボットを着用しての介助	体位変換の一連の支援方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
4	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護（安楽な体位）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②安楽な体位と保持　③褥瘡の予防について ④自立に向けた「移動」に関する道具・用具等の福祉機器（リフターなど）について ⑤介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業での起居動作、姿勢保持についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	移動・移乗の介護の基本（起居動作）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②起居動作の介助 ③姿勢の保持（ポジショニング） ④介護支援ロボットを着用しての介助	起居動作、姿勢保持の一連の支援方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
6	移動・移乗の介護の基本（起居動作）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②起居動作の介助 ③姿勢の保持（ポジショニング） ④介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業での車いす操作についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。	30
7	移動・移乗の介護の基本（車いす介助）	①車いすの基本構造　②車いす介助におけるアセスメントの視点　③ベッドから車いすへの介助法　④車いすからベッドへの介助法　⑤車いす介助法（段差越え、階段の昇降、エレベーター）⑥スライディングボード、リフターなど、車いす移動に関する福祉機器について学ぶ。⑦介護支援ロボットを着用しての介助	車いすの支援方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
8	移動・移乗の介護の基本（車いす介助）	①車いすの基本構造　②車いす介助におけるアセスメントの視点　③ベッドから車いすへの介助法　④車いすからベッドへの介助法　⑤車いす介助法（段差越え、階段の昇降、エレベーター）⑥スライディングボード、リフターなど、車いす移動に関する福祉機器について学ぶ。⑦介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業での歩行介助についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。	30
9	移動・移乗の介護の基本（歩行介助）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②平地歩行介助、段差越え、階段の昇降、などについて自立度の高い人、一部介助の必要な人、全介助の必要な人について ③歩行器、四点杖など、歩行に関する福祉機器について学ぶ。 ④介護支援ロボットを着用しての介助	歩行介助の一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
10	移動・移乗の介護の基本（歩行介助）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②平地歩行介助、段差越え、階段の昇降、などについて自立度の高い人、一部介助の必要な人、全介助の必要な人について ③歩行器、四点杖など、歩行に関する福祉機器について学ぶ。 ④介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業でのベッドから車いすへの介助についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。	60
11	移動・移乗の介護の基本（ベッドから車いすへの介助）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②ベッド上にて、起居動作 ③ベッドから車いすへ介助 ④安全にな車いす介助 ⑤介護支援ロボットを着用しての介助	ベッドから車いす介助の一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
12	移動・移乗の介護の基本（ベッドから車いすへの介助）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②ベッド上にて、起居動作 ③ベッドから車いすへ介助 ④安全にな車いす介助 ⑤介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業での感覚機能低下に配慮した介助についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。	30
13	状態に応じた移動の介護	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②感覚機能低下（視覚、聴覚、等）に配慮した移動の介護について学ぶ。☒	感覚機能低下に配慮した一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
14	状態に応じた移動の介護	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②運動機能低下（肢体不自由者、等）に配慮した移動の介護について学ぶ。	運動機能低下に配慮した一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
15	移動の介護（まとめ）	移動の支援技術に関する実技試験と解説。移動の介護について授業の補足	一連の移動の支援技術について、学生自身が指摘されたことを踏まえ十二分に実行できるように練習する。	30
16	移動の介護（まとめ）	移動の支援技術に関する実技試験と解説。移動の介護について授業の補足	一連の移動の支援技術について、学生自身が指摘されたことを踏まえ十二分に実行できるように練習する。	30
17	自立に向けた身じたくの介護	①身じたく（整容、口腔ケアを含む）を整えることの意義と目的について学ぶ。 ②ICFの視点に基づく身じたくに関する利用者のアセスメントの仕方について学ぶ。	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容につては練習を重ね実行できるようにする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
18	自立に向けた身じたくの介護	①ICFの視点に基づく身じたくに関する利用者のアセスメントの仕方について学ぶ。 ②整容の介助「洗顔」	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
19	自立に向けた身じたくの介護	整容の介助 「整髪・爪の切り・髭剃り」	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容につては練習を重ね実行できるようにする。	30
20	自立に向けた身じたくの介護	①整容の介助「爪切り・耳の清潔・化粧」 ②口腔ケア　DVD『歯周病』	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
21	自立に向けた身じたくの介護	①口腔ケアの意義及び目的 ②ICFの視点から見た口腔ケアのアセスメント	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容につては練習を重ね実行できるようにする。	30
22	自立に向けた身じたくの介護	①口腔ケアの方法、口腔ケア用具の紹介 ②歯ブラシによるケア法、口腔清拭法	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
23	自立に向けた身じたくの介護	①義歯の清掃 ②障害に応じた口腔ケア（片麻痺、認知症） ③口腔ケアの介助の実際	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容につては練習を重ね実行できるようにする。	30
24	自立に向けた身じたくの介護	整容に関する練習問題 まとめ	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
25	自立に向けた身じたくの介護	①衣類、寝具の管理 ②衣服着用の目的 ③衣類の種類と選択の視点	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容につては練習を重ね実行できるようにする。	30
26	自立に向けた身じたくの介護	①ICFの視点から見た衣服着脱 ②衣類の着脱介助の実際	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
27	自立に向けた身じたくの介護	衣類の着脱介助の実際（和式、前あき、かぶり）	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容につては練習を重ね実行できるようにする。	30
28	自立に向けた身じたくの介護	衣類の着脱介助の実際（和式、前あき、かぶり）	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
29	自立に向けた身じたくの介護	実技テストに向けた練習	実技テストで指摘されたことを踏まえて、復習する。	30
30	自立に向けた身じたくの介護	実技テスト（個別にフィードバック） 身じたくについて復習（練習問題）	国家試験過去問について復習する。	30

令和3年度

科目名	生活支援技術B	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
担当教員	藤田　京子		
開講期	後期		

授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ ①食事は生活の満足度に大きな影響を与えることを理解し、利用者の健康維持、楽しみを支える支援に関する技術を身につける。 ②排泄に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。また、個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助方法について身につける。☒ ③介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 ＜授業担当＞☒ 第1回～第16回　：藤田担当☒ 実務経験：医療機関に勤務した経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 第17回～第30回 ：茂木担当 実務経験：看護職としての実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。 実務経歴：福島県立医科大学付属病院において、看護師として看護業務に従事。 課題に対するフィードバック☒ 演習を通して適宜解説する。また、実技試験を実施し、フィードバックする。☒ 位置づけ・水準　HW2208☒
達成目標	【到達目標】☒ ①「食事」や「排泄」に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。また、個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助方法が理解できる。☒ ②介護福祉士国家試験に必要な知識の習得。 単位認定の最低基準：個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助方法が7割理解できる。☒ ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、理論的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任

受講資格	生活科学科の学生	成績評価方法	試験(筆記・実技）90%、レポート10%

教科書	介護福祉士養成講座テキスト☒ 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」☒ プリント配布
参考書	授業の中で随時紹介
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと☒ 授業を欠席しないこと
オフィスタイム	藤田：月・水曜日　14時30分～16時　家政学館4階　被服学研究室☒ 茂木：授業終了後

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・排泄の意義と目的 藤田	①授業内容に関する説明。 ②排泄の意義・目的 ③排泄のメカニズム	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
2	排泄の意義と目的 藤田	①自立に向けた排泄介助について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
3	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
4	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	60
5	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
7	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助のし方について学ぶ。④陰部洗浄について	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
8	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助のし方について学ぶ。④陰部洗浄について	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	30
9	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助のし方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
10	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助のし方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	30
11	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
12	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
13	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。　実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	30
14	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。　実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	30
15	自立に向けた排泄の介護 藤田	尿失禁について学ぶとともに、尿失禁時の適切な援助法について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
16	自立に向けた排泄の介護 藤田	尿失禁について学ぶとともに、尿失禁時の適切な援助法について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	60
17	ガイダンス・食事に関する介護の役割　　茂木	1．授業概要の説明 2．食事の意義と介護者の役割	今回の内容について復習する。	30
18	食事に関する介護の役割 茂木	1．食事の意義と介護者の役割 2．消化・吸収のメカニズム	今回の内容について復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
19	自立に向けたの介護 茂木	食事のアセスメント：ICFの視点から利用者の全体像をアセスメントし、適切な食事介助の技法を考え、実践できる。	今回の内容について復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
20	自立に向けた食事の介護 茂木	1．高齢者の特性 2．加齢による心身機能の低下が食事に及ぼす影響（感覚機能の低下、姿勢保持の変化、嚥下機能の低下、等）	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
21	ガイダンス・食事に関する介護の役割　　茂木	食事摂取の基本的な知識： 1（1）食行為のメカニズム （2）口腔ケア、口腔体操、唾液腺マッサージの意義及び目的について学ぶ。☒	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
22	自立に向けた食事の介護 茂木	誤嚥の予防と対応： （1）誤嚥しやすい食物、誤嚥しにくい食物（サンプルを用いて説明） （2）誤嚥の徴候と対応、誤嚥の予防	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
23	自立に向けた食事の介護 茂木	安全な食事介助の技法： （1）座位やベッド上での姿勢のとり方 （2）視覚障害のある人の食事介助の留意点	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
24	自立に向けた食事の介護 茂木	1．食事に関する福祉用具の説明と紹介 2．片麻痺のある人の食事介助の実際	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
25	自立に向けた食事の介護 茂木	1．視覚障害のある人の食事介助の実際 2．ベッド上での食事介助の実際	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
26	自立に向けた食事の介護 茂木	1．認知症のある人の食事介助の実際	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
27	自立に向けた食事の介護 茂木	食事介助の実技試験と解説	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
28	自立に向けた食事の介護 茂木	食事介助の実技試験と解説	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
29	自立に向けた食事の介護 茂木	国家試験対策としての課題学習と解説	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
30	食事の介助における他職種との連携　茂木	1．食事介助における他職種連携の必要性 2．他職種の役割と介護職との連携	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30

令和3年度

科目名	介護過程Ⅰ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
担当教員	藤田　京子		
開講期	前期		
授業概要	[授業の目的・ねらい]☒ ①介護過程とは、生活支援の考え方と介護過程の必要性を理解する ②介護過程の理解 　介護過程の展開（情報収集・アセスメント・介護計画・介護計画の実施・評価）を学ぶ介護実践における [事業全体の内容の概要]☒ 介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する内容とする。　☒ 実務経験：看護師として医療現場で勤務した経験をいかし介護過程の展開の必要性を指導する。☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。　☒ 課題に対するフィードバック☒ ・事例についてのアセスメントを実施後、内容を解説していく。 位置づけ・水準　HW2111		
達成目標	＜授業終了時の到達目標＞☒ ①介護過程とは、生活支援の考え方と介護過程の必要性を理解する。 ②介護過程の理解 　介護過程の展開（情報収集・アセスメント・介護計画・実施・評価）のプロセスと留意点を理解する。 単位認定の最低基準：介護過程とは、生活支援の考え方と介護過程の必要性を7割理解する。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力☒ [履修カルテの評価項目]☒ 介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解できたか		
受講資格	福祉コースの学生	**成績評価 方法**	筆記試験70％、課題30％
教科書	新・介護福祉士養成講座９『介護過程』　☒ 　中央法規		
参考書	特になし		
学生への要望	実習を行う上でも重要な科目なので、介護過程の展開の基本的視点を確実に修得してください。		
オフィスタイム	水・木曜日　Ⅲ・Ⅳ時限☒ 　本館１階保健室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	介護過程の意義と基礎的理解	・ガイダンス・授業内容の説明 ・介護過程のとは	シラバスの内容を把握する 今回の内容について見直しを行う	30
2	生活支援の考え方と介護過程の必要性	・介護過程と生活支援 ・生活支援における介護過程の意義 ・演習	今回の内容について復習する。	30
3	介護過程の理解	・介護過程の目的と構成 ・考える介護のイメージ	今回の内容について復習する。	30
4	介護過程の理解	・根拠に基づく介護過程の展開	今回の内容について復習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	介護過程の理解	・情報収集（傾聴・質問の技法） ・情報収集の方法（ICFモデルの活用）	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
6	介護過程の理解	・アセスメントとは ・介護過程のおけるアセスメントの重要性	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
7	介護過程の理解	・介護過程におけるアセスメントの重要性 演習	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
8	介護過程の理解	演習・アセスメントの実際（事例から）	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
9	介護過程の理解	演習・アセスメントの実際（事例から）	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
10	介護過程の理解	演習・アセスメントの実際	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
11	介護過程の理解	・介護過程の立案	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
12	介護過程の理解	・介護の実施 ・実施の際の留意点	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
13	介護過程の理解	・評価 ・評価における留意点	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
14	介護過程の理解	・評価を踏まえた介護計画の修正	今回の内容について復習する。	30
15	総括	・これまでの授業内容の補足および確認	これまでの内容を見直し、定期テストに向け学習する。	60

令和3年度

科目名	介護過程Ⅱ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 1単位 選択
担当教員	近内　直美		
開講期	後期		
授業概要	介護過程の展開方法の理解をもとに、実習の体験を踏まえ個別の生活支援のあり方を考え,事例を基に個別援助計画を作成し、学生相互の発表を通して個別援助計画作成の基本を理解する。☒ ☒ポート等は最後の授業でフィードバックを行います。 特別養護老人ホームでの勤務経験を活かし、事例などを組み入れながら実践に役立つ授業を行います。☒ 実務経験：社会福祉法人笑風会　事業部長☒ 位置づけ・水準　HW2212		
達成目標	目標は介護過程実習Ⅰ－２で介護過程の各様式に情報を整理して記載できるようにする。さらにアセスメント力を身に付ける。☒ 単位認定の基準は：「内容の7割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力		
受講資格	人間生活学科　福祉コース	**成績評価 方法**	演習３０％、課題７０％
教科書	最新介護福祉士養成講座　９介護過程　編集介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	・介護実習Ⅰ‐２に向けて、介護過程の展開方法を確実に実践できるように理解してください。 ・グループワークや発表を中心に行うため、積極的に参加してください。		
オフィスタイム	近内：水曜日Ⅰ・Ⅱ時限・時限　創学館４Ｆ　№６研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	介護過程の基本確認	介護過程Ⅰの振り返りと介護過程Ⅱの進め方などについて理解する☒ ・2回目以降演習やグループワークなどを適宜取り入れ、双方向型の授業を行う	・介護過程Ⅰを振り返るとともに、介護過程Ⅱで行う授業概要を理解する	15
2	介護過程の実践的展開１	ＩＣＦモデルについて理解する ・ＩＣＦモデルとは何かを理解する ・事例により、考え方を理解する	・ＩＣＦとは何かを予習する ・授業のポイントをまとめる	30
3	介護過程の実践的展開２	事例によりＩＣＦモデルの活用方法を理解する ・ＩＣＦのアセスメント項目を理解し、事例から記載の仕方を学ぶ	・テキストで予習する ・授業で事例を通して学んだことを整理する	30
4	介護過程の実践的展開３	事例によりＩＣＦモデルを活用した情報の整理を行う ・アセスメント表への記載の仕方を理解し、記載する	・ＩＣＦのアセスメントの整理の方法を予習する ・授業で行った事例をまとめ振り返る	30
5	介護過程の実践的展開４	事例によりＩＣＦモデルを活用した情報の整理を行う ・アセスメント表へ記載する	・テキストで予習する ・統合化の必要性、その方法をまとめる	30
6	介護過程の実践的展開５	「課題の統合化」を事例を通して行う ・介護計画書の書き方を理解し、課題の統合化を行う	・テキストで課題の抽出について予習する ・授業で行った内容を自分の考えとしてまとめる	30
7	介護過程とケアマネジメント１	介護過程とケアマネジメントの関係性を理解する☒ ・ケアマネジメントとは何かを理解する ・ケアプランとは何かを理解する ・ケアプランと個別援助計画の関係性を理解する	・ケアマネジメントとは何かの予習をする ・課題を行う	90
8	介護過程とケアマネジメント２	チームアプローチにおける介護福祉士の役割を理解する ・チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性を理解する ・チームアプローチにおける利用者支援の実際を理解する	・テキストで予習する ・授業を振り返りまとめる	30
9	介護過程の展開	フェイスシート、アセスメント表の項目意義について振り返る 個別援助計画書・実施評価表・意義を振り返る	・テキストで予習する ・授業のポイントをまとめる	30
10	介護過程の展開	フェイスシート、アセスメント表へ記載する	・テキストで予習する ・アセスメント表１・２を仕上げる	30
11	介護過程の展開	フェイスシート、アセスメント表へ記載する	・テキストで予習する ・授業のポイントをまとめる	30
12	介護過程の展開	課題の抽出を行い、必要な支援を組み立てる	・授業のポイントや留意点を振り返る	30
13	介護過程の展開	個別援助計画書を作成する	・授業のポイントや留意点を振り返る	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	介護過程の展開	個別援助計画書を作成する	・個別援助企画書を完成させる	45
15	介護過程の展開	作成した個別援助計画書について意見を発表する	・授業のポイントや留意点を振り返りまとめる	45

令和3年度

科目名	介護総合演習Ⅰ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 1単位 選択
担当教員	廣野　正子		
開講期	前期		
授業概要	介護総合演習では、介護実習Ⅰ-１で必要になる生活支援技術や介護の基本など各領域で学ぶ知識と技術の統合により、介護実習での学びを深化させ、介護の専門職としての態度を形成する。 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。 【担当教員】 廣野 　実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護総合演習の授業を行う。 　実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 藤田 　実務経験：看護師として勤務した臨床経験を活かし授業を行う。 　実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 位置づけ・水準　DW2119		
達成目標	介護実習Ⅰ－１の教育効果を上げるため、介護実践に必要な知識や技術の統合を行い、専門職としての態度を養う。 ①個々の学生の持つ関心や疑問・不安などに焦点をあて、自信を持って実習に臨めるようになる。 ②介護実習の事前に実習施設についての理解を深める。 ③コミュニケーションについて各領域で学んだ知識と技術を統合し実践できるようになる。 単位認定の最低基準：対象者の状態や状況に合わせたコミュニケーションについて8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科　社会福祉専攻	**成績評価 方法**	レポート50％課題　演習50％
教科書	なし		
参考書	光成館『介護福祉総合演習』		
学生への要望	・自信を持って実習に臨めるように、場面に応じたスキルを確実に身につけること。		
オフィスタイム	廣野：創学館№１研究室　水曜日　Ⅰ・Ⅱ限 藤田：家政学館４階　被服学研究室　月・水曜日　Ⅳ限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	実習の意義と目的 廣野	①介護実習の意義と目的を理解する。 ②介護実習に臨むにあたり、目標をもつことの大切さを理解する。☒ ③介護実習では、個別ケアの視点をもつことを理解する。 ④「実習前→実習中→実習後」という介護実習の流れと、それぞれの時期における学習のポイントを理解する。	介護実習の意義を理解し、介護実習の目標について考えまとめる。	30
2	多様なニーズと介護サービス 藤田	①実習施設や事業の概要について理解する。 ②実習Ⅰ－１の目的を理解する。	施設の理解（事前資料）を熟読して、理解でない用語について質問できるようにまとめる。	30
3	施設の理解 藤田	①特別養護老人ホームのサービス内容・利用者像・援助の視点などを理解する。☒ ②介護老人保健施設のサービス内容・利用者像・援助の視点などを理解する。 ③通所介護、グループホームのサービス内容・利用者像・援助の視点などを理解する。 ④実習Ⅰ－１で学ぶべきポイントを理解する。	本日の授業内容から、学生自身の興味のある施設種別を選択し、またその理由も明確にする。	30
4	介護のコミュニケーション１ 廣野	①介護コミュニケーションの意義 演習：あなたのコミュニケーションスタイルは？ 　　その後、グループディスカッションを行う。	コミュニケーションの意義を意識して友人、家族間などで会話をしてみる。	30
5	介護のコミュニケーション２ 廣野	①介護職に求められる効果的なコミュニケーション ②高齢者への声掛けと傾聴 演習：SOLERの体験後、グループディスカッションを行う。	コミュニケーションの傾聴を意識して友人、家族間などで会話をしてみる。	30
6	介護のコミュニケーション３ 廣野	①自己開示と対人関係 ②共感と高齢者による感情表現 ③演習：共感の体験後、グループディスカッションを行う。	自己開示と共感にについて友人、家族間などで意識して会話をしてみる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	介護実習記録 藤田	①記録の意義と目的 ②観察記録の方法 ③実習記録の基礎知識 ④介護実習日誌（冊子）	実習記録を1日分、授業を通しての理解として記載する。	30
8	介護実習記録の方法 藤田	①実習関連の記録の書き方 ②実習記録を書く時の注意点	指摘された点に留意して再度、実習記録を1日分、授業を通しての理解として記載する。	30
9	介護福祉士の職業倫理 藤田	①介護福祉士としての専門職に求められる福祉の理念と職業倫理について理解する。 ②実習に関わるコミュニケーションの方法 ③実習生としてのマナー、接遇	授業の中で指示されたことについて、まとめてくる。	30
10	実習生個人票 廣野	①実習生個人票についての説明と作成 ②「誓約書」	実習生個人調書の下書きをしてくる。	30
11	実習計画書の作成１　廣野	①実習計画書についての説明と作成	実習計画書を作成してくる。	30
12	実習計画書の作成２　廣野	①実習計画書について発表	実習施設について調べてくる。	30
13	実習前オリエンテーション１ 藤田	①実習施設の確認 ②実習についての心構え、注意点の確認 ③実習施設への礼状の書き方	実習施設について調べてくる。	30
14	実習前オリエンテーション２ 藤田	①先輩による体験談 ②質疑応答	本日の体験談から学んだこと、疑問に感じたことなどまとめてくる。	30
15	実習前オリエンテーション３ 藤田	①実習事前訪問の留意点と確認事項（健康管理含む） ②実習Ⅰ－１の評価内容 ③個人情報の取り扱い 授業全体の総括	事前訪問の準備について書き出し、同施設になる学生間で連携すること。	30

令和3年度

科目名	介護総合演習Ⅱ	**対象**	
担当教員	廣野　正子	**単位数**	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 1単位 選択
開講期	後期	**必選**	
授業概要	介護実習Ⅰ－２の教育効果を上げるため、介護実践に必要な知識や技術の統合を行い演習を通して専門職としての態度を養う。また、☒ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。☒ 【担当教員】☒ 廣野担当：1回～4回、11～15回☒ 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護総合演習の授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ 藤田担当：4回～10回 ☒ 実務経験：看護師として勤務した臨床経験を活かし授業を行う。☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☒ 位置づけ・水準　DW2120		
達成目標	介護実習Ⅰ-2の教育効果を上げるため、介護実践に必要な知識や技術の統合を行い、専門職としての態度を養う☒ ①介護実習Ⅰ－１を振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて自己の課題を明確にする。 ②実習施設の役割と機能を理解し、対象者とその家族の生活ニーズを考える。 ③対象者・家族のニーズに対する介護福祉士の役割と自立支援に向けた多職種協働の意義と役割を理解できる。 単位認定の最低基準：対象者・家族のニーズに対する自立支援の必要性について8割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：理論的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科　社会福祉専攻	**成績評価方法**	試験70％、課題30％
教科書	随時プリントを配布する		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	実習の実践に必要な知識や、実習生としてのマナーを修得してほしい。		
オフィスタイム	廣野：水曜日Ⅰ限・木曜日Ⅲ限（創学館4階　№1）☒ 藤田：月・水曜日　Ⅳ限（家政学館4階　被服学研究室）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	介護実習Ⅰ－１振り返り（1） 廣野	・介護実習関係書類の整理 ・介護実習の自己評価	介護実習Ⅰ－１を振り返り、報告できるようにまとめる。	30
2	介護実習Ⅰ－１振り返り（2） 廣野	・介護実習報告会（4施設）	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
3	介護実習Ⅰ－１振り返り（3） 廣野	・介護実習報告会（3施設） ・介護実習Ⅰ-２が始まるまでの流れと事前学習の内容を理解する。	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
4	介護実習Ⅰ－１振り返り（4） 廣野・藤田	・☒護実習評価（施設）	施設評価と自己評価の相違を確認する。	30
5	介護実習Ⅰ-２の展開（1） 藤田	・実習Ⅰ-２のねらい ・実習Ⅰ-2の介護事業所の理解	介護実習Ⅰ-１での実習記録から良く書けている記録、そうでない記録をチェックする。	60
6	介護実習Ⅰ-２の展開（2） 藤田	・実習記録や日誌のまとめ方を学ぶ。	授業の中で指示されたことをまとめる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	介護実習Ⅰ-2の展開（3） 藤田	・介護実習Ⅰ－2日誌 ☒プロセスレコードの説明	日常生活の一場面から、プロセスレコードを記録する。	30
8	介護実習Ⅰ-2の展開（4） 藤田	・プロセスレコードの実際と活用法	食事、整容、入浴での介護技術について実践できるように予習する。	60
9	演習（1） 藤田	・食事場面における介護技術の展開 ・整容場面における介護技術の展開 ・入浴場面における介護技術の展開	排泄、認知症の方への対応などについて配慮することをまとめる。	30
10	演習（2） 藤田	・排泄場面における介護技術の展開 ・認知症の方への介護技術の展開	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
11	介護実習Ⅰ-2の展開（5） 廣野	・介護実習Ⅰ-2の実習施設について調べたことを、発表する。	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
12	介護実習Ⅰ-2の展開（6） 廣野	・介護実習Ⅰ－1からの課題を明らかにし、実習目標を作成する。	実習目標を完成する。	30
13	事前訪問準備 廣野	・事前訪問について必要事項をまとめる。 ・介護過程の展開、誓約書、個人調書について	事前訪問で確認することをまとめる	60
14	実習前オリエンテーション 廣野	・実習先の概況、事前訪問の準備。	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
15	介護総合演習Ⅱの総括 廣野	・授業の補足と総括	介護実習Ⅰ-2の準備をする。	30

令和3年度

科目名	介護実習Ⅰ－1	**対象**	
担当教員	廣野　正子,藤田　京子	**単位数**	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
開講期	前期	**必選**	
授業概要	介護を必要とする対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。さらに、介護を必要とする個人を理解するため、対象者や家族とのコミュニケーションを実践し、対象者の状況に応じた適切な生活支援技術を学ぶ。☒ 介護実習Ⅰ－1は通所施設での実習となる。☒ 実習時間の構成は、1日8時間で10日間、計80時間となる。 実習日誌等の記録について、巡回指導時などに口頭や添削によるフィードバックを行います。☒ 廣野☒ 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに実習指導を行う。 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ 藤田☒ 実務経験：看護師として総合病院勤務していた臨床経験を活かし実習担当する。☒ 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。 位置づけ・水準　DW2123☒		
達成目標	介護を必要とする人の理解と、コミュニケーションの意義を理解できる。 ①学内で学んだ講義、演習からのコミュニケーション技術の実践にて対象者との関わりを深める。 ②介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。 ③対象者、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。 単位認定の最低基準：対象者の状態や状況に合わせたコミュニケーションについて8割理解し実践することができる。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科　社会福祉専攻	**成績評価方法**	実習施設の評価80%、巡回時の面談・実習日誌20%
教科書	なし		
参考書	実習施設から提示される資料		
学生への要望	各自の目標を明確にして、実習の臨んでほしい		
オフィスタイム	廣野：創学館4階　№1研究室　・水曜日Ⅰ時限・木曜日Ⅰ時限☒ 藤田：家政学館　被服学研究室　月曜日・木曜日Ⅳ時限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	学外介護事業所実習	オリエンテーション☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	90
2	学外介護事業所実習	オリエンテーション☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	90
3	学外介護事業所実習	オリエンテーション☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
4	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
5	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
6	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
7	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
8	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
9	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
10	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
11	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
12	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
13	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
14	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
15	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
17	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
18	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
19	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
20	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
21	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
22	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
23	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
24	学外介護事業所実習	多職種協働の実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
25	学外介護事業所実習	多職種協働の実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
26	学外介護事業所実習	多職種協働の実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
27	学外介護事業所実習	多職種協働の実践④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
28	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り①	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120
29	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り②	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120
30	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り③	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120

令和3年度

科目名	介護実習Ⅰ－2	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 4単位 選択
担当教員	廣野　正子		
開講期	後期		
授業概要	多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。 介護実習Ⅰ－2はグループホームなどの福祉施設での実習となる 実習時間の構成は、1日8時間で23日間、計184時間となる。 実習日誌等の記録について、巡回指導時などに口頭や添削によるフィードバックを行います。 【担当教員】 廣野 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに実習指導を行う。 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 藤田☒ 実務経験：看護師として総合病院に勤務していた臨床経験を活かし実習担当する。☒ 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。 位置づけ・水準　DW2124 ☒		
達成目標	様々な場面で展開される介護を実践し、介護福祉士の役割を理解することができる。 ①介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。 ②介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。 ③介護を必要とする対象者の理解のためアセスメント能力を身につける。 単位認定の最低基準：対象者の状態や状況を適切にアセスメントすることについて8割理解し実践することができる。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科　社会福祉専攻	**成績評価 方法**	実習施設の評価80%、巡回時の面談・日誌の記録20%
教科書	新・介護福祉士養成講座☒ 介護総合演習・介護実習		
参考書	実習施設で配布される資料☒		
学生への要望	大学で学んだ専門的知識や技術を福祉の現場で実践できるよう、その能力を養ってほしい☒		
オフィスタイム	廣野：創学館4階　№1研修室　水曜日Ⅱ時限・木曜日　Ⅱ時限☒ 藤田：家政学館4階　被服学研究室　月・水曜日　Ⅳ時限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	学外介護施設実習	オリエンテーション①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
2	学外介護施設実習	オリエンテーション②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
3	学外介護施設実習	オリエンテーション③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
4	学外介護施設実習	生活支援技術の実践①☒ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
5	学外介護施設実習	生活支援技術の実践② 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
6	学外介護施設実習	生活支援技術の実践③ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
7	学外介護施設実習	生活支援技術の実践④ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
8	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑤☒ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑥☒ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
10	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ☒ 生活相談員、介護援専門員、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
11	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ☒ 医師、看護師、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
12	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ③☒ 栄養士、調理師、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
13	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ☒ 理学療法士、作業療法士、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
14	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ☒ 生活相談員、医師、看護師、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、介護職との連携の考察	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
15	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ☒ 生活相談員、医師、看護師、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、介護職との連携の考察	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
16	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
17	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
18	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑦ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
19	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑧ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
20	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑨ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
21	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑩ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
22	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑪ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
23	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑫ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
24	学外介護施設実習	介護過程の実践① フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
25	学外介護施設実習	介護過程の実践② フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
26	学外介護施設実習	介護過程の実践③ フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
27	学外介護施設実習	介護過程の実践④ フェースシート関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
28	学外介護施設実習	介護過程の実践⑤ フェースシート関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
29	学外介護施設実習	介護過程の実践⑥ アセスメント表１関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
30	学外介護施設実習	介護過程の実践⑦ アセスメント表１関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
31	学外介護施設実習	介護過程の実践⑧ アセスメント表１関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
32	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
33	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
34	学外介護施設実習	介護過程の実践⑨ アセスメント表１関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
35	学外介護施設実習	介護過程の実践⑩ アセスメント表１関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
36	学外介護施設実習	介護過程の実践⑪ アセスメント表１関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
37	学外介護施設実習	介護過程の実践⑫ アセスメント表１関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
38	学外介護施設実習	介護過程の実践⑬ アセスメント表１関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
39	学外介護施設実習	介護過程の実践⑭ アセスメント表１関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
40	学外介護施設実習	介護過程の実践⑮ アセスメント表１関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
41	学外介護施設実習	介護過程の実践⑯ アセスメント表１関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
42	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
43	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
44	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
45	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑤	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
46	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑥	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
47	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
48	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
49	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
50	学外介護施設実習	介護過程の実践⑰ アセスメント表２の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
51	学外介護施設実習	介護過程の実践⑱ アセスメント表２の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
52	学外介護施設実習	介護過程の実践⑲ アセスメント表２の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
53	学外介護施設実習	介護過程の実践⑳ アセスメント表２の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
54	学外介護施設実習	介護過程の実践 個別援助計画書の作成	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
55	学外介護施設実習	介護過程の実践 個別援助計画書の作成	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
56	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑦	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
57	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑧	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
58	学外介護施設実習	行事、レクリエーションに参加し、企画・実施・評価の過程を学ぶ。可能であれば、企画し、実施する	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
59	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 施設のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な多職種の役割を学ぶことで、生活支援のチームの一員としての介護福祉士の役割を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
60	学外介護施設実習	実習反省会および振り返り	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	60

令和3年度

科目名	認知症の理解A	**対象**	
担当教員	藤田　京子	**単位数**	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
開講期	前期	**必選**	

授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ ①認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症の人を取り巻く状況について理解する。 ②認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらにより引き起こされる日常生活への影響について理解する ③認知症の人を正しく理解し、適切な支援のあり方について学ぶ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 〔授業全体の内容の概要〕☒ 　認知症を取り巻く社会的な問題について理解する。また、認知症を引き起こす代表的な疾患を理解する。認知症の症状と生活面への影響を理解し、適切な支援のあり方を考察できる知識と技術を学ぶ。☒ 実務経験：医療現場における臨床経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☒ 課題へのフィードバック☒ ・確認テストを随時実施しフィードバックを行う。 ・最終授業で全体に対するフードバックを行う。 位置づけ・水準　HW2224
達成目標	授業終了時の到達目標☒ ①認知症の原因疾患と生活上の影響を理解する ②認知症が引き起こす症状とその背景について理解する ③認知症の人に対するより良い対応のし方を理解する ④介護福祉士国家試験に必要な知識を習得する 単位認定の最低基準：①認知症の原因疾患と生活上の影響を7割理解する☒ 　　②認知症が引き起こす症状とその背景について7割理解する。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力☒ 〔履修カルテの評価項目〕☒ ①認知症の原因疾患をどの程度理解できたか ②認知症が引き起こす症状（中核症状とBPSD）をどの程度理解できたか ③認知症の人に対する適切な支援のあり方をどの程度理解できたか

受講資格	生活科学科の学生	**成績評価方法**	期末試験70%、小テスト10%☒ レポート20%
教科書	中央法規出版「認知症の理解」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で取り組んでほしい。☒ 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	月・水曜日　14時30分～16時　家政学館4階被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	認知症の人の生きる世界	①ガイダンス・授業内容の説明 ②認知症の人の生きる世界について理解を深める（ビデオ使用）	シラバスを把握する。ビデオの感想を書き次回提出する。	30
2	認知症の基礎的理解	認知症とは☒か ・定義と診断基準	今回の内容について見直しを行う。	30
3	認知症の基礎的理解	脳のしくみ	今回の内容について見直しを行う。	30
4	認知症の基礎的理解	認知症の人の心理	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
5	認知症の症状・診断・治療・予防	・中核症状の理解 ・生活障害の理解	今回の内容について見直しを行う。BPSDについて各自学習する。	60
6	認知症の症状・診断・治療・予防	・BPSDの理解 BPSDについて各自でまとめたものを発表する	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
7	認知症の症状・診断・治療・予防	・認知症の原因疾患と症状・生活障害	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	認知症の症状・診断・治療・予防	・認知症の診断と重症度 ・認知症の治療薬 ・認知症の予防	今回の内容について見直しを行い、確認テストに向けて学習する。次回の授業内容について教科書で確認する。	60
9	認知症の症状・診断・治療・予防	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解についての確認テスト	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
10	障害をかかえて生きることへの支援	認知症の方の在宅での生活（DVD使用） 映像を通して認知症についての学習を考察する	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
11	障害をかかえて生きることへの支援	①認知症を取り巻く状況 ②認知症ケアの理念と視点について	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
12	障害をかかえて生きることへの支援	③認知症当事者の視点から見えてくるもの（DVD使用） 当事者の視点とはどのようなものか考察する	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
13	認知症ケアの実際	パーソンセンターとケア	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
14	認知症ケアの実際	若年性認知症について	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
15	総括	これまでの授業内容の補足及び確認	定期テストに向け学習する。	60

令和3年度

科目名	認知症の理解B	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
担当教員	藤田　京子		
開講期	後期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ ①認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解する ②認知症のその人の特性を踏まえたアセスメントを行い本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につなげる ③認知症を取り巻く社会資源について学ぶ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 〔授業全体の内容の概要〕☒ 認知機能障害が及ぼす日常生活への影響や、認知症の人・家族の心の変化や生活面への影響を理解し、その支援のあり方を思考できる知識を身につける☒ 実務経験：医療機関で勤務した臨床経験を活かし、授業を行う☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務☒ 課題に対するフィードバック☒ ・確認テストを随時実施しフィードバックする。 ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 位置づけ・水準　HW2325		
達成目標	〔授業修了時の到達目標〕☒ ①認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響が理解できる ②認知症のその人の特性を踏まえたアセスメントを行い本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながる ③地域のサポート体制、チームアプローチについて理解できる ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 単位認定の最低基準：①認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響が7割理解できる。☒ ②本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践について7割理解できる。 ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力☒		
受講資格	生活科学科の学生	**成績評価 方法**	期末試験80%　小テスト20%　☒
教科書	中央法規出版「認知症の理解」☒ プリント配布		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと☒ 授業を欠席しないこと☒		
オフィスタイム	水・木曜日　14時30分～16時☒ 家政学館4階　被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	認知症ケアの実際	①ガイダンス・授業内容の説明 ②前期の内容を振り返る	シラバスを確認する。今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
2	認知症ケアの実際	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメントツール ①センター方式	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
3	認知症ケアの実際	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメントツール☒②ひもときシート	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
4	認知症ケアの実際	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメントツール☒③健康状態のアセスメント	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
5	認知症ケアの実際	認知症の人とのコミュニケーション	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
6	認知症ケアの実際	認知症の人へのケア ・内容をグループでまとめる	内容についてまとめ、発表の準備をする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	認知症ケアの実際	認知症の人へのケア ・まとめたものをパワーポイントで発表する	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
8	認知症ケアの実際	認知症に人へのさまざまなアプローチ ・映像を通して認知症の人のアプローチについて考察する	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
9	認知症ケアの実際	認知症に人へのさまざまなアプローチ ・ユマニチュード	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
10	認知症ケアの実際	認知症に人へのさまざまなアプローチ ・ユマニチュードの実際 ・バリデーション	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
11	認知症ケアの実際	認知症に人へのさまざまなアプローチ ・認知症ケア・マッピング ・回想法・聞き書き	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
12	認知症ケアの実際	認知症の人の終末期医療と介護 環境づくり	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
13	介護者支援	制度、サービス、機関、地域づくり 多職種連携と協働	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
14	認知症の人の地域生活支援	家族への支援 介護福祉職への支援	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
15	総括	これまでの授業内容の補足及び確認	今回の内容を復習し、定期テストに向けた学習を行う。	60

令和3年度

科目名	こころとからだのしくみA	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
担当教員	藤田　京子		
開講期	前期		

授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ ①生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する ②生活支援における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する ③「移動」「身じたく」「食事」について、老化・疾患の特徴を踏まえた適切な援助法について理解する ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 〔授業全体の内容の概要〕☒ 生活支援（移動・身じたく・食事）に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。☒ 実務経験：医療機関での臨床経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☒ 課題に対するフィードバック☒ ・各単元ごとに確認テストを実施し、解説することでフィードバックする。 ・最終授業で全体的なフィードバックを行う。 位置づけ・水準　HW2132☒
達成目標	〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕☒ ①人体の構造と働きを理解する ②「移動」「身じたく」「食事」について、老化や疾患による影響について理解する ③「移動」「身じたく」「食事」について、観察力と判断力を身につけ、安全に介助できるための根拠を理解する ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 単位認定の最低基準：①人体の構造と働きを7割理解する☒ ②「移動」「身じたく」「食事」について、老化や疾患による影響について7割理解する ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力☒ 〔履修カルテの評価項目〕☒ ①人体の構造と働きを理解できたか ②「移動」「身じたく」「食事」について、老化・疾患による影響を理解できたか ③「移動」「身じたく」「食事」について、観察力と判断力を身につけ、安全に介助できるための根拠を理解する

受講資格	生活科学科の学生	成績評価方法	期末試験80%、小テスト20%☒
教科書	中央法規出版「こころとからだのしくみ」☒		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと☒ 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	月・水曜日　14時30分～16時☒ 家政学館4階　被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	こころのしくみの理解	①ガイダンス・授業内容の説明 ②健康の定義	シラバスを確認する。今回の内容を復習する。	30
2	こころのしくみの理解	①人間の欲求とは ②自己実現と尊厳	今回の内容を復習する。	30
3	こころのしくみの理解	こころのしくみ ①こころとは何か ②脳のしくみ ・学習・記憶・思考のしくみ ・認知・適応のしくみ	今回の内容を復習する。	30
4	からだのしくみの理解	からだのしくみ☒ からだの部位の役割	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	からだのしくみの理解	からだのしくみ☒ からだの部位の役割	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	60
6	からだのしくみの理解	からだのしくみ☒ からだの部位の役割	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
7	からだのしくみの理解	からだのしくみ☒ からだの部位の役割	今回までの内容を復習し確認テストに向けた学習を行う。また次回の項目を教科書で確認する。	60
8	移動に関連したこころとからだのしくみ	前回までの確認テスト 移動のしくみ☒	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
9	移動に関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 変化の気づきと対応	移動に関しての内容を復習し、確認テストに向けた学習を行う。また次回の項目を教科書で確認する。	60
10	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	移動に関連したこころとからだの確認テスト☒ 身じたくのしくみ☒ ①身じたくにを整えることの意義・目的 ②身じたくに関連したこころとからだのしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
11	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	身じたくに関連したこころとからだのしくみ☒	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
12	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 変化の気づきと対応 演習：機能低下や障害が及ぼす整容行為への影響を学ぶ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	60
13	食事に関連したこころとからだのしくみ	身じたくに関連したこころとからだのしくみの確認テスト☒ 食事に関連したこころのしくみ☒ ①食事に関連したこころのしくみ ②食事に関連したからだのしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
14	食事に関連したこころとからだのしくみ	☒身の機能低下が食事に及ぼす影響 変化の気づきと対応	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	60
15	総括	食事に関連したこころとからだのしくみの確認テスト☒ これまでの授業内容の補足及び確認	今回の復習を行い、定期テストに向けた学習を行う。	60

令和3年度

科目名	こころとからだのしくみB	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
担当教員	藤田　京子		
開講期	後期		

授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ ①生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する ②生活支援における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する ③「入浴・清潔保持」「排泄」「睡眠」について、老化・疾患の特徴を踏まえた適切な援助法について理解する ④人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響を学び生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する ⑤介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 〔授業全体の内容の概要〕☒ 生活支援技術（入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階）を安全に、適切に行う上での根拠となる人体の構造や機能について学ぶ☒ 〔履修カルテの評価項目〕☒ ①入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階における利用者の生活・自立支援に必要な基礎的知識について理解できたか ②入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階が、老化や疾患により及ぼされる影響について理解できたか ③入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階について、安全に介助できるための根拠を理解できたか ④人生の最終段階のケアにおける介護職の役割について理解できたか 実務経験：医療機関での臨床経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☒ 課題に対するフィードバック☒ ・各項目毎に確認テストを実施しフィードバックする。 ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 位置づけ・水準　HW2133
達成目標	〔授業修了時に到達目標〕☒ ①入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階における利用者の生活・自立支援に必要な基礎的知識について理解する ②入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階が、老化や疾患により及ぼされる影響について理解する ③入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階について、安全に介助できるための根拠を理解する ④人生の最終段階のケアにおける介護職の役割について理解する ⑤介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 単位認定の最低基準：①「入浴・清潔保持」「排泄」「睡眠」「人生の最終段階」について、老化や疾患による影響について7割理解する ☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力

受講資格	生活科学科の学生	**成績評価 方法**	期末試験80%　小テスト20%
教科書	中央法規出版「こころとからだのしくみ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと☒ 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	水・木曜日　14時30分～16時☒ 家政学館4階　被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	入浴･清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	①ガイダンス・授業内容の説明 ②なぜ入浴・清潔保持を行うのか ③清潔がもたらす効果	シラバスを確認する。今回の内容を復習する。	30
2	入浴･清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	入浴･清潔保持に関連したからだのしくみ☒ ①皮膚の構造としくみ ②発汗のしくみ ③皮膚の汚れのしくみ ④陰部の清潔	今回の内容を復習する。	30
3	入浴･清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	精神機能や心身機能の低下が入浴･清潔保持に及ぼす影響　☒ 入浴･清潔保持における観察のポイント ①変化の気づきと対応	今回の内容を復習する。	30
4	入浴･清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	入浴･清潔保持における観察のポイント ☒ ②心身の状態に応じた入浴･清潔の方法 ③入浴･清潔保持における医療職との連携	入浴・清潔保持に関した内容を復習し、確認テストに向けた学習を行う。また、次回の項目を教科書で確認する。	60
5	排泄に関連したこころとからだのしくみ	入浴･清潔保持に関する演習問題☒ 入浴・清潔保持に関する確認テストおよび要点を復習☒ 排泄のしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
6	排泄に関連したこころとからだのしくみ	排泄に関連したからだのしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
7	排泄に関連したこころとからだのしくみ	排泄に関連した「からだ」のしくみ☒人工肛門 演習課題	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	排泄に関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響として、☒ ①老化による機能低下 ②疾患による機能低下 ③障害による機能低下 演習課題	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
9	排泄に関連したこころとからだのしくみ	①変化の気づきと対応 ②排泄における医療職との連携 演習課題	排泄の内容を復習し確認テストに向けた学習を行う。次回の項目を教科書で確認する。	60
10	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	排泄に関するこころとからだのしくみの確認テストと要点の復習☒ 睡眠に関連したこころとからだのしくみ ①休息・睡眠のしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
11	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	①睡眠に影響を及ぼす心身の機能低下 ②睡眠障害 ③変化の気づきと医療職との連携 ①睡眠での観察ポイントと連携のポイント 演習課題	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	60
12	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	休息・睡眠に関するこころとからだのしくみの確認テストと要点の復習 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方 終末期	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
13	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	「死」に対するこころの理解 終末期から危篤状態、死後のからだの理解	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
14	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	医療職との連携のポイントについて学ぶ☒ 演習課題☒	休息・睡眠と人生の最終段階に関連した内容を復習し確認テストに向けた学習を行う。	60
15	総括	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみについての確認テストと復讐☒ これまでの授業内容の補足及び確認	これまでの内容を確認し、定期テストに向けた学習を行う。	60

令和3年度

科目名	生活学的法律論	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木　康元	**単位数**	
開講期	後期	**必選**	
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける☒ 〔授業全体の内容の理解〕☒ 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう☒ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕☒ 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること☒ 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕☒ 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける☒ 〔授業全体の内容の理解〕☒ 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう☒ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕☒ 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること		
受講資格	家政学部１年	**成績評価方法**	ペーパー試験と出席の程度を考慮する
教科書	その都度指定する		
参考書	その都度指定する		
学生への要望	法律一般につき興味をもって欲しい☒		
オフィスタイム	授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室☒ 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	家族法とは	民法における家族法位置づけと家族の意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	婚姻（１）	婚姻の意味と婚約等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	婚姻（２）	婚姻の効力→婚姻をすると、夫婦はどのような義務を負うのか	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	離婚（１）	離婚の意味と実態等について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	離婚（２）	離婚の方法と実務から見た問題点について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	内縁	内縁の意味とその法的意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	親子（１）	親子の種別（実子・養子）と法的効果について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	親子（２）	親権の意味と内容について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	扶養	法律上の扶養義務者と現代的変遷について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	相続の基礎	相続の意味と現代的特色	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	相続人	誰が相続人になるのか、相続人に相続させたくない場合は	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	相続の効力（１）	遺産承継について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	相続の効力（２）	相続分と遺産分割について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	遺言	遺言の意義・方式等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	成年後見	成年後見制度について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	生活学的経済論	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川　貴弘	**単位数**	
開講期	前期	**必選**	
授業概要	本授業の目的は、生活と密接にかかわる経済の基礎知識の習得と経済学的視点の確立である。不景気・デフレーション・円高・円安・インフレーション・消費生活・生活経済等、普段からニュースや新聞で取り上げられるものであるが、これらの経済的事象は私達の生活と密接にかかわっている。これら経済的事象を経済学的視点で見る目を養うことを本授業の目的としたい。☒ なお、在北京日本国大使館経済部での勤務経験を活かし、授業の中で経済統計の見方、マクロ経済の理論と実際について採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 在北京日本国大使館経済部専門調査員として主に中国経済の分析に従事。☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☒ 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☒ 【位置づけ・水準】　GU1109		
達成目標	【単位認定の最低基準】　☒ 経済的事象を経済的視点で見る目を養うことを到達目標とする。この目標の７割程度の達成をもって単位認定の最低基準とする。☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】　他との協調、人間形成		
受講資格	家政学部 生活科学科 1年生 ☒ 家政学部 食物栄養学科 1年生	**成績評価方法**	①小テスト30点（15点×２回） ②レポート70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	伊藤元重「はじめての経済学（上）（下）」日経文庫、他必要に応じ授業の中で紹介する。		
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる経済関連の問題について関心を持つようにすること。		
オフィスタイム	火曜日　3コマ　水曜日4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について解説する。☒ 経済学とは何かを説明する第一の例としてインフレーションとデフレーションを取り上げ、両者が私達の生活に与える影響について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	経済学とは何か②	第二の例として円安と円高を取り上げ、両者が私達の生活にどのような影響を与えるのかについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	経済学とは何か③	経済学をめぐって行われてきた政策論争（自由貿易vs保護貿易）について学修することを通じて経済学への理解を深める。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	消費生活と経済①	消費と消費者の概念について、消費者の権利と責任について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	消費生活と経済②	様々な消費者問題とクーリングオフについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	消費生活と経済③	グリーンコンシューマーとフェアトレードの概念について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	消費生活と経済④	消費生活と経済について総まとめ。 小テスト1回目	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	30
8	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査①	世界と日本の家計研究の歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査②	エンゲルの法則とエンゲル係数の概念について学修する。近年のエンゲル係数の動向について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
10	食料・食品と経済①	食料自給率、食と流通等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	食料・食品と経済②	食と環境、食品廃棄物問題等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	30
12	行動経済学とその概要①	行動経済学とは何か、その概要について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
13	行動経済学とその概要②	行動経済学について、ナッジ（nudge）理論を元にその事例を紹介する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
14	地域経済～郡山市の経済について①	地域経済とは何かを解説した上で、私達が住んでいる郡山市の経済とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60

15	地域経済～郡山市の経済について② まとめ	郡山市の経済とその特徴について学修する（前回の続き）。 これまでの学修内容を確認する。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

令和3年度

科目名	生活学的社会論	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川　貴弘	**単位数**	
開講期	前期	**必選**	
授業概要	私達は社会の中で生きており、生活と社会は切り離して考えることはできない。本授業では、私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているか、すなわち現代社会の特性、人と社会との関係、社会問題とその背景について理解を深め、考察する力を養うこと、更に社会と切り離せない生活の多様性についても理解することを目的としている。 なお、本講義では、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方、活用の仕方についても採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。　☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。 【位置づけ・水準】　GU1108		
達成目標	【単位認定の最低基準】 私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているかについて、理解を深め、考察する力を養うことを目標とする。この目標の７割程度の達成をもって単位認定の最低基準とする。		
受講資格	家政学部 生活科学科 1年生 ☒ 家政学部 食物栄養学科 1年生	**成績評価方法**	①小テスト30点（15点× 2 回）☒ ②レポート70点
教科書	プリントを配布する。☒		
参考書	浅野智彦編著「社会学のことが面白いほどわかる本」、中経出版　他		
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる社会の問題について関心を持つようにすること。		
オフィスタイム	火曜日　3コマ　水曜日4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法について説明する。☒ 『社会』とは何か、今の日本『社会』はどのような状態にあるか、その一例として少子高齢化社会について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	少子高齢化社会と日本と世界①	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、日本の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	少子高齢化社会と日本と世界②	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、世界各国の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	少子高齢化社会と日本と世界③	平均寿命、平均余命、健康寿命などの概念、それら指標の現状ついて概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	社会と仕事・家族①	家族とその役割について学修する。 家庭において起こる問題―DVと児童虐待について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	社会と仕事・家族②	フリーターとニート（ひきこもりを含む）、日本的雇用慣行について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	社会と仕事・家族③	正規雇用と非正規雇用、働くことの意義について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
8	社会と自己と他者①	癒しと宗教、社会的自我と個人のアイデンティティについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	社会と自己と他者②	癒しと宗教、社会学から見た自殺問題について学修・考察する。小テスト（1回目予定）☒	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60
10	社会と国家①	社会学から見た国家（ルールと権力）、平等な社会と格差について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	社会と国家②	厚生労働省とその取り組み（１）年金制度、社会保障制度、介護保険制度について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	社会と国家③	厚生労働省とその取り組み（２）医療保険制度とその仕組みについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
13	社会と国家④	厚生労働省とその取り組み（３）「健康日本21」等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
14	社会と国家⑤	「地域保健法」と保健所の役割について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60

15	まとめ	これまでの学修内容の確認と小テストの内容について復習する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

令和3年度

科目名	日本国憲法	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木　康元	**単位数**	
開講期	前期	**必選**	
授業概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。☒ 履修カルテ評価項目☒ ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。☒		
達成目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。☒ 履修カルテ評価項目☒ ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。		
受講資格	家政学部１年生	**成績評価方法**	ペーパー試験(80%)と出席状況(20%)
教科書	憲法【第二版】☒ 弘文堂		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。		
オフィスタイム	火曜日☒ 授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室☒ 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特色、日本国憲法の歴史☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下の平等の意義☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	基本的人権⑦	経済的自由権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	基本的人権⑧	財産権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	基本的人権⑨	その他の人権について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	統治機構①	国会☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	統治機構②	内閣☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	統治機構③	裁判所☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	生活化学	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択
担当教員	大西　弘太郎	**単位数**	/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース
開講期	前期	**必選**	1年 2単位 選択

授業概要	生活科学部での専門科目学習において重要な化学系各講義を理解するための化学的基礎学力および知識の修得を目指す。高校化学の復習・補完および教職課程に必要な有機化学、食品化学、環境化学など専門化学系科目の導入知識の修得を目指す。 ☒ 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。☒ 実務経験：医師として医療機関に勤務している。 ☒ 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。 ☒ 位置づけ・水準 GU1112
達成目標	原子の構造と化学結合についての化学的基礎知識を修得する。☒ 化学結合論に基づいた代表的な有機化合物の立体構造の推察力及び表現力を獲得する。☒ 有機化合物の構造と命名法の理解と代表的な有機化合物の命名能力を獲得する。☒ 単位認定の最低基準：化学的基礎知識が習得されていること。 ☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：他との協調、人間形成。

受講資格	生活科学科社会福祉コース 1年☒ 生活科学科建築デザインコース 1年	**成績評価方法**	小テスト　(20%) ☒ 筆記試験　(80%)
教科書	なし		
参考書	生理学・生化学につながる　ていねいな化学(羊土社)		
学生への要望	講義での学習内容は、高校化学の復習に基づく化学的基礎知識を70%、専門化学系科目の導入知識を30%に設定している。１年後期以降に受講する専門化学系科目の準備として、本講義の学習内容をほぼ完全に理解・修得することが望ましい。☒ 学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。		
オフィスタイム	臨床医学研究室☒ 火曜日　13:00～17:00。☒ 木曜日　15:00～17:00。 ☒ 金曜日　08:30～17:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	物質の構成と原子構造	物質の構成。☒ 原子構造と周期表。	物質は何でできている？、粒子は常に動いている！、元素と原子と分子ってどう違うの？、荷電って何？、周期表って何？、等々……。	120
2	化学結合	イオン同士の結びつき、イオン結合。原子同士の結びつき、共有結合。金属同士の結びつき、金属結合。	イオンって何？、イオン結合って何？、共有結合って何？、ファンデルワールス力って何？、金属結合って何？、等々……。	120
3	物質量	原子量、分子量、式量。☒ 物質量と化学反応式。	原子量、分子量、式量って何？、質量って何？、体積、密度って何？、溶媒・溶質・溶液って何？、モル濃度って何？、化学反応式って何？、等々……。	120
4	酸と塩基。☒ 酸化還元反応。	酸と塩基。酸化還元反応。	酸、塩基とは？、酸・塩基の価数とは？、酸・塩基の強弱は電離度で決まる！、酸性・中性・塩基性、pH、中和、塩って何？。酸化と還元の3つの定義。電池の仕組み。	120
5	酵素反応と酸塩基平衡	酵素反応。☒ 体液の酸塩基平衡。	化学反応にも速度がある、化学反応による熱の出入り、化学反応にはエネルギーが必要、酵素は体内の化学反応を促進する。化学反応には方向性がある、平衡状態が崩れたらどうなるの？、pHの変化をやわらげる働き。	120
6	生体を構成する物質	糖質、脂質、タンパク質、核酸。	からだは有機物で出来ている。	120
7	気体の性質	気体・液体・固体、温度と状態、理想気体方程式。	物質の状態(特に気体について)予習復習をしましょう。	120
8	炭素化合物	アルカン。アルケン。シクロアルカン、シクロアルケン。	それぞれについて予習復習をしましょう。	120

9	官能基	アルコールとエーテル。アルデヒド。ケトン。カルボン酸。エステル。アミンとアミド。	それぞれについて予習復習をしましょう。	120
10	芳香族	芳香族化合物。	芳香族について予習復習をしましょう。	120
11	色素	色素。	色素について予習復習をしましょう。	120
12	香り、味	香り、味。	香り、味について予習復習をしましょう。	120
13	高分子	高分子とは何か？。ポリエチレンとその仲間。ナイロンとその仲間。ゴム・プラスチック・合成繊維など。	高分子について予習復習をしましょう。	120
14	環境化学	環境化学。	環境化学について予習復習をしましょう。	120
15	まとめ	総合討論。	講義の内容・程度・分量などについて全体的に討論をしましょう。	120

令和3年度

科目名	運動健康論	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	佐藤　浩明	**単位数**	
開講期	通年	**必選**	

授業概要	GU1119☒ 生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性を理解し、生涯にわたり自分の健康や体力に配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技、講義を通じて学びます。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。 ①運動と健康の関連を理解し、健康の在り方について学びます。 ②スポーツの意義を理解し、人間力について学びます。 ③運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。 ④運動を通して、基礎体力の維持、向上する方法について学びます。 ⑤授業最後にレポート等は返却し口頭またはコメントで説明します。
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得する と共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける。レポート、実技テスト等を受けることを最低基準とする 【ディプロマ・ポリシーとの関係】☒ ・他との協調　・人間形成 【食物栄養学科】食と健康の職人的専門として人々の健康と生活の向上に寄与するという意識と責任をもっている☒ スポーツを通して人間として人格形成を志向、自己の専門知識と技術を社会のために活かし、社会責任を果たす事ができる

受講資格	家政学部 人間生活学科　生活総合コース 1年 2単位 選択☒ 家政学部 人間生活学科　福祉コース 1年 2単位 選択☒ 家政学部 人間生活学科　建築デザインコース 1年 2単位 選択家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択☒ ※教職課程履修者は必修	**成績評価方法**	平常点30点（取組姿勢）　試験・提出物70点（実技・レポート）☒ ※本科目は実技を含むため、出席、積極的な取組みも重視します。

教科書	特になし（必要に応じて資料等を配布します）
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：㈶日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメゾット：高橋書店」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。☒ 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）
オフィスタイム	火・木の9:00～16:00まで創学館NO4研究室☒ 佐藤

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明　②服装、準備物の確認（注意事項含む）　③グループ分け	運動着、水分の準備をしてくる事	30
2	縄跳び①／からだづくりの運動	【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30

3	縄跳び②／からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コーディネーショントレーニング　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）☒ ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
4	縄跳び③／からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コーディネーショントレーニング　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）☒ ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
5	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
6	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30

7	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
8	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃☒	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
9	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
10	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	0

11	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	0
12	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
13	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
14	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
15	実技のまとめ	≪まとめとして実技試験を行う≫☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）②レクリエーションゲーム　③実技試験　④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）　⑤体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30

16	第16回　オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状　オリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツの持つ魅力について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
17	第17回　生活と健康について①	≪健康とは何か≫☒ ☒ 健康について考える導入として、「健康の定義」をＷＨＯ（世界保健機関）の憲章をふまえ、様々な角度から学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
18	第18回　生活と健康について②	≪生活習慣病の原因・対策・予防と運動≫☒ ☒ ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し、運動との関係について学びます。☒ ②運動・休養と健康について学びます。☒ 。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
19	第19回　生活と健康について③	≪大学生の健康≫☒ ☒ 大学生の生活に潜む危険要因について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
20	第20回　生活とスポーツについて①	≪スポーツとは何か≫☒ ☒ スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
21	第21回　生活とスポーツについて②	≪生涯スポーツについて≫☒ ☒ 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う　②観る　③支える　④調べるの視点から学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
22	第22回　生活とスポーツについて③	≪大学生とスポーツ≫☒ ☒ 大学生になり高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康に興味を持ち、運動やスポーツにどう関わることができるかについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
23	第23回　スポーツから学ぶ①	≪フェアプレーについて≫☒ ☒ スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常の生活や、普段の行動にも通じるものがあります。☒ ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
24	第24回　スポーツから学ぶ②	≪メンタルトレーニング≫☒ ☒ 常に結果が求められるスポーツ選手（アスリート）のメンタルトレーニング、ポジティブシンキング、行動基準について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	0
25	第25回　スポーツから学ぶ③	≪目標設定≫☒ ☒ スポーツ選手（アスリート）の行動基準から自分の目標設定の方法について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	0
26	第26回　健康増進のための身体運動について①	≪体力とは≫☒ ☒ ①体力の概念と体力要素（身体的要素　精神的要素）について学びます。☒ ②運動の原理原則について理解し、効果的な運動の方法について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
27	第27回　健康増進のための身体運動について②	≪エクササイズの方法について☒ ☒ 健康の保持増進やからだをつくるための方法（①有酸素運動　②筋力トレーニング　③ストレッチ　④バランス等）や実施する際のポイントについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

28	第28回　コンディショニングについて	≪からだの調子を良くする・怪我の予防・対処方法≫☒ ①コンディショニングを崩す原因を理解し予防方法について学びます。☒ ②怪我の予防、応急処置の基本、熱中症対策について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
29	第29回　健康的な生活について①	≪ライフスタイルについて≫☒ 自分のライフスタイル（生活習慣・運動習慣）を客観的に理解し、健康的な生活を過ごすための方法について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
30	第30回　健康的な生活について②	≪良い習慣について≫☒ 行動を邪魔する要因を理解し、運動習慣をつける方法について学びます。☒ ※『健康なからだをつくる』をテーマに自分のライフスタイルについて考えます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

令和3年度

科目名	キャリアデザインⅡ	**対象**	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 1単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 1単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 1単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 1単位 選択
担当教員	森　みい	**単位数**	
開講期	前期	**必選**	
授業概要	【授業のねらい】☒ 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。☒ 　インターンシップ終了後に、課題・レポート提出及び、インターンシップ報告会を行い、課題についてフィードバックを行います。 【授業の概要】☒ 　インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期6回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（3日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、就職指導にあたっている経験を活かし授業を行います。 GC1118☒		
達成目標	【授業終了時の達成目標】☒ 　インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、課題解決力を養っていきます。また、新たな学習意欲の契機となるように、仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解や充実感を感じ、人々の生活向上や社会に貢献ができることを目標とします。		
受講資格	特になし	**成績評価方法**	就業体験60％・報告会20％・提出物20％「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30　水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	インターンシップの概要 4/8(Ｖコマ) ☒	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップに必要な書類についての確認する 。☒	就業体験先の希望調査があるので、企業・業界研究をしておく。 インターンシップの目標を設定する。	30
2	インターンシップの心構え 5/13(Ｖコマ)	昨年のインターンシップを参考に自分は何を学びたいのか明確な目標を設定していく。	インターンシップを通して、企業や業界の働きについて考える。	30
3	インターンシップの心構え 5/27(Ｖコマ)	働く人の話を聞き、仕事の内容、組織での関りを学び、インターンシップの考えを深化させていく。	インターンシップは具体的にどのように考えていくか、社会人の話を聞き、企業研究をする。	30
4	企業研究（講演)☒ 6/3（Ｖコマ）☒ ☒	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。また、人生をどのように生きていく、自分の将来のキャリアプランを考える。	企業の働きから、社会の動向を学び、働く事への理解を深める。	30
5	事前指導☒ (ビジネス文書作成)☒ 6/17Ｖコマ）☒	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。☒	手紙の書き方、ビジネスでのメール送信、電話の掛け方等、一般的なナマーを確認しておく。	30
6	事前指導☒ （マナー講座） 7/1（Ｖコマ）☒	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。☒ 業体験先との打合せを始める。	挨拶・言葉遣いを実践で学んでいくので、印象のいいマナーを日常から意識をして練習する。	30
7	直前指導☒ (インターンシップ先の企業研究)7/15（Ｖコマ） ☒ ☒	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	インターンシップ先にアポイントを取り担当者と打合せをする。電話の掛け方、インターンシップに向けてマナーの練習をする。	30

8	インターンシップ 実施 1班8/18～8/20 2班8/25～8/27	各企業において、夏季休業中（8月中旬～下旬)に3日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	企業研究及び交通手段の確認をする。インターンシップ先の企業研究を行い、最終確認をする。	30
9	インターンシップ報告会 9/2　（Ⅰコマ）	事後報告会として、 クループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会の準備と提出物の最終確認をする。	30
10	インターンシップ報告会 9/2 （Ⅱコマ）　☒	事後報告会として、 代表者の報告を企業の方も参加して実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会で発表し、報告者の発表から課題を考えていく。	30

令和3年度

科目名	生活経済学	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川　貴弘		
開講期	前期		
授業概要	本授業では、経済学においてより生活と密接につながっている分野について学修を深める。現代社会において、我々の生活は貨幣を媒介とした経済活動なしには維持していくことはできない。それ故に、経済に関する知識を高め、経済への理解を深めることは、今後社会人として生活をしていく上で必須のものとなると思われる。☒ 本授業では、一家庭の経済生活である「家計」の歴史、家計経済の最近の傾向・今後の動き、さらにはライフサイクルの変化と各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債、持続可能な社会等について採り上げる。☒ なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方、活用の仕方について採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☒ 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☒ 【位置づけ・水準】　HU2302 【履修カルテの評価項目】 ①一家庭の経済生活である「家計」の歴史及び家計経済の最近の傾向を理解することができたか。 ②ライフサイクルの変化と各ライフステージにかかる費用、その変化について理解することができたか。 ③講義を通じて、生活と経済が密接に結びついていることが理解できたか。		
達成目標	【単位認定の最低基準】　☒ 一家庭の経済生活である「家計」の歴史、家計経済の最近の傾向・今後の動き、さらにはライフサイクルの変化と各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債、持続可能な社会等について理解を深めることを目標とする。これら内容を８割程度理解していることを単位認定の最低基準とする。☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】　知識・理解、問題解決力		
受講資格	家政学部 人間生活学科 3年生	**成績評価 方法**	①小テスト30点（15点×２回） ②レポート70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	大藪千穂「生活経済学」放送大学教育振興会、2012年 重川純子「生活経済学」放送大学教育振興会、2016年		
学生への要望	本授業の内容は、いずれも社会人として経済活動にかかわっていく上で必須のものとなると思われるのでしっかりと取り組んでもらいたい。		
オフィスタイム	火曜日　3コマ　水曜日4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・生活経済の歴史	授業の進め方、評価方法について説明する。☒ 古代から現代までの生活経済を概観し、生活経済学の位置付けについて学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	戦後の経済変化と生活	1945年以降現在までの経済と生活の変化について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	家計研究史（世界と日本）①	世界における家計研究・調査に関する歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	家計研究史（世界と日本）②	日本における家計研究・調査に関する歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	家計収支と家計簿記帳	家計の収入・支出の種類と家計簿の記帳法について、実際の統計資料の見方・活用の仕方を交えて学修する。	家計の収入・支出の種類についてノートを見直しておくこと。	30
6	家計をめぐる法則	エンゲルの法則と必需品とぜいたく品の違い、消費者物価指数について学修する。☒	各種統計の原理についてノートを見直して復習すること。	30
7	ライフサイクルと貯金・負債①	ライフサイクルの変化と各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債の変化について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
8	ライフサイクルと貯金・負債②	各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債の変化について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	単身世帯と二人以上世帯の家計①	単身世帯の家計の特徴について学修する。 小テスト（1回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習しておくこと。	60
10	単身世帯と二人以上世帯の家計②	二人以上の世帯の家計の特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	離婚の経済とひとり親世帯の家計①	離婚件数の現状と離婚にかかる費用について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	離婚の経済とひとり親世帯の家計②	離婚後における生活上、経済上の変化について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30

13	高齢者世帯の家計と生活①	高齢者世帯の家計とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
14	高齢者世帯の家計と生活②	高齢者世帯の家計とその特徴について学修する。（前回の続き）	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
15	まとめ	これまでの学修内容について確認と復習を行う。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習しておくこと。	60

令和3年度

科目名	消費生活論	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	長谷川　貴弘		
開講期	前期		
授業概要	大きく変化する社会情勢の中、消費者を取り巻く環境は変化し続けており、消費者問題の内容も時代とともに変貌している。現代における諸問題を把握し、日常生活の中の身近な問題として捉え、学生自らが安全・安心な生活を送ることができるようになることを目指す。☒ また、消費生活に関する法律、政策、行政や企業の取り組みを理解し消費者教育を実践できるようになることを目指す。☒ なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方・活用の仕方、法律と行政組織について採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☒ 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☒ 【位置づけ・水準】　DS2324		
達成目標	【単位認定の最低基準】　☒ 下記①～③の目標の８割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。☒ ①消費者問題の実情を知り、課題を見出し、その解決策の方向性を見出すことができる。 ②日常生活の中で実践することができる自立した消費者の育成のために学生自身の消費者力を高める。 ③政策、法律、行政や企業の取り組み等を理解し、消費者力検定にチャレンジできるだけの能力を養う。 【ディプロマ・ポリシーとの関係】　論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任		
受講資格	家政学部人間生活学科生活総合コース、建築デザインコース　3年生	**成績評価 方法**	①小テスト30点（15点×２回） ②課題（消費者問題に関するレポート）70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	ハンドブック消費者2014（消費者庁企画課）他		
学生への要望	現代消費生活における課題を捉えるために、次のことを要望する。☒ ①新聞をよく読み、消費生活に関する記事を収集する。 ②消費者力検定に挑戦し、幅広い知識の習得を目指す。		
オフィスタイム	火曜日　3コマ　水曜日　4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の目的および授業計画について説明（内容、評価方法について等）☒、消費者を取り巻く社会経済情勢と消費者行動・意識について学修する。☒	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
2	消費者問題の変遷	年代ごとにどのような消費者問題が発生したか概観し、様々な消費者問題の背景にある社会の情勢を読み取る。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
3	消費者行政の変遷①	消費者問題に対応してどのような政策が行われたか概観し、消費者問題に対処するための機関　～消費者庁の誕生、国民生活センター、消費生活センターの役割～について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
4	消費者行政の変遷②	前回に続いて、消費者庁、国民生活センター、消費生活センターの役割について動画教材の視聴等も通じて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
5	消費者の権利と責任①	消費者基本法、消費者の権利と責任☒消費者保護の概念について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
6	消費者の権利と責任②	前回に続いて、消費者基本法、消費者の権利と責任☒消費者保護の概念について動画教材の視聴なども通じて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
7	自立した消費者を目指して①契約とは	契約の意味、☒成年者契約☒契約に関するトラブルについて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
8	自立した消費者を目指して②経済	消費者契約法☒特定商取引法について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
9	自立した消費者を目指して③食	食品の安全・安心☒新しい食品表示制度について学修する。☒	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
10	自立した消費者を目指して④生活用品	消費生活用製品安全法について学修する。 小テスト（1回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。	60

11	消費生活と環境～循環型社会のための法制度①	持続可能な社会の構築と法律⊠グリーンコンシューマーの概念、⊠続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
12	消費生活と環境～循環型社会のための法制度②	持続可能な社会の構築と法律⊠グリーンコンシューマーの概念、⊠続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。（前回の続き）	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
13	消費者教育・啓発活動	一般消費者に向けてどのような消費者教育が行われているか学修する。⊠	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
14	公平かつ自由な競争の促進	独占禁止法、不正競争防止法、その他各種制度について学修する。	消費者問題について、これまでの学修内容と自身で調べたことを元にレポートを作成する。	60
15	まとめ	消費者力検定とその内容について理解を深め、過去問等にチャレンジする。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。	60

令和3年度

科目名	社会調査法	**対象**	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2
担当教員	長谷川　貴弘	**単位数**	単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化
開講期	後期	**必選**	学専攻 1年 2単位 選択
授業概要	社会調査というものが何を目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会調査への理解を深めることを目標としたい。☒ なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計データの見方、活用の仕方について採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☒ 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☒ 【位置づけ・水準】　HL2317		
達成目標	【単位認定の最低基準】　社会調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。このためこれら内容の８割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】　問題解決力、倫理観・社会的責任		
受講資格	家政学部　　生活科学科　3年生☒ 短期大学部　専攻科　　1年生	**成績評価方法**	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（レポート）70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社		
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。		
オフィスタイム	火曜日　2コマ　金曜日4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 社会調査とは何か	授業の進め方、評価方法について。☒ 社会調査とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学修する。☒	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
2	社会調査の種類①	社会調査の分類、量的調査と質的調査について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
3	社会調査の種類②	社会調査における質的調査の特徴について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
4	社会調査のプロセス	社会調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
5	社会調査のデザイン①	社会調査の調査内容とその検証について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
6	社会調査のデザイン②	仮説の検証とより良い調査研究について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
7	実査の方法①	データ収集法選択の基準について学修する。	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
8	実査の方法②	様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学修する。小テスト（1回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
9	調査票の作成	調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
10	サンプリング	調査対象の選び方について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
11	調査の実施	郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
12	データファイルの作成	データ入力とその手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
13	データの集計方法	情報の集約、代表値（平均）から相関係数について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30

14	調査報告とデータの管理 （パソコンを用いての実習）	調査の報告と報告後のデータの管理について学修する。 このため実際にパソコンを用いてデータの加工、管理について実習形式で授業を行う。	実習に備えてこれまでの学修内容を確認すること。また授業内で終わらなかった課題については自宅学修で引き続き取り組むこと。	60
15	社会調査の倫理について 学修の総まとめ	社会調査協会倫理規定に基づいて社会調査の倫理について学修する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60

令和3年度

科目名	健康生活論	**対象**	
担当教員	大西　弘太郎	**単位数**	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 選択
開講期	前期	**必選**	
授業概要	個人あるいは集団レベルでの健康維持、疾病予防に有用な医学情報を概説する。☒ 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。☒ 実務経験：医師として医療機関に勤務している。☒ 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。☒ 位置づけ・水準 HU2206		
達成目標	単位認定の最低基準：健康維持、疾病予防についての基礎的知識が習得されていること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理観・社会的責任。		
受講資格	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年	**成績評価方法**	小テスト　(20%)☒ レポート　(80%)
教科書	人体の構造と機能及び疾病　新・社会福祉養成講座　中央法規		
参考書	特になし		
学生への要望	教員が提示したテーマについて簡潔なレポートをまとめ、それを発表してもらいます。☒ 発表のスキルを身に着けるのも授業の目標のひとつ。☒ 学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。		
オフィスタイム	臨床医学研究室☒ 火曜日　13:00～17:00。☒ 木曜日　15:00～17:00。☒ 金曜日　08:30～17:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	健康寿命とライフスタイル	老化とは☒ 日本人の寿命☒ 健康寿命とは☒ 人口統計から見た主な死因☒ 非感染性疾患(NCD)の諸問題☒	老化、寿命、死因などについて予習・復習をしましょう。	120
2	生活習慣病とその予防　その１	糖尿病とは☒ 糖尿病はいまや社会問題☒ 糖尿病の病型	糖尿病の疫学・病態・病型などについて予習・復習をしましょう。	120
3	生活習慣病とその予防　その２	糖尿病の診断☒ 糖尿病慢性合併症☒ 妊娠糖尿病☒ 糖尿病の治療☒ 糖尿病の予防	糖尿病の合併症・診断・治療・予防などについて予習・復習をしましょう。	120
4	感染症とがん　その１	ピロリ菌感染とは☒ ピロリ菌感染と胃炎、胃潰瘍☒ ピロリ菌感染と胃がん	ヘリコバクター・ピロリについて予習・復習をしましょう。	120
5	感染症とがん　その２	ウイルス性肝炎 肝炎と肝がん☒ 肝炎の予防	(主にB型、C型)肝炎ウイルスについて予習・復習をしましょう。	120
6	感染症とがん　その３	子宮頸がんとは☒ 子宮頸がんの成因☒ 子宮頸がんの予防	HPV(ヒト乳頭腫ウイルス)について予習・復習をしましょう。	120
7	感染症　その１	再興感染症☒ 新興感染症☒ 狂牛病の諸問題	再興感染症、新興感染症、狂牛病について予習・復習をしましょう。	120
8	感染症　その２	後天性免疫不全症（AIDS)の現況☒ 性感染症の特徴☒ 性感染症の現況☒	HIV関連疾患、性感染症について予習・復習をしましょう。	120
9	感染症　その３	小児の主な感染症☒ ワクチン	小児感染症、ワクチンについて予習・復習をしましょう。	120
10	青年期と心の病気　その１	精神病とは☒ 統合失調症	精神病、統合失調症について予習・復習をしましょう。	120

11	青年期と心の病気　その２	双極性障害☒ うつ病☒ うつ病の諸問題	双極性障害、うつ病について予習・復習をしましょう。	120
12	青年期と心の病気　その３	心因性精神病の諸問題	不安障害、強迫障害などについて予習・復習をしましょう。	120
13	青年期と心の病気　その４	摂食障害☒ 骨粗鬆症の諸問題☒	摂食障害、骨粗鬆症について予習・復習をしましょう。	120
14	青年期と心の病気　その５	アルコールと健康 薬物依存症☒	アルコール関連問題、薬物依存症について予習・復習をしましょう。	120
15	まとめ	総合討論	健康維持および健康増進について予習・復習をしましょう。	120

令和3年度

科目名	衣造形学演習	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
担当教員	瀬谷　真理子		
開講期	前期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] 立体構成（洋裁）学を基に、衣服の成り立ちについての理解を深める。また、パターンの活用方法を習得することにより、体型と構成の関連性を理解し、着心地の良い作品を作る。製作実習により衣生活の重要性を学ぶとともに快適な衣生活の提案ができるように知識と技術の修得を目指す。更に、教員養成に向け、高等学校で家庭科教育に携わってきた経験を生かした指導を行い、基礎的技術の習得のために作品製作（基礎縫い、ブラウス）をとおして実践力向上を目指すとともに、教科指導としての在り方についても理解を深め、基本から応用までの技術修得を目指す。 また、中学校「技術・家庭」家庭分野の被服製作としても活用されるアウターパンツについて、前半での学びの応用として主体的に製作実習する。ワークシートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 [授業全体の内容の概要] ☒ 基本的な被服製作実習を通し技術の修得と定着を図るとともに、教員としての資質を育むため選択製作実習を取り入れ主体的に製作できる力を養う。 [実務経歴]　福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準　HL2233		
達成目標	①体の機能や形態を理解するとともに立体構成（洋裁）とは何かを理解できる。 ②家庭科教育における衣生活分野を学ぶ意味について理解し、製作実習に必要な力を養う。 ③基本的な洋裁技術を修得するとともに、教科指導上の課題について理解し実践力を養う。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的な評価が達成度７割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	上記対象学生、教職履修学生	**成績評価 方法**	①授業への意欲・態度　10%　、②課題：部分作品（パターン、袖、衿等）20%　、③完成作品（基礎縫い、ブラウス製作、選択製作）60%　、④課題（評価票等）10%　として、①から④までの総合評価により60%以上を合格とする。
教科書	自作テキスト配付、プリント配付。		
参考書	文部科学省後援：全国高等学校家庭科被服製作技術検定指導要項、「ファッション造形基礎」「パターン・裁断・縫い方の基礎の基礎」文化出版局、文化ファッション大系　改訂版・服飾造形講座「ブラウス・ワンピース」文化出版局		
学生への要望	１．主体的・意欲的に取り組むこと。２．実習用具、材料は指示通り各自用意すること。３．製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進度を揃え、完了できるように心掛けること。		
オフィスタイム	家政学館４Ｆ被服学研究室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	オリエンテーション 1）被服製作に必要な実習用具について理解する。 2）衣生活における製作の意味を考える。	シラバスを確認し演習内容を理解する	20
2	実習内容と留意事項について	1）実習計画の提示 2）体型と立体構成について 3）被服製作の基本	シラバスを確認し演習内容を理解する ワークシートの整理	30
3	被服製作における基本	1）洋裁の基礎知識 2）基本的技術の確認と定着 3）基礎縫いの実施と評価	ワークシートの整理	30
4	被服製作における基本	1）洋裁の基礎知識 2）基本的技術の確認と定着 3）基礎縫いの実施と評価	ワークシートの整理	30
5	被服製作	1）パターンの記号を学ぶ 2）パターンの利用の仕方と指導上の留意点を学ぶ	ワークシートの整理	30
6	ブラウスパターン作図	1）ブラウスのパターンを選定 2）ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出☒ 3）使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ	パターンの展開方法を理解する	30
7	ブラウス製作①ー基本を学ぶー	1）パターン修正 2）裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ☒	パターンの展開方法を理解する 裁断前の準備について理解する ワークシートの作成	30
8	ブラウス製作②ー基本を学ぶー	1）本縫い 2）縫い代始末方法を学ぶ。ａ、ジグザグミシンの方法。ｂ、ロックミシン　ｃ、端ミシン☒ 3）接着芯の理解と取り扱いを学ぶ	パターンの展開方法を理解する 裁断前の準備について理解する ワークシートの作成	30

9	ブラウス製作③	ロックミシンの必要な個所を確認する。ロックミシンの使い方を学ぶ。ロックミシンを活用して縫いしろ始末を行う。※安全面に留意して、布地の扱いに配慮しながらロックミシンをかける。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
10	ブラウス製作④	身頃本縫い　まち針の打ち方、躾のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。☒身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
11	ブラウス製作⑤	身頃本縫い　まち針の打ち方、躾のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。ポケットを作り、身ごろにポケットをつける。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
12	ブラウス製作⑥	表衿と裏衿の特徴を理解し、確認を行い、衿つくりを実施する。角衿の場合のきれいな角の出し方について、実技により学ぶ。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する 衿について提出できるように準備する	30
13	ブラウス製作⑦	デザインを生かした技法について学び、実践する。身ごろのヨークと肩、後ろ身ごろにタック寄せ、ギャザー寄せ等の手法を理解して身ごろの構成を考えながら製作する。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
14	ブラウス製作⑧	衿と身ごろとの関係を理解して、きれいにつけて仕上げるための方法について学ぶ。待ち針の役割を理解し、待ち針の打ち方を実践できるようにする。バランスを考えながら身ごろに衿がつけられるようにする。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
15	ブラウス製作⑨	バイアステープの役割について学び、衿付け縫い代始末の方法として扱い方を理解する。衿付け縫い代の始末をする。切り込みの必要性について理解し、きれいな仕上げに向けて実践する。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
16	ブラウス製作⑩	袖付けを行う。左右の確認と身ごろとの関係に留意して立体的に仕上げることの構成上のポイントを学び、袖をつける。袖下脇縫いを行う。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
17	ブラウス製作⑪	見返しと裾の始末を行い、仕上げを行う。 ミシンによるボタンホールの製作、ボタン穴の開け方を学ぶ。ボタンのつけ方を学ぶ。☒	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
18	ブラウス製作⑫ー相互評価ー	1）仕上げ 2）着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 3）自己評価票を作成して提出	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
19	選択製作ーアウターパンツ①	1）製作計画の作成 2）デザイン、型紙作成	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
20	選択製作ーアウターパンツ②	1）製作計画の作成 2）デザイン、型紙作成	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
21	選択製作ーアウターパンツ③	1）製作計画の作成 2）裁断	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
22	選択製作ーアウターパンツ④	縫い代始末、しるしつけ☒	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
23	選択製作ーアウターパンツ⑤	1）縫い代始末、しるしつけ 2）ポケット付け	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
24	選択製作ーアウターパンツ⑥	脇縫い、また下縫い、また上縫い	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
25	選択製作ーアウターパンツ⑦	ウエストの始末、裾の始末	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
26	選択製作ーアウターパンツ⑧	仕上げ、相互評価	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
27	選択製作ーアウターパンツ⑨	ウエストの始末、裾の始末	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
28	選択製作ーアウターパンツ⑩	仕上げ、相互評価	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
29	総合評価	作品提出と共に、レポート課題の提出☒ ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	レポートの作成	60
30	総合評価	作品提出と共に、レポート課題の提出☒ ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	レポートの作成	60

令和3年度

科目名	衣造形学実習Ⅰ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 1単位 選択
担当教員	瀬谷　真理子		
開講期	後期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] ☒ 快適な衣生活を創造し実践できるよう生活空間の中での衣生活を見つめ、実習を通し、より良い衣生活の創成をするために必要なものとは何か考えていくとともに知識と技術の修得を目指す。更に、高等学校で家庭科教育に携わってきた経験を生かした指導を行い、基礎的技術の習得のため、実践力を高めながら、基本から応用までの技術修得を目指す。製作に関するワークシートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。☒ [授業全体の内容の概要]☒ 伝統的な和裁技法にそって、大裁女物単衣長着（浴衣）の製作を行う。実習を通して和服について理解を深め、確実な基本的技術の修得を目指す。 基本的な被服製作実習を通し技術の修得と定着を図るとともに、資質を育むため主体的に製作できる力を養う。 [実務経歴]　福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準　HU2233		
達成目標	①体の機能や形態を理解するとともに平面構成（和裁）について理解できる。 ②家庭科教育における衣生活分野を学ぶ意味について理解し、製作実習に必要な力を養う。 ③基本的な和裁技術の修得と伝統文化としての和服について、理解を深めながら実践力を養う。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的な評価が達成度７割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力		
受講資格	上記対象学生。	**成績評価 方法**	①授業に取り組む姿勢20%　②途中課題（袖、肩当）１0%　③完成作品（浴衣）５0%　④課題（レポート、テスト）２0% ①から④の総合評価60%以上で合格となる。
教科書	被服構成実習（平面構成）担当者作成の独自のテキスト		
参考書	授業内で随時紹介。		
学生への要望	１．遅刻・欠席をせずに主体的に熱心に取り組むこと。２．実習用具、材料は指示通り各自用意すること。３．製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進度を揃え完成できるように心掛けること。		
オフィスタイム	家政学館４Ｆ被服学研究室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	演習内容と留意事項	１）生活の中の衣生活について基本的理念を学ぶ。 ２）平面構成（和服）について　　３）実習計画の提示 ４）必要材料・用具について説明　５）平面構成とは何かを理解させ、和服の変遷を学ぶ	シラバスを確認し演習の内容を理解する	30
2	基礎的技法を学ぶ	和服となる反物について理解し、扱いについて学ぶ。和裁に使われる基本的技法について、理解させ、既習内容の整理と確認、技術を習得する。	縫い方の名称を確認する。実践して定着に結び付ける。	30
3	大裁女物単衣長着製作	１）沿革　　２）各部名称及び寸法について　　３）仕立て上がり寸法の決め方 ※日本の民族衣装である着物について、お互いに話しあいながら理解を深められるようグループワークを実施する。	和服について理解を深める。特有の部分名称を理解する。ワークシートをまとめる。	30
4	大裁女物単衣長着製作	各部名称及び寸法について、自分のサイズを確認して割り出す。仕立て上がり寸法の決め方について理解し、用布見積もりの仕方を理解して実践する。	寸法票の作成と仕立て上がり寸法から用布見積もりを実際に算出して、ワークシートに記入する。添削を受ける。	30
5	大裁女物単衣長着製作	仕立て上がり寸法の決め方について理解し、用布見積もりを縮尺の方眼紙で実施して理解する。	用布見積もりを実際に算出して、方眼紙で作成する。提出して添削指導を受ける。 ワークシートをまとめる。	30
6	大裁女物単衣長着製作	キズや染むらの確認と布地の表裏、糸印つけにより、確認しやすく裁断準備をする。一反から着物ができる日本人の知恵を知り、裁断方法を修得する。	テキストで確認し、ワークシートをまとめる。	30
7	大裁女物単衣長着製作	柄合わせを説明し、縦・横模様、柄物などの裁ち方練習を行い、裁ち方、柄合わせ方法を学ぶ。裁ち切り寸法の確認をし積もる。袖４枚、身頃４枚、裁ち切り衽２枚、残り布の確認。寸法、枚数確認後、必ず担当教員の指示を受けて裁断する。	テキストで確認し、ワークシートをまとめる。提出し、確認を受ける。裁ち方をプリントで事前確認し、イメージをつかむ。	30
8	大裁女物単衣長着製作	柄合わせによる前衽、うち袖、後ろ身ごろに糸印をつける。和裁の印付けの基本としてへらの使い方を学び、印付け準備を行う。	テキストで確認し、ワークシートをまとめる。	30

9	大裁女物単衣長着製作（袖）	1）袖の印つけ　a、袖下袋縫いの中縫い。　b、本縫い。　c、丸みの整え方。　d、形の整え方。　e、袖口の三つ折りぐけ。f、袖幅の決め方（同じ袖を作らないよう注意）。袖の形態を学ぶ。	袋縫い、丸み整え方法を事前に確認する。授業後は、縫い方を再確認する。ワークシートをまとめる。	30
10	大裁女物単衣長着製作（袖完成及び提出）	1）袖の印つけ　a、袖下袋縫いの中縫い。　b、本縫い。　c、丸みの整え方。　d、形の整え方。　e、袖口の三つ折りぐけ。f、袖幅の決め方（同じ袖を作らないよう注意）。袖の形態を学ぶ。	袋縫い、丸み整え方法を事前に確認する。授業後は、縫い方を再確認する。ワークシートをまとめる。	30
11	大裁女物単衣長着製作（背縫い、袖）	1）身頃背縫い　柄合わせを確認し、衿肩明きを確認後各自の寸法に合わせて切る。後ろ身頃の背を二度縫いする。☒ 2）袖の柄合わせ　背縫いの衿肩明きを右手に持ち手前にきせをかけてコテ（アイロン）を掛け、表にして身頃と袖の柄合わせをし、袖の身頃側に糸印をする。着物の柄合わせ方法を学ぶ。☒ ※着物の柄あわせ方法を学び、美しい着物の制作を目指す。	縫い方をテキストで確認して実施。ワークシートをまとめる。	30
12	大裁女物単衣長着製作（身ごろ）	印付けの仕方を確認して、身ごろの印付けの順序、仕立て上がり寸法の確認を行い、後ろ身ごろの印付けを行う。和服の特徴でもある衿肩明きの理解を深め、印付けと扱いを学ぶ。	テキストで確認し、ワークシートをまとめる。	30
13	大裁女物単衣長着製作（身頃印付け、肩当て、居敷当て）	1）身頃のくりこし　和服独自の仕立て方法を学ぶ。（くりこしとは。）　2）身頃の印つけ　身丈、肩幅、袖付け、身八ツ口、後ろ幅の印をつける。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
14	大裁女物単衣長着製作（身頃印付け、肩当て、居敷当て）	肩当て、居敷当作り　折り伏せ縫い方法を学ぶ。☒	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
15	大裁女物単衣長着製作（身頃印付け、肩当て、居敷当て）	身ごろに肩当てをつける。居敷当を身ごろに縫い付けて仕上げる。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
16	大裁女物単衣長着製作（衽印つけ及びつけ）	衽の印付けを行う。身ごろとの関係を理解して仕立て上がり寸法の確認を行い、製作準備をする。上前衽の確認と前身ごろとのつながりを理解する。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
17	大裁女物単衣長着製作（衽印つけ及びつけ）	衽付け準備として、衿下を三つ折りぐけする。前身ごろを確認して衽付け準備をする。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
18	大裁女物単衣長着製作（衽つけ）	衽付けを行い、縫いしろを耳ぐけで仕上げる。※和服の仕上げに欠かせない、きせの手法を丁寧に行うことで仕上がりが美しくなることを理解する。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
19	大裁女物単衣長着製作（衿の印付け）	衿の印付け、かけ衿の印付け、共付の手法を学び、縫い付ける。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
20	大裁女物単衣長着製作（衿付け）	衿付けの準備として、待ち針の役割が大きいことを学ぶ。待ち針の打ち方を理解して実践する。釣り合いを教員に確認してもらう。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
21	大裁女物単衣長着製作（衿付け）	衿を縫い付ける。三つ衿芯の役割を理解し、三つ衿芯を縫いつける。衿を整える。衿先の始末の手法を学ぶ。理解して実践する。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
22	大裁女物単衣長着製作（衿付け）	衿を出来上がりに整えて折り、釣り合いを丁寧に確認する。本ぐけの準備としてしつけが大切であることを理解し、バランスよく待ち針を打ち、しつけをする。本ぐけの手法を確認してくける。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
23	大裁女物単衣長着製作（脇縫い）	身ごろを整え、脇縫いの準備を行う。印の確認を行い、仕立て上がり寸法を確認して待ち針を打ち、脇縫いを行う。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
24	大裁女物単衣長着製作（脇始末）	脇始末。脇の縫い代に基礎縫い通りに耳ぐけし、脇の始末を学ぶ。	和服の仕立て方法を事前確認する。ノートをまとめる	30
25	大裁女物単衣長着製作（裾）	裾の始末を行う。裾を整え三つ折りする。裾のつま先角の作り方として額縁仕立てを理解して実践する。 2）袖つけ　a、左右の袖確認後つける。　b、袖の縫い代と肩当ての始末。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
26	大裁女物単衣長着製作（裾）	裾の始末を行う。裾を整え三つ折りぐけを行う。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30

27	大裁女物単衣長着製作（袖付け）	左右の袖を確認後、袖付けの仕方を理解して待ち針を打ち、縫いつける。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
28	大裁女物単衣長着製作（袖付け）	袖の縫い代の始末を身ごろに響かないように準備をして、耳ぐけを行い、仕上げる。	和服の仕立て方法を事前確認する。ワークシートをまとめる。	30
29	着装実習及び評価	１）着装実習　　着装方法を学び、美しい装いとは何かを学ぶ。お互いに着付けすることを通して、美しい装いについて考える。また、和服の成り立ちの意味を発表する。☒ ２）評価　　ａ、仕上げ。　　ｂ、畳み方を学ぶ。 ｃ、寸法確認後レポートを作成する。☒ ※評価方法を学び、教育者として指導していけるように学修する。	着装方法を事前に確認する。ワークシートをまとめる。自己評価を行い、自己評価票の作成をする。着装実習後、相互評価を行う。	30
30	着装実習及び評価	授業内容の全体を振り返り、和服製作についての理解を深め授業のまとめを行う。確認テストの実施（本だたみ、ペーパーテスト）	テキストの整理とワークシート内の点検、自己評価票と作品の最後の仕上げと提出準備を行う。	30

令和3年度

科目名	調理学演習	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	瀬谷　真理子,大泉　由美		
開講期	前期		
授業概要	調理の基本的な知識と技術を修得するために、家庭科教育における調理実習の献立をふまえ、代表的な料理（日本料理、西洋料理、中国料理）を演習することにより、教科指導において必要な実践力を高める。下ごしらえから盛り付けまでの流れを計画し、一人一人が個別に実践することにより、着実な技術を身につけていく。演習を通じて，調理学の基本的な知識と技術を修得するとともに食材の栄養価や色・形・味などの調理による変化とその理由を五感で理解しながら探究的な視野を大切にしてレポートを作成する。また、人々の暮らしにおける食生活を意識した状態別献立を取り入れ、日常食や行事食等、伝統的な食文化も大切にしながら調理における技術としての実践力を高め、自宅での実践により、調理に関する応用力を身につける。☒ポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 また，高等学校の家庭科や中学校の家庭科において、教える立場からの指導方法を含めながら実践することにより、基本的知識と技術の定着を図り、家庭科教員としての資質を身につける。さらに福島県高等学校の家庭科教育における実務経験を生かしながら実践的な教科指導に向けた応用力を養う。 　実務経歴：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準　HL2336☒		
達成目標	中学・高校の家庭科教師としての指導力や家庭での調理を実践するための基本的な知識や技術を修得することを目標とする。☒ ①野菜・果物、魚・肉などの食材に適した調理技術を修得し、指導することができる。 ②和洋中華料理の基本を修得し指導することができるとともに、調理上必須となる食品衛生、環境負荷削減の知識を修得し、行動できる。 ③日常的な献立から状態別献立、行事食までの調理について、基礎的な知識技術を習得し、実践できる。 単位認定の最低基準は、上記の①～③の総合的評価が達成度７割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力☒ 位置付け・水準 HU2336		
受講資格	上記対象学生、教職履修者は必修	**成績評価 方法**	①授業態度：２０%、②実技：４０%、③レポート：４０%とし、①から③の総合評価により６０%以上で合格とする。
教科書	「基礎から学ぶ調理実習」オーム社 プリント配布		
参考書	「フードデザイン」教育図書、家庭科教育振興会　全国高等学校家庭科技術検定実施要項		
学生への要望	準備から後片付けまでが調理学演習の一環と考え，積極的に取り組むこと．☒ また，豊かな食生活は家族団欒を営む基礎となることを理解し，実習後は自宅での実践（復習）を必ず実施し，家族とのコミュニケーションを深める一助とすることを期待する．		
オフィスタイム	被服学研究室（家政学館４階）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／食材の下ごしらえ・切り方など	シラバスにそって授業の概要や到達目標，評価方法などを説明する．授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅で実践の必要性を認識する．☒	本日の講義内容をまとめ，問題点をピックアップする．	30
2	ガイダンス（1） 実習室・調理器具について・授業の進め方や評価方法	調理実習室の使い方、調理器具の使い方、洗い方、手入れ等について基本を学ぶ。使用していく教科書を用いて、調理の基本、調理実習時の衛生管理について理解させる。食することの意味について考え、デスカッションする。	本日の講義内容をまとめ，問題点をピックアップする．ワークシートの作成を行う。	30
3	ガイダンス（2） 文化鍋の使い方／西洋料理①	【文化鍋での炊飯とドライカレー，春野菜のスープ，いちごのミルクゼリー】のつくり方を学ぶ。 ①炊飯の原理を理解し、文化鍋での炊飯の仕方を学ぶ。 ②ゼラチンの特徴と扱い方を学ぶ。 ③果物の扱いについての基本を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
4	ガイダンス（2） 文化鍋の使い方／西洋料理①	【文化鍋での炊飯とドライカレー，春野菜のスープ，いちごのミルクゼリー】のつくり方を学ぶ。 ①炊飯の原理を理解し、文化鍋での炊飯の仕方を学ぶ。 ②ゼラチンの特徴と扱い方を学ぶ。 ③果物の扱いについての基本を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

5	日本料理① 旬の食材を使った調理	旬の食材を使った調理について学ぶ。【たけのこご飯、若竹汁、たけのこの天ぷら、いちご大福】☒ ①たけのこの下ごしらえと部位別調理 ②炊き込み飯の種類と作り方 ③だしの取り方 ④揚げ物について、衣のつくり方と揚げ方 ⑤白玉粉の特徴と取り扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
6	日本料理① 旬の食材を使った調理	旬の食材を使った調理について学ぶ。【たけのこご飯、若竹汁、たけのこの天ぷら、いちご大福】☒ ①たけのこの下ごしらえと部位別調理 ②炊き込み飯の種類と作り方 ③だしの取り方 ④揚げ物について、衣のつくり方と揚げ方 ⑤白玉粉の特徴と取り扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
7	西洋料理② 西洋料理の基本	【コンソメジュリアン，グラタン，グリーンサラダ，ブラマンジェ】　代表的な西洋料理の基本を学ぶ. ①ホワイトソースの理解、作り方 ②エビの下ごしらえと扱い ③ドレッシングの基本と作り方 ④コーンスターチの特徴と扱い方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
8	西洋料理② 西洋料理の基本	【コンソメジュリアン，グラタン，グリーンサラダ，ブラマンジェ】　代表的な西洋料理の基本を学ぶ. ①ホワイトソースの理解、作り方 ②エビの下ごしらえと扱い ③ドレッシングの基本と作り方 ④コーンスターチの特徴と扱い方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
9	日本料理② 丼物、和え物、澄まし汁の基本	【そぼろ飯、吉野鶏の澄まし汁、青菜のごま和え、フルーツ羹】　日常的な和風献立の基本を学ぶ。 ①そぼろのつくり方 ②煮出し汁の取り方と澄まし汁 ③野菜のゆで方と和え物の要領 ④寒天の扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
10	日本料理② 丼物、和え物、澄まし汁の基本	【そぼろ飯、吉野鶏の澄まし汁、青菜のごま和え、フルーツ羹】　日常的な和風献立の基本を学ぶ。 ①そぼろのつくり方 ②煮出し汁の取り方と澄まし汁 ③野菜のゆで方と和え物の要領 ④寒天の扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
11	中国料理①	【青椒肉絲、黄花湯、奶豆腐】 代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。※一品を実技テストを兼ねて行う。 ①中国料理の基本と特徴 ②寒天の扱い方 ③とろみのあるスープ（湯）のつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
12	中国料理①	【青椒肉絲、黄花湯、奶豆腐】 代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。※一品を実技テストを兼ねて行う。 ①中国料理の基本と特徴 ②寒天の扱い方 ③とろみのあるスープ（湯）のつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

13	中国料理②	【什錦炒飯、涼拌三絲、西米椰汁】　日常的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①炒飯の要領、食材の扱い ②はるさめの扱い方 ③薄焼き卵のつくり方 ④和え物の要領 ⑤タピオカの扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
14	中国料理②	【什錦炒飯、涼拌三絲、西米椰汁】　日常的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①炒飯の要領、食材の扱い ②はるさめの扱い方 ③薄焼き卵のつくり方 ④和え物の要領 ⑤タピオカの扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
15	状態別献立①　～高齢者向け和風献立～	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそぼろあんかけ】 ①炊き込みご飯のつくり方 ②各食材の扱い ③しんじょの扱い ④そぼろあんのつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
16	状態別献立①　～高齢者向け和風献立～	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそぼろあんかけ】 ①炊き込みご飯のつくり方 ②各食材の扱い ③しんじょの扱い ④そぼろあんのつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
17	状態別献立②　～子供向け洋風献立～	状態別献立として、実施する。子供向け（幼児・児童期）の献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【チキンピラフ、じゃがいもときのこのクリーム煮、トマトカップサラダ、二色ゼリー】 ①ピラフのつくり方、米の扱い方を理解する。 ②クリーム煮の基本を理解する。 ③トマトの扱い方を理解する。 ④ゼラチンの扱いと応用調理	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
18	状態別献立②　～子供向け洋風献立～	状態別献立として、実施する。子供向け（幼児・児童期）の献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【チキンピラフ、じゃがいもときのこのクリーム煮、トマトカップサラダ、二色ゼリー】 ①ピラフのつくり方、米の扱い方を理解する。 ②クリーム煮の基本を理解する。 ③トマトの扱い方を理解する。 ④ゼラチンの扱いと応用調理	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
19	状態別献立③　～成人向け和風献立～	状態別献立として、実施する。成人向けの献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【肉じゃが、菜飯、切り身魚のホイル焼き、カブと油揚げの味噌汁】 ①基本的な煮物のつくり方 ②ホイル焼きの要領 ③味噌汁の基本	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

20	状態別献立③　～成人向け和風献立～	状態別献立として、実施する。成人向けの献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【肉じゃが、菜飯、切り身魚のホイル焼き、カブと油揚げの味噌汁】 ①基本的な煮物のつくり方 ②ホイル焼きの要領 ③味噌汁の基本	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
21	中国料理③	【古老肉、涼拌海蜇、栗米湯】　日本で好まれる中国料理を実施する。 ①中国料理の溜菜の要領を学ぶ ②くらげの扱いを理解する ③とろみのあるスープの応用について	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
22	中国料理③	【古老肉、涼拌海蜇、栗米湯】　日本で好まれる中国料理を実施する。 ①中国料理の溜菜の要領を学ぶ ②くらげの扱いを理解する ③とろみのあるスープの応用について	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
23	弁当料理	日常食の一つとして昼食の献立を弁当料理として、基本的な理解と実践を行う。※盛り付けの実技テストを行う ①主菜、副菜への理解 ②常備菜のつくり方 ③彩の工夫	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
24	弁当料理	日常食の一つとして昼食の献立を弁当料理として、基本的な理解と実践を行う。※盛り付けの実技テストを行う ①主菜、副菜への理解 ②常備菜のつくり方 ③彩の工夫	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
25	行事食①　誕生日の献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。※一品を実技テストとして行う。【ハンバーグステーキ、クラムチャウダー、フルーツサラダ】 ①ひき肉を使った焼き物のつくり方 ②つなぎ材料の役割とその割合 ③貝類の扱い、煮込み方 ④果物の扱い、ソースのつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
26	行事食①　誕生日の献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。※一品を実技テストとして行う。【ハンバーグステーキ、クラムチャウダー、フルーツサラダ】 ①ひき肉を使った焼き物のつくり方 ②つなぎ材料の役割とその割合 ③貝類の扱い、煮込み方 ④果物の扱い、ソースのつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
27	行事食②　七夕祭りの献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【ちらし寿司、澄まし汁、青菜の辛し和え、フルーツみつ豆】 ①酢飯のつくり方 ②だし汁の取り方 ③青菜の扱い方 ④寒天の扱いと白玉粉の扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

28	行事食②　七夕祭りの献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【ちらし寿司、澄まし汁、青菜の辛し和え、フルーツみつ豆】 ①酢飯のつくり方 ②だし汁の取り方 ③青菜の扱い方 ④寒天の扱いと白玉粉の扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
29	行事食③　敬老の日の献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【天ぷら、茶わん蒸し、豆ごはん、水ようかん】 ①揚げ衣のつくり方 ②卵の性質、蒸し物の要領 ③寒天の扱い		60
30	行事食③　敬老の日の献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【天ぷら、茶わん蒸し、豆ごはん、水ようかん】 ①揚げ衣のつくり方 ②卵の性質、蒸し物の要領 ③寒天の扱い		60

令和3年度

科目名	生活学的法律論	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木　康元	**単位数**	
開講期	後期	**必選**	
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける☒ 〔授業全体の内容の理解〕☒ 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう☒ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕☒ 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること☒ 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕☒ 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける☒ 〔授業全体の内容の理解〕☒ 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう☒ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕☒ 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること		
受講資格	家政学部１年	**成績評価方法**	ペーパー試験と出席の程度を考慮する
教科書	その都度指定する		
参考書	その都度指定する		
学生への要望	法律一般につき興味をもって欲しい☒		
オフィスタイム	授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室☒ 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	家族法とは	民法における家族法位置づけと家族の意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	婚姻（１）	婚姻の意味と婚約等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	婚姻（２）	婚姻の効力→婚姻をすると、夫婦はどのような義務を負うのか	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	離婚（１）	離婚の意味と実態等について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	離婚（２）	離婚の方法と実務から見た問題点について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	内縁	内縁の意味とその法的意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	親子（１）	親子の種別（実子・養子）と法的効果について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	親子（２）	親権の意味と内容について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	扶養	法律上の扶養義務者と現代的変遷について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	相続の基礎	相続の意味と現代的特色	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	相続人	誰が相続人になるのか、相続人に相続させたくない場合は	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	相続の効力（１）	遺産承継について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	相続の効力（２）	相続分と遺産分割について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	遺言	遺言の意義・方式等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	成年後見	成年後見制度について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	生活学的経済論	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川　貴弘	**単位数**	
開講期	前期	**必選**	
授業概要	本授業の目的は、生活と密接にかかわる経済の基礎知識の習得と経済学的視点の確立である。不景気・デフレーション・円高・円安・インフレーション・消費生活・生活経済等、普段からニュースや新聞で取り上げられるものであるが、これらの経済的事象は私達の生活と密接にかかわっている。これら経済的事象を経済学的視点で見る目を養うことを本授業の目的としたい。☒ なお、在北京日本国大使館経済部での勤務経験を活かし、授業の中で経済統計の見方、マクロ経済の理論と実際について採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 在北京日本国大使館経済部専門調査員として主に中国経済の分析に従事。☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☒ 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☒ 【位置づけ・水準】　GU1109		
達成目標	【単位認定の最低基準】　☒ 経済的事象を経済的視点で見る目を養うことを到達目標とする。この目標の７割程度の達成をもって単位認定の最低基準とする。☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】　他との協調、人間形成		
受講資格	家政学部 生活科学科 1年生 ☒ 家政学部 食物栄養学科 1年生	**成績評価方法**	①小テスト30点（15点×２回） ②レポート70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	伊藤元重「はじめての経済学（上）（下）」日経文庫、他必要に応じ授業の中で紹介する。		
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる経済関連の問題について関心を持つようにすること。		
オフィスタイム	火曜日　3コマ　水曜日4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について解説する。☒ 経済学とは何かを説明する第一の例としてインフレーションとデフレーションを取り上げ、両者が私達の生活に与える影響について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	経済学とは何か②	第二の例として円安と円高を取り上げ、両者が私達の生活にどのような影響を与えるのかについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	経済学とは何か③	経済学をめぐって行われてきた政策論争（自由貿易vs保護貿易）について学修することを通じて経済学への理解を深める。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	消費生活と経済①	消費と消費者の概念について、消費者の権利と責任について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	消費生活と経済②	様々な消費者問題とクーリングオフについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	消費生活と経済③	グリーンコンシューマーとフェアトレードの概念について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	消費生活と経済④	消費生活と経済について総まとめ。 小テスト1回目	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	30
8	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査①	世界と日本の家計研究の歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査②	エンゲルの法則とエンゲル係数の概念について学修する。近年のエンゲル係数の動向について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
10	食料・食品と経済①	食料自給率、食と流通等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	食料・食品と経済②	食と環境、食品廃棄物問題等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	30
12	行動経済学とその概要①	行動経済学とは何か、その概要について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
13	行動経済学とその概要②	行動経済学について、ナッジ（nudge）理論を元にその事例を紹介する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
14	地域経済～郡山市の経済について①	地域経済とは何かを解説した上で、私達が住んでいる郡山市の経済とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60

15	地域経済～郡山市の経済について② まとめ	郡山市の経済とその特徴について学修する（前回の続き）。 これまでの学修内容を確認する。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

令和3年度

科目名	生活学的社会論	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川　貴弘	**単位数**	
開講期	前期	**必選**	
授業概要	私達は社会の中で生きており、生活と社会は切り離して考えることはできない。本授業では、私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているか、すなわち現代社会の特性、人と社会との関係、社会問題とその背景について理解を深め、考察する力を養うこと、更に社会と切り離せない生活の多様性についても理解することを目的としている。 なお、本講義では、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方、活用の仕方についても採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。　☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。 【位置づけ・水準】　GU1108		
達成目標	【単位認定の最低基準】 私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているかについて、理解を深め、考察する力を養うことを目標とする。この目標の７割程度の達成をもって単位認定の最低基準とする。		
受講資格	家政学部 生活科学科 1年生 ☒ 家政学部 食物栄養学科 1年生	**成績評価方法**	①小テスト30点（15点× 2 回）☒ ②レポート70点
教科書	プリントを配布する。☒		
参考書	浅野智彦編著「社会学のことが面白いほどわかる本」、中経出版　他		
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる社会の問題について関心を持つようにすること。		
オフィスタイム	火曜日　3コマ　水曜日4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法について説明する。☒ 『社会』とは何か、今の日本『社会』はどのような状態にあるか、その一例として少子高齢化社会について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	少子高齢化社会と日本と世界①	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、日本の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	少子高齢化社会と日本と世界②	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、世界各国の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	少子高齢化社会と日本と世界③	平均寿命、平均余命、健康寿命などの概念、それら指標の現状ついて概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	社会と仕事・家族①	家族とその役割について学修する。 家庭において起こる問題―DVと児童虐待について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	社会と仕事・家族②	フリーターとニート（ひきこもりを含む）、日本的雇用慣行について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	社会と仕事・家族③	正規雇用と非正規雇用、働くことの意義について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
8	社会と自己と他者①	癒しと宗教、社会的自我と個人のアイデンティティについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	社会と自己と他者②	癒しと宗教、社会学から見た自殺問題について学修・考察する。小テスト（1回目予定）☒	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60
10	社会と国家①	社会学から見た国家（ルールと権力）、平等な社会と格差について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	社会と国家②	厚生労働省とその取り組み（１）年金制度、社会保障制度、介護保険制度について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	社会と国家③	厚生労働省とその取り組み（２）医療保険制度とその仕組みについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
13	社会と国家④	厚生労働省とその取り組み（３）「健康日本21」等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
14	社会と国家⑤	「地域保健法」と保健所の役割について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60

15	まとめ	これまでの学修内容の確認と小テストの内容について復習する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

令和3年度

科目名	日本国憲法	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木　康元	**単位数**	
開講期	前期	**必選**	
授業概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。☒ 履修カルテ評価項目☒ ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。☒		
達成目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。☒ 履修カルテ評価項目☒ ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。		
受講資格	家政学部１年生	**成績評価方法**	ペーパー試験(80%)と出席状況(20%)
教科書	憲法【第二版】☒ 弘文堂		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。		
オフィスタイム	火曜日☒ 授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室☒ 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特色、日本国憲法の歴史☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下の平等の意義☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	基本的人権⑦	経済的自由権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	基本的人権⑧	財産権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	基本的人権⑨	その他の人権について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	統治機構①	国会☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	統治機構②	内閣☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	統治機構③	裁判所☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	生活化学	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択
担当教員	大西　弘太郎	**単位数**	/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース
開講期	前期	**必選**	1年 2単位 選択
授業概要	生活科学部での専門科目学習において重要な化学系各講義を理解するための化学的基礎学力および知識の修得を目指す。高校化学の復習・補完および教職課程に必要な有機化学、食品化学、環境化学など専門化学系科目の導入知識の修得を目指す。 ☒ ☒ 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。☒ 実務経験：医師として医療機関に勤務している。 ☒ ☒ 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。 ☒ ☒ 位置づけ・水準 GU1112		
達成目標	原子の構造と化学結合についての化学的基礎知識を修得する。☒ 化学結合論に基づいた代表的な有機化合物の立体構造の推察力及び表現力を獲得する。☒ 有機化合物の構造と命名法の理解と代表的な有機化合物の命名能力を獲得する。☒ ☒ 単位認定の最低基準：化学的基礎知識が習得されていること。 ☒ ☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：他との協調、人間形成。		
受講資格	生活科学科社会福祉コース 1年☒ 生活科学科建築デザインコース 1年	**成績評価方法**	小テスト　(20%) ☒ 筆記試験　(80%)
教科書	なし		
参考書	生理学・生化学につながる　ていねいな化学(羊土社)		
学生への要望	講義での学習内容は、高校化学の復習に基づく化学的基礎知識を70%、専門化学系科目の導入知識を30%に設定している。１年後期以降に受講する専門化学系科目の準備として、本講義の学習内容をほぼ完全に理解・修得することが望ましい。☒ 学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。		
オフィスタイム	臨床医学研究室☒ 火曜日　13:00～17:00。☒ 木曜日　15:00～17:00。 ☒ 金曜日　08:30～17:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	物質の構成と原子構造	物質の構成。☒ 原子構造と周期表。	物質は何でできている？、粒子は常に動いている！、元素と原子と分子ってどう違うの？、荷電って何？、周期表って何？、等々……。	120
2	化学結合	イオン同士の結びつき、イオン結合。原子同士の結びつき、共有結合。金属同士の結びつき、金属結合。	イオンって何？、イオン結合って何？、共有結合って何？、ファンデルワールス力って何？、金属結合って何？、等々……。	120
3	物質量	原子量、分子量、式量。☒ 物質量と化学反応式。	原子量、分子量、式量って何？、質量って何？、体積、密度って何？、溶媒・溶質・溶液って何？、モル濃度って何？、化学反応式って何？、等々……。	120
4	酸と塩基。☒ 酸化還元反応。	酸と塩基。酸化還元反応。	酸、塩基とは？、酸・塩基の価数とは？、酸・塩基の強弱は電離度で決まる！、酸性・中性・塩基性、pH、中和、塩って何？。酸化と還元の3つの定義。電池の仕組み。	120
5	酵素反応と酸塩基平衡	酵素反応。☒ 体液の酸塩基平衡。	化学反応にも速度がある、化学反応による熱の出入り、化学反応にはエネルギーが必要、酵素は体内の化学反応を促進する。化学反応には方向性がある、平衡状態が崩れたらどうなるの？、pHの変化をやわらげる働き。	120
6	生体を構成する物質	糖質、脂質、タンパク質、核酸。	からだは有機物で出来ている。	120
7	気体の性質	気体・液体・固体、温度と状態、理想気体方程式。	物質の状態(特に気体について)予習復習をしましょう。	120
8	炭素化合物	アルカン。アルケン。シクロアルカン、シクロアルケン。	それぞれについて予習復習をしましょう。	120

9	官能基	アルコールとエーテル。アルデヒド。ケトン。カルボン酸。エステル。アミンとアミド。	それぞれについて予習復習をしましょう。	120
10	芳香族	芳香族化合物。	芳香族について予習復習をしましょう。	120
11	色素	色素。	色素について予習復習をしましょう。	120
12	香り、味	香り、味。	香り、味について予習復習をしましょう。	120
13	高分子	高分子とは何か？。ポリエチレンとその仲間。ナイロンとその仲間。ゴム・プラスチック・合成繊維など。	高分子について予習復習をしましょう。	120
14	環境化学	環境化学。	環境化学について予習復習をしましょう。	120
15	まとめ	総合討論。	講義の内容・程度・分量などについて全体的に討論をしましょう。	120

令和3年度

科目名	運動健康論	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	佐藤　浩明	**単位数**	
開講期	通年	**必選**	

授業概要	GU1119☒ 生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性を理解し、生涯にわたり自分の健康や体力に配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技、講義を通じて学びます。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。 ①運動と健康の関連を理解し、健康の在り方について学びます。 ②スポーツの意義を理解し、人間力について学びます。 ③運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。 ④運動を通して、基礎体力の維持、向上する方法について学びます。 ⑤授業最後にレポート等は返却し口頭またはコメントで説明します。
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得する と共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける。レポート、実技テスト等を受けることを最低基準とする 【ディプロマ・ポリシーとの関係】☒ ・他との協調　・人間形成 【食物栄養学科】食と健康の職人的専門として人々の健康と生活の向上に寄与するという意識と責任をもっている☒ スポーツを通して人間として人格形成を志向、自己の専門知識と技術を社会のために活かし、社会責任を果たす事ができる

受講資格	家政学部 人間生活学科　生活総合コース 1年 2単位 選択☒ 家政学部 人間生活学科　福祉コース 1年 2単位 選択☒ 家政学部 人間生活学科　建築デザインコース 1年 2単位 選択家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択☒ ※教職課程履修者は必修	**成績評価方法**	平常点30点（取組姿勢）　試験・提出物70点（実技・レポート）☒ ※本科目は実技を含むため、出席、積極的な取組みも重視します。

教科書	特になし（必要に応じて資料等を配布します）
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：㈶日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメゾット：高橋書店」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。☒ 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）
オフィスタイム	火・木の9:00～16:00まで創学館NO4研究室☒ 佐藤

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明　②服装、準備物の確認（注意事項含む）　③グループ分け	運動着、水分の準備をしてくる事	30
2	縄跳び①／からだづくりの運動	【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30

3	縄跳び②／からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コーディネーショントレーニング　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）☒ ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
4	縄跳び③／からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コーディネーショントレーニング　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）☒ ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
5	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
6	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30

7	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
8	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃☒	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
9	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
10	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	0

11	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	0
12	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
13	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
14	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
15	実技のまとめ	≪まとめとして実技試験を行う≫☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）②レクリエーションゲーム　③実技試験　④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）　⑤体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30

16	第16回　オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状　オリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツの持つ魅力について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
17	第17回　生活と健康について①	≪健康とは何か≫☒ 健康について考える導入として、「健康の定義」をＷＨＯ（世界保健機関）の憲章をふまえ、様々な角度から学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
18	第18回　生活と健康について②	≪生活習慣病の原因・対策・予防と運動≫☒ ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し、運動との関係について学びます。☒ ②運動・休養と健康について学びます。 。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
19	第19回　生活と健康について③	≪大学生の健康≫☒ 大学生の生活に潜む危険要因について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
20	第20回　生活とスポーツについて①	≪スポーツとは何か≫☒ スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
21	第21回　生活とスポーツについて②	≪生涯スポーツについて≫☒ 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う　②観る　③支える　④調べるの視点から学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
22	第22回　生活とスポーツについて③	≪大学生とスポーツ≫☒ 大学生になり高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康に興味を持ち、運動やスポーツにどう関わることができるかについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
23	第23回　スポーツから学ぶ①	≪フェアプレーについて≫☒ スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常の生活や、普段の行動にも通じるものがあります。☒ ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
24	第24回　スポーツから学ぶ②	≪メンタルトレーニング≫☒ 常に結果が求められるスポーツ選手（アスリート）のメンタルトレーニング、ポジティブシンキング、行動基準について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	0
25	第25回　スポーツから学ぶ③	≪目標設定≫☒ スポーツ選手（アスリート）の行動基準から自分の目標設定の方法について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	0
26	第26回　健康増進のための身体運動について①	≪体力とは≫☒ ①体力の概念と体力要素（身体的要素　精神的要素）について学びます。☒ ②運動の原理原則について理解し、効果的な運動の方法について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
27	第27回　健康増進のための身体運動について②	≪エクササイズの方法について☒ 健康の保持増進やからだをつくるための方法（①有酸素運動　②筋力トレーニング　③ストレッチ　④バランス等）や実施する際のポイントについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

28	第28回　コンディショニングについて	≪からだの調子を良くする・怪我の予防・対処方法≫☒ ①コンディショニングを崩す原因を理解し予防方法について学びます。☒ ②怪我の予防、応急処置の基本、熱中症対策について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
29	第29回　健康的な生活について①	≪ライフスタイルについて≫☒ 自分のライフスタイル（生活習慣・運動習慣）を客観的に理解し、健康的な生活を過ごすための方法について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
30	第30回　健康的な生活について②	≪良い習慣について≫☒ 行動を邪魔する要因を理解し、運動習慣をつける方法について学びます。☒ ※『健康なからだをつくる』をテーマに自分のライフスタイルについて考えます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

令和3年度

科目名	キャリアデザインⅡ	**対象**	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 1単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 1単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 1単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 1単位 選択
担当教員	森　みい	**単位数**	
開講期	前期	**必選**	
授業概要	【授業のねらい】☒ 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。☒ 　インターンシップ終了後に、課題・レポート提出及び、インターンシップ報告会を行い、課題についてフィードバックを行います。 ☒ 【授業の概要】☒ 　インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期6回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（3日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、就職指導にあたっている経験を活かし授業を行います。☒ ☒ ☒ GC1118☒		
達成目標	【授業終了時の達成目標】☒ 　インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、課題解決力を養っていきます。また、新たな学習意欲の契機となるように、仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解や充実感を感じ、人々の生活向上や社会に貢献ができることを目標とします。		
受講資格	特になし	**成績評価方法**	就業体験60％・報告会20％・提出物20％「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30　水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	インターンシップの概要☒ 4/8(Ｖコマ) ☒	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップに必要な書類についての確認する 。☒	就業体験先の希望調査があるので、企業・業界研究をしておく。 インターンシップの目標を設定する。	30
2	インターンシップの心構え☒ 5/13(Ｖコマ)	昨年のインターンシップを参考に自分は何を学びたいのか明確な目標を設定していく。	インターンシップを通して、企業や業界の働きについて考える。	30
3	インターンシップの心構え☒ 5/27(Ｖコマ)	働く人の話を聞き、仕事の内容、組織での関りを学び、インターンシップの考えを深化させていく。	インターンシップは具体的にどのように考えていくか、社会人の話を聞き、企業研究をする。	30
4	企業研究（講演)☒ 6/3（Ｖコマ）☒ ☒ ☒	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。また、人生をどのように生きていく、自分の将来のキャリアプランを考える。	企業の働きから、社会の動向を学び、働く事への理解を深める。	30
5	事前指導☒ (ビジネス文書作成)☒ 6/17Ｖコマ）☒	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。☒	手紙の書き方、ビジネスでのメール送信、電話の掛け方等、一般的なナマーを確認しておく。	30
6	事前指導☒ （マナー講座)☒ 7/1（Ｖコマ）☒	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。☒ 業体験先との打合せを始める。	挨拶・言葉遣いを実践で学んでいくので、印象のいいマナーを日常から意識をして練習する。	30
7	直前指導☒ (インターンシップ先の企業研究)7/15（Ｖコマ） ☒ ☒	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	インターンシップ先にアポイントを取り担当者と打合せをする。電話の掛け方、インターンシップに向けてマナーの練習をする。	30

8	インターンシップ 実施 1班8/18～8/20 2班8/25～8/27	各企業において、夏季休業中（8月中旬～下旬)に3日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	企業研究及び交通手段の確認をする。インターンシップ先の企業研究を行い、最終確認をする。	30
9	インターンシップ報告会 9/2　（Ⅰコマ）	事後報告会として、 クループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会の準備と提出物の最終確認をする。	30
10	インターンシップ報告会 9/2 （Ⅱコマ）　☒	事後報告会として、 代表者の報告を企業の方も参加して実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会で発表し、報告者の発表から課題を考えていく。	30

令和3年度

科目名	社会調査法	**対象**	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川　貴弘	**単位数**	
開講期	後期	**必選**	
授業概要	社会調査というものが何を目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会調査への理解を深めることを目標としたい。☒ なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計データの見方、活用の仕方について採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☒ 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☒ 【位置づけ・水準】　HL2317		
達成目標	【単位認定の最低基準】　社会調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。このためこれら内容の８割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】　問題解決力、倫理観・社会的責任		
受講資格	家政学部　　生活科学科　3年生☒ 短期大学部　専攻科　　1年生	**成績評価方法**	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（レポート）70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社		
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。		
オフィスタイム	火曜日　2コマ　金曜日4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 社会調査とは何か	授業の進め方、評価方法について。☒ 社会調査とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学修する。☒	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
2	社会調査の種類①	社会調査の分類、量的調査と質的調査について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
3	社会調査の種類②	社会調査における質的調査の特徴について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
4	社会調査のプロセス	社会調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
5	社会調査のデザイン①	社会調査の調査内容とその検証について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
6	社会調査のデザイン②	仮説の検証とより良い調査研究について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
7	実査の方法①	データ収集法選択の基準について学修する。	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
8	実査の方法②	様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学修する。小テスト（1回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
9	調査票の作成	調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
10	サンプリング	調査対象の選び方について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
11	調査の実施	郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
12	データファイルの作成	データ入力とその手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
13	データの集計方法	情報の集約、代表値（平均）から相関係数について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	調査報告とデータの管理 （パソコンを用いての実習）	調査の報告と報告後のデータの管理について学修する。 このため実際にパソコンを用いてデータの加工、管理について実習形式で授業を行う。	実習に備えてこれまでの学修内容を確認すること。また授業内で終わらなかった課題については自宅学修で引き続き取り組むこと。	60
15	社会調査の倫理について 学修の総まとめ	社会調査協会倫理規定に基づいて社会調査の倫理について学修する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60

令和3年度

科目名	ケアマネジメント	**対象**	
担当教員	近内　直美	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 1単位 選択
開講期	後期	**必選**	
授業概要	人間関係の形成や介護の質を高めるために必要なコミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う。☒ 最終授業で課題やレポートなど全体に対するフィードバックを行います。 〈授業担当者〉☒ 近内　直美☒ 特別養護老人ホームに勤務していた時の経験を活かし、実践に即した授業を行う☒ 実務経験：社会福祉法人　笑風会で事業部長として、特別養護老人ホーム他福祉関係施設の管理業務を行っていた。☒ 廣野　正子☒ 特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの生活相談員として人材育成の企画・実践の経験をもとに授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）、生活相談員として勤務。☒ 位置づけ・水準　HW2302		
達成目標	・人間を多面的に理解し、介護福祉士としての倫理基盤、コミュニケーションの有り様を理解する。 ・ケアマネジメントに必要な組織の運営管理を理解し、ケアマネジメントに必要な人材の育成や活用等の人材管理を理解する。 ・ケアマネジメントに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等を理解する。 単位認定の最低基準は：「内容の8割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	人間生活学科　福祉コース	**成績評価方法**	課題７0%、演習（参加の姿勢や発表）３0%
教科書	最新介護福祉士養成講座1『人間の理解』編集介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	「人間」の理解に努め介護実習等で体験したチームケアの意義を再確認し、ケアマネジメントの必要性を理解できるようにする。		
オフィスタイム	近内 直美：創学館４階№6研究室、水曜日Ⅰ・Ⅱ限　☒ 廣野正子：創学館４階№1研究室、水曜日Ⅰ限・木曜日Ⅰ限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 福祉の理念について 近内	授業の目的、進め方等 人間の尊厳と人権・福祉の理念等の振り返り	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	15
2	介護実践におけるチームマネジメント① 近内	ヒューマンサービスとしての介護サービス	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
3	介護実践におけるチームマネジメント② 近内	介護現場で求められるチームマネジメント	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
4	介護実践におけるチームマネジメント③ 近内	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
5	ケアを展開するためのチームマネジメント① 近内	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
6	ケアを展開するためのチームマネジメント② 近内	チームでケアを展開するためのマネジメント	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。 ・課題を行う。	90
7	ケアを展開するためのチームマネジメント③　近内	チームの力を最大化するためのマネジメント	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
8	人材育成・自己研鑽のための チームマネジメント①　廣野	介護福祉職のキャリアと求められる実践力 介護福祉職としてのキャリアデザイン	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
9	人材育成・自己研鑽のための チームマネジメント②　廣野	介護福祉職のキャリア支援・開発	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	人材育成・自己研鑽のための チームマネジメント③　廣野	自己研鑽に必要な姿勢 演習：自己研鑽の効果を高める	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
11	組織の目標達成のためのチーム マネジメント①　廣野	介護サービスを支える組織の構造 介護サービスを支える組織の機能と役割	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
12	組織の目標達成のためのチーム マネジメント②　廣野	介護サービスを支える組織の管理 演習：事業所組織の機能と役割	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
13	ケアマネジメントの実践① 廣野	業務課題の発見	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	45
14	ケアマネジメントの実践② 廣野	業務課題の解決方法	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。 ・課題を行う。	90
15	ケアマネジメントのまとめ 廣野	ケアマネジメントの総括	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	45

令和3年度

科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ	**対象**	
担当教員	島野　光正	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 必修
開講期	前期	**必選**	

授業概要	1．社会福祉援助技術を社会福祉実践につながるかたちで学ぶ。☒ 2．援助活動の基になる援助関係について知る。総合的・包括的な援助と多職種連携の意義と内容を理解する。☒ 3．福祉専門職について考える。専門職の概念と範囲及び専門職の倫理について理解する。☒ 【授業全体の内容の概要】☒ 社会福祉における援助活動の意義を理解したうえで、専門的援助関係、社会福祉援助技術の体系・構成・内容、間接援助技術・関連援助技術、社会福祉援助技術の展開過程、多職種連携等を学ぶ。☒ 【授業修了時の達成課題（到達目標）】☒ 対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。☒ 1．社会福祉援助技術について実践に繋がるかたちで理解を深める。☒ 2．援助関係について理解し、多職種連携の意義について理解を深める。☒ 3．福祉専門職の概念や専門職の倫理について理解を深める。☒ 実務経験：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士兼主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士、主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務。
達成目標	1．社会福祉援助技術を社会福祉実践につながるかたちで学ぶ。☒ 2．援助活動の基になる援助関係について知る。総合的・包括的な援助と多職種連携の意義と内容を理解する。☒ 3．福祉専門職について考える。専門職の概念と範囲及び専門職の倫理について理解する。☒ 【授業全体の内容の概要】☒ 社会福祉における援助活動の意義を理解したうえで、専門的援助関係、社会福祉援助技術の体系・構成・内容、間接援助技術・関連援助技術、社会福祉援助技術の展開過程、多職種連携等を学ぶ。☒ 【授業修了時の達成課題（到達目標）】☒ 対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。☒ 1．社会福祉援助技術について実践に繋がるかたちで理解を深める。☒ 2．援助関係について理解し、多職種連携の意義について理解を深める。☒ 3．福祉専門職の概念や専門職の倫理について理解を深める。

受講資格	社会福祉援助技術論Ⅰの終了を原則とする	**成績評価方法**	出席状況20%)及びレポート(80%)により評価する
教科書	新・社会福祉士養成講座８☒ 相談援助の理論と方法Ⅱ　（中央法規出版）☒		
参考書	適宜紹介します。		
学生への要望	事前にテキストを読んでくるのを前提にすすめます。		
オフィスタイム	授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室☒ 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	・オリエンテーション　・相談援助とは	・講義の概要と到達目標について　・講義の進め方について ・予習復習について ◎社会福祉士と社会福祉援助技術 1．ソーシャルワーカーの具体的な事例☒ 2．仕事からとらえたソーシャルワーカーの定義と枠組み☒ 3．ソーシャルワークを構成する要素☒ 4．ソーシャルワークの職場 5．ソーシャルワーカーが所属する組織	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	・社会福祉における援助活動の意義　・相談援助の構造と機能	◎社会福祉援助技術の意義 1．ソーシャルワークの構造☒ 2．ソーシャルワークにおけるニーズ☒ 3．ソーシャルワークの機能	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	・社会福祉士における援助活動の意義　・人と環境の交互作用	◎社会福祉士における援助活動の意義 1．人と環境　2．環境の意味　3．人と環境の全体性 4．システムの作動とサイバネティクス　5．システム理論によるひとつのソーシャルワーク論☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	・社会福祉専門職と社会福祉援助技術　・相談援助における援助関係	◎ソーシャルワーカーとは　◎専門援助活動、国際ソーシャルワーカー連盟（ＩＦＳＷ）の定義 １．援助関係の意義　　２．援助関係の形成プロセスに影響する要因　３．援助構造と援助関係　４．援助関係の質と自己覚知　５．援助関係とミクロからマクロ実践領域	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	・専門援助技術と倫理　・相談援助の展開過程Ⅰ	◎倫理的ジレンマ、専門性の構造と三つの要素、倫理・哲学、専門知識、専門技術とエンパワメント☒ １．相談援助の展開過程の流れ　　２．ケース発見　　３．受理面接（インテーク） ４．問題把握からニーズ確定まで　５．ニーズ確定から事前評価（アセスメント）まで　☒ ６．事前評価から支援目標・目標設定まで　７．支援目標から支援の計画（プランニング）まで☒ ８．支援の計画（プランニング）から支援の実施まで☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	・専門的援助関係とコミュニケーション　・相談援助の展開過程Ⅱ	◎援助関係、コミュニケーション、共感、信頼関係 １．経過観察（モニタリング）　２．再アセスメントと支援の強化　３．支援の終結と効果測定、　　評価、アフターケア　４．予防的対応とサービス開発	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	・ソーシャルワーカーの　専門性　・相談援助のためのアウトリーチ技術	◎倫理綱領、自己覚知と他者理解 １．アウトリーチの意義と目的　　２．アウトリーチの方法と留意点☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	・専門援助技術をめぐるわが国及び諸外国の動向　・相談援助のための契約の技術	◎社会福祉援助技術の理解と動向、諸外国の動向、日本の動向、歴史☒ １．契約の意義と目的　　２．契約の方法と留意点☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	・社会福祉援助活動の共通課題・相談援助のためのアセスメント技術	◎契約、面談、記録、評価など １．ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性、援助関係、面接　２．アセスメントで得るべき情報　３．アセスメント面接で得た情報の使い方	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	・社会福祉援助技術の体　系と内容　・相談援助のための介入の技術	◎援助概念、体系、総合化 １．介入の意義と目的　　２．介入の方法と留意点☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	・社会福祉援助技の構成　・相談援助のための経過観察（モニタリング）、再 アセスメント、効果測定、評価の技術	◎直接援助技術（個別援助技術、集団援助技術） １．経過観察（モニタリング）　２．再アセスメント　３．効果測定☒ ４．評価とサービス開発☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	・間接援助技術　・相談援助のための面接の技術	◎地域援助技術、社会調査法、運営管理、社会福祉活動法、社会福祉計画法☒ １．相談援助にける面接の目的　２．相談援助における面接の展開　３．面接において用いられる技術とコミュニケーション　４．面接援助における面接の形態	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	・その他の関連技術　・相談援助のための記録の技術	◎ネットワーク、ケアマネジメント、カウンセリング、コンサルテーション ◎介護保険法における居宅サービス計画と施設サービス計画 １．記録の意義とその活用目的　２．記録の種類と活用 ３．記録の活用目的と種類との関係☒ ４．記録の方法とＩＴ化（倫理的配慮について）　５．記録の技術の実際例と今後の課題☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	・専門職種の多職種連携（チームアプローチ）　・相談援助のための交渉の技術	◎意義と内容、統合化とチームによる対応、社会福祉援助技術の展開過程☒ １．交渉の意義と目的　２．交渉の方法　３．プレゼンテーションの技術	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	・記録と計画	◎記録と計画　まとめ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	社会福祉援助技術論Ⅲ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	島野　光正		
開講期	後期		

授業概要	【履修カルテの評価項目】☒ 1．社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱをさらに深める。☒ 2．援助技術における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。☒ 3．援助技術の詳説として事例分析や意義について理解する。☒ 【授業全体の内容の概要】☒ 社会福祉援助技術の対象分野を理解した上で、個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術等の展開過程を学ぶ。☒ また、社会福祉調査法、社会福祉計画、社会活動の理論と技術、さらに介護保健下におけるケアマネジメントについて学ぶ。☒ 【授業終了時の達成課題（到達目標）】☒ 対象別･分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。☒ 実務経験：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士兼主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士、主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務。
達成目標	【履修カルテの評価項目】☒ 1．社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱをさらに深める。☒ 2．援助技術における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。☒ 3．援助技術の詳説として事例分析や意義について理解する。☒ 【授業全体の内容の概要】☒ 社会福祉援助技術の対象分野を理解した上で、個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術等の展開過程を学ぶ。☒ また、社会福祉調査法、社会福祉計画、社会活動の理論と技術、さらに介護保健下におけるケアマネジメントについて学ぶ。☒ 【授業終了時の達成課題（到達目標）】☒ 対象別･分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。

受講資格	社会福祉援助技術論Ⅱの終了を原則とする	**成績評価 方法**	出席状況(20%)および定期試験(80%)により評価する
教科書	新・社会福祉士養成講座８☒ 相談援助の理論と方法Ⅱ（中央法規出版）		
参考書	適宜紹介します。		
学生への要望	事前にテキストを読んでくるのを前提に進めます。		
オフィスタイム	月曜日授業開始前（創学館２階教務部内非常勤講師室）、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、人と環境の相互作用、相談援助における対象の理解	◎講義の概要の説明 ◎社会福祉援助技術の適用領域と対象分野 1．社会福祉援助活動の概念と定義　2．相談援助の対象を動とらえるか。	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	相談援助の対象、ケアマネジメント	◎過程、援助関係、面接技術、アウトリーチ、社会資源の活用・調整・開発を理解する☒ 1．ケアマネジメントの基本　2．ケアマネジメントの過程 3．ケアマネジメントにおけるアセスメントの特徴☒ 4．ケアプランの作成･実施の特徴　5．ケアマネジメントの特徴　6．ケアマネジメントとソーシャルワークの関係	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	分野別社会福祉援助技術、グループを活用した相談援助	◎分野別社会福祉援助技術、対象別社会福祉援助技術 1．グループを活用した相談援助　2．自助グループを活用した相談援助	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	個別援助技術の展開過程、コーディネーションとネットワーキング	◎インテーク、アセスメントとプランニング、援助の展開期（援助実施、モニタリング）、援助の終結期を具体的に学習する。☒ 1．コーディネーションの目的と意義　2．コーディネーションの方法、留意点　3．ネットワーキングの意義と目的 4．ネットワーキングの方法　5．地域福祉を推進するための総合的なネットワーキングの形成とシステム化	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	集団を活用した集団援助技術の展開過程、相談援助における社会資源の活用･調整･開発	◎援助の準備期（グループの計画、形成計画、波長合わせ、援助チームとの合意、他）☒ 援助の開始期（グループの特徴、援助者の役割、援助者の援助技術）援助の作業期（評価）☒ 援助の終結期（終結の評価、終結期の計画の確認、記録まとめ）☒ 1．社会資源の活用･調整･開発の意義と目的　2．治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル 3．ジェネラリスト･ソーシャルワークの展開と実践モデル	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	地域援助技術の理論と技術、さまざまな実践モデルとアプローチⅠ	◎展開過程を学ぶ 1．実践モデルとその意味　2．治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル 3．ジェネラリスト･ソーシャルワークの展開と実践モデル	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	地域援助技術の理論と技術、さまざまな実践モデルとアプローチ	◎社会福祉調査法の理論と技術を学ぶ 1．心理社会的アプローチ　2．機能的アプローチ　3．問題解決アプローチ　4．課題中心アプローチ☒ 5．危機介入アプローチ　6．行動変容アプローチ	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	地域援助技術の理論と技術、さまざまな実践モデルとアプローチ	◎社会福祉計画法の理論と技術を学ぶ 1．エンパワメントアプローチ　2．ナラティブアプローチ 3．その他の実践アプローチ☒ 4．実践アプローチをめぐる課題	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	社会福祉の運営管理、スーパービジョンとコンサルテーションの技術	◎社会福祉の運営管理を学ぶ 1．スーパービジョンの意義と目的　2．スーパービジョンの方法と留意点☒ 3．コンサルテーション	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	社会活動の倫理と技術、ケースカンファレンスの技術	◎社会活動の倫理と技術、ネットワーキング（多職種、他機関との連携を含む）☒ 1．ケースカンファレンスの意義と目的　2．ケースカンファレンスの運営と展開過程 3．ケースカンファレンスの実際　4．ケースカンファレンスの評価と普遍化	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	ケアマネジメントとによる直接援助、相談援助における個人情報の保護	◎ケアマネジメントの目的と概念、構成要素、展開過程を学ぶ☒ 1．相談援助と個人情報保護　2．個人情報とは　3．個人情報保護の考え方　4．個人情報保護制度の展開☒ 5．個人情報保護の制度　6．相談援助における個人情報保護の課題	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	介護保険法下でのケアマネジメント、相談援助における情報通信技術（ICT）の活用	◎介護保険法下でのケアマネジメント、ケアマネジャー養成と四角などを学ぶ☒ 1．情報通信技術（ICT）と福祉情報　2．相談援助における情報通信技術の活用　3．事例分析の目的と意義☒ 4．事例分析の方法と留意点	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	記録とスーパービジョン、事例研究・事例分析	◎記録とスーパービジョン、個人情報の保護と留意点を学ぶ １．事例研究の方法　２．事例研究の方法と留意点　３．事例分析の目的と意義☒ ４．事例分析の方法と留意点	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	効果測定と評価	◎効果測定と評価を学ぶ ◎事例１～５を学ぶ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	まとめ	◎授業のまとめ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	医学一般	**対象**	
担当教員	大西　弘太郎	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 必修
開講期	前期	**必選**	
授業概要	高齢者の健康管理に必要な医学知識を概説する。☒ 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。☒ 実務経験：医師として医療機関に勤務している。☒ 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。☒ 位置づけ・水準 HW2358		
達成目標	単位認定の最低基準：高齢者の健康にかんする基礎的知識が習得されていること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理観・社会的責任。		
受講資格	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年	**成績評価方法**	小テスト　(20%)☒ レポート　(80%)
教科書	人体の構造と機能及び疾病　中央法規出版株式会社		
参考書	特になし		
学生への要望	双方向の授業を期待します。☒ 学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。		
オフィスタイム	臨床医学研究室☒ 火曜日　13:00～17:00。☒ 木曜日　15:00～17:00。☒ 金曜日　08:30～17:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	健康寿命と平均寿命	主な死因と人口動態	寿命・死因・人口動態などについて予習・復習をしましょう。	120
2	高齢者の健康管理	高齢者の健康と死因	高齢者の疾患・死因などについて予習・復習をしましょう。	120
3	高齢者の感染症	日和見感染症☒ 院内感染症	日和見感染症・院内感染症などについて復習をしましょう。	120
4	認知症の諸問題	認知症とは☒ 認知症の疫学☒ 生理的健忘と認知症の健忘の異同☒ 認知症の中核症状とBPSD(行動・心理症状)☒ アルツハイマー病の概要 脳血管性認知症の概要☒ 認知症の経過と予後	認知症について予習・復習をしましょう。	120
5	認知症とライフスタイル	認知症のリスクファクター☒ 認知症とライフスタイル☒ 認知症の予防	認知症について予習・復習をしましょう。	120
6	脳血管疾患　その１	脳卒中の疫学☒ 脳卒中の分類☒ 脳卒中のリスクファクター	脳血管障害について予習・復習をしましょう。	120
7	脳血管疾患　その２	脳梗塞の症状と治療☒ 脳出血の症状と治療☒	脳血管障害について予習・復習をしましょう。	120
8	呼吸器　その１	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	慢性閉塞性肺疾患(COPD)について予習・復習をしましょう。	120
9	呼吸器　その２	肺結核☒	結核について予習・復習をしましょう。	120
10	呼吸器　その３	高齢者と肺炎☒ 嚥下性肺炎☒ 予防とワクチン	肺炎について予習・復習をしましょう。	120
11	運動器　その１	ロコモティブシンドロームとは 疫学☒ 治療と予防	ロコモティブシンドロームについて予習・復習をしましょう。	120
12	運動器　その２	高齢者と骨代謝	骨代謝、骨粗鬆症などについて予習・復習をしましょう。	120
13	運動器　その３	高齢者と骨折☒ 高齢者と易転倒性	骨折・転倒などについて予習・復習をしましょう。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	褥瘡	褥瘡とは☒ 褥瘡はなぜ危険か☒ 褥瘡の予防と治療	褥瘡について予習・復習をしましょう。	120
15	まとめ	要介護のリスク要因☒ 健康寿命とライフスタイル	(主として高齢者の)健康管理について予習・復習をしましょう。	120

令和3年度

科目名	地域福祉論Ⅰ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	菊地　達美		
開講期	前期		
授業概要	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。☒ 実務経験：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務。		
達成目標	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。		
受講資格	人間生活学科福祉コース２年	**成績評価 方法**	レポート提出50点、国家模擬試験50点
教科書	「地域福祉の理論と方法」		
参考書	新・社会福祉士養成講座　地域福祉の理論と方法☒ 中央法規		
学生への要望	国家試験の過去問を行っておくこと		
オフィスタイム	月曜ⅡorⅣ限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講　義	地域福祉の発展過程	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	講　義	福祉サービスシステムとしての地域福祉	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	講　義	地域福祉の概念と体系化	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	講　義	地域自立支援と福祉圏域	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	講　義	地域コミュニティと社協・自治体の役割	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	講　義	地域福祉推進と福祉教育	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	講　義	福祉教育の内容と目標	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	講　義	地方分権と地域福祉計画	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	講　義	社会福祉協議会と社会福祉法人の役割	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	講　義	市民活動とコミュニティビジネス	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	講　義	コミュニティソーシャルワーク概念とシステム	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	講　義	チームアプローチとコミュニティソーシャルワーク	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	講　義	専門職の役割と地域住民の関係	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	講　義	地域福祉推進と住民参加	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	講　義	市町村自治体と住民参加	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	地域福祉論Ⅱ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	菊地　達美		
開講期	後期		
授業概要	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。☒ 実務経験：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務。		
達成目標	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。		
受講資格	人間生活学科　2年	**成績評価 方法**	レポート提出50点、国家模擬試験50点
教科書	新・社会福祉士養成講座　地域福祉の理論と方法　中央法規		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	国家試験の過去問を行っておくこと		
オフィスタイム	月曜ⅡorⅣ限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講　義	ソーシャルサポートネットワーク	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	講　義	ソーシャルサポートとコミュニティソーシャルワーク	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	講　義	社会資源の活用	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	講　義	福祉サービスの開発	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	講　義	まち作りとソーシャルアクション	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	講　義	地域生活における福祉ニーズ	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	講　義	福祉ニーズの把握	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	演　習	地域トータルケアシステムの展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	演　習	地域トータルケアシステムの展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	講　義	福祉サービスの評価と背景	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	講　義	福祉サービス評価の方法	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	講　義	プログラム評価と展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	講　義	イギリスの地域福祉	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	講　義	アメリカの地域福祉	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	講　義	地域福祉論のまとめ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	福祉行財政と福祉計画	**対象**	
担当教員	遠藤　広文	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択
開講期	後期	**必選**	
授業概要	国や地方自治体における行財政や各種福祉計画の体系及び策定手順を理解し,財政の仕組みと福祉計画の視点を学ぶ。☒ 郡山市保健福祉部において各種の福祉計画策定に従事した経験を活かして、計画策定における具体的な事例を示すなど、理解が進むように授業を進める。☒実務経験：郡山市に36年勤務し、福祉部門として福祉事務所社会福祉課（社会福祉主事、3年間）をはじめ及び保健福祉部（部長、4年間）を経験☒ 課題やレポートなど、最終授業で☒ 全体に対するフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準　HW2461		
達成目標	①福祉行財政の実施体制（役割や財政、各機関との関係性、専門職の役割など）や実際について理解する。 ②福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。 単位認定の最低基準は、：「内容の8割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	人間生活学科福祉コース	**成績評価方法**	定期試験５０％、課題５０％。
教科書	新・社会福祉士養成講座１０☒ 「福祉行財政と福祉計画」中央法規		
参考書	適宜指示する。		
学生への要望	・専門用語など難解な単語を事前に学習し、授業内容の理解に努めてほしい。 ・主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。		
オフィスタイム	月曜日Ⅳ時限・金曜日Ⅲ時限☒ 創学館4F、No.６研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	福祉行財政と福祉計画１	・オリエンテーション ・福祉と制度 2回目以降適宜単元テストを行う。また、適時、学生自身の考えや発想を発表し、ディスカッションやグループワークを取り入れた双方向型の授業を行う。	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45
2	福祉行財政と福祉計画２	・社会福祉の法制度の展開 ・福祉計画の概要	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめ振り返る	45
3	福祉行政１	・行政の骨格 ・社会福祉と法制度	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45
4	福祉行政２	・福祉行政の組織 ・社会福祉基礎構造	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45
5	福祉財政１	・財政と社会福祉 ・一般会計予算と社会保障関係費の動向 ・地方自治体の財政と民生費の動向	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45
6	福祉財政２	・民間社会福祉事業の財源 ・福祉サービスの利用と費用負担	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45
7	福祉行財政の組織・団体と専門職の役割１	・社会福祉基礎構造改革 ・相談過程と体制	・テキストで授業内容を確認する ・課題を行う（社会保障費・民生費について）	90
8	福祉行財政の組織・団体と専門職の役割２	・専門諸機関について	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45
9	福祉行財政の組織・団体と専門職の役割３	・地域の相談システム ・専門職	・テキストで授業内容を確認する ・課題を行う（各種福祉計画の目的と連動性）	90
10	福祉計画の目的と意義	・福祉計画の目的と意義 ・福祉援助の現場から福祉計画へ ・計画のサイクルと福祉援助の現場	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45
11	福祉計画の理論と技法１	･福祉計画の基本的視点 ･福祉計画の過程と留意点	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45
12	福祉計画の理論と技法２	・福祉計画におけるニーズ把握 ・福祉計画における評価 ・福祉計画における住民参加	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45
13	福祉計画の実際１	・福祉計画の事例研究の視点 ・老人福祉計画。介護保険事業計画	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	福祉計画の実際２	・障害者計画・障害福祉計画 ・次世代育成支援行動計画	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45
15	福祉計画の実際４ まとめ	・地域福祉計画 ・課題、レポートなどのフィードバック	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45

令和3年度

科目名	福祉サービスの組織と経営	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択
担当教員	近内　直美		
開講期	前期		
授業概要	社会福祉施設を運営していくうえで必要な制度や管理運営について学び、地域の中で活動を展開するために必要な方法を学ぶ。☒ 社会福祉法人での勤務経験を活かし、福祉理念に基づく「福祉経営及び運営」の在り方を考える授業を行う。☒ 課題やレポートについて、最終授業でコメントや質疑応答によりフィードバックします。☒ 実務経歴：社会福祉法人笑風会　事業部長として勤務☒ ☒ 位置づけ・水準　HW2462		
達成目標	①ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要について理解する☒ ②社会福祉士に求められる福祉サービスの組織と沿革、経営の視点と方法を理解する☒ ③福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論、労働者の権利等について理解する ④福祉サービスに求められる☒祉人材マネジメントについて理解する 単位認定の最低基準は、：「内容の８割を理解していること。」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	人間生活学科福祉コース	**成績評価 方法**	試験７０％、課題３０％
教科書	最新社会福祉士養成講座　1福祉サービスの組織と経営　一般社団法人日本ソーシャルワーク教育教育学校連盟編集　中央法規出版		
参考書	適宜指示する		
学生への要望	社会福祉施設や団体の概要とその運営について必要な理念や理論を理解してください。 また、人事管理、運営管理の必要性と理論について理解してください これらについて幅広い視点を持ち、テキスト以外の書物も活用し、知識を吸収してください		
オフィスタイム	月曜日Ⅳ時限、水曜日Ⅲ時限☒ 創学館4F、NO．6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業の進め方等について 不明な単語などの自主学習を行った発表や福祉・医療に関する組織の運営や経営について意見交換を行うなど、双方向型の授業を2回目以降適時行う。	「福祉サービスの組織と経営」についての概要を知る	30
2	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割①	・福祉サービスを提供する組織	・テキストで予習を行う☒ ・授業内容のポイントをまとめる	60
3	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割②	・福祉サービスの沿革と概要	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	60
4	福祉サービス係る組織や団体の概要と役割③	・組織間連携と促進	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
5	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論①	・組織運営に関する基礎理論	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
6	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論②	・集団の力学に関する基礎理論	・テキストにて予習する☒ ・授業のポイントをまとめる	60
7	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論③	・リーダーシップに関する基礎理論	・テキストにて予習する	60
8	福祉サービス提供組織の経営と実際①	・経営体制	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
9	福祉サービス提供組織の経営と実際②	・福祉サービスの提供組織のコンプライアンスとガバナンス	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
10	福祉サービス提供組織の経営と実際③	・適切な福祉サービスの経営管理	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
11	福祉サービス提供組織の経営と実際④	・情報管理	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
12	福祉サービス提供組織の経営と実際⑤	・会計管理と財務管理	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
13	福祉人材のマネジメント①	・福祉人材のマネジメント	・テキストにて予習する☒ ・課題を行う	60
14	福祉人材のマネジメント②	・福祉人材の育成	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
15	福祉人材のマネジメント③ まとめ	・働きやすい労働環境の整備 ・全体の振り返り	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60

令和3年度

科目名	権利擁護と成年後見制度	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 必修
担当教員	鈴木　康元		
開講期	後期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ 権利擁護の重要性と成年後見制度の実際及び更生保護制度について理解する☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ 人権や民法の基本知識を教え、成年後見制度等の実態も理解してもらう☒ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕☒ 成年後見制度、更生保護制度の概要の理解☒ 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕☒ 権利擁護の重要性と成年後見制度の実際及び更生保護制度について理解する☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ 人権や民法の基本知識を教え、成年後見制度等の実態も理解してもらう☒ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕☒ 成年後見制度、更生保護制度の概要の理解☒		
受講資格	人間生活学科福祉コース３年	**成績評価 方法**	ペーパーテスト(80%)と出席状況(20%)
教科書	その都度指定する☒ 配付資料		
参考書	その都度指定する☒ 配付資料		
学生への要望	積極的に授業に臨むこと		
オフィスタイム	授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室☒ 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	1　高齢者・障害者の人権と権利擁護	高齢者・障害者の人権と権利擁護	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	2　意思能力とは何か（民法の理解を含む）	意思能力とは何か（民法の理解を含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	3　相談援助活動と法（日本国憲法、民法の理解を含む）	相談援助活動と法（日本国憲法、民法の理解を含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	4　相談援助活動と法（行政法の理解を含む）	相談援助活動と法（行政法の理解を含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	5　成年後見制度とは何か（基本理解）	成年後見制度とは何か（基本理解）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	6　成年後見制度の運用実態（問題点も含む）	成年後見制度の運用実態（問題点も含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	7　日常生活自立支援及び成年後見制度利用支援事業について	日常生活自立支援及び成年後見制度利用支援事業について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	8　権利擁護に係る組織、団体の役割と実際（地方公共団体、社会福祉協議会、弁護士会等の役割）	権利擁護に係る組織、団体の役割と実際（地方公共団体、社会福祉協議会、弁護士会等の役割）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	9　権利擁護活動の実際	権利擁護活動の実際	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	10　刑事司法、少年法の基本理解	刑事司法、少年法の基本理解	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	11　更生保護制度の概要（その必要性）	更生保護制度の概要（その必要性）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	12　更生保護制度の担い手	更生保護制度の担い手	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	13　更生保護制度における関連機関・団体との連携	更生保護制度における関連機関・団体との連携	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	14　医療観察制度の概要	医療観察制度の概要	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	15　更生保護における近年の動向と課題	更生保護における近年の動向と課題	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	相談援助演習Ⅰ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択
担当教員	菊地　達美		
開講期	前期		
授業概要	個々人への総合的・包括的な支援や地域福祉の基盤整備、開発にかかる具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、援助場面を想定した実技指導を中心に授業を進める。☒ 実務経験：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務。		
達成目標	個々人への総合的・包括的な支援や地域福祉の基盤整備、開発にかかる具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、援助場面を想定した実技指導を中心に授業を進める。		
受講資格	人間生活学科福祉コース３年	**成績評価 方法**	支援計画書等の提出60点、演習姿勢40点
教科書	社会福祉士　相談援助演習　　中央法規☒ 及びプリント配布		
参考書	介護記録の書き方・読み方・生かし方　中央法規		
学生への要望	PCを使用し各種計画書を作成する。		
オフィスタイム	月曜ⅡorⅣ限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講　義	相談援助演習の概要	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	講　義	社会福祉サービス体制について(介護保険サービス)	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	講　義	社会福祉サービス体制について(障害者自立支援サービス)	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	演　習	対人援助における他者の理解	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	演　習	対象者と社会診断	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	演　習	他者の「思い」の理解	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	演　習	支援記録と実習記録	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	演　習	相談援助における面接の目的	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	演　習	インテーク面接のあり方	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	演　習	面接の基本と展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	演　習	要介護認定と障害程度区分認定について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	演　習	福祉サービス利用計画と個別支援計画作成	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	演　習	地域包括支援における支援計画	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	演　習	介護計画と地域密着型介護サービス	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	演　習	障害福祉計画と障害者自立支援協議会の役割	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	相談援助演習Ⅱ	**対象** **単位数** **必選**	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択
担当教員	菊地　達美		
開講期	後期		
授業概要	相談援助における多様性、分野別技術の演習を中心に行い応用能力を向上させ福祉サービス利用者の個別ニーズに柔軟性のある福祉サービス提供者としての専門性を高める。☒ 実務経験：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務。		
達成目標	相談援助における多様性、分野別技術の演習を中心に行い応用能力を向上させ福祉サービス利用者の個別ニーズに柔軟性のある福祉サービス提供者としての専門性を高める。		
受講資格	人間生活学科　　3年	**成績評価** **方法**	支援計画書の提出60点☒ 演習姿勢40点☒
教科書	社会福祉士　相談援助演習　　中央法規		
参考書	介護記録の書き方・読み方・生かし方　中央法規		
学生への要望	PCを使用し計画書の作成を行う		
オフィスタイム	月曜ⅡorⅣ限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講　義	地域生活支援のケアプランの特徴		0
2	講　義	施設ケアプランの特徴		0
3	演　習	地域の支援課題と住民による支援のコーディネーション		0
4	演　習	地域の支援課題と住民による支援のコーディネーション		0
5	演　習	心理社会的アプローチに関する相談支援		0
6	演　習	心理社会的アプローチに関する相談支援		0
7	演　習	入所施設ケアプランと相談支援について		0
8	演　習	入所施設ケアプランと相談支援について		0
9	演　習	触法と与刑者アプローチと相談支援		0
10	演　習	触法と与刑者アプローチと相談支援		0
11	演　習	見えないニーズと権利擁護支援		0
12	演　習	生活目標設定における相談支援		0
13	演　習	個別支援計画の作成		0
14	演　習	グループ支援計画の作成		0
15	演　習	支援会議とモニタリング		0

令和3年度

科目名	相談援助演習Ⅲ	**対象**	
担当教員	近内　直美,熊田　伸子	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択
開講期	前期	**必選**	
授業概要	①ソーシャルワークの理論、モデルの枠組みについて理解する。☒ ②人と環境とその相互作用について、ソーシャルワーカー固有の概念に基づいて理解する。☒ ③理論あるいはモデルに準拠して人と環境とその相互作用を理解し、実際の援助技術の活用について理解する。☒ 近内直美 地域包括支援センターでの社会福祉士の経験を活かし、実践に結びつく授業を行う。☒ 実務経験：郡山中央地域包括支援センター（所長・社会福祉士）☒ 課題やレポートは最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☒ ☒ 位置づけ・水準　HW2464		
達成目標	①ソーシャルワークの理論、モデルの枠組みを理解できたか。☒ ②人と環境とその相互作用について、ソーシャルワーカーとして理解し説明できるか。☒ ③理論あるいはモデルに準拠して人と環境とその相互作用を理解し、実際に援助技術を活用できるか。☒ 単位認定の最低基準は、：「内容の８割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	相談援助演習Ⅰ・Ⅱを修了していることを原則とする。	**成績評価方法**	演習への参加姿勢８０％、課題２０％
教科書	「社会福祉士　相談援助演習」第2版　中央法規		
参考書	適宜指示する。		
学生への要望	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。		
オフィスタイム	熊田：金曜日Ⅲ時限・Ⅳ時限　創学館４Ｆ　No.６研究室☒ 近内：月曜日Ⅳ時限・水曜日Ⅳ時限　創学館４Ｆ　No.６研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 近内	相談援助とは１☒ 2回目以降も含め、授業内容に応じて、ディスカッションを行うなど、双方向型の授業を行う	・相談援助を行う上で必要な振り返りを行う☒	15
2	オリエンテーション② 近内	相談援助とは２	・相談援助のポイントをテキストで振り返りをしておく☒ ・相談援助のついてポイントをまとめる	30
3	地域を基盤とした相談援助演習１ 近内	地域福祉計画の策定に関しての発表及び相談援助演習☒	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
4	地域を基盤とした相談援助演習１－② 近内	地域におけるサービス提供の発表及び相談援助演習	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
5	地域を基盤とした相談援助演習２ 近内	地域におけるネットワーキングにに関しての発表及び相談援助演習☒	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
6	地域を基盤とした相談援助演習２－② 近内	地域における権利擁護活動に関する発表及び相談援助演習	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
7	地域を基盤とした相談援助演習３ 近内	社会資源の把握、活用、調整、開発に関する発表及び相談援助演習☒	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
8	地域を基盤とした相談援助演習３－② 近内	住民参加と組織化活動に関する発表及び相談援助演習	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
9	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習１ 近内	医学モデル・社会モデル・生活モデルに関する発表及び相談援助演習☒	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習１－② 近内	ストレングスモデルに関する発表及び相談援助演習	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
11	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習２ 近内	心理社会的アプローチに関する発表及び相談援助演習☒	・不明な単語の意味を調べる☒ ・発表担当時には発表の準備を行う☒ ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
12	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習２－② 近内	問題解決アプローチに関する発表及び相談援助演習	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
13	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習３ 近内	危機介入アプローチに関する発表及び相談援助演習☒	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
14	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習３－② 近内	行動変容アプローチに関する相談発表及び援助演習	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
15	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習４ 近内	認知行動療法に関する発表及び相談援助演習☒	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
16	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習４－② 近内	エンパワメントアプローチに関する発表及び相談援助演習	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
17	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習５ 近内	ナラティブアプローチに関する発表及び相談援助演習☒☒	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
18	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習５－② 近内	家族システム論に関する発表及び相談援助演習	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
19	社会問題を基盤とした相談援助演習１ 熊田	社会的排除に関する発表及び相談援助演習①	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
20	社会問題を基盤とした相談援助演習１－② 熊田	社会的排除に関する発表及び相談援助演習②	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
21	社会問題を基盤とした相談援助演習２ 熊田	ミクロ・メゾ・マクロ実践に焦点を当てた発表及び相談援助演習①	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
22	社会問題を基盤とした相談援助演習２－② 熊田	ミクロ・メゾ・マクロ実践に焦点を当てた発表及び相談援助演習②	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
23	社会問題を基盤とした相談援助演習３ 熊田	サービス評価に関する発表及び相談援助演習☒	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
24	社会問題を基盤とした相談援助演習３－② 熊田	就労支援（障がい者）に関する発表及び相談援助演習	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
25	社会問題を基盤とした相談援助演習４ 熊田	就労支援（母子）に関する発表及び相談援助演習☒	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
26	社会問題を基盤とした相談援助演習４－② 熊田	病院からの退院に関する発表及び相談援助演習	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
27	社会問題を基盤とした相談援助演習５ 熊田	家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス：DV）に関する発表及び相談援助演習☒	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
28	社会問題を基盤とした相談援助演習５ー② 熊田	虐待についての発表及び相談援助演習	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
29	対象者別にみた相談援助演習 熊田	低所得者についての発表及び相談援助演習☒	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
30	対象者別にみた相談援助演習 熊田	高齢者（要介護者）とその家族についての発表及び相談援助演習	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30

令和3年度

科目名	介護の基本Ⅱ	**対象**	
担当教員	廣野　正子	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 4単位 選択
開講期	通年	**必選**	
授業概要	介護の基本Ⅱでは、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。☒ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、さらに最終授業で全体のフィードバックを行います。また、個々に演習課題に取り組み他者の発表をもとに再度、課題への多様な取り組みや方策を検討する。☒ 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護実践の基本について授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ ☒ 位置づけ・水準　DW2205		
達成目標	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。☒ ①多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解できるようにする。☒ ②介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できるようにする。☒ ③介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できるようにする。☒ 単位認定の最低基準： 介護従事者自身の健康管理について8割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	生活科学科　社会福祉専攻	**成績評価方法**	試験70%☒ 課題レポート30%
教科書	中央法規出版　最新　介護福祉士養成講座テキスト「介護の基本Ⅱ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	介護の一つひとつの行為には、根拠があります。行為が行われる意義を常に認識してください。		
オフィスタイム	・水曜日　Ⅱ時限　・木曜日　Ⅱ時限☒ 創学館４階　№１研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 介護福祉士を必要とする人の理解	介護の基本Ⅱ概略説明（評価方法）☒ 私たちの生活の理解	演習1-1私たちの生活の理解	60
2	介護福祉士を必要とする人の理解	演習1-1について発表、グループディスカッション 介護福祉を必要とする人たちの暮らし 1）介護福祉を必要とする人の「暮らし」を理解する 2）介護福祉を必要とする高齢者の暮らし	授業の中で指示されたことをまとめる	30
3	介護福祉士を必要とする人の理解	介護福祉を必要とする人たちの暮らし 3）介護福祉を必要とする障害者の暮らし 4）個人の暮らしや歴史を聴く場合の注意点	演習1-2介護福祉を必要とする人たちの暮らし	60
4	介護福祉士を必要とする人の理解	演習1-2について発表、グループディスカッション 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 1）「その人らしさ」とは何か 2）「その人らしさ」の背景 3）「その人らしさ」の介護福祉における活用	授業の中で指示されたことをまとめる	30
5	介護福祉士を必要とする人の理解	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 4）「生活ニーズ」の理解 5）個々の生活ニーズにどこまでこたえるか	授業の中で指示されたことをまとめる	30
6	介護福祉士を必要とする人の理解	生活のしづらさの理解とその支援 1）生活のしづらさについて考える 2）日常生活から考える「生活のしづらさ」	授業の中で指示されたことをまとめる	30
7	介護福祉士を必要とする人の理解	生活のしづらさの理解とその支援 3）「生活のしづらさ」に対する支援 4）家族介護者への支援	授業の中で指示されたことをまとめる	30
8	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは 1）高齢者のためのフォーマルサービスの概要 2）障害者のためのフォーマルサービスの概要	授業の中で指示されたことをまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）とは 1）費用負担による区分 2）フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係 3）インフォーマルサービスの種類・提供者 4）介護福祉士に求められる支援の視点	演習2-2生活を支えるインフォーマルサービス（視点サービス）とは	60
10	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	演習2-2について発表、グループディスカッション 地域連携 1）地域連携の意義と目的 2）地域連携にかかわる機関の理解 3）利用者を取り巻く地域連携の実際	授業の中で指示されたことをまとめる	30
11	介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護における安全の確保 1）介護福祉士の責務と安全の確保 2）介護の場におけるセーフティマネジメント	授業の中で指示されたことをまとめる	30
12	介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護における安全の確保 3）安全を重要視する組織風土の醸成 4）利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供を第一に考える	授業の中で指示されたことをまとめる	30
13	介護における安全の確保とリスクマネジメント	リスクマネジメントとは何か 1）尊厳のある暮らしの継続のためのリスクマネジメント 2）ルールや約束事を守ることの重要性 3）福祉サービスに求められる安全・安心	授業の中で指示されたことをまとめる	30
14	介護における安全の確保とリスクマネジメント	リスクマネジメントとは何か 4）事故防止のための対策 5）終わりに	演習3-1身体拘束の廃止について	60
15	介護における安全の確保とリスクマネジメント	演習3-1について発表、グループディスカッション 感染症対策 1）介護福祉職に必要な感染に関する知識 2）安全な薬物療法を支える視点・連携 3）終わりに	演習3-2感染予防のための観察ポイント	60
16	協働する多職種の機能と役割	演習3-2について発表、グループディスカッション 協働する多職種の機能と役割 1）多職種連携・協働とは 2）多職種連携・協働を要請する社会の働き 3）なぜ、多職種連携・協働が必要なのか	授業の中で指示されたことをまとめる	30
17	協働する多職種の機能と役割	協働する多職種の機能と役割 4）多職種連携・協働を阻むもの 5）多職種連携・協働の効果	演習4-1多職種連携・協働と社会の動きについて	60
18	協働する多職種の機能と役割	演習4-1について発表、グループディスカッション 多職種連携・協働に求められる基本的な能力 1）介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意味 2）多職種連携・協働のためのチームづくり 3）多様な視点と受容を必要とする協働 4）課題解決に対する多職種のかかわり	授業の中で指示されたことをまとめる	30
19	協働する多職種の機能と役割	多職種連携・協働に求められる基本的な能力 5）多職種協働を成功させるための介護技術と知識 6）多職種協働とホスピタリティ的視点 7）多職種協働に求められるコミュニケーション能力	演習4-2チームに備わっているべき要素について	60
20	協働する多職種の機能と役割	演習4-2について発表、グループディスカッション 保健・医療・福祉職の役割と機能 1）社会福祉士・介護支援専門員・医師・歯科医師・看護師・保健師・理学療法士・作業療法士	授業の中で指示されたことをまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
21	協働する多職種の機能と役割	保健・医療・福祉職の役割と機能 2）言語聴覚士・管理栄養士・栄養士・歯科衛生士 公認心理師・薬剤師・サービス提供責任者・まとめ	授業の中で指示されたことをまとめる	30
22	協働する多職種の機能と役割	多職種連携・協働の実際 1）専門職連携実践とは何か 2）多職種における地域での連携・協働 3）特別養護老人ホームの連携の実態調査から 4）自立支援介護における多職種連携の実際	授業の中で指示されたことをまとめる	30
23	介護従事者の安全	健康管理の意義と目的 1）健康の意義と目的 2）働く人の健康や生活を守る法制度 3）介護労働の特性と健康問題 4）介護に従事する人の健康問題	授業の中で指示されたことをまとめる	30
24	介護従事者の安全	健康管理の意義と目的 5）健康に働くための健康管理	授業の中で指示されたことをまとめる	30
25	介護従事者の安全	こころの健康管理 1）介護従事者にとってのこころの健康問題 2）ストレスとこころの健康	授業の中で指示されたことをまとめる	30
26	介護従事者の安全	こころの健康管理 3）こころの病気 4）職場で取り組むこころの健康管理	演習5-1ストレスの影響とこころの健康をよりよく保つための対処法について	60
27	介護従事者の安全	演習5-1について発表、グループディスカッション 身体の健康管理 1）介護従事者の身体の健康障害の現状	演習5-2腰痛予防のための注意点	60
28	介護従事者の安全	演習5-2について発表、グループディスカッション 労働環境の整備 1）労働環境について学ぶ意義 2）労働条件がかかわる労働環境 3）介護従事者の労働災害 4）労働環境の実際	授業の中で指示されたことをまとめる	30
29	介護従事者の心身の健康管理	アロマテラピーの意義 1）アロマテラピーと健康	授業の中で指示されたことをまとめる	30
30	介護従事者の心身の健康管理 介護の基本Ⅱ（まとめ）	アロマテラピーの活用 後期授業の補足と介護の基本Ⅱの総括	授業の中で指示されたことをまとめる	60

令和3年度

科目名	介護の基本Ⅲ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	廣野　正子		
開講期	通年		
授業概要	介護の基本Ⅲでは、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。☒ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、最終授業で全体のフィードバックを行います。 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護実践の基本について授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ 位置づけ・水準　DW2206		
達成目標	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を総合的に修得した成果として国家試験への合格率を確かなものにする。☒ ①対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、社会保障の制度、施策について基礎的な知識を理解でる。☒ ②介護の基本として、介護を実践する様々な場面に必要とされる介護の知識・技術を修得する。☒ ③介護の実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解する。☒ 単位認定の最低基準： 介護福祉士国家試験の過去問題について7割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科　社会福祉専攻	**成績評価 方法**	課題30％　定期試験70％
教科書	中央法規出版介護福祉士養成講座テキスト「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	授業での学びをもとに介護福祉士国家試験関係知識について、積極的に身に着けられるように自学・自習に励むこと。		
オフィスタイム	・水曜日　Ⅱ時限　・木曜日　Ⅱ時限☒ 創学館４階　№.１研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	「介護の基本Ⅲ」の学び方（評価方法）	人間の尊厳と介護について授業の中で指示されたことを調べてくる	30
2	人間の尊厳と介護	人間の尊厳と自立、介護における尊厳の保持・自立支援	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
3	人間関係とコミュニケーション	人間関係の形成、介護におけるコミュニケーションの基本	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
4	社会に必要な介護	生活と福祉、社会保障制度における介護	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
5	社会に必要な介護	介護保険制度と障害者自立支援制度における介護 介護実践に関連する諸制度	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
6	介護とコミュニケーション	介護場面における利用者・家族・チームのコミュニケーション	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
7	生活支援技術における介護の基本	自立支援における居住環境の整備、身支度の介護	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
8	生活支援技術における介護の基本	自立支援における移動・食事・入浴・清潔保持の介護	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
9	生活支援技術における介護の基本	自立支援における排泄・家事・睡眠の介護	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
10	生活支援技術における介護の基本	終末期の介護の基本	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
11	介護実践における介護過程	介護過程の意義と展開	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
12	介護実践における介護過程	介護過程の意義と展開実践とチームアプローチ	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
13	発達と老化の理解	人間の成長と発達の基礎的理解 老年期の発達と成熟	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	発達と老化の理解	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 高齢者と健康	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
15	前期のまとめ	前期授業の補足と確認	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
16	認知症の介護	認知症を取り巻く状況 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
17	認知症の介護	認知症介護への多職種連携と協働 家族への支援	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
18	障害の理解	障害の基礎的理解	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
19	障害の理解	障害者介護への多職種連携と協働 家族への支援	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
20	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみの理解 身支度に関連したこころとからだのしくみ	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
21	こころとからだのしくみ	移動・食事に関連したこころとからだのしくみ 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
22	こころとからだのしくみ	排泄・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 終末期のこころとからだのしくみ	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
23	介護と医療的ケア	喀痰吸引、経管栄養の基礎知識と介護実践	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
24	介護の基本Ⅲ（まとめ）	介護福祉士を取り巻く状況 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
25	介護の基本Ⅲ（まとめ）	尊厳を支える介護 自立に向けた介護	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
26	介護の基本Ⅲ（まとめ）	介護を必要とする人の理解 介護サービス	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
27	介護の基本Ⅲ（まとめ）	介護実践における連携 介護従事者の倫理	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
28	介護の基本Ⅲ（まとめ）	介護おける安全の確保とリスクマネジメント 介護従事者の安全	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
29	介護の基本Ⅲ（まとめ）	後期授業の補足と介護の基本Ⅲの総括	介護の基本の総括から、理解できていないところを確認し、国家試験に備える。	60
30	介護の基本Ⅲ（まとめ）	通年授業の補足と介護の基本Ⅲの総括	介護の基本の総括から、理解できていないところを確認し、国家試験に備える。	60

令和3年度

科目名	生活支援技術A	**対象**	
担当教員	廣野　正子,	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択
開講期	前期	**必選**	

授業概要	生活支援とはなにかを理解し、生活での「動く」ことは生きることの基本であり、暮らしを支えるために不可欠な移動や移乗の動きを支援する技術を体験的に学ぶ。また、身じたくの意義・目的を理解するとともに、利用者の状態や状況に応じて安全で自立・自律を尊重した、満足の得られる身じたくの介護について学ぶ。基本的な技術を実践するなかで、身体状況に合わせた方法をその都度ディスカッションしながら方法の検討を通して身につける。☒ 　課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、実技試験の結果を個々にフィードバックを行います。☒ ＜授業担当者＞☒ 第 1回～第16回：廣野担当☒ 　実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームの相談援助の実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。☒ 　実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。☒ 第17回～第30回：茂木担当☒ 　実務経験：看護職としての実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。☒ 　実務経歴：福島県立医科大学附属病院において、看護師として看護業務に従事。☒ 【履修カルテの評価項目】☒ ①対象者の機能など状態に合わせ能力を活用・発揮し自立支援するための方法が実践できたか☒ ②移動の介護は日常生活を送るうえで基本となる動作を支える介護であることが理解できたか☒ ③身じたくに関する生活習慣と装う楽しみのための知識と技術を理解できたか☒ ☒ 位置づけ・水準　HW2107
達成目標	「移動」「身じたく」における生活支援技術の根拠と、知識・技術の基礎から応用まで学び、現場での実践で活用できる能力を身につける。また、利用者の心身状態を理解し、どのような状態であっても尊厳と自律・自立を考慮した、個別に対応できる能力を修得する。☒ ①「移動」の意義と目的について理解し、基本的な「移動」支援技術を修得し実践できる。☒ ②「身じたく」の意義と目的について理解し、基本的な「身じたく」支援技術を修得し実践できる。☒ ③身体機能、こころの状態に合わせたコミュニケーションを活用して支援することができる。☒ 単位認定の最低基準： 生活支援の意義とその技術について8割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力

受講資格	人間生活学科福祉コース	**成績評価方法**	実技50% 定期試験50％
教科書	中央法規出版☒ 介護福祉士養成講座テキスト☒ 「生活支援技術」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
参考書	授業の中で、随時紹介		
学生への要望	自学・自習に励み技術ついては確実に身につけ、介護実習で実践できるようにしておくこと。		
オフィスタイム	・水曜日　Ⅰ時限　・木曜日　Ⅰ時限☒ 創学館４階№１研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・生活の理解と生活支援の考え方	①授業概要の説明及び留意点☒ ②生活支援の考え方 ③生活文化、ライフヒストリーなど生活様式の違い	学生自身の生活文化、生活の中での自己決定、生きがいについて発表できるようにまとめる	30
2	ガイダンス・生活の理解と生活支援の考え方	☒「生活支援技術」を学ぶことの意義について ⑤自己決定の支援、楽しみや生きがいの支援の理解 ⑥生活支援に活かすICF ⑦ボディメカニクスを理解した介助 ☒	一日の日常生活で移動場面、移動回数、移動時間をチェックしまとめる。	30
3	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護（体位変換）	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護について学ぶ。 ①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②体位変換を状態（自立度が高い、一部介助が必要、全介助が必要）に合わせた介助方法 ③介護支援ロボットを着用しての介助	体位変換の一連の支援方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
4	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護（安楽な体位）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②安楽な体位と保持　③褥瘡の予防について ④自立に向けた「移動」に関する道具・用具等の福祉機器（リフターなど）について ⑤介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業での起居動作、姿勢保持についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	移動・移乗の介護の基本（起居動作）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②起居動作の介助 ③姿勢の保持（ポジショニング） ④介護支援ロボットを着用しての介助	起居動作、姿勢保持の一連の支援方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
6	移動・移乗の介護の基本（起居動作）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②起居動作の介助 ③姿勢の保持（ポジショニング） ④介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業での車いす操作についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。	30
7	移動・移乗の介護の基本（車いす介助）	①車いすの基本構造　②車いす介助におけるアセスメントの視点　③ベッドから車いすへの介助法　④車いすからベッドへの介助法　⑤車いす介助法（段差越え、階段の昇降、エレベーター）⑥スライディングボード、リフターなど、車いす移動に関する福祉機器について学ぶ。⑦介護支援ロボットを着用しての介助	車いすの支援方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
8	移動・移乗の介護の基本（車いす介助）	①車いすの基本構造　②車いす介助におけるアセスメントの視点　③ベッドから車いすへの介助法　④車いすからベッドへの介助法　⑤車いす介助法（段差越え、階段の昇降、エレベーター）⑥スライディングボード、リフターなど、車いす移動に関する福祉機器について学ぶ。⑦介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業での歩行介助についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。	30
9	移動・移乗の介護の基本（歩行介助）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②平地歩行介助、段差越え、階段の昇降、などについて自立度の高い人、一部介助の必要な人、全介助の必要な人について ③歩行器、四点杖など、歩行に関する福祉機器について学ぶ。 ④介護支援ロボットを着用しての介助	歩行介助の一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
10	移動・移乗の介護の基本（歩行介助）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②平地歩行介助、段差越え、階段の昇降、などについて自立度の高い人、一部介助の必要な人、全介助の必要な人について ③歩行器、四点杖など、歩行に関する福祉機器について学ぶ。 ④介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業でのベッドから車いすへの介助についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。	60
11	移動・移乗の介護の基本（ベッドから車いすへの介助）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②ベッド上にて、起居動作 ③ベッドから車いすへ介助 ④安全にな車いす介助 ⑤介護支援ロボットを着用しての介助	ベッドから車いす介助の一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
12	移動・移乗の介護の基本（ベッドから車いすへの介助）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②ベッド上にて、起居動作 ③ベッドから車いすへ介助 ④安全にな車いす介助 ⑤介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業での感覚機能低下に配慮した介助についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。	30
13	状態に応じた移動の介護	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②感覚機能低下（視覚、聴覚、等）に配慮した移動の介護について学ぶ。☒	感覚機能低下に配慮した一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
14	状態に応じた移動の介護	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②運動機能低下（肢体不自由者、等）に配慮した移動の介護について学ぶ。	運動機能低下に配慮した一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
15	移動の介護（まとめ）	移動の支援技術に関する実技試験と解説。移動の介護について授業の補足	一連の移動の支援技術について、学生自身が指摘されたことを踏まえ十二分に実行できるように練習する。	30
16	移動の介護（まとめ）	移動の支援技術に関する実技試験と解説。移動の介護について授業の補足	一連の移動の支援技術について、学生自身が指摘されたことを踏まえ十二分に実行できるように練習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
17	自立に向けた身じたくの介護	①身じたく（整容、口腔ケアを含む）を整えることの意義と目的について学ぶ。 ②ICFの視点に基づく身じたくに関する利用者のアセスメントの仕方について学ぶ。	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容につては練習を重ね実行できるようにする。	30
18	自立に向けた身じたくの介護	①ICFの視点に基づく身じたくに関する利用者のアセスメントの仕方について学ぶ。 ②整容の介助「洗顔」	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
19	自立に向けた身じたくの介護	整容の介助 「整髪・爪の切り・髭剃り」	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容につては練習を重ね実行できるようにする。	30
20	自立に向けた身じたくの介護	①整容の介助「爪切り・耳の清潔・化粧」 ②口腔ケア　DVD『歯周病』	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
21	自立に向けた身じたくの介護	①口腔ケアの意義及び目的 ②ICFの視点から見た口腔ケアのアセスメント	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容につては練習を重ね実行できるようにする。	30
22	自立に向けた身じたくの介護	①口腔ケアの方法、口腔ケア用具の紹介 ②歯ブラシによるケア法、口腔清拭法	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
23	自立に向けた身じたくの介護	①義歯の清掃 ②障害に応じた口腔ケア（片麻痺、認知症） ③口腔ケアの介助の実際	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容につては練習を重ね実行できるようにする。	30
24	自立に向けた身じたくの介護	整容に関する練習問題 まとめ	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
25	自立に向けた身じたくの介護	①衣類、寝具の管理 ②衣服着用の目的 ③衣類の種類と選択の視点	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容につては練習を重ね実行できるようにする。	30
26	自立に向けた身じたくの介護	①ICFの視点から見た衣服着脱 ②衣類の着脱介助の実際	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
27	自立に向けた身じたくの介護	衣類の着脱介助の実際（和式、前あき、かぶり）	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容につては練習を重ね実行できるようにする。	30
28	自立に向けた身じたくの介護	衣類の着脱介助の実際（和式、前あき、かぶり）	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
29	自立に向けた身じたくの介護	実技テストに向けた練習	実技テストで指摘されたことを踏まえて、復習する。	30
30	自立に向けた身じたくの介護	実技テスト（個別にフィードバック） 身じたくについて復習（練習問題）	国家試験過去問について復習する。	30

令和3年度

科目名	生活支援技術B	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
担当教員	藤田　京子		
開講期	後期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ☒ ①食事は生活の満足度に大きな影響を与えることを理解し、利用者の健康維持、楽しみを支える支援に関する技術を身につける。☒ ②排泄に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。また、個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助方法について身につける。☒ ③介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☒ ＜授業担当＞☒ 第1回～第16回　：藤田担当☒ 実務経験：医療機関に勤務した経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 ☒ 第17回～第30回 ：茂木担当 実務経験：看護職としての実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。 実務経歴：福島県立医科大学付属病院において、看護師として看護業務に従事。 ☒ 課題に対するフィードバック☒ 演習を通して適宜解説する。また、実技試験を実施し、フィードバックする。☒ ☒ 位置づけ・水準　HW2208☒		
達成目標	【到達目標】☒ ①「食事」や「排泄」に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。また、個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助方法が理解できる。☒ ②介護福祉士国家試験に必要な知識の習得。☒ ☒ 単位認定の最低基準：個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助方法が7割理解できる。☒ ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、理論的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	生活科学科の学生	**成績評価 方法**	試験(筆記・実技）90%、レポート10%
教科書	介護福祉士養成講座テキスト☒ 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」☒ プリント配布		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと☒ 授業を欠席しないこと		
オフィスタイム	藤田：月・水曜日　14時30分～16時　家政学館4階　被服学研究室☒ 茂木：授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・排泄の意義と目的 藤田	①授業内容に関する説明。☒ ②排泄の意義・目的☒ ③排泄のメカニズム☒	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
2	排泄の意義と目的 藤田	①自立に向けた排泄介助について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
3	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
4	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	60
5	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
7	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助のし方について学ぶ。④陰部洗浄について	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
8	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助のし方について学ぶ。④陰部洗浄について	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	30
9	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助のし方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
10	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助のし方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	30
11	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
12	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
13	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。　実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	30
14	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。　実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	30
15	自立に向けた排泄の介護 藤田	尿失禁について学ぶとともに、尿失禁時の適切な援助法について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
16	自立に向けた排泄の介護 藤田	尿失禁について学ぶとともに、尿失禁時の適切な援助法について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	60
17	ガイダンス・食事に関する介護の役割　　茂木	1．授業概要の説明 2．食事の意義と介護者の役割	今回の内容について復習する。	30
18	食事に関する介護の役割 茂木	1．食事の意義と介護者の役割 2．消化・吸収のメカニズム	今回の内容について復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
19	自立に向けたの介護 茂木	食事のアセスメント：ICFの視点から利用者の全体像をアセスメントし、適切な食事介助の技法を考え、実践できる。	今回の内容について復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
20	自立に向けた食事の介護 茂木	1．高齢者の特性 2．加齢による心身機能の低下が食事に及ぼす影響（感覚機能の低下、姿勢保持の変化、嚥下機能の低下、等）	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
21	ガイダンス・食事に関する介護の役割　　茂木	食事摂取の基本的な知識： 1（1）食行為のメカニズム （2）口腔ケア、口腔体操、唾液腺マッサージの意義及び目的について学ぶ。☒	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
22	自立に向けた食事の介護 茂木	誤嚥の予防と対応： （1）誤嚥しやすい食物、誤嚥しにくい食物（サンプルを用いて説明） （2）誤嚥の徴候と対応、誤嚥の予防	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
23	自立に向けた食事の介護 茂木	安全な食事介助の技法： （1）座位やベッド上での姿勢のとり方 （2）視覚障害のある人の食事介助の留意点	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
24	自立に向けた食事の介護 茂木	1．食事に関する福祉用具の説明と紹介 2．片麻痺のある人の食事介助の実際	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
25	自立に向けた食事の介護 茂木	1．視覚障害のある人の食事介助の実際 2．ベッド上での食事介助の実際	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
26	自立に向けた食事の介護 茂木	1．認知症のある人の食事介助の実際	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
27	自立に向けた食事の介護 茂木	食事介助の実技試験と解説	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
28	自立に向けた食事の介護 茂木	食事介助の実技試験と解説	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
29	自立に向けた食事の介護 茂木	国家試験対策としての課題学習と解説	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
30	食事の介助における他職種との連携　茂木	1．食事介助における他職種連携の必要性 2．他職種の役割と介護職との連携	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30

令和3年度

科目名	生活支援技術C	**対象**	
担当教員	廣野　正子,藤田　京子	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択
開講期	前期	**必選**	

授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ ①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための「入浴・清潔保持」「人生の最終段階」に関する生活支援技術の基礎を演習を通して体験し習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。☒ ②人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する。☒ ③緊急時の対応を理解する☒ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 〈授業担当〉☒ 藤田担当☒ 実務経験：医療機関での臨床経験を活かし授業を行う。☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☒ 廣野担当☒ 実務経験：社会福祉法人での介護職員と相談援助の実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人に介護福祉士として介護業務と生活相談員として勤務☒ ☒ 課題に対するフィードバック☒ 1適宜、確認テスト（ペーパーや実技）を実施し、解説をして振り返る。☒ 位置づけ・水準　DW2213
達成目標	〔授業終了時の到達目標〕　☒ ①「入浴・清潔保持」「人生の最終段階」に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。☒ ②個人のプライバシー保持と利用者の尊厳を守る援助法について学ぶ。☒ ③終末期におけるチームケアの実践について理解する。☒ ④緊急時の対応を理解する☒ ⑤介護福祉士国家試験に必要な知識を習得する。☒ ☒ 単位認定の最低基準：個人のプライバシー保持と利用者の尊厳を守る援助法について7割理解できる。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任☒ ☒ 【履修カルテの評価項目】☒ ①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための「入浴・清潔保持」「人生の最終段階」に関する生活支援技術の基礎を習得する。 また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。☒ ②人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する。

受講資格	生活科学科　社会福祉専攻	**成績評価方法**	試験（筆記・実技）70%☒ レポート30%
教科書	中央法規出版☒ 介護福祉士養成講座テキスト☒ 「生活支援技術」Ⅰ・Ⅱ		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で取り組むこと☒ 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	廣野：創学館№１研究室　水曜日　Ⅰ・Ⅱ限☒ 藤田：家政学館4階　被服学研究室　月・水曜日　Ⅳ限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 人生の最終段階における介護 藤田	授業の内容等についての説明 演習：人生の最終段階の意義について☒ 映像等を用いて考察する	今回実施した内容の概要と感想を記載し提出する。	30
2	人生の最終段階における介護 藤田	演習：人生の最終段階の意義について☒ 映像等を用いて考察する	今回実施した内容の概要と感想を記載し提出する。各家の宗派や埋葬について調べる。	30
3	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階の意義と介護の役割☒	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
4	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階の意義と介護の役割☒ 映像による考察	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
5	人生の最終段階における介護 藤田	☒生の最終段階におけるアセスメントの視点	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
6	人生の最終段階における介護 藤田	☒生の最終段階におけるアセスメントの視点	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	人生の最終段階における介護 藤田	演習 ①終末期患者の意思決定を支える 患者の排泄行動に対する思いに沿った事例について考察する	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
8	人生の最終段階における介護 藤田	演習 ①人生の最終段階における意思決定のあり方についてまとめる ②人生の最終段階におけるアセスメントの視点についてまとめる	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。 グリーフケアの必要性についてまとめる。	30
9	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階における介護 ①死を迎える人の介護☒ ②死を迎えた人の介護☒ ③亡くなった後の介護☒	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
10	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階における介護技術☒ ①死を迎える人の介護☒ ②死を迎えた人の介護☒ ③亡くなった後の介護☒ 演習	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
11	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階の介護における多職種の役割と協働	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
12	人生の最終段階における介護 藤田	①人生の最終段階における多職種の必要性☒ ②他の職種の役割（かかわり方）	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
13	緊急時の介護 藤田	①想定される事故と予防の視点☒ ②応急手当とは	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
14	緊急時の介護 藤田	応急処置・緊急時の対応の実際	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
15	人生の最終段階における介護及び緊急時の介護　藤田	全体的な授業の補足及び確認	これまでのの内容を見直し、定期手テストに向け学習する。	30
16	人生の最終段階における介護及び緊急時の介護　藤田	全体的な授業の補足及び確認	これまでのの内容を見直し、定期手テストに向け学習する。	60
17	清潔保持の意義と目的 廣野	①授業内容に関する説明。☒ ②清潔保持の意義と目的に関して、生理的、心理的、社会的な側面から理解する。　☒	今回実施した内容を復習する。	30
18	清潔保持の意義と目的 廣野	①清潔保持の意義と目的に関して、生理的、心理的、社会的な側面から理解する。　☒ ②ICFの視点から、入浴介助が必要な利用者のアセスメントの視点について学ぶ。	今回実施した内容を復習する。	30
19	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	「入浴・清潔保持」を行う上で、爽快感・安楽を実感できる介護を提供するための環境づくりと介護上の工夫について学ぶ。	今回実施した内容を復習する。	30
20	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	「入浴・清潔保持」を行う上で、爽快感・安楽を実感できる介護を提供するための環境づくりと介護上の工夫について学ぶ。	今回実施した内容を復習する。	30
21	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	介護を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
22	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	介護を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
23	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として①一般浴、②シャワー浴、③機械浴について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
24	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として①一般浴、②シャワー浴、③機械浴について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
25	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として全身清拭について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
26	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として全身清拭について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
27	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として部分浴（手浴・足浴）について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
28	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として部分浴（手浴・足浴）について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
29	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	全体的な授業の補足及び「清潔」に関する確認。	「入浴・清潔保持」について教科書等で振り返る。	30
30	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	全体的な授業の補足及び「清潔」に関する確認。	「入浴・清潔保持」について教科書等で振り返る。	60

令和3年度

科目名	生活支援技術D	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	藤田　京子		
開講期	後期		

授業概要	[授業の目的・ねらい]☒ ①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について学ぶ。☒ ②住まいの役割と機能や高齢者・障害者の住まいについて理解する。☒ ③「睡眠・休息」「居住環境の整備」における多職種の役割と協働について理解する。☒ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☒ [授業全体の内容の概要]☒ ①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について学ぶ。☒ ②住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。☒ 実務経験：医療機関での臨床経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。☒ ☒ 課題に対するフィードバック☒ ・演習等を通し適宜解説する。☒ ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☒ ☒ 位置づけ・水準　HW2110 ☒ ☒ ☒ ☒
達成目標	[授業終了時の到達目標]　☒ ①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解する。☒ ②住まいの役割と機能や高齢者・障害者の住まいについて理解する。☒ ③「睡眠・休息」「居住環境の整備」における多職種の役割と協働について理解する。☒ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☒ ☒ 単位認定の最低基準：☒ ・健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について7割理解する。☒ ・住まいの役割と機能や高齢者・障害者の住まいについて7割理解する.☒ ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力☒ ☒ [履修カルテの評価項目]☒ ①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解する。☒ ②住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。

受講資格	生活科学科福祉コースの学生	**成績評価方法**	試験（筆記・実技）60%、レポート40%☒
教科書	中央法規出版☒ 「生活支援技術」		
参考書	授業の中で随時、紹介		
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと。☒ 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	水・木曜日　14時30分～16時 家政学館4階　被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	休息・睡眠時の介護	①ガイダンス・授業内容の説明☒ ②休息・睡眠とは	シラバスを確認する。今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
2	休息・睡眠時の介護	睡眠負債について映像を通して考察する	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
3	休息・睡眠時の介護	睡眠の介護に関して、安楽な姿勢について学ぶ（実習室）	演習を実施しての感想をまとめる。次回の内容を教科書で確認する。	60
4	休息・睡眠時の介護	安眠が得られるための環境づくりと、ベッドメーキングについて学ぶ	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
5	休息・睡眠時の介護	休息・睡眠の介護 ベットメーキング実技テスト	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
6	休息・睡眠時の介護	休息・睡眠の介護 ベットメーキング実技テスト	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
7	休息・睡眠時の介護	①多職種連携☒ ②これまでの授業内容に関する補足と確認	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
8	居住環境の整備	住まいの役割と機能☒ 生活空間の構成	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	居住環境の整備	快適な室内環境について教科書を参照し考察する	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	60
10	居住環境の整備	快適な室内環境について教科書を参照し考察する	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	60
11	居住環境の整備	安全に暮らすための生活環境 高齢者・障がい者の住まいについてまとめる	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
12	居住環境の整備	居住環境の整備における他職種の役割と協働 高齢者の住まいの課題を考察する（資料）	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
13	居住環境の整備	高齢者の住まいの課題を考察する（映像）	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
14	居住環境の整備	高齢者の住まいの課題を考察する（GW）	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
15	総括	これまでの授業内容に関する補足と確認。	定期テストに向けた学習を行う。	60

令和3年度

科目名	介護過程Ⅰ	**対象**	
担当教員	藤田　京子	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 必修
開講期	前期	**必選**	
授業概要	[授業の目的・ねらい]☒ ①介護過程とは、生活支援の考え方と介護過程の必要性を理解する☒ ②介護過程の理解☒ 介護過程の展開（情報収集・アセスメント・介護計画・介護計画の実施・評価）を学ぶ介護実践における☒ [事業全体の内容の概要]☒ 介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する内容とする。　☒ ☒ 実務経験：看護師として医療現場で勤務した経験をいかし介護過程の展開の必要性を指導する。☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。　☒ ☒ 課題に対するフィードバック☒ ・事例についてのアセスメントを実施後、内容を解説していく。☒ ☒ 位置づけ・水準　HW2111		
達成目標	＜授業終了時の到達目標＞☒ ①介護過程とは、生活支援の考え方と介護過程の必要性を理解する。☒ ②介護過程の理解☒ 介護過程の展開（情報収集・アセスメント・介護計画・実施・評価）のプロセスと留意点を理解する。☒ ☒ 単位認定の最低基準：介護過程とは、生活支援の考え方と介護過程の必要性を7割理解する。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力☒ ☒ [履修カルテの評価項目]☒ 介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解できたか		
受講資格	福祉コースの学生	**成績評価方法**	筆記試験70％、課題30％
教科書	新・介護福祉士養成講座９『介護過程』　☒ 中央法規		
参考書	特になし		
学生への要望	実習を行う上でも重要な科目なので、介護過程の展開の基本的視点を確実に修得してください。		
オフィスタイム	水・木曜日　Ⅲ・Ⅳ時限☒ 本館１階保健室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	介護過程の意義と基礎的理解	・ガイダンス・授業内容の説明☒ ・介護過程のとは	シラバスの内容を把握する 今回の内容について見直しを行う	30
2	生活支援の考え方と介護過程の必要性	・介護過程と生活支援☒ ・生活支援における介護過程の意義☒ ・演習	今回の内容について復習する。	30
3	介護過程の理解	・介護過程の目的と構成☒ ・考える介護のイメージ	今回の内容について復習する。	30
4	介護過程の理解	・根拠に基づく介護過程の展開	今回の内容について復習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	介護過程の理解	・情報収集（傾聴・質問の技法）☒ ・情報収集の方法（ICFモデルの活用）☒	今回の内容について復習する。 ☒ 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
6	介護過程の理解	・アセスメントとは☒ ・介護過程のおけるアセスメントの重要性	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
7	介護過程の理解	・介護過程におけるアセスメントの重要性☒ 演習	今回の内容について復習する。 ☒ 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
8	介護過程の理解	演習・アセスメントの実際（事例から）	今回の内容について復習する。 ☒ 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
9	介護過程の理解	演習・アセスメントの実際（事例から）	今回の内容について復習する。 ☒ 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
10	介護過程の理解	演習・アセスメントの実際	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
11	介護過程の理解	・介護過程の立案☒ ☒	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
12	介護過程の理解	・介護の実施☒ ・実施の際の留意点	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
13	介護過程の理解	・評価☒ ・評価における留意点	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
14	介護過程の理解	・評価を踏まえた介護計画の修正	今回の内容について復習する。	30
15	総括	・これまでの授業内容の補足および確認	これまでの内容を見直し、定期テストに向け学習する。	60

令和3年度

科目名	介護過程Ⅱ	**対象**	
担当教員	近内　直美	**単位数**	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 1単位 選択
開講期	後期	**必選**	
授業概要	介護過程の展開方法の理解をもとに、実習の体験を踏まえ個別の生活支援のあり方を考え,事例を基に個別援助計画を作成し、学生相互の発表を通して個別援助計画作成の基本を理解する。☒ ☒ポート等は最後の授業でフィードバックを行います。☒ 特別養護老人ホームでの勤務経験を活かし、事例などを組み入れながら実践に役立つ授業を行います。☒ 実務経験：社会福祉法人笑風会　事業部長☒ ☒ 位置づけ・水準　HW2212		
達成目標	目標は介護過程実習Ⅰ－２で介護過程の各様式に情報を整理して記載できるようにする。さらにアセスメント力を身に付ける。☒ 単位認定の基準は：「内容の7割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力		
受講資格	人間生活学科　福祉コース	**成績評価方法**	演習３０％、課題７０％
教科書	最新介護福祉士養成講座　９介護過程　編集介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	・介護実習Ⅰ－２に向けて、介護過程の展開方法を確実に実践できるように理解してください。☒ ・グループワークや発表を中心に行うため、積極的に参加してください。		
オフィスタイム	近内：水曜日Ⅰ・Ⅱ時限・時限　創学館４Ｆ　№６研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	介護過程の基本確認	介護過程Ⅰの振り返りと介護過程Ⅱの進め方などについて理解する☒ ・2回目以降演習やグループワークなどを適宜取り入れ、双方向型の授業を行う	・介護過程Ⅰを振り返るとともに、介護過程Ⅱで行う授業概要を理解する	15
2	介護過程の実践的展開１	ＩＣＦモデルについて理解する ・ＩＣＦモデルとは何かを理解する ・事例により、考え方を理解する	・ＩＣＦとは何かを予習する ・授業のポイントをまとめる	30
3	介護過程の実践的展開２	事例によりＩＣＦモデルの活用方法を理解する ・ＩＣＦのアセスメント項目を理解し、事例から記載の仕方を学ぶ	・テキストで予習する☒ ・授業で事例を通して学んだことを整理する	30
4	介護過程の実践的展開３	事例によりＩＣＦモデルを活用した情報の整理を行う ・アセスメント表への記載の仕方を理解し、記載する	・ＩＣＦのアセスメントの整理の方法を予習する ・授業で行った事例をまとめ振り返る	30
5	介護過程の実践的展開４	事例によりＩＣＦモデルを活用した情報の整理を行う ・アセスメント表へ記載する	・テキストで予習する☒ ・統合化の必要性、その方法をまとめる☒	30
6	介護過程の実践的展開５	「課題の統合化」を事例を通して行う ・介護計画書の書き方を理解し、課題の統合化を行う	・テキストで課題の抽出について予習する ・授業で行った内容を自分の考えとしてまとめる	30
7	介護過程とケアマネジメント１	介護過程とケアマネジメントの関係性を理解する☒ ・ケアマネジメントとは何かを理解する☒ ・ケアプランとは何かを理解する☒ ・ケアプランと個別援助計画の関係性を理解する	・ケアマネジメントとは何かの予習をする☒ ・課題を行う	90
8	介護過程とケアマネジメント２	チームアプローチにおける介護福祉士の役割を理解する ・チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性を理解する ・チームアプローチにおける利用者支援の実際を理解する	・テキストで予習する☒ ・授業を振り返りまとめる	30
9	介護過程の展開	フェイスシート、アセスメント表の項目意義について振り返る 個別援助計画書・実施評価表・意義を振り返る	・テキストで予習する ・授業のポイントをまとめる	30
10	介護過程の展開	フェイスシート、アセスメント表へ記載する	・テキストで予習する ・アセスメント表１・２を仕上げる	30
11	介護過程の展開	フェイスシート、アセスメント表へ記載する	・テキストで予習する ・授業のポイントをまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	介護過程の展開	課題の抽出を行い、必要な支援を組み立てる	・授業のポイントや留意点を振り返る	30
13	介護過程の展開	個別援助計画書を作成する	・授業のポイントや留意点を振り返る	45
14	介護過程の展開	個別援助計画書を作成する	・個別援助企画書を完成させる	45
15	介護過程の展開	作成した個別援助計画書について意見を発表する	・授業のポイントや留意点を振り返りまとめる	45

令和3年度

科目名	介護過程Ⅲ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	近内　直美,熊田　伸子		
開講期	前期		
授業概要	介護実習Ⅰ－２での介護過程の展開を基に、フェイスシート、アセスメント表１、アセスメント表２、個別援助計画書・実施評価表の作成とパワーポイントにまとめ発表する。発表に対して毎回のディスカッションを通して不足している情報や伝わる文章表現などを検討し各自の介護過程の展開をまとめる。☒ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、事例発表について個別にフィードバックを行います。☒ 廣野☒ 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護過程の実践について授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ ☒ 位置づけ・水準　DW2217		
達成目標	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う問題解決の思考課程を習得する。また、介護過程の展開事例から適切な評価ができるための視点を身につける。☒ 単位認定の最低基準：対象者の状態や状況を分析し、本人の望む生活課題について8割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科　社会福祉専攻	**成績評価 方法**	課題演習70％　発表30％
教科書	中央法規出版　最新　介護福祉士養成講座テキスト　「介護過程」		
参考書	授業の中で、随時紹介		
学生への要望	自学・自習に励み発表では疑問、質問に対しいての応答と他者の発表には積極的に質問を発言できるようにする。		
オフィスタイム	熊田：創学館4階№6研究室　火曜日1時限・金曜日3時限 廣野：創学館4階№１研究室　水曜日Ⅰ時限・木曜日Ⅰ時限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・介護実習の情報整理①　熊田・廣野	①授業の概要について説明	介護実習Ⅰ-２で実施した、介護過程の展開関係の資料を確認し整理する。	60
2	介護実習の情報整理②　熊田・廣野	②介護実習での介護過程実践事例からの情報整理	介護実習Ⅰ-２で実施した、介護過程の展開関係の資料を確認し整理する。	60
3	介護実習の情報整理③　熊田・廣野	介護実習での介護過程実践事例からの情報整理	介護実習Ⅰ-２で実施した、介護過程の展開関係の資料を確認し整理する。	60
4	介護実習の情報整理④　熊田・廣野	介護実習での介護過程実践事例からの情報整理	介護実習Ⅰ-２で実施した、介護過程の展開関係の資料を確認し整理する。	60
5	介護過程の展開①　熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのフェイスシート、アセスメント表１、アセスメント表２、個別援助計画書・実施評価表の作成	発表にむけて資料の作成をおこなう。	60
6	介護過程の展開②　熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのフェイスシート、アセスメント表１、アセスメント表２、個別援助計画書・実施評価表の作成	発表にむけて資料の作成をおこなう。	60
7	介護過程の展開③　熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのパワーポイントを作成	発表にむけてのパワーポイントの作成をおこなう。	60
8	介護過程の展開④　熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのパワーポイントを作成	発表にむけてのパワーポイントの作成をおこなう。	60
9	介護過程の展開⑤　熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのパワーポイントを作成	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
10	介護過程の展開⑥　熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのパワーポイントを作成	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
11	介護過程の展開⑦　熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのパワーポイントを作成	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	介護過程の展開⑧ 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのパワーポイントを作成	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
13	発表①（3名） 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
14	発表②（2名） 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
15	発表③（３名） 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
16	発表④（２名） 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
17	発表⑤（2名） 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
18	発表⑥（2名） 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
19	介護過程の評価① 熊田・廣野	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
20	介護過程の評価② 熊田・廣野	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
21	介護過程の評価③ 熊田・廣野	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
22	介護過程の評価④ 熊田・廣野	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
23	介護過程の評価⑤ 熊田・廣野	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
24	介護過程の評価⑥ 熊田・廣野	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
25	最終発表① 熊田・廣野	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。☒ 発表事例を基にディスカッション	本日のディスカッションを踏まえ、パワーポイントの修正・変更をする。	60
26	最終発表② 熊田・廣野	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。☒ 発表事例を基にディスカッションをする。	本日のディスカッションを踏まえ、パワーポイントの修正・変更をする。	60
27	最終発表③ 熊田・廣野	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。☒ 発表事例を基にディスカッションをする。	本日のディスカッションを踏まえ、パワーポイントの修正・変更をする。	60
28	最終発表④ 熊田・廣野	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。☒ 発表事例を基にディスカッションをする。	本日のディスカッションを踏まえ、パワーポイントの修正・変更をする。	60
29	最終発表⑤ 熊田・廣野	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。☒ 発表事例を基にディスカッションをする。	本日のディスカッションを踏まえ、パワーポイントの修正・変更をする。	60
30	最終発表⑥ 介護過程Ⅲ（まとめ） 熊田・廣野	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。 発表事例を基にディスカッションをする。 介護過程の展開についての実践的な理解度を確認する	授業の中で指示されたことにつてまとめる。	60

令和3年度

科目名	介護過程Ⅳ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	藤田　京子		
開講期	後期		
授業概要	介護過程の視点から、チームアプローチの重要性を理解する。また、事例に基づいて、さまざまな利用者の生活と介護過程の展開方法について学ぶ。　＜ 授業担当＞第1回～第15回　熊田・藤田 実務経験：医療現場での勤務経験を活かし、介護過程の展開方法について指導する。 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 課題へのフィードバック ・発表後、他の学生や教員よりフィードバックを行う。 ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 位置付け・水準　HW2111		
達成目標	事例に基づいて、さまざまな利用者の生活と介護過程の展開方法が理解できている。 単位認定の最低基準 ①介護過程の展開について7割理解する ②チームアプローチの重要性を7割理解する ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決能力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科の学生	**成績評価 方法**	課題70％、発表30％
教科書	中央法規出版☒ 介護福祉士養成講座テキスト☒ 「介護過程」		
参考書	特になし		
学生への要望	介護過程の授業の総まとめとして、介護実習Ⅱの介護過程レポートを確実にまとめてください。		
オフィスタイム	熊田：月曜日・水曜日　１時限　　創学館4階　№6研究室☒ 藤田：月曜日・水曜日　4時限　家政学館4階　被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	アセスメントの実際 熊田・藤田	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。☒ ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。	介護実習Ⅱ及び介護過程記録をまとめる。	30
2	アセスメントの実際 熊田・藤田	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。☒ ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
3	アセスメントの実際 熊田・藤田	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。☒ ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
4	アセスメントの実際 熊田・藤田	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。☒ ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
5	発表1-① 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
6	発表1-② 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
7	発表1-③ 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
8	発表1-④ 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
9	発表1-⑤ 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	発表2-① 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
11	発表2-② 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
12	発表2-③ 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
13	発表2-④ 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
14	発表2-⑤ 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
15	まとめ　熊田・藤田	・介護過程の展開についてのまとめを行う	提出用パワーポイントの作成	60

令和3年度

科目名	介護総合演習Ⅰ	**対象**	
担当教員	廣野　正子	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 1年 1単位 必修
開講期	前期	**必選**	
授業概要	介護総合演習では、介護実習Ⅰ-１で必要になる生活支援技術や介護の基本など各領域で学ぶ知識と技術の統合により、介護実習での学びを深化させ、介護の専門職としての態度を形成する。 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。 【担当教員】 廣野 　実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護総合演習の授業を行う。 　実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 藤田 　実務経験：看護師として勤務した臨床経験を活かし授業を行う。 　実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 位置づけ・水準　DW2119 ☒		
達成目標	介護実習Ⅰ－１の教育効果を上げるため、介護実践に必要な知識や技術の統合を行い、専門職としての態度を養う。 ①個々の学生の持つ関心や疑問・不安などに焦点をあて、自信を持って実習に臨めるようになる。☒ ②介護実習の事前に実習施設についての理解を深める。 ③コミュニケーションについて各領域で学んだ知識と技術を統合し実践できるようになる。 単位認定の最低基準：対象者の状態や状況に合わせたコミュニケーションについて8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力 ☒		
受講資格	生活科学科　社会福祉専攻	**成績評価方法**	レポート50％課題　演習50％☒
教科書	なし		
参考書	光成館『介護福祉総合演習』		
学生への要望	・自信を持って実習に臨めるように、場面に応じたスキルを確実に身につけること。		
オフィスタイム	廣野：創学館№１研究室　水曜日　Ⅰ・Ⅱ限 藤田：家政学館４階　被服学研究室　月・水曜日　Ⅳ限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	実習の意義と目的 廣野	①介護実習の意義と目的を理解する。☒ ②介護実習に臨むにあたり、目標をもつことの大切さを理解する。☒ ③介護実習では、個別ケアの視点をもつことを理解する。☒ ④「実習前→実習中→実習後」という介護実習の流れと、それぞれの時期における学習のポイントを理解する。	介護実習の意義を理解し、介護実習の目標について考えまとめる。	30
2	多様なニーズと介護サービス 藤田	①実習施設や事業の概要について理解する。☒ ②実習Ⅰ－１の目的を理解する。	施設の理解（事前資料）を熟読して、理解でない用語について質問できるようにまとめる。	30
3	施設の理解 藤田	①特別養護老人ホームのサービス内容・利用者像・援助の視点などを理解する。☒ ②介護老人保健施設のサービス内容・利用者像・援助の視点などを理解する。 ③通所介護、グループホームのサービス内容・利用者像・援助の視点などを理解する。 ④実習Ⅰ－１で学ぶべきポイントを理解する。	本日の授業内容から、学生自身の興味のある施設種別を選択し、またその理由も明確にする。	30
4	介護のコミュニケーション１ 廣野	①介護コミュニケーションの意義 演習：あなたのコミュニケーションスタイルは？ 　　その後、グループディスカッションを行う。	コミュニケーションの意義を意識して友人、家族間などで会話をしてみる。	30
5	介護のコミュニケーション２ 廣野	①介護職に求められる効果的なコミュニケーション ②高齢者への声掛けと傾聴 演習：SOLERの体験後、グループディスカッションを行う。	コミュニケーションの傾聴を意識して友人、家族間などで会話をしてみる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	介護のコミュニケーション３ 廣野	①自己開示と対人関係 ②共感と高齢者による感情表現 ③演習：共感の体験後、グループディスカッションを行う。	自己開示と共感にについて友人、家族間などで意識して会話をしてみる。	30
7	介護実習記録 藤田	①記録の意義と目的☒ ②観察記録の方法 ③実習記録の基礎知識 ④介護実習日誌（冊子）	実習記録を1日分、授業を通しての理解として記載する。	30
8	介護実習記録の方法 藤田	①実習関連の記録の書き方☒ ②実習記録を書く時の注意点	指摘された点に留意して再度、実習記録を1日分、授業を通しての理解として記載する。	30
9	介護福祉士の職業倫理 藤田	①介護福祉士としての専門職に求められる福祉の理念と職業倫理について理解する。 ②実習に関わるコミュニケーションの方法☒ ③実習生としてのマナー、接遇	授業の中で指示されたことについて、まとめてくる。	30
10	実習生個人票 廣野	①実習生個人票についての説明と作成 ②「誓約書」	実習生個人調書の下書きをしてくる。	30
11	実習計画書の作成１　廣野	①実習計画書についての説明と作成	実習計画書を作成してくる。	30
12	実習計画書の作成２　廣野	①実習計画書について発表	実習施設について調べてくる。	30
13	実習前オリエンテーション１ 藤田	①実習施設の確認☒ ②実習についての心構え、注意点の確認☒ ③実習施設への礼状の書き方	実習施設について調べてくる。	30
14	実習前オリエンテーション２ 藤田	①先輩による体験談☒ ②質疑応答	本日の体験談から学んだこと、疑問に感じたことなどまとめてくる。	30
15	実習前オリエンテーション３ 藤田	①実習事前訪問の留意点と確認事項（健康管理含む） ②実習Ⅰ－１の評価内容 ③個人情報の取り扱い 授業全体の総括	事前訪問の準備について書き出し、同施設になる学生間で連携すること。	30

令和3年度

科目名	介護総合演習Ⅱ	**対象**	
担当教員	廣野　正子	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 1年 1単位 選択
開講期	後期	**必選**	
授業概要	介護実習Ⅰ－２の教育効果を上げるため、介護実践に必要な知識や技術の統合を行い演習を通して専門職としての態度を養う。また、☒ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。☒ 【担当教員】☒ 廣野担当：1回～4回、11～15回☒ 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護総合演習の授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ 藤田担当：4回～10回 ☒ 実務経験：看護師として勤務した臨床経験を活かし授業を行う。☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☒ 位置づけ・水準　DW2120		
達成目標	介護実習Ⅰ-2の教育効果を上げるため、介護実践に必要な知識や技術の統合を行い、専門職としての態度を養う☒ ①介護実習Ⅰ－１を振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて自己の課題を明確にする。☒ ②実習施設の役割と機能を理解し、対象者とその家族の生活ニーズを考える。☒ ③対象者・家族のニーズに対する介護福祉士の役割と自立支援に向けた多職種協働の意義と役割を理解できる。☒ 単位認定の最低基準：対象者・家族のニーズに対する自立支援の必要性について8割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：理論的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科　社会福祉専攻	**成績評価方法**	試験70%、課題30%
教科書	随時プリントを配布する		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	実習の実践に必要な知識や、実習生としてのマナーを修得してほしい。		
オフィスタイム	廣野：水曜日Ⅰ限・木曜日Ⅲ限（創学館4階　№1）☒ 藤田：月・水曜日　Ⅳ限（家政学館4階　被服学研究室）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	介護実習Ⅰ－１振り返り（1） 廣野	・介護実習関係書類の整理 ・介護実習の自己評価☒ ☒	介護実習Ⅰ－１を振り返り、報告できるようにまとめる。	30
2	介護実習Ⅰ－１振り返り（2） 廣野	・介護実習報告会（4施設） ☒	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
3	介護実習Ⅰ－１振り返り（3） 廣野	・介護実習報告会（3施設） ・介護実習Ⅰ-２が始まるまでの流れと事前学習の内容を理解する。☒ ☒ ☒	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
4	介護実習Ⅰ－１振り返り（4） 廣野・藤田	・☒護実習評価（施設）	施設評価と自己評価の相違を確認する。	30
5	介護実習Ⅰ-２の展開（1） 藤田	・実習Ⅰ-２のねらい ・実習Ⅰ-2の介護事業所の理解 ☒ ☒	介護実習Ⅰ-１での実習記録から良く書けている記録、そうでない記録をチェックする。	60
6	介護実習Ⅰ-２の展開（2） 藤田	・実習記録や日誌のまとめ方を学ぶ。☒ ☒ ☒ ☒	授業の中で指示されたことをまとめる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	介護実習Ⅰ-2の展開（3） 藤田	・介護実習Ⅰ－2日誌 ☒プロセスレコードの説明	日常生活の一場面から、プロセスレコードを記録する。	30
8	介護実習Ⅰ-2の展開（4） 藤田	・プロセスレコードの実際と活用法☒ ☒ ☒	食事、整容、入浴での介護技術について実践できるように予習する。	60
9	演習（1） 藤田	・食事場面における介護技術の展開☒ ・整容場面における介護技術の展開☒ ・入浴場面における介護技術の展開	排泄、認知症の方への対応などについて配慮することをまとめる。	30
10	演習（2） 藤田	・排泄場面における介護技術の展開☒ ・認知症の方への介護技術の展開	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
11	介護実習Ⅰ-2の展開（5） 廣野	・介護実習Ⅰ-2の実習施設について調べたことを、発表する。	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
12	介護実習Ⅰ-2の展開（6） 廣野	・介護実習Ⅰ－1からの課題を明らかにし、実習目標を作成する。	実習目標を完成する。	30
13	事前訪問準備 廣野	・事前訪問について必要事項をまとめる。 ・介護過程の展開、誓約書、個人調書について	事前訪問で確認することをまとめる	60
14	実習前オリエンテーション 廣野	・実習先の概況、事前訪問の準備。	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
15	介護総合演習Ⅱの総括 廣野	・授業の補足と総括	介護実習Ⅰ-2の準備をする。	30

令和3年度

科目名	介護総合演習Ⅲ	**対象**	
担当教員	廣野　正子,藤田　京子	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 1単位 選択
開講期	前期	**必選**	
授業概要	介護実習Ⅰ－1、介護実習Ⅰ－2を通して体験した、様々な利用者に対する介護技術、多様なサービス形態の意義を整理し、介護実習Ⅱに向けて知識や技術を統合していく。☒ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。☒ 【授業担当者】☒☒ 廣野担当☒ 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護総合演習の授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ 藤田担当☒ 実務経験：看護師として勤務した臨床経験を活かし授業を行う。☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☒ 位置づけ・水準　DW2221		
達成目標	介護実習Ⅱの介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、専門職としての態度を養う。☒ ①これまでの実習体験を包括的に考察し、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、深化させ自己の課題を明確化する。☒ ②実習施設について地域との関わりを含め事前に理解する。☒ ③本人主体の生活を継続するための介護過程を展開できるように計画が作成できる。☒ 単位認定の最低基準：本人主体の生活を継続するための介護過程の展開について8割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科　社会福祉専攻	**成績評価方法**	課題レポート70%☒ 演習30%
教科書	なし		
参考書	光生館『介護福祉総合演習』		
学生への要望	・介護実習Ⅰ－2の振り返りを通して自己を客観的に振り返り、介護実習Ⅱに向けた学生自身の課題を明確にもってほしい。		
オフィスタイム	廣野：創学館4階№1研究室　水曜日（Ⅰ時限）・木曜日（Ⅰ時限）　☒ 藤田：家政学館4階　被服学研究室　月・水曜日　Ⅳ限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	介護実習Ⅰ-2振り返り① 廣野	・介護実習関係書類の整理 ・介護実習の自己評価	介護実習Ⅰ-2を振り返り、発表できるようにまとめる	30
2	介護実習Ⅰ-2振り返り② 廣野・藤田	・介護実習施設の評価	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
3	介護実習Ⅰ-2振り返り③ 廣野・藤田	・介護実習報告会	実習Ⅰ-2の実習日誌を振り返り、記録が良く書けているものなど考察する。	30
4	介護実習記録（実習日誌）① 藤田	・実習日誌の書き方☒ 体験から考察までの記入方法 良く書けた記録、良く書けていない記録☒ ☒	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
5	介護実習記録（実習日誌）② 藤田	・実習日誌の書き方☒ 体験から考察までの記入方法 良く書けた記録、良く書けていない記録☒ ☒	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
6	介護実習記録（プロセスレコード）① 藤田	・プロセスレコードの発表と振り返り	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
7	介護実習記録（プロセスレコード）② 藤田	・プロセスレコードの発表と振り返り	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
8	介護実習Ⅱ（ねらい）　藤田	・介護実習Ⅱのねらいを理解する☒ ・介護実習Ⅱのモデル（目的や目標など）を具体的にイメージする	実習施設について調べてまとめる	60
9	介護実習Ⅱ（施設）　藤田	実習先の施設種別の特徴を理解する	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
10	介護実習Ⅱ（実習目標） 廣野	個別の実習目標を作成する 配布：[実習日誌・承諾書の写し]	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
11	グループディスカッション 廣野	・利用者理解・自己理解の演習介護実習における学び（KJ法）	授業の中で指示されたことをまとめる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	グループディスカッション 廣野	・利用者理解・自己理解の演習介護実習における学び（KJ法）を発表	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
13	介護実習Ⅱ（課題） 廣野	・介護過程の展開の進め方（1-2の体験を振り返り） ・実習目標達成のための方策 ☒	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
14	実習前指導② 廣野	・実習事前訪問の準備 ・介護実習Ⅱ関係書類の作成準備（個人調書、誓約書、健康診断書、健康チェック表など）	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
15	実習前指導③ 廣野・藤田	・介護実習Ⅱの展開（まとめ）	授業の中で指示されたことをまとめる。	30

令和3年度

科目名	介護総合演習Ⅳ	**対象**	
担当教員	廣野　正子	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 1単位 選択
開講期	後期	**必選**	
授業概要	これまでの介護実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、深化させるとともに自己の課題を明確にし専門職としての考察を通し、介護観を構築する。☒た、事例を通してディスカッションを繰り返し、各自の介護に対する考えを確立していく。 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。☒ ☒ 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護総合演習の授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ 位置づけ・水準　DW222		
達成目標	介護実践に必要な知識と技術の統合を行い、介護観を構築する。☒ ①介護実習で学んだ介護福祉士としての知識・技術の確認から自己の課題を明らかにする。☒ ②介護実習で展開された介護実践について、客観的な視点からの研究を通し実践研究の意義とその方法を理解する。☒ ③介護実践事例に対しての様々な意見に対して考察を深化させ「介護観」を構築する。☒ 単位認定の最低基準：実習を振り返り自己の課題を明確にするとともに、介護観の意義を8割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科　社会福祉専攻　☒ 介護福祉士課程履修者	**成績評価方法**	レポート課題70%　演習課題30%
教科書	なし		
参考書	日総研　「介護の誇り」、ワニブックス「最強の介護職、最幸の介護術」		
学生への要望	実習のみならず、これまで学内・学外で学んできた介護福祉に関する学びのまとめとして取り組んでほしい。		
オフィスタイム	・水曜日　Ⅱ時限　・木曜日　Ⅱ時限☒ 創学館４階№１研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	介護実習Ⅱ振り返り１	・介護日誌等の書類整理 ・介護実習の自己評価	介護実習Ⅱで使用した記録物を整理する	30
2	介護実習Ⅱ振り返り２	・介護実習Ⅱの報告会	介護実習Ⅱの振り返りをまとめる	30
3	介護実習Ⅱ振り返り３	・介護実習施設の評価	プロセスレコードについて発表できるように準備する	30
4	介護実習Ⅱ振り返り４	・プロセスレコードの発表とディスカッション	プロセスレコードからわかったことをまとめる。	30
5	介護観１	・介護観とはなにか	授業の中で指示された箇所を要約する	60
6	介護観２	「介護のプロとして護るべきもの」についてディスカッション	介護観についてその意義を調べる	60
7	介護観3	「対人援助の専門職としての誇り」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	60
8	介護観4	「認知症の人々の心に寄り添う」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	60
9	介護観5	「命に寄り添う使命」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	60
10	介護観6	「誇り高き介護を創るために」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	60
11	介護観7	「最強の介護職、最幸の介護術」	授業の中で指示された箇所を要約する	60
12	介護観8	「最強の介護職、最幸の介護術」	授業の中で指示された箇所を要約する	60
13	介護総合演習Ⅳ（まとめ）	・自身の介護観を発表する	他者の介護観について考察する	30
14	介護総合演習Ⅳ（まとめ）	・自身の介護観を発表する	他者の介護観について考察する	30
15	介護総合演習Ⅳ（まとめ）	・自身の介護観を発表する	他者の介護観について考察する	30

令和3年度

科目名	介護実習Ⅰ－1	**対象**	
担当教員	廣野　正子,藤田　京子	**単位数**	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
開講期	前期	**必選**	
授業概要	介護を必要とする対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。さらに、介護を必要とする個人を理解するため、対象者や家族とのコミュニケーションを実践し、対象者の状況に応じた適切な生活支援技術を学ぶ。☒ 介護実習Ⅰ－1は通所施設での実習となる。☒ 実習時間の構成は、1日8時間で10日間、計80時間となる。 実習日誌等の記録について、巡回指導時などに口頭や添削によるフィードバックを行います。☒ 廣野☒ 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに実習指導を行う。 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ 藤田☒ 実務経験：看護師として総合病院勤務していた臨床経験を活かし実習担当する。☒ 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。 位置づけ・水準　DW2123☒ ☒ ☒ ☒		
達成目標	介護を必要とする人の理解と、コミュニケーションの意義を理解できる。 ①学内で学んだ講義、演習からのコミュニケーション技術の実践にて対象者との関わりを深める。☒ ②介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。☒ ③対象者、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。 単位認定の最低基準：対象者の状態や状況に合わせたコミュニケーションについて8割理解し実践することができる。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科　社会福祉専攻	**成績評価方法**	実習施設の評価80%、巡回時の面談・実習日誌20%
教科書	なし		
参考書	実習施設から提示される資料		
学生への要望	各自の目標を明確にして、実習の臨んでほしい		
オフィスタイム	廣野：創学館4階　№1研究室　・水曜日Ⅰ時限・木曜日Ⅰ時限☒ 藤田：家政学館　被服学研究室　月曜日・木曜日Ⅳ時限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	学外介護事業所実習	オリエンテーション☒☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	90
2	学外介護事業所実習	オリエンテーション☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	90
3	学外介護事業所実習	オリエンテーション☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
4	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
5	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
6	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
7	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
8	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
9	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
10	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
11	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
12	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
13	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
14	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
15	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
17	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
18	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
19	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
20	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
21	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
22	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
23	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
24	学外介護事業所実習	多職種協働の実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
25	学外介護事業所実習	多職種協働の実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
26	学外介護事業所実習	多職種協働の実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
27	学外介護事業所実習	多職種協働の実践④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
28	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り①	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120
29	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り②	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120
30	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り③	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120

令和3年度

科目名	介護実習Ⅰ－2	**対象**	
担当教員	廣野　正子	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 1年 4単位 選択
開講期	後期	**必選**	

授業概要	多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。☒ 介護実習Ⅰ－2はグループホームなどの福祉施設での実習となる☒ 実習時間の構成は、1日8時間で23日間、計184時間となる。 実習日誌等の記録について、巡回指導時などに口頭や添削によるフィードバックを行います。 【担当教員】 廣野 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに実習指導を行う。 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 藤田☒ 実務経験：看護師として総合病院に勤務していた臨床経験を活かし実習担当する。☒ 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。 位置づけ・水準　DW2124 ☒ ☒ ☒
達成目標	様々な場面で展開される介護を実践し、介護福祉士の役割を理解することができる。 ①介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。☒ ②介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。☒ ③介護を必要とする対象者の理解のためアセスメント能力を身につける。☒ 単位認定の最低基準：対象者の状態や状況を適切にアセスメントすることについて8割理解し実践することができる。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力

受講資格	生活科学科　社会福祉専攻	**成績評価方法**	実習施設の評価80%、巡回時の面談・日誌の記録20%
教科書	新・介護福祉士養成講座☒ 介護総合演習・介護実習		
参考書	実習施設で配布される資料☒		
学生への要望	大学で学んだ専門的知識や技術を福祉の現場で実践できるよう、その能力を養ってほしい☒ ☒		
オフィスタイム	廣野：創学館4階　№1研修室　水曜日Ⅱ時限・木曜日　Ⅱ時限☒ 藤田：家政学館4階　被服学研究室　月・水曜日　Ⅳ時限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	学外介護施設実習	オリエンテーション①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
2	学外介護施設実習	オリエンテーション②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
3	学外介護施設実習	オリエンテーション③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
4	学外介護施設実習	生活支援技術の実践①☒ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
5	学外介護施設実習	生活支援技術の実践② 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
6	学外介護施設実習	生活支援技術の実践③ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
7	学外介護施設実習	生活支援技術の実践④ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑤☒ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
9	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑥☒ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
10	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ☒ 生活相談員、介護援専門員、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
11	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ☒ 医師、看護師、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
12	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ③☒ 栄養士、調理師、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
13	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ☒ 理学療法士、作業療法士、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
14	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ☒ 生活相談員、医師、看護師、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、介護職との連携の考察	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
15	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ☒ 生活相談員、医師、看護師、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、介護職との連携の考察	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
16	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
17	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
18	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑦ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
19	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑧ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
20	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑨ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
21	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑩ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
22	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑪ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
23	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑫ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
24	学外介護施設実習	介護過程の実践① フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
25	学外介護施設実習	介護過程の実践② フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
26	学外介護施設実習	介護過程の実践③ フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
27	学外介護施設実習	介護過程の実践④ フェースシート関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
28	学外介護施設実習	介護過程の実践⑤ フェースシート関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
29	学外介護施設実習	介護過程の実践⑥ アセスメント表１関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
30	学外介護施設実習	介護過程の実践⑦ アセスメント表１関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
31	学外介護施設実習	介護過程の実践⑧ アセスメント表１関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
32	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
33	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
34	学外介護施設実習	介護過程の実践⑨ アセスメント表１関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
35	学外介護施設実習	介護過程の実践⑩ アセスメント表１関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
36	学外介護施設実習	介護過程の実践⑪ アセスメント表１関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
37	学外介護施設実習	介護過程の実践⑫ アセスメント表１関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
38	学外介護施設実習	介護過程の実践⑬ アセスメント表１関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
39	学外介護施設実習	介護過程の実践⑭ アセスメント表１関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
40	学外介護施設実習	介護過程の実践⑮ アセスメント表１関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
41	学外介護施設実習	介護過程の実践⑯ アセスメント表１関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
42	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
43	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
44	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
45	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑤	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
46	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑥	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
47	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
48	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
49	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
50	学外介護施設実習	介護過程の実践⑰ アセスメント表２の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
51	学外介護施設実習	介護過程の実践⑱ アセスメント表２の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
52	学外介護施設実習	介護過程の実践⑲ アセスメント表２の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
53	学外介護施設実習	介護過程の実践⑳ アセスメント表２の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
54	学外介護施設実習	介護過程の実践 個別援助計画書の作成	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
55	学外介護施設実習	介護過程の実践 個別援助計画書の作成	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
56	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑦	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
57	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑧	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
58	学外介護施設実習	行事、レクリエーションに参加し、企画・実施・評価の過程を学ぶ。可能であれば、企画し、実施する	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
59	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 施設のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な多職種の役割を学ぶことで、生活支援のチームの一員としての介護福祉士の役割を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
60	学外介護施設実習	実習反省会および振り返り	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	60

令和3年度

科目名	介護実習Ⅱ	**対象**	
担当教員	廣野　正子	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 4単位 選択
開講期	前期	**必選**	
授業概要	介護過程の展開を通して対象者の生活を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。また、専門職としての基本的技術を身につける。☒ 介護実習Ⅱは特別養護老人ホームのなどの福祉施設（入所）での実習となる。☒ 実習時間の構成は、1日8時間で24日間、計192時間となる。☒ 実習日誌等の記録について、巡回指導時などに口頭や添削によるフィードバックを行います。 【担当教員】 廣野☒ 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに実習指導を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ 藤田☒ 実務経験：看護師として総合病院勤務していた臨床経験を活かし実習担当する。☒ 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。☒ 位置づけ・水準　DW2225		
達成目標	対象者を主体とする生活と自立支援の介護過程の展開を実践できる。　☒ ①対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。☒ ②各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。☒ 単位認定の最低基準：対象者のニーズを適切にアセスメントし、介護過程を展開することについて8割以上理解し実践することができる。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科　社会福祉専攻	**成績評価方法**	実習施設の評価80%、巡回時の面談・日誌の記録20%
教科書	新・介護福祉士養成講座☒ 介護総合演習・介護実習		
参考書	実習施設で配布される資料		
学生への要望	大学で学んだ専門的知識や技術を福祉の現場で実践できるよう、その能力を養ってほしい		
オフィスタイム	廣野：創学館4階　№1研修室　・水曜日Ⅰ時限、木曜日Ⅰ時限☒ 藤田：家政学館4階　被服学研究室　月・水曜日Ⅳ限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	学外介護施設実習	オリエンテーション①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
2	学外介護施設実習	オリエンテーション②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
3	学外介護施設実習	オリエンテーション③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
4	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 指導者の助言と協力を得て対象利用者を決め、利用者の情報収集をする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
5	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 指導者の助言と協力を得て対象利用者を決め、利用者の情報収集をする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
6	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 指導者の助言と協力を得て対象利用者を決め、利用者の情報収集をする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
7	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 対象利用者の生活・介護上の問題を把握する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
8	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 対象利用者の生活・介護上の問題を把握する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
9	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 対象利用者の生活・介護上の問題を把握する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
10	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ニーズを明確化し、介護計画を作成する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
11	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ニーズを明確化し、介護計画を作成する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
12	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ニーズを明確化し、介護計画を作成する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
13	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 介護計画に基づき、適切な介護が実践できるようにする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 介護計画に基づき、適切な介護が実践できるようにする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
15	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 介護計画に基づき、適切な介護が実践できるようにする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
16	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
17	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
18	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 実践の記録をする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
19	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 実践の記録をする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
20	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 実践の記録をする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
21	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 自ら行った介護の評価や計画の修正をする事ができるようにする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
22	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 自ら行った介護の評価や計画の修正をする事ができるようにする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
23	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 自ら行った介護の評価や計画の修正をする事ができるようにする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
24	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 自ら行った介護の評価や計画の修正をする事ができるようにする④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
25	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
26	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
27	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
28	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
29	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 業務の流を把握し実践する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
30	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 業務の流を把握し実践する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
31	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 業務の流を把握し実践する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
32	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
33	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
34	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 業務の流を把握し実践する④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
35	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 24時間の利用者状況の把握①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
36	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 24時間の利用者状況の把握②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
37	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 24時間の利用者状況の把握③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
38	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 24時間の利用者状況の把握④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
39	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 緊急時の対応①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
40	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 緊急時の対応②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
41	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 緊急時の対応③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
42	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 緊急時の対応④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
43	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する 介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、医療的ケアの実践に役立てる①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
44	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する 介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、医療的ケアの実践に役立てる②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
45	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑤	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
46	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑥	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
47	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する 介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、医療的ケアの実践に役立てる③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
48	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する 介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、医療的ケアの実践に役立てる④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
49	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
50	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
51	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
52	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
53	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 自己の介護観を明確にする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
54	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 自己の介護観を明確にする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
55	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 自己の介護観を明確にする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
56	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑦	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
57	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑧	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
58	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 自己の介護観を明確にする④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
59	学外介護施設実習	実習反省会および振り返り	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
60	学外介護施設実習	実習反省会および振り返り	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120

令和3年度

科目名	認知症の理解A	**対象**	
担当教員	藤田　京子	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 必修
開講期	前期	**必選**	

授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ ①認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症の人を取り巻く状況について理解する。☒ ②認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらにより引き起こされる日常生活への影響について理解する☒ ③認知症の人を正しく理解し、適切な支援のあり方について学ぶ☒ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ 　認知症を取り巻く社会的な問題について理解する。また、認知症を引き起こす代表的な疾患を理解する。認知症の症状と生活面への影響を理解し、適切な支援のあり方を考察できる知識と技術を学ぶ。☒ ☒ 実務経験：医療現場における臨床経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☒ ☒ 課題へのフィードバック☒ ・確認テストを随時実施しフィードバックを行う。☒ ・最終授業で全体に対するフードバックを行う。☒ ☒ 位置づけ・水準　HW2224
達成目標	授業終了時の到達目標☒ ①認知症の原因疾患と生活上の影響を理解する☒ ②認知症が引き起こす症状とその背景について理解する☒ ③認知症の人に対するより良い対応のし方を理解する☒ ④介護福祉士国家試験に必要な知識を習得する☒ ☒ 単位認定の最低基準：①認知症の原因疾患と生活上の影響を7割理解する☒ ②認知症が引き起こす症状とその背景について7割理解する。 ☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力☒ ☒ 〔履修カルテの評価項目〕☒ ①認知症の原因疾患をどの程度理解できたか☒ ②認知症が引き起こす症状（中核症状とBPSD）をどの程度理解できたか☒ ③認知症の人に対する適切な支援のあり方をどの程度理解できたか

受講資格	生活科学科の学生	**成績評価方法**	期末試験70%、小テスト10%☒ レポート20%
教科書	中央法規出版「認知症の理解」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で取り組んでほしい。☒ 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	月・水曜日　14時30分～16時　家政学館4階被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	認知症の人の生きる世界	①ガイダンス・授業内容の説明☒ ②認知症の人の生きる世界について理解を深める（ビデオ使用）	シラバスを把握する。ビデオの感想を書き次回提出する。	30
2	認知症の基礎的理解	認知症とは☒か ・定義と診断基準	今回の内容について見直しを行う。	30
3	認知症の基礎的理解	脳のしくみ	今回の内容について見直しを行う。	30
4	認知症の基礎的理解	認知症の人の心理	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
5	認知症の症状・診断・治療・予防	・中核症状の理解 ・生活障害の理解 ☒	今回の内容について見直しを行う。BPSDについて各自学習する。	60
6	認知症の症状・診断・治療・予防	・BPSDの理解 BPSDについて各自でまとめたものを発表する	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	認知症の症状・診断・治療・予防	・認知症の原因疾患と症状・生活障害 ☒	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
8	認知症の症状・診断・治療・予防	・認知症の診断と重症度 ・認知症の治療薬 ・認知症の予防 ☒	今回の内容について見直しを行い、確認テストに向けて学習する。次回の授業内容について教科書で確認する。	60
9	認知症の症状・診断・治療・予防	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解についての確認テスト☒ ☒ ☒ ☒	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
10	障害をかかえて生きることへの支援	認知症の方の在宅での生活（DVD使用） 映像を通して認知症についての学習を考察する	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
11	障害をかかえて生きることへの支援	①認知症を取り巻く状況 ②認知症ケアの理念と視点について☒	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
12	障害をかかえて生きることへの支援	③認知症当事者の視点から見えてくるもの（DVD使用） 当事者の視点とはどのようなものか考察する	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
13	認知症ケアの実際	パーソンセンターとケア	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
14	認知症ケアの実際	若年性認知症について	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
15	総括	これまでの授業内容の補足及び確認	定期テストに向け学習する。	60

令和3年度

科目名	認知症の理解B	**対象**	
担当教員	藤田　京子	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択
開講期	後期	**必選**	

授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ ①認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解する☒ ②認知症のその人の特性を踏まえたアセスメントを行い本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につなげる☒ ③認知症を取り巻く社会資源について学ぶ☒ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ 　認知機能障害が及ぼす日常生活への影響や、認知症の人・家族の心の変化や生活面への影響を理解し、その支援のあり方を思考できる知識を身につける☒ 実務経験：医療機関で勤務した臨床経験を活かし、授業を行う☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務☒ ☒ 課題に対するフィードバック☒ ・確認テストを随時実施しフィードバックする。☒ ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☒ ☒ 位置づけ・水準　HW2325
達成目標	〔授業修了時の到達目標〕☒ ①認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響が理解できる☒ ②認知症のその人の特性を踏まえたアセスメントを行い本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながる☒ ③地域のサポート体制、チームアプローチについて理解できる☒ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☒ ☒ 単位認定の最低基準：①認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響が7割理解できる。☒ ②本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践について7割理解できる。☒ ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力☒ ☒ ☒

受講資格	生活科学科の学生	**成績評価方法**	期末試験80%　小テスト20%　☒
教科書	中央法規出版「認知症の理解」☒ プリント配布		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと☒ 授業を欠席しないこと☒		
オフィスタイム	水・木曜日　14時30分～16時☒ 家政学館4階　被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	認知症ケアの実際	①ガイダンス・授業内容の説明☒ ②前期の内容を振り返る☒ ☒	シラバスを確認する。今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
2	認知症ケアの実際	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメントツール☒ ①センター方式	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
3	認知症ケアの実際	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメントツール☒②ひもときシート	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
4	認知症ケアの実際	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメントツール☒③健康状態のアセスメント	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
5	認知症ケアの実際	認知症の人とのコミュニケーション	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
6	認知症ケアの実際	認知症の人へのケア ・内容をグループでまとめる ☒ ☒	内容についてまとめ、発表の準備をする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	認知症ケアの実際	認知症の人へのケア ・まとめたものをパワーポイントで発表する ☒ ☒	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
8	認知症ケアの実際	認知症に人へのさまざまなアプローチ ・映像を通して認知症の人のアプローチについて考察する	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
9	認知症ケアの実際	認知症に人へのさまざまなアプローチ ・ユマニチュード	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
10	認知症ケアの実際	認知症に人へのさまざまなアプローチ ・ユマニチュードの実際 ・バリデーション	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
11	認知症ケアの実際	認知症に人へのさまざまなアプローチ ・認知症ケア・マッピング ・回想法・聞き書き	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
12	認知症ケアの実際	認知症の人の終末期医療と介護 環境づくり	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
13	介護者支援	制度、サービス、機関、地域づくり 多職種連携と協働	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
14	認知症の人の地域生活支援	家族への支援 介護福祉職への支援	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
15	総括	これまでの授業内容の補足及び確認	今回の内容を復習し、定期テストに向けた学習を行う。	60

令和3年度

科目名	こころのしくみと機能	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 必修
担当教員	宇治　和子		
開講期	前期		
授業概要	人は皆、人間らしく生きたいという欲求を持っています。そして様々な環境で刺激を受け、感情や記憶や知能を働かせ、適応し、あるいは葛藤を抱えて生きていきます。行動の理由、不安の原因、言葉の背景など、こころの働きを理解することにより、介護や福祉で質の高い支援を行っていくことができるでしょう。この授業は、介護福祉士・社会福祉士および教職（高等学校福祉科）の資格必修科目に位置づけられ、こころに関する基礎知識を習得します。担当教員の臨床心理士としての実務経験を活かし、医療・福祉分野におけるリアルな人間の姿や複雑なこころの在り様を実践的に指導します。☒ 授業は毎回、双方向型対話形式を活用して進めていきますので、活発な意見や質問を歓迎します。ロールプレイやグループディスカッションも行いますので、そこで感じたことや気づいたこと等を大いに語り合い理解を深めてください。☒ 課題（レポート等）の提出後は、添削やコメントを各学生にフィードバックします。☒ 位置づけ・水準：HW2328☒ 担当教員の実務経験経歴：臨床心理士として医療機関、福祉施設に勤務。		
達成目標	【履修カルテの評価項目】☒ ① 心の働きに関する用語を正しく理解し、使うことができる。☒ ②学習理論や記憶のしくみなどを正しく理解し、学んだ理論が日常でどう活用され、福祉や教育の場でどのように役立っているかを観察したり、考察することができる。☒ ③人間の尊厳、高齢者の権利、自立と自己決定、欲求と自己実現など、福祉の基本的な理念について理解している。☒ 単位認定の最低基準：上記の内容について、７割を理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	介護福祉士の資格取得を目指す者（必修）☒ 社会福祉士の資格取得を目指す者（必修）☒ 教職（高等学校１種福祉）を目指す者（必修）	**成績評価 方法**	期末試験または期末レポート（80%）☒ 授業態度・発言内容・レポート（20%）
教科書	授業中にプリントを配布。		
参考書	テーマごとに授業で紹介する。		
学生への要望	理解を深めるために、体験的・実践的ワークを取り入れていきます。積極的に参加して、ディスカッションで多いに発言をしてください。		
オフィスタイム	水曜日Ⅳ、木曜日Ⅰ・Ⅲ　No.2(臨床心理学)研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法、国家試験および教員採用試験（科目）における授業の位置づけ等。	この授業で学ぶことについて概要をつかみ、興味をもった内容について調べたり文献に当たったりする。	30
2	自己概念と尊厳・人間の欲求とは	マズローの欲求階層、自己実現、社会的欲求、心理的欲求、高齢者の権利、自立と尊厳などを学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
3	心の構造	心の層構造（フロイト、ユング等）、脳の構造、こころの要素（知能、記憶、人格、感覚）などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
4	適応のしくみ	フロイトの防衛機制を中心とした適応のしくみについて、やさしい例題を使って覚えていきます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
5	人格理論	人格のタイプ論、家族や環境と人格形成、人生劇場、人格特性と自己一致などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
6	心理検査	色々な心理検査（人格検査・知能検査・発達検査・認知症検査、質問紙法・絵画法・投影法）など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
7	発達理論	主要な理論家による生涯発達理論（エリクソン、ハヴィガースト）や認知発達理論（ピアジェ）、愛着理論（ボウルビィ）等を学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
8	記憶のしくみ	記憶の貯蔵モデル、短期記憶、長期記憶、長期記憶の種類、作動記憶などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
9	感情のしくみ	感情理論、情動の抑制と行動化、気分障害、動機づけ等について。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
10	心理療法	いろいろな心理療法（遊戯療法、芸術療法、精神分析療法、家族療法、ＳＳＴ）などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
11	学習理論と行動療法	行動療法の原理、学習理論（レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ）と認知行動療法。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	死の受容・障害の受容	キューブラ・ロスの「死」の受容プロセス、コーンの障害受容のステージ理論、介護する家族などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
13	カウンセリングの理念と方法	ロジャーズの人間中心療法の基本理念、カウンセリングのプロセスと行動変容、カウンセラーの言葉など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
14	ストレスと対処	ストレスとストレッサー、ストレス症状とストレス・コーピングについて学び、日常生活と心の健康について考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
15	まとめ補足	補足解説、掘り下げ討論、練習問題、まとめを行います。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

令和3年度

科目名	医療的ケアⅠ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	藤田　京子		
開講期	通年		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ ①医療的ケアの実施に関する制度の概要を理解する☒ ②医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」についての基礎的知識を理解する☒ ③「喀痰吸引」「経管栄養」について根拠に基づく手技が実施できるよう、基本的知識、実施手順方法を理解する。☒ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ ①医療的ケアに関連する制度②安全な療養生活　③清潔保持と感染予防　④健康状態の把握　⑤高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論　⑥「たん吸引」実施手順　⑦高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論⑧「経管栄養」実施手順を理解する☒ 実務経験：総合病院での勤務経験を活かし、喀痰吸引や経管栄養等について安全にケアが提供できるような授業を実施する。☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☒ ☒ 課題に対するフィードバック☒ 適宜、項目ごとに確認テストを実施し、修得状況を確認していく。☒ 前期終了時には、喀痰吸引についての確認テストを実施し、後期の1回目で解説を行う。☒ ☒ 位置づけ・水準　HW2329		
達成目標	目標は☒ ①医療的ケアの実施に関する制度の概要を理解する。☒ ②医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」についての基礎的知識を理解する。☒ ③「喀痰吸引」「経管栄養」について根拠に基づく手技が実施できるよう、基本的知識、実施手順方法を理解する。☒ ④介護福祉士国家試験に必要な知識を習得する.☒ ☒ 単位認定の最低基準：医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」についての基礎的知識を7割理解する。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科福祉コース	**成績評価 方法**	期末試験80%、小テスト20%
教科書	中央法規出版「医療的ケア」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと。　前回の授業内容等については小テスト等で確認を行うため復習を行う。☒ 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	月・水曜日14時30分～16時☒ 家政学館4階被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	医療的ケア実施の基礎	①ガイダンス　☒ ②医療的ケアとは☒ ③医行為について ☒	シラバスの内容を確認し、今回の内容について見直しを行う。	20
2	医療的ケア実施の基礎	①喀痰吸引制度☒ ②医療的ケアと喀痰吸引等の背景 ③その他の制度	今回の内容について見直しを行う。	30
3	安全な療養生活	☒たんの吸引や経管栄養の安全な実施☒ ②救急蘇生法(生活支援技術での復習を兼ね、救急蘇生法については学生がまとめて発表する。質疑応答も含む）☒	発表用パワーポイントを作成する。 配布資料の準備（2分割、白黒可）	60
4	安全な療養生活	☒急蘇生法発表(生活支援技術での復習を兼ね、救急蘇生法については学生がまとめて発表する。質疑応答も含む）☒	今回の内容について見直しを行う。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	清潔保持と感染予防	①感染予防 ②介護職の感染予防 ③療養環境の清潔、消毒法	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
6	清潔保持と感染予防	①消毒と滅菌☒ 手指消毒や滅菌手袋の着用方法について演習する。 ②介護施設等において注意が必要な感染症をまとめる。	今回の内容を見直すとともに、感染症についての発表資料を作成する。	60
7	健康状態の把握	①感染症について発表する ②身体•精神の健康☒ ③健康状態を知る視点　☒ お互いのバイタルサインを測定し体感する。	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
8	健康状態の把握	①急変状態について☒ ②呼吸のしくみとはたらき	今回の内容を見直すとともに、確認テストに備えた学習を行う。	60
9	医療的ケアの基礎知識	前回までのまとめと確認テスト☒	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
10	高齢者及び障害児•者の「喀痰吸引」概論	①呼吸のしくみとはたらき☒ ②いつもと違う呼吸状態	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
11	高齢者及び障害児•者の「喀痰吸引」概論	①喀痰吸引とは☒ ②人工呼吸器と吸引☒DVD使用）	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
12	高齢者及び障害児•者の「喀痰吸引」概論	①子どもの吸引について☒ ②吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
13	高齢者及び障害児•者の「喀痰吸引」概論	①呼吸器系の感染と予防☒ ②たん吸引により生じる危険、事後の安全確認☒ ☒	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
14	高齢者及び障害児•者の「喀痰吸引」概論	①急変・事故発生時の対応と事前対策☒ ②呼吸器系についてのまとめ	今回までの内容を見直すとともに、次回の確認テストに向け、教科書や配布プリントを見直し試験に向けた学習を行う。	60
15	前期総括	1～13講義までの確認テスト☒び解説	試験の内容を見直す。	60
16	高齢者及び障害児•者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の実施手順を映像等で確認する	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
17	高齢者及び障害児•者の「喀痰吸引」実施手順	①喀痰吸引で用いる器具•器材とそのしくみ、清潔の保持☒ 演習：喀痰吸引の器具や器材を使用し清潔保持等について考える☒ ②喀痰吸引の技術と留意点☒	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
18	高齢者及び障害児•者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の技術と留意点☒	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
19	高齢者及び障害児•者の「喀痰吸引」実施手順	☒痰吸引の技術と留意点☒ 喀痰吸引で使用する器材に触れ、基本的な手技を学ぶ☒	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
20	高齢者及び障害児•者の「喀痰吸引」実施手順	①喀痰吸引に伴うケア☒ ②報告及び記録☒ ③口腔ケア☒	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
21	高齢者及び障害児•者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の実施手順の流れ、ポイントと留意点のまとめ☒	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
22	高齢者及び障害児•者の「経管栄養」概論	①消化器系のしくみとはたらき ②消化•吸収と、よくある消化器の症状 ②経管栄養法とは	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
23	高齢者及び障害児•者の「経管栄養」概論	①注入する内容に関する知識☒ ②経管栄養実施上の留意点☒	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
24	高齢者及び障害児•者の「経管栄養」概論	①子どもの経管栄養について☒ ②経管栄養に関する感染と予防☒ ③経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意☒	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
25	高齢者及び障害児•者の「経管栄養」概論	①経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認☒ ②急変・事故発生時の対応と事前対策☒	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
26	高齢者及び障害児•者の「経管栄養」概論	経管栄養の種類としくみまとめと確認テスト☒	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
27	高齢者及び障害児•者の「経管栄養」概論	①経管形容で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持☒ ②経管栄養の技術と留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
28	高齢者及び障害児•者の「経管栄養」実施手順	経管栄養の技術と留意点☒ 経管栄養で使用する器材に触れ、基本的な手技を学ぶ。	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
29	高齢者及び障害児•者の「経管栄養」実施手順	①経管栄養の技術と留意点☒ ②経管栄養に必要なケア☒ ③経管栄養のまとめ	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
30	統括	喀痰吸引や経管栄養についてのまとめ 確認テスト及び解説	今回の内容を見直すとともに、定期テストに向けて教科書や配布プリントで学習する。	60

令和3年度

科目名	医療的ケアⅡ	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科福祉コース 4年 1単位 選択
担当教員	藤田　京子		
開講期	前期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ ①介護職員が「喀痰吸引」「経管栄養」を行うに当たり、適切かつ安全に行為を行うことができるよう、対象者の健康状態及び生活を総合的に把握する☒ ②「喀痰吸引」「経管栄養」実施のため、確実な手技を習得する☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ ①「喀痰吸引」「経管栄養」について、根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する　②救急蘇生法についての手技を学ぶ。☒ 第1回　：講義形式　　☒ 第2回～11回　：講義30分・演習形式60分☒ 第12回～14回　：演習評価　☒ 第15回　：講義30分・演習形式60分☒ ☒ 実務経験：医療機関に勤務していた臨床経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☒ ☒ 課題に対するフィードバック☒ ・実技試験を各項目ごとに5回実施していく中で、不足点について適宜指導していく。☒ ☒ 位置づけ・水準　HW2430☒		
達成目標	〔授業終了時の到達目標〕☒ ①介護職員が「喀痰吸引」「経管栄養」を行うに当たり、適切かつ安全に行為を行うことができるよう、対象者の健康状態及び生活を総合的に把握する。☒ ②「喀痰吸引」「経管栄養」実施のため、確実な手技を習得する。☒ ☒ 単位認定の最低基準：②「喀痰吸引」「経管栄養」実施のため、確実な手技を10割習得する。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科福祉コース	**成績評価 方法**	実技試験80%、レポート20%☒
教科書	中央法規出版「医療的ケア」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと。☒ 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	☒・水曜日　14時30分～16時☒ 家政学館4階　被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
2	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①口腔内吸引の技術と留意点　②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
3	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①口腔内吸引の技術と留意点　②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
4	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①鼻腔内吸引の技術と留意点　②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
5	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①鼻腔内吸引の技術と留意点　②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
6	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①気管カニューレ内吸引の技術と留意点　②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
7	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①気管カニューレ内吸引の技術と留意点　②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
8	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習	①経鼻経管栄養の技術と留意点　②経鼻経管栄養演習	経管栄養の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
9	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習	①経鼻経管栄養の技術と留意点　②経鼻経管栄養演習	経管栄養の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
10	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習	①胃ろう・腸ろうによる経管栄養の技術と留意点　☒ ②胃ろう・腸ろう経管栄養演習	経管栄養の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
11	基高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習	①胃ろう・腸ろうによろ経管栄養の技術と留意点　☒ ②胃ろう・腸ろう経管栄養演習☒	経管栄養の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
12	演習評価	①たんの吸引　②経管栄養	実技テストに向け練習する。	30
13	演習評価	①たんの吸引　②経管栄養	実技テストに向け練習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	演習評価	①たんの吸引　②経管栄養	救急蘇生について教科書等で確認する。	30
15	基本演習	救急蘇生法	喀痰吸引や経管栄養についての実施手順や留意点をまとめて提出する。	90

令和3年度

科目名	人体の構造と機能	**対象**	
担当教員	大西　弘太郎	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択
開講期	前期	**必選**	
授業概要	解剖学についての基本的な知識を学ぶ。☒ 生理学についての基本的な知識を学ぶ。☒ 主な疾患の成り立ちについて学ぶ。☒ ☒ 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。☒ 実務経験：医師として医療機関に勤務している。☒ ☒ 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。☒ ☒ 位置づけ・水準 HW2331		
達成目標	単位認定の最低基準：解剖学および生理学の基本を理解できていること。主な生活習慣病の成り立ちの基本を理解できていること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力		
受講資格	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年	**成績評価方法**	小テスト　(20%)☒ レポート　(80%)
教科書	人体の構造と機能及び疾病　新・社会福祉養成講座　中央法規		
参考書	特になし		
学生への要望	双方向の授業を期待します。☒ 学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。		
オフィスタイム	臨床医学研究室☒ 火曜日　13:00～17:00。☒ 木曜日　15:00～17:00。☒ 金曜日　08:30～17:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	栄養と代謝☒ ☒ 糖尿病の諸問題	栄養と代謝☒ ☒ 糖尿病はいまや社会問題☒ 糖尿病はなぜ危険か☒ 糖尿病とは☒ 糖尿病の分類	糖尿病について予習・復習をしましょう。	120
2	栄養と代謝☒ ☒ 糖尿病の諸問題	糖代謝の動態とインスリンの働き☒ ☒ 糖尿病慢性合併症☒ 糖尿病になりにくいライフスタイル	糖尿病について予習・復習をしましょう。	120
3	消化管	食道の構造と機能☒ 胃の構造と機能☒ ☒ ピロリ菌感染と消化器疾患☒ ピロリ菌感染の臨床的意義☒ 予防と治療☒	消化管の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
4	肝臓	肝臓の構造と機能☒ ☒ 主なウイルス性肝炎☒ 慢性肝炎と肝臓がん☒ 脂肪肝☒ 予防と治療☒	肝臓の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
5	虚血性心疾患、不整脈	心臓の働きと急性冠症候群☒ 突然死とは☒ 不整脈	虚血性心疾患、不整脈について予習・復習をしましょう。	120
6	神経	神経系の構造と機能☒ ☒ 脳卒中とは☒ 脳卒中の分類	神経の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
7	高血圧	高血圧はなぜ危険か☒ 高血圧の現状☒ 高血圧と減塩☒	高血圧について予習・復習をしましょう。	120
8	動脈硬化　その 1	動脈硬化とは☒ 動脈硬化の種類☒ 動脈硬化はなぜ危険か	動脈硬化について予習・復習をしましょう。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	動脈硬化　その２	動脈硬化とライフスタイル	動脈硬化について予習・復習をしましょう。	120
10	認知症	認知症は社会問題☒ 認知症の症状☒ 認知症の分類☒ 認知症とケア☒	認知症について予習・復習をしましょう。	120
11	運動器	運動器の構造と機能☒ ☒ サルコペニア☒ ロコモティブシンドローム☒ 廃用症候群の概要と予防	運動器の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
12	感染症	主な感染症	主な感染症について予習・復習をしましょう。	120
13	血液	貧血☒ ☒ 白血病とは☒ 白血病の分類☒ 白血病の治療☒ 分子標的薬の登場と寛解率の向上☒ 成人Ｔ細胞性白血病型リンパ腫	貧血、血液の悪性腫瘍について予習・復習をしましょう。	120
14	腎臓の構造と機能☒ 糸球体腎炎☒ ネフローゼ症候群	糸球体の構造と機能、尿細管の構造と機能☒ 急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎☒ ネフローゼ症候群	腎臓の構造・機能、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群について予習・復習をしましょう。	120
15	慢性腎臓病	慢性腎臓病の概念、病理、臨床症状・所見・検査、予防	慢性腎臓病について予習・復習をしましょう。	120

令和3年度

科目名	こころとからだのしくみA	**対象**	
担当教員	藤田　京子	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択
開講期	前期	**必選**	

授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ ①生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する☒ ②生活支援における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する☒ ③「移動」「身じたく」「食事」について、老化・疾患の特徴を踏まえた適切な援助法について理解する☒ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ 　生活支援（移動・身じたく・食事）に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。☒ 実務経験：医療機関での臨床経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☒ ☒ 課題に対するフィードバック☒ ・各単元ごとに確認テストを実施し、解説することでフィードバックする。☒ ・最終授業で全体的なフィードバックを行う。☒ ☒ 位置づけ・水準　HW2132☒ ☒
達成目標	〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕☒ ①人体の構造と働きを理解する☒ ②「移動」「身じたく」「食事」について、老化や疾患による影響について理解する☒ ③「移動」「身じたく」「食事」について、観察力と判断力を身につけ、安全に介助できるための根拠を理解する☒ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☒ ☒ 単位認定の最低基準：①人体の構造と働きを7割理解する☒ ②「移動」「身じたく」「食事」について、老化や疾患による影響について7割理解する☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力☒ ☒ 〔履修カルテの評価項目〕☒ ①人体の構造と働きを理解できたか☒ ②「移動」「身じたく」「食事」について、老化・疾患による影響を理解できたか☒ ③「移動」「身じたく」「食事」について、観察力と判断力を身につけ、安全に介助できるための根拠を理解する☒

受講資格	生活科学科の学生	**成績評価方法**	期末試験80%、小テスト20%☒ ☒
教科書	中央法規出版「こころとからだのしくみ」☒		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと☒ 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	月・水曜日　14時30分～16時☒ 家政学館4階　被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	こころのしくみの理解	①ガイダンス・授業内容の説明☒ ②健康の定義☒	シラバスを確認する。今回の内容を復習する。	30
2	こころのしくみの理解	①人間の欲求とは ②自己実現と尊厳	今回の内容を復習する。	30
3	こころのしくみの理解	こころのしくみ ①こころとは何か☒ ②脳のしくみ☒ ・学習・記憶・思考のしくみ☒ ・認知・適応のしくみ☒	今回の内容を復習する。	30
4	からだのしくみの理解	からだのしくみ☒ からだの部位の役割 ☒ ☒ ☒ ☒	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	からだのしくみの理解	からだのしくみ☒ からだの部位の役割 ☒ ☒ ☒ ☒	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	60
6	からだのしくみの理解	からだのしくみ☒ からだの部位の役割 ☒ ☒ ☒ ☒	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
7	からだのしくみの理解	からだのしくみ☒ からだの部位の役割 ☒ ☒ ☒ ☒	今回までの内容を復習し確認テストに向けた学習を行う。また次回の項目を教科書で確認する。	60
8	移動に関連したこころとからだのしくみ	前回までの確認テスト 移動のしくみ☒ ☒ ☒ ☒	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
9	移動に関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 変化の気づきと対応	移動に関しての内容を復習し、確認テストに向けた学習を行う。また次回の項目を教科書で確認する。	60
10	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	移動に関連したこころとからだの確認テスト☒ ☒ 身じたくのしくみ☒ ①身じたくにを整えることの意義・目的☒ ②身じたくに関連したこころとからだのしくみ☒ ☒	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
11	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	身じたくに関連したこころとからだのしくみ☒ ☒	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
12	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 変化の気づきと対応 演習：機能低下や障害が及ぼす整容行為への影響を学ぶ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	60
13	食事に関連したこころとからだのしくみ	身じたくに関連したこころとからだのしくみの確認テスト☒ 食事に関連したこころのしくみ☒ ①食事に関連したこころのしくみ ②食事に関連したからだのしくみ　☒ ☒	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
14	食事に関連したこころとからだのしくみ	☒身の機能低下が食事に及ぼす影響 変化の気づきと対応	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	60
15	総括	食事に関連したこころとからだのしくみの確認テスト☒ ☒ これまでの授業内容の補足及び確認	今回の復習を行い、定期テストに向けた学習を行う。	60

令和3年度

科目名	こころとからだのしくみB	**対象**	
担当教員	藤田　京子	**単位数**	家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択
開講期	後期	**必選**	

授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ ①生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する☒ ②生活支援における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する☒ ③「入浴・清潔保持」「排泄」「睡眠」について、老化・疾患の特徴を踏まえた適切な援助法について理解する☒ ④人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響を学び生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する☒ ⑤介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ 生活支援技術（入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階）を安全に、適切に行う上での根拠となる人体の構造や機能について学ぶ☒ 〔履修カルテの評価項目〕☒ ①入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階における利用者の生活・自立支援に必要な基礎的知識について理解できたか☒ ②入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階が、老化や疾患により及ぼされる影響について理解できたか☒ ③入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階について、安全に介助できるための根拠を理解できたか☒ ④人生の最終段階のケアにおける介護職の役割について理解できたか☒ 実務経験：医療機関での臨床経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☒ ☒ 課題に対するフィードバック☒ ・各項目毎に確認テストを実施しフィードバックする。☒ ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☒ ☒ 位置づけ・水準　HW2133
達成目標	〔授業修了時に到達目標〕☒ ①入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階における利用者の生活・自立支援に必要な基礎的知識について理解する☒ ②入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階が、老化や疾患により及ぼされる影響について理解する☒ ③入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階について、安全に介助できるための根拠を理解する☒ ④人生の最終段階のケアにおける介護職の役割について理解する☒ ⑤介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☒ ☒ 単位認定の最低基準：①「入浴・清潔保持」「排泄」「睡眠」「人生の最終段階」について、老化や疾患による影響について7割理解する ☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力

受講資格	生活科学科の学生	**成績評価方法**	期末試験80%　小テスト20%
教科書	中央法規出版「こころとからだのしくみ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと☒ 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	水・木曜日　14時30分～16時☒ 家政学館4階　被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	入浴･清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	①ガイダンス・授業内容の説明☒ ②なぜ入浴・清潔保持を行うのか☒ ③清潔がもたらす効果☒	シラバスを確認する。今回の内容を復習する。	30
2	入浴･清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	入浴･清潔保持に関連したからだのしくみ☒ ①皮膚の構造としくみ☒ ②発汗のしくみ☒ ③皮膚の汚れのしくみ☒ ④陰部の清潔	今回の内容を復習する。	30
3	入浴･清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	精神機能や心身機能の低下が入浴･清潔保持に及ぼす影響 ☒ 入浴･清潔保持における観察のポイント ①変化の気づきと対応	今回の内容を復習する。	30
4	入浴･清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	入浴･清潔保持における観察のポイント ☒☒ ②心身の状態に応じた入浴･清潔の方法 ☒ ③入浴･清潔保持における医療職との連携☒	入浴・清潔保持に関した内容を復習し、確認テストに向けた学習を行う。また、次回の項目を教科書で確認する。	60
5	排泄に関連したこころとからだのしくみ	入浴･清潔保持に関する演習問題☒ 入浴・清潔保持に関する確認テストおよび要点を復習☒ 排泄のしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
6	排泄に関連したこころとからだのしくみ	排泄に関連したからだのしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	排泄に関連したこころとからだのしくみ	排泄に関連した「からだ」のしくみ☒人工肛門 演習課題	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
8	排泄に関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響として、☒ ①老化による機能低下☒ ②疾患による機能低下☒ ③障害による機能低下☒ 演習課題	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
9	排泄に関連したこころとからだのしくみ	①変化の気づきと対応　☒ ②排泄における医療職との連携☒ 演習課題	排泄の内容を復習し確認テストに向けた学習を行う。次回の項目を教科書で確認する。	60
10	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	排泄に関するこころとからだのしくみの確認テストと要点の復習☒ 睡眠に関連したこころとからだのしくみ ①休息・睡眠のしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
11	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	①睡眠に影響を及ぼす心身の機能低下☒ ②睡眠障害☒ ③変化の気づきと医療職との連携☒ ①睡眠での観察ポイントと連携のポイント☒ 演習課題	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	60
12	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	休息・睡眠に関するこころとからだのしくみの確認テストと要点の復習 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方 終末期	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
13	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	「死」に対するこころの理解 終末期から危篤状態、死後のからだの理解 ☒	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
14	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	医療職との連携のポイントについて学ぶ☒ 演習課題☒	休息・睡眠と人生の最終段階に関連した内容を復習し確認テストに向けた学習を行う。	60
15	総括	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみについての確認テストと復讐☒ ☒ これまでの授業内容の補足及び確認	これまでの内容を確認し、定期テストに向けた学習を行う。	60

令和3年度

科目名	衣造形学演習	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
担当教員	瀬谷　真理子		
開講期	前期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] ☒ 立体構成（洋裁）学を基に、衣服の成り立ちについての理解を深める。また、パターンの活用方法を習得することにより、体型と構成の関連性を理解し、着心地の良い作品を作る。製作実習により衣生活の重要性を学ぶとともに快適な衣生活の提案ができるように知識と技術の修得を目指す。更に、教員養成に向け、高等学校で家庭科教育に携わってきた経験を生かした指導を行い、基礎的技術の習得のために作品製作（基礎縫い、ブラウス）をとおして実践力向上を目指すとともに、教科指導としての在り方についても理解を深め、基本から応用までの技術修得を目指す。 また、中学校「技術・家庭」家庭分野の被服製作としても活用されるアウターパンツについて、前半での学びの応用として主体的に製作実習する。ワークシートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 [授業全体の内容の概要] ☒ 基本的な被服製作実習を通し技術の修得と定着を図るとともに、教員としての資質を育むため選択製作実習を取り入れ主体的に製作できる力を養う。 [実務経歴]　福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準　HL2233		
達成目標	①体の機能や形態を理解するとともに立体構成（洋裁）とは何かを理解できる。☒ ②家庭科教育における衣生活分野を学ぶ意味について理解し、製作実習に必要な力を養う。☒ ③基本的な洋裁技術を修得するとともに、教科指導上の課題について理解し実践力を養う。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的な評価が達成度７割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	上記対象学生、教職履修学生	**成績評価 方法**	①授業への意欲・態度　10%　、②課題：部分作品（パターン、袖、衿等）20%　、③完成作品（基礎縫い、ブラウス製作、選択製作）60%、④課題（評価票等）10%　として、①から④までの総合評価により60%以上を合格とする。
教科書	自作テキスト配付、プリント配付。		
参考書	文部科学省後援：全国高等学校家庭科被服製作技術検定指導要項、「ファッション造形基礎」「パターン・裁断・縫い方の基礎の基礎」文化出版局、 文化ファッション大系　改訂版・服飾造形講座「ブラウス・ワンピース」文化出版局		
学生への要望	１．主体的・意欲的に取り組むこと。２．実習用具、材料は指示通り各自用意すること。３．製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進度を揃え、完了できるように心掛けること。		
オフィスタイム	家政学館４Ｆ被服学研究室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	オリエンテーション 1）被服製作に必要な実習用具について理解する。 2）衣生活における製作の意味を考える。	シラバスを確認し演習内容を理解する	20
2	実習内容と留意事項について	1）実習計画の提示☒ 2）体型と立体構成について☒ 3）被服製作の基本	シラバスを確認し演習内容を理解する ワークシートの整理	30
3	被服製作における基本	1）洋裁の基礎知識☒ 2）基本的技術の確認と定着 3）基礎縫いの実施と評価	ワークシートの整理	30
4	被服製作における基本	1）洋裁の基礎知識☒ 2）基本的技術の確認と定着 3）基礎縫いの実施と評価	ワークシートの整理	30
5	被服製作	1）パターンの記号を学ぶ☒ 2）パターンの利用の仕方と指導上の留意点を学ぶ	ワークシートの整理	30
6	ブラウスパターン作図	1）ブラウスのパターンを選定　☒ 2）ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出☒ 3）使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ	パターンの展開方法を理解する	30
7	ブラウス製作①ー基本を学ぶー	1）パターン修正　☒ 2）裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ☒	パターンの展開方法を理解する 裁断前の準備について理解する ワークシートの作成	30
8	ブラウス製作②ー基本を学ぶー	1）本縫い☒ 2）縫い代始末方法を学ぶ。a、ジグザグミシンの方法。b、ロックミシン　c、端ミシン☒ 3）接着芯の理解と取り扱いを学ぶ	パターンの展開方法を理解する 裁断前の準備について理解する ワークシートの作成	30
9	ブラウス製作③	ロックミシンの必要な個所を確認する。ロックミシンの使い方を学ぶ。ロックミシンを活用して縫いしろ始末を行う。※安全面に留意して、布地の扱いに配慮しながらロックミシンをかける。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	ブラウス製作④	身頃本縫い　まち針の打ち方、躾のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。☒身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
11	ブラウス製作⑤	身頃本縫い　まち針の打ち方、躾のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。ポケットを作り、身ごろにポケットをつける。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
12	ブラウス製作⑥	表衿と裏衿の特徴を理解し、確認を行い、衿つくりを実施する。角衿の場合のきれいな角の出し方について、実技により学ぶ。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する 衿について提出できるように準備する	30
13	ブラウス製作⑦	デザインを生かした技法について学び、実践する。身ごろのヨークと肩、後ろ身ごろにタック寄せ、ギャザー寄せ等の手法を理解して身ごろの構成を考えながら製作する。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
14	ブラウス製作⑧	衿と身ごろとの関係を理解して、きれいにつけて仕上げるための方法について学ぶ。待ち針の役割を理解し、待ち針の打ち方を実践できるようにする。バランスを考えながら身ごろに衿がつけられるようにする。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
15	ブラウス製作⑨	バイアステープの役割について学び、衿付け縫い代始末の方法として扱い方を理解する。衿付け縫い代の始末をする。切り込みの必要性について理解し、きれいな仕上げに向けて実践する。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
16	ブラウス製作⑩	袖付けを行う。左右の確認と身ごろとの関係に留意して立体的に仕上げることの構成上のポイントを学び、袖をつける。 袖下脇縫いを行う。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
17	ブラウス製作⑪	見返しと裾の始末を行い、仕上げを行う。 ミシンによるボタンホールの製作、ボタン穴の開け方を学ぶ。ボタンのつけ方を学ぶ。☒	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
18	ブラウス製作⑫ー相互評価ー	1）仕上げ 2）着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 3）自己評価票を作成して提出	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
19	選択製作ーアウターパンツ①	1）製作計画の作成 2）デザイン、型紙作成	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
20	選択製作ーアウターパンツ②	1）製作計画の作成 2）デザイン、型紙作成	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
21	選択製作ーアウターパンツ③	1）製作計画の作成 2）裁断	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
22	選択製作ーアウターパンツ④	縫い代始末、しるしつけ☒	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
23	選択製作ーアウターパンツ⑤	1）縫い代始末、しるしつけ☒ 2）ポケット付け	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
24	選択製作ーアウターパンツ⑥	脇縫い、また下縫い、また上縫い	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
25	選択製作ーアウターパンツ⑦	ウエストの始末、裾の始末	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
26	選択製作ーアウターパンツ⑧	仕上げ、相互評価	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
27	選択製作ーアウターパンツ⑨	ウエストの始末、裾の始末	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
28	選択製作ーアウターパンツ⑩	仕上げ、相互評価	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
29	総合評価	作品提出と共に、レポート課題の提出☒ ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	レポートの作成	60
30	総合評価	作品提出と共に、レポート課題の提出☒ ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	レポートの作成	60

令和3年度

科目名	調理学演習	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	瀬谷　真理子,大泉　由美		
開講期	前期		
授業概要	支援の必要な高齢者等がおいしく楽しめる介護食をつくるための基礎的な調理知識と技術を学習するとともに家庭において豊かな食生活を営めるよう基礎的な調理知識と技術を学習する。前半は一般的なスローフードに配慮したレシピでの調理を経験し、基礎的技術を修得する。後半は、日常食や行事食及び状態別献立として子どもや高齢者、成人向けの献立等、食材や調理方法の工夫により演習する。調理内容は、スローフード視点を大切にしながら選択した代表的な料理（日本料理・西洋料理・中国料理）の中から学び実践力を高める。実践的な演習を通じて、調理学の基本的な知識や技術修得とともに食材の栄養価や色・形・味・香などの調理による変化とその理由を五感で理解する。さらに、自宅での実践により応用力を身につけ、科学的視点を踏まえながら探究的視野でレポート作成を実施する。提出後のレポートを添削・返却し、フィードバックを行う。☒ さらに福島県高等学校での家庭科教員としての実務経験を生かしながら実践的な指導により基本から応用までの力を養う。 実務経歴：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準　HL2336 ☒ ☒		
達成目標	①高齢者や介護を必要とする方をはじめ状態別献立を考慮し、それぞれの調理方法を習得し、実践できる。 ②日本料理、西洋料理、中国料理の代表的献立から料理の基本を理解し、実践できる。 ③日常的な献立から行事食までの調理について、基礎的な知識技術を習得し、生活支援技術の一つとして実践力を高める。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度７割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	介護福祉士、教職履修者は必修	**成績評価 方法**	①授業態度：２０%、②実技：４０%、③レポート：４０%　以上の①から③を総合評価して６０%以上で合格とする。
教科書	「基礎から学ぶ調理実習」オーム社　☒ プリント配布		
参考書	「フードデザイン」教育図書、家庭科教育振興会　全国高等学校家庭科技術検定実施要項		
学生への要望	準備から後片付けまでが調理学実習の一環と考え、積極的に取り組むこと。☒ また、豊かな食生活は家族団欒を営む基礎となることを理解し、実習後は自宅での実践（復習）を必ず実施し、家族とのコミュニケーションを深める一助とすることを期待する。		
オフィスタイム	被服学研究室　（家政学館４階）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／食材の下ごしらえ・切り方など	シラバスにそって授業の概要や到達目標，評価方法などを説明する．授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅で実践の必要性を認識する．☒	本日の講義内容をまとめ，問題点をピックアップする．	30
2	ガイダンス（1） 実習室・調理器具について・授業の進め方や評価方法	調理実習室の使い方、調理器具の使い方、洗い方、手入れ等について基本を学ぶ。使用していく教科書を用いて、調理の基本、調理実習時の衛生管理について理解させる。食することの意味について考え、デスカッションする。	本日の講義内容をまとめ，問題点をピックアップする．ワークシートの作成を行う。	30
3	ガイダンス（2） 文化鍋の使い方／西洋料理① （ミルクゼリー：介護食）	【文化鍋での炊飯とドライカレー，春野菜のスープ，いちごのミルクゼリー】のつくり方を学ぶ。 ①炊飯の原理を理解し、文化鍋での炊飯の仕方を学ぶ。 ②ゼラチンの特徴と扱い方を学ぶ。 ③果物の扱いについての基本を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
4	ガイダンス（2） 文化鍋の使い方／西洋料理① （ミルクゼリー：介護食）	【文化鍋での炊飯とドライカレー，春野菜のスープ，いちごのミルクゼリー】のつくり方を学ぶ。 ①炊飯の原理を理解し、文化鍋での炊飯の仕方を学ぶ。 ②ゼラチンの特徴と扱い方を学ぶ。 ③果物の扱いについての基本を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
5	日本料理① 旬の食材を使った調理	旬の食材を使った調理について学ぶ。【たけのこご飯、若竹汁、たけのこの天ぷら、いちご大福】☒ ①たけのこの下ごしらえと部位別調理☒ ②炊き込み飯の種類と作り方☒ ③だしの取り方☒ ④揚げ物について、衣のつくり方と揚げ方 ⑤白玉粉の特徴と取り扱い☒	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	日本料理① 旬の食材を使った調理	旬の食材を使った調理について学ぶ。【たけのこご飯、若竹汁、たけのこの天ぷら、いちご大福】☒ ①たけのこの下ごしらえと部位別調理☒ ②炊き込み飯の種類と作り方☒ ③だしの取り方☒ ④揚げ物について、衣のつくり方と揚げ方 ⑤白玉粉の特徴と取り扱い☒	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
7	西洋料理② （ブラマンジェ：介護食）	【コンソメジュリアン，グラタン，グリーンサラダ，ブラマンジェ】　代表的な西洋料理の基本を学ぶ. ①ホワイトソースの理解、作り方 ②エビの下ごしらえと扱い ③ドレッシングの基本と作り方 ④コーンスターチの特徴と扱い方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
8	西洋料理② （ブラマンジェ：介護食）	【コンソメジュリアン，グラタン，グリーンサラダ，ブラマンジェ】　代表的な西洋料理の基本を学ぶ. ①ホワイトソースの理解、作り方 ②エビの下ごしらえと扱い ③ドレッシングの基本と作り方 ④コーンスターチの特徴と扱い方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
9	日本料理② （そぼろ・フルーツ羹：介護食）	【そぼろ飯、吉野鶏の澄まし汁、青菜のごま和え、フルーツ羹】　日常的な和風献立の基本を学ぶ。 ①そぼろのつくり方 ②煮出し汁の取り方と澄まし汁 ③野菜のゆで方と和え物の要領 ④寒天の扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
10	日本料理② （そぼろ・フルーツ羹：介護食）	【そぼろ飯、吉野鶏の澄まし汁、青菜のごま和え、フルーツ羹】　日常的な和風献立の基本を学ぶ。 ①そぼろのつくり方 ②煮出し汁の取り方と澄まし汁 ③野菜のゆで方と和え物の要領 ④寒天の扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
11	中国料理① （とろみのあるスープ：介護食）	【青椒肉絲、黄花湯、奶豆腐】 代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。※一品を実技テストを兼ねて行う。 ①中国料理の基本と特徴☒ ②寒天の扱い方☒ ③とろみのあるスープ（湯）のつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
12	中国料理① （とろみのあるスープ：介護食）	【青椒肉絲、黄花湯、奶豆腐】 代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。※一品を実技テストを兼ねて行う。 ①中国料理の基本と特徴☒ ②寒天の扱い方☒ ③とろみのあるスープ（湯）のつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
13	中国料理②	【什錦炒飯、涼拌三絲、西米椰汁】　日常的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①炒飯の要領、食材の扱い ②はるさめの扱い方 ③薄焼き卵のつくり方 ④和え物の要領 ⑤タピオカの扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	中国料理②	【什錦炒飯、涼拌三絲、西米椰汁】　日常的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①炒飯の要領、食材の扱い ②はるさめの扱い方 ③薄焼き卵のつくり方 ④和え物の要領 ⑤タピオカの扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
15	状態別献立①　～高齢者向け和風献立～（しんじょ：介護食）	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそぼろあんかけ】　①炊き込みご飯のつくり方　②各食材の扱い　③しんじょの扱い　④そぼろあんのつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
16	状態別献立①　～高齢者向け和風献立～（しんじょ：介護食）	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそぼろあんかけ】　①炊き込みご飯のつくり方　②各食材の扱い　③しんじょの扱い　④そぼろあんのつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
17	状態別献立②　～子供向け洋風献立～（二色ゼリー：介護食）	状態別献立として、実施する。子供向け（幼児・児童期）の献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【チキンピラフ、じゃがいもときのこのクリーム煮、トマトカップサラダ、二色ゼリー】　①ピラフのつくり方、米の扱い方を理解する。　②クリーム煮の基本を理解する。　③トマトの扱い方を理解する。　④ゼラチンの扱いと応用調理	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
18	状態別献立②　～子供向け洋風献立～（二色ゼリー：介護食）	状態別献立として、実施する。子供向け（幼児・児童期）の献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【チキンピラフ、じゃがいもときのこのクリーム煮、トマトカップサラダ、二色ゼリー】　①ピラフのつくり方、米の扱い方を理解する。　②クリーム煮の基本を理解する。　③トマトの扱い方を理解する。　④ゼラチンの扱いと応用調理	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
19	状態別献立③　～成人向け和風献立～	状態別献立として、実施する。成人向けの献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【肉じゃが、菜飯、切り身魚のホイル焼き、カブと油揚げの味噌汁】　①基本的な煮物のつくり方 ②ホイル焼きの要領 ③味噌汁の基本	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
20	状態別献立③　～成人向け和風献立～	状態別献立として、実施する。成人向けの献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【肉じゃが、菜飯、切り身魚のホイル焼き、カブと油揚げの味噌汁】　①基本的な煮物のつくり方 ②ホイル焼きの要領 ③味噌汁の基本	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
21	中国料理③ （とろみのあるスープ：介護食）	【古老肉、涼拌海蜇、栗米湯】　日本で好まれ日常食となっている中国料理を実施する。 ①中国料理の溜菜の要領を学ぶ ②くらげの扱いを理解する ③とろみのあるスープの応用について	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
22	中国料理③ （とろみのあるスープ：介護食）	【古老肉、涼拌海蜇、栗米湯】　日本で好まれ日常食となっている中国料理を実施する。 ①中国料理の溜菜の要領を学ぶ ②くらげの扱いを理解する ③とろみのあるスープの応用について	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
23	弁当料理	日常食の一つとして昼食の献立を弁当料理として、基本的な理解と実践を行う。※盛り付けの実技テストを行う ①主菜、副菜への理解 ②常備菜のつくり方 ③彩の工夫	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
24	弁当料理	日常食の一つとして昼食の献立を弁当料理として、基本的な理解と実践を行う。※盛り付けの実技テストを行う ①主菜、副菜への理解 ②常備菜のつくり方 ③彩の工夫	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
25	行事食①　誕生日の献立（ひき肉料理：介護食）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。※一品を実技テストとして行う。【ハンバーグステーキ、クラムチャウダー、フルーツサラダ】 ①ひき肉を使った焼き物のつくり方 ②つなぎ材料の役割とその割合 ③貝類の扱い、煮込み方　④ 果物の扱い、ソースのつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
26	行事食①　誕生日の献立（ひき肉料理：介護食）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。※一品を実技テストとして行う。【ハンバーグステーキ、クラムチャウダー、フルーツサラダ】 ①ひき肉を使った焼き物のつくり方 ②つなぎ材料の役割とその割合 ③貝類の扱い、煮込み方　④ 果物の扱い、ソースのつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
27	行事食②　七夕祭りの献立（寒天：介護食）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【ちらし寿司、澄まし汁、青菜の辛し和え、フルーツみつ豆】 ①酢飯のつくり方 ②だし汁の取り方 ③青菜の扱い方　④ 寒天の扱いと白玉粉の扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
28	行事食②　七夕祭りの献立（寒天：介護食）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【ちらし寿司、澄まし汁、青菜の辛し和え、フルーツみつ豆】 ①酢飯のつくり方 ②だし汁の取り方 ③青菜の扱い方　④ 寒天の扱いと白玉粉の扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	行事食③　敬老の日の献立（茶わん蒸し：介護食）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【天ぷら、茶わん蒸し、豆ごはん、水ようかん】　①揚げ衣のつくり方　②卵の性質、蒸し物の要領 ③寒天の扱い		60
30	行事食③　敬老の日の献立（茶わん蒸し：介護食）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【天ぷら、茶わん蒸し、豆ごはん、水ようかん】　①揚げ衣のつくり方　②卵の性質、蒸し物の要領 ③寒天の扱い		60

令和3年度

科目名	生活学的法律論	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木　康元	**単位数**	
開講期	後期	**必選**	
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける☒ 〔授業全体の内容の理解〕☒ 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう☒ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕☒ 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること☒ 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕☒ 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける☒ 〔授業全体の内容の理解〕☒ 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう☒ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕☒ 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること		
受講資格	家政学部１年	**成績評価方法**	ペーパー試験と出席の程度を考慮する
教科書	その都度指定する		
参考書	その都度指定する		
学生への要望	法律一般につき興味をもって欲しい☒		
オフィスタイム	授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室☒ 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	家族法とは	民法における家族法位置づけと家族の意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	婚姻（１）	婚姻の意味と婚約等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	婚姻（２）	婚姻の効力→婚姻をすると、夫婦はどのような義務を負うのか	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	離婚（１）	離婚の意味と実態等について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	離婚（２）	離婚の方法と実務から見た問題点について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	内縁	内縁の意味とその法的意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	親子（１）	親子の種別（実子・養子）と法的効果について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	親子（２）	親権の意味と内容について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	扶養	法律上の扶養義務者と現代的変遷について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	相続の基礎	相続の意味と現代的特色	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	相続人	誰が相続人になるのか、相続人に相続させたくない場合は	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	相続の効力（１）	遺産承継について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	相続の効力（２）	相続分と遺産分割について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	遺言	遺言の意義・方式等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	成年後見	成年後見制度について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	生活学的経済論	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川　貴弘	**単位数**	
開講期	前期	**必選**	
授業概要	本授業の目的は、生活と密接にかかわる経済の基礎知識の習得と経済学的視点の確立である。不景気・デフレーション・円高・円安・インフレーション・消費生活・生活経済等、普段からニュースや新聞で取り上げられるものであるが、これらの経済的事象は私達の生活と密接にかかわっている。これら経済的事象を経済学的視点で見る目を養うことを本授業の目的としたい。☒ なお、在北京日本国大使館経済部での勤務経験を活かし、授業の中で経済統計の見方、マクロ経済の理論と実際について採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 在北京日本国大使館経済部専門調査員として主に中国経済の分析に従事。☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☒ 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☒ 【位置づけ・水準】　GU1109		
達成目標	【単位認定の最低基準】　☒ 経済的事象を経済的視点で見る目を養うことを到達目標とする。この目標の７割程度の達成をもって単位認定の最低基準とする。☒ ☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】　他との協調、人間形成		
受講資格	家政学部 生活科学科 1年生 ☒ 家政学部 食物栄養学科 1年生	**成績評価方法**	①小テスト30点（15点×２回）☒ ②レポート70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	伊藤元重「はじめての経済学（上）（下）」日経文庫、他必要に応じ授業の中で紹介する。		
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる経済関連の問題について関心を持つようにすること。		
オフィスタイム	火曜日　3コマ　水曜日4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について解説する。☒ 経済学とは何かを説明する第一の例としてインフレーションとデフレーションを取り上げ、両者が私達の生活に与える影響について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	経済学とは何か②	第二の例として円安と円高を取り上げ、両者が私達の生活にどのような影響を与えるのかについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	経済学とは何か③	経済学をめぐって行われてきた政策論争（自由貿易vs保護貿易）について学修することを通じて経済学への理解を深める。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	消費生活と経済①	消費と消費者の概念について、消費者の権利と責任について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	消費生活と経済②	様々な消費者問題とクーリングオフについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	消費生活と経済③	グリーンコンシューマーとフェアトレードの概念について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	消費生活と経済④	消費生活と経済について総まとめ。 小テスト1回目	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	30
8	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査①	世界と日本の家計研究の歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査②	エンゲルの法則とエンゲル係数の概念について学修する。近年のエンゲル係数の動向について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
10	食料・食品と経済①	食料自給率、食と流通等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	食料・食品と経済②	食と環境、食品廃棄物問題等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	30
12	行動経済学とその概要①	行動経済学とは何か、その概要について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
13	行動経済学とその概要②	行動経済学について、ナッジ（nudge）理論を元にその事例を紹介する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
14	地域経済～郡山市の経済について①	地域経済とは何かを解説した上で、私達が住んでいる郡山市の経済とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60

15	地域経済～郡山市の経済について② まとめ	郡山市の経済とその特徴について学修する（前回の続き）。 これまでの学修内容を確認する。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

令和3年度

科目名	生活学的社会論	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川　貴弘	**単位数**	
開講期	前期	**必選**	
授業概要	私達は社会の中で生きており、生活と社会は切り離して考えることはできない。本授業では、私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているか、すなわち現代社会の特性、人と社会との関係、社会問題とその背景について理解を深め、考察する力を養うこと、更に社会と切り離せない生活の多様性についても理解することを目的としている。 なお、本講義では、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方、活用の仕方についても採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。　☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。 【位置づけ・水準】　GU1108		
達成目標	【単位認定の最低基準】 私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているかについて、理解を深め、考察する力を養うことを目標とする。この目標の７割程度の達成をもって単位認定の最低基準とする。		
受講資格	家政学部 生活科学科 1年生 ☒ 家政学部 食物栄養学科 1年生	**成績評価方法**	①小テスト30点（15点×２回）☒ ②レポート70点
教科書	プリントを配布する。☒		
参考書	浅野智彦編著「社会学のことが面白いほどわかる本」、中経出版　他		
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる社会の問題について関心を持つようにすること。		
オフィスタイム	火曜日　3コマ　水曜日4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法について説明する。☒ 『社会』とは何か、今の日本『社会』はどのような状態にあるか、その一例として少子高齢化社会について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	少子高齢化社会と日本と世界①	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、日本の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	少子高齢化社会と日本と世界②	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、世界各国の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	少子高齢化社会と日本と世界③	平均寿命、平均余命、健康寿命などの概念、それら指標の現状ついて概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	社会と仕事・家族①	家族とその役割について学修する。 家庭において起こる問題―DVと児童虐待について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	社会と仕事・家族②	フリーターとニート（ひきこもりを含む）、日本的雇用慣行について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	社会と仕事・家族③	正規雇用と非正規雇用、働くことの意義について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
8	社会と自己と他者①	癒しと宗教、社会的自我と個人のアイデンティティについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	社会と自己と他者②	癒しと宗教、社会学から見た自殺問題について学修・考察する。小テスト（1回目予定）☒	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60
10	社会と国家①	社会学から見た国家（ルールと権力）、平等な社会と格差について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	社会と国家②	厚生労働省とその取り組み（１）年金制度、社会保障制度、介護保険制度について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	社会と国家③	厚生労働省とその取り組み（２）医療保険制度とその仕組みについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
13	社会と国家④	厚生労働省とその取り組み（３）「健康日本21」等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
14	社会と国家⑤	「地域保健法」と保健所の役割について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60

15	まとめ	これまでの学修内容の確認と小テストの内容について復習する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

令和3年度

科目名	日本国憲法	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木　康元	**単位数**	
開講期	前期	**必選**	
授業概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。☒ 履修カルテ評価項目☒ ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。☒ ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。☒ ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。☒ 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。☒		
達成目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。☒ 履修カルテ評価項目☒ ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。☒ ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。☒ ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。☒ ☒		
受講資格	家政学部１年生	**成績評価方法**	ペーパー試験(80%)と出席状況(20%)
教科書	憲法【第二版】☒ 弘文堂		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。		
オフィスタイム	火曜日☒ 授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室☒ 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特色、日本国憲法の歴史☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下の平等の意義☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	基本的人権⑦	経済的自由権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	基本的人権⑧	財産権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	基本的人権⑨	その他の人権について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	統治機構①	国会☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	統治機構②	内閣☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	統治機構③	裁判所☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	生活化学	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択
担当教員	大西　弘太郎	**単位数**	/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース
開講期	前期	**必選**	1年 2単位 選択
授業概要	生活科学部での専門科目学習において重要な化学系各講義を理解するための化学的基礎学力および知識の修得を目指す。高校化学の復習・補完および教職課程に必要な有機化学、食品化学、環境化学など専門化学系科目の導入知識の修得を目指す。 ☒ ☒ 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。☒ 実務経験：医師として医療機関に勤務している。 ☒ ☒ 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。 ☒ ☒ 位置づけ・水準 GU1112		
達成目標	原子の構造と化学結合についての化学的基礎知識を修得する。☒ 化学結合論に基づいた代表的な有機化合物の立体構造の推察力及び表現力を獲得する。☒ 有機化合物の構造と命名法の理解と代表的な有機化合物の命名能力を獲得する。☒ ☒ 単位認定の最低基準：化学的基礎知識が習得されていること。 ☒ ☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：他との協調、人間形成。		
受講資格	生活科学科社会福祉コース 1年☒ 生活科学科建築デザインコース 1年	**成績評価方法**	小テスト　(20%) ☒ 筆記試験　(80%)
教科書	なし		
参考書	生理学・生化学につながる　ていねいな化学(羊土社)		
学生への要望	講義での学習内容は、高校化学の復習に基づく化学的基礎知識を70%、専門化学系科目の導入知識を30%に設定している。１年後期以降に受講する専門化学系科目の準備として、本講義の学習内容をほぼ完全に理解・修得することが望ましい。☒ 学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。		
オフィスタイム	臨床医学研究室☒ 火曜日　13:00～17:00。☒ 木曜日　15:00～17:00。 ☒ 金曜日　08:30～17:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	物質の構成と原子構造	物質の構成。☒ 原子構造と周期表。	物質は何でできている？、粒子は常に動いている！、元素と原子と分子ってどう違うの？、荷電って何？、周期表って何？、等々……。	120
2	化学結合	イオン同士の結びつき、イオン結合。原子同士の結びつき、共有結合。金属同士の結びつき、金属結合。	イオンって何？、イオン結合って何？、共有結合って何？、ファンデルワールス力って何？、金属結合って何？、等々……。	120
3	物質量	原子量、分子量、式量。☒ 物質量と化学反応式。	原子量、分子量、式量って何？、質量って何？、体積、密度って何？、溶媒・溶質・溶液って何？、モル濃度って何？、化学反応式って何？、等々……。	120
4	酸と塩基。☒ 酸化還元反応。	酸と塩基。酸化還元反応。	酸、塩基とは？、酸・塩基の価数とは？、酸・塩基の強弱は電離度で決まる！、酸性・中性・塩基性、pH、中和、塩って何？。酸化と還元の3つの定義。電池の仕組み。	120
5	酵素反応と酸塩基平衡	酵素反応。☒ 体液の酸塩基平衡。	化学反応にも速度がある、化学反応による熱の出入り、化学反応にはエネルギーが必要、酵素は体内の化学反応を促進する。化学反応には方向性がある、平衡状態が崩れたらどうなるの？、pHの変化をやわらげる働き。	120
6	生体を構成する物質	糖質、脂質、タンパク質、核酸。	からだは有機物で出来ている。	120
7	気体の性質	気体・液体・固体、温度と状態、理想気体方程式。	物質の状態(特に気体について)予習復習をしましょう。	120
8	炭素化合物	アルカン。アルケン。シクロアルカン、シクロアルケン。	それぞれについて予習復習をしましょう。	120

9	官能基	アルコールとエーテル。アルデヒド。ケトン。カルボン酸。エステル。アミンとアミド。	それぞれについて予習復習をしましょう。	120
10	芳香族	芳香族化合物。	芳香族について予習復習をしましょう。	120
11	色素	色素。	色素について予習復習をしましょう。	120
12	香り、味	香り、味。	香り、味について予習復習をしましょう。	120
13	高分子	高分子とは何か？。ポリエチレンとその仲間。ナイロンとその仲間。ゴム・プラスチック・合成繊維など。	高分子について予習復習をしましょう。	120
14	環境化学	環境化学。	環境化学について予習復習をしましょう。	120
15	まとめ	総合討論。	講義の内容・程度・分量などについて全体的に討論をしましょう。	120

令和3年度

科目名	運動健康論	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	佐藤　浩明	**単位数**	
開講期	通年	**必選**	
授業概要	GU1119☒ 生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性を理解し、生涯にわたり自分の健康や体力に配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技、講義を通じて学びます。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミニュケーションや協調性を指導します。 ☒ ①運動と健康の関連を理解し、健康の在り方について学びます。☒ ②スポーツの意義を理解し、人間力について学びます。☒ ③運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。☒ ④運動を通して、基礎体力の維持、向上する方法について学びます。☒ ⑤授業最後にレポート等は返却し口頭またはコメントで説明します。		
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得する と共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける。レポート、実技テスト等を受けることを最低基準とする☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】☒ ・他との協調　・人間形成☒ 【食物栄養学科】食と健康の職人的専門として人々の健康と生活の向上に寄与するという意識と責任をもっている☒ スポーツを通して人間として人格形成を志向、自己の専門知識と技術を社会のために活かし、社会責任を果たす事ができる		
受講資格	家政学部 人間生活学科　生活総合コース 1年 2単位 選択☒ 家政学部 人間生活学科　福祉コース 1年 2単位 選択☒ 家政学部 人間生活学科　建築デザインコース 1年 2単位 選択家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択☒ ☒ ☒ ※教職課程履修者は必修	**成績評価方法**	平常点30点（取組姿勢）　試験・提出物70点（実技・レポート）☒ ※本科目は実技を含むため、出席、積極的な取組みも重視します。
教科書	特になし（必要に応じて資料等を配布します）		
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：㈶日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメゾット：高橋書店」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」		
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。☒ 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）		
オフィスタイム	火・木の9:00～16:00まで創学館NO4研究室☒ 佐藤		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明　②服装、準備物の確認（注意事項含む）　③グループ分け	運動着、水分の準備をしてくる事	30
2	縄跳び①／からだづくりの運動	【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）☒ ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30

3	縄跳び②／からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コーディネーショントレーニング　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）☒ ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
4	縄跳び③／からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コーディネーショントレーニング　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）☒ ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
5	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
6	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30

7	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
8	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃☒	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
9	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
10	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	0

11	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	0
12	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
13	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
14	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
15	実技のまとめ	≪まとめとして実技試験を行う≫☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）②レクリエーションゲーム　③実技試験　④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）　⑤体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30

16	第16回　オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状　オリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツの持つ魅力について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
17	第17回　生活と健康について①	≪健康とは何か≫☒ ☒ 健康について考える導入として、「健康の定義」をＷＨＯ（世界保健機関）の憲章をふまえ、様々な角度から学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
18	第18回　生活と健康について②	≪生活習慣病の原因・対策・予防と運動≫☒ ☒ ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し、運動との関係について学びます。☒ ②運動・休養と健康について学びます。☒ 。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
19	第19回　生活と健康について③	≪大学生の健康≫☒ ☒ 大学生の生活に潜む危険要因について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
20	第20回　生活とスポーツについて①	≪スポーツとは何か≫☒ ☒ スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
21	第21回　生活とスポーツについて②	≪生涯スポーツについて≫☒ ☒ 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う　②観る　③支える　④調べるの視点から学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
22	第22回　生活とスポーツについて③	≪大学生とスポーツ≫☒ ☒ 大学生になり高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康に興味を持ち、運動やスポーツにどう関わることができるかについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
23	第23回　スポーツから学ぶ①	≪フェアプレーについて≫☒ ☒ スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常の生活や、普段の行動にも通じるものがあります。☒ ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
24	第24回　スポーツから学ぶ②	≪メンタルトレーニング≫☒ ☒ 常に結果が求められるスポーツ選手（アスリート）のメンタルトレーニング、ポジティブシンキング、行動基準について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	0
25	第25回　スポーツから学ぶ③	≪目標設定≫☒ ☒ スポーツ選手（アスリート）の行動基準から自分の目標設定の方法について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	0
26	第26回　健康増進のための身体運動について①	≪体力とは≫☒ ☒ ①体力の概念と体力要素（身体的要素　精神的要素）について学びます。☒ ②運動の原理原則について理解し、効果的な運動の方法について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
27	第27回　健康増進のための身体運動について②	≪エクササイズの方法について☒ ☒ 健康の保持増進やからだをつくるための方法（①有酸素運動　②筋力トレーニング　③ストレッチ　④バランス等）や実施する際のポイントについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

28	第28回　コンディショニングについて	≪からだの調子を良くする・怪我の予防・対処方法≫☒ ☒ ①コンディショニングを崩す原因を理解し予防方法について学びます。☒ ②怪我の予防、応急処置の基本、熱中症対策について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
29	第29回　健康的な生活について①	≪ライフスタイルについて≫☒ ☒ 自分のライフスタイル（生活習慣・運動習慣）を客観的に理解し、健康的な生活を過ごすための方法について学びます。☒ ☒ ☒ ☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
30	第30回　健康的な生活について②	≪良い習慣について≫☒ ☒ 行動を邪魔する要因を理解し、運動習慣をつける方法について学びます。☒ ※『健康なからだをつくる』をテーマに自分のライフスタイルについて考えます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

令和3年度

科目名	キャリアデザインⅡ	**対象**	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 1単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 1単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 1単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 1単位 選択
担当教員	森　みい	**単位数**	
開講期	前期	**必選**	
授業概要	【授業のねらい】☒ 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。☒ 　インターンシップ終了後に、課題・レポート提出及び、インターンシップ報告会を行い、課題についてフィードバックを行います。 ☒ 【授業の概要】☒ 　インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期6回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（3日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、就職指導にあたっている経験を活かし授業を行います。☒ ☒ ☒ GC1118☒		
達成目標	【授業終了時の達成目標】☒ 　インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、課題解決力を養っていきます。また、新たな学習意欲の契機となるように、仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解や充実感を感じ、人々の生活向上や社会に貢献ができることを目標とします。		
受講資格	特になし	**成績評価方法**	就業体験60％・報告会20％・提出物20％「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30　水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	インターンシップの概要☒ 4/8(Ｖコマ) ☒	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップに必要な書類についての確認する 。☒	就業体験先の希望調査があるので、企業・業界研究をしておく。 インターンシップの目標を設定する。	30
2	インターンシップの心構え☒ 5/13(Ｖコマ)	昨年のインターンシップを参考に自分は何を学びたいのか明確な目標を設定していく。	インターンシップを通して、企業や業界の働きについて考える。	30
3	インターンシップの心構え☒ 5/27(Ｖコマ)	働く人の話を聞き、仕事の内容、組織での関りを学び、インターンシップの考えを深化させていく。	インターンシップは具体的にどのように考えていくか、社会人の話を聞き、企業研究をする。	30
4	企業研究（講演)☒ 6/3（Ｖコマ）☒ ☒ ☒	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。また、人生をどのように生きていく、自分の将来のキャリアプランを考える。	企業の働きから、社会の動向を学び、働く事への理解を深める。	30
5	事前指導☒ (ビジネス文書作成)☒ 6/17Ｖコマ）☒	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。☒	手紙の書き方、ビジネスでのメール送信、電話の掛け方等、一般的なナマーを確認しておく。	30
6	事前指導☒ （マナー講座)☒ 7/1（Ｖコマ）☒	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。☒ 業体験先との打合せを始める。	挨拶・言葉遣いを実践で学んでいくので、印象のいいマナーを日常から意識をして練習する。	30
7	直前指導☒ (インターンシップ先の企業研究)7/15（Ｖコマ） ☒ ☒	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	インターンシップ先にアポイントを取り担当者と打合せをする。電話の掛け方、インターンシップに向けてマナーの練習をする。	30

8	インターンシップ 実施 1班8/18～8/20 2班8/25～8/27 ☒	各企業において、夏季休業中（8月中旬～下旬)に3日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	企業研究及び交通手段の確認をする。インターンシップ先の企業研究を行い、最終確認をする。	30
9	インターンシップ報告会☒ 9/2 （Ⅰコマ） ☒	事後報告会として、クループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会の準備と提出物の最終確認をする。	30
10	インターンシップ報告会 ☒ 9/2 （Ⅱコマ） ☒ ☒	事後報告会として、代表者の報告を企業の方も参加して実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会で発表し、報告者の発表から課題を考えていく。	30

令和3年度

科目名	消費生活論	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	長谷川　貴弘		
開講期	前期		
授業概要	大きく変化する社会情勢の中、消費者を取り巻く環境は変化し続けており、消費者問題の内容も時代とともに変貌している。現代における諸問題を把握し、日常生活の中の身近な問題として捉え、学生自らが安全・安心な生活を送ることができるようになることを目指す。☒ また、消費生活に関する法律、政策、行政や企業の取り組みを理解し消費者教育を実践できるようになることを目指す。☒ なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方・活用の仕方、法律と行政組織について採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☒ 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☒ 【位置づけ・水準】　DS2324		
達成目標	【単位認定の最低基準】　☒ 下記①～③の目標の８割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。☒ ①消費者問題の実情を知り、課題を見出し、その解決策の方向性を見出すことができる。☒ ☒ ②日常生活の中で実践することができる自立した消費者の育成のために学生自身の消費者力を高める。☒ ③政策、法律、行政や企業の取り組み等を理解し、消費者力検定にチャレンジできるだけの能力を養う。☒ ☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】　論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任		
受講資格	家政学部人間生活学科生活総合コース、建築デザインコース　3年生	**成績評価 方法**	①小テスト30点（15点×２回）☒ ②課題（消費者問題に関するレポート）70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	ハンドブック消費者2014（消費者庁企画課）他		
学生への要望	現代消費生活における課題を捉えるために、次のことを要望する。☒ ①新聞をよく読み、消費生活に関する記事を収集する。☒ ②消費者力検定に挑戦し、幅広い知識の習得を目指す。		
オフィスタイム	火曜日　3コマ　水曜日　4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の目的および授業計画について説明（内容、評価方法について等）☒、消費者を取り巻く社会経済情勢と消費者行動・意識について学修する。☒ ☒	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
2	消費者問題の変遷	年代ごとにどのような消費者問題が発生したか概観し、様々な消費者問題の背景にある社会の情勢を読み取る。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
3	消費者行政の変遷①	消費者問題に対応してどのような政策が行われたか概観し、消費者問題に対処するための機関　～消費者庁の誕生、国民生活センター、消費生活センターの役割～について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
4	消費者行政の変遷②	前回に続いて、消費者庁、国民生活センター、消費生活センターの役割について動画教材の視聴等も通じて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
5	消費者の権利と責任①	消費者基本法、消費者の権利と責任☒消費者保護の概念について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
6	消費者の権利と責任②	前回に続いて、消費者基本法、消費者の権利と責任☒消費者保護の概念について動画教材の視聴なども通じて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
7	自立した消費者を目指して①契約とは	契約の意味、☒成年者契約☒契約に関するトラブルについて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
8	自立した消費者を目指して②経済	消費者契約法☒特定商取引法について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
9	自立した消費者を目指して③食	食品の安全・安心☒新しい食品表示制度について学修する。☒ ☒	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
10	自立した消費者を目指して④生活用品	消費生活用製品安全法について学修する。 小テスト（1回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	消費生活と環境～循環型社会のための法制度①	持続可能な社会の構築と法律☒グリーンコンシューマーの概念、☒続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
12	消費生活と環境～循環型社会のための法制度②	持続可能な社会の構築と法律☒グリーンコンシューマーの概念、☒続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。（前回の続き）	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
13	消費者教育・啓発活動	一般消費者に向けてどのような消費者教育が行われているか学修する。☒	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
14	公平かつ自由な競争の促進	独占禁止法、不正競争防止法、その他各種制度について学修する。	消費者問題について、これまでの学修内容と自身で調べたことを元にレポートを作成する。	60
15	まとめ	消費者力検定とその内容について理解を深め、過去問等にチャレンジする。 小テスト（2回目） ☒	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。	60

令和3年度

科目名	社会調査法	**対象**	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2
担当教員	長谷川　貴弘	**単位数**	単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化
開講期	後期	**必選**	学専攻 1年 2単位 選択
授業概要	社会調査というものが何を目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会調査への理解を深めることを目標としたい。☒ なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計データの見方、活用の仕方について採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☒ 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☒ 【位置づけ・水準】　HL2317		
達成目標	【単位認定の最低基準】　社会調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。このためこれら内容の８割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。☒ ☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】　問題解決力、倫理観・社会的責任		
受講資格	家政学部　　生活科学科　3年生☒ 短期大学部　専攻科　　1年生	**成績評価方法**	①小テスト30点（15点×2回）☒ ②課題（レポート）70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社		
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。		
オフィスタイム	火曜日　2コマ　金曜日4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 社会調査とは何か	授業の進め方、評価方法について。☒ 社会調査とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学修する。☒	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
2	社会調査の種類①	社会調査の分類、量的調査と質的調査について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
3	社会調査の種類②	社会調査における質的調査の特徴について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
4	社会調査のプロセス	社会調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
5	社会調査のデザイン①	社会調査の調査内容とその検証について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
6	社会調査のデザイン②	仮説の検証とより良い調査研究について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
7	実査の方法①	データ収集法選択の基準について学修する。	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
8	実査の方法②	様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学修する。小テスト（1回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
9	調査票の作成	調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
10	サンプリング	調査対象の選び方について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
11	調査の実施	郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
12	データファイルの作成	データ入力とその手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
13	データの集計方法	情報の集約、代表値（平均）から相関係数について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	調査報告とデータの管理 （パソコンを用いての実習）	調査の報告と報告後のデータの管理について学修する。 このため実際にパソコンを用いてデータの加工、管理について実習形式で授業を行う。	実習に備えてこれまでの学修内容を確認すること。また授業内で終わらなかった課題については自宅学修で引き続き取り組むこと。	60
15	社会調査の倫理について 学修の総まとめ	社会調査協会倫理規定に基づいて社会調査の倫理について学修する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60

令和3年度

科目名	衣造形学演習	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
担当教員	瀬谷　真理子		
開講期	前期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] ☒ 立体構成（洋裁）学を基に、衣服の成り立ちについての理解を深める。また、パターンの活用方法を習得することにより、体型と構成の関連性を理解し、着心地の良い作品を作る。製作実習により衣生活の重要性を学ぶとともに快適な衣生活の提案ができるように知識と技術の修得を目指す。更に、教員養成に向け、高等学校で家庭科教育に携わってきた経験を生かした指導を行い、基礎的技術の習得のために作品製作（基礎縫い、ブラウス）をとおして実践力向上を目指すとともに、教科指導としての在り方についても理解を深め、基本から応用までの技術修得を目指す。 また、中学校「技術・家庭」家庭分野の被服製作としても活用されるアウターパンツについて、前半での学びの応用として主体的に製作実習する。ワークシートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 [授業全体の内容の概要] ☒ 基本的な被服製作実習を通し技術の修得と定着を図るとともに、教員としての資質を育むため選択製作実習を取り入れ主体的に製作できる力を養う。 [実務経歴]　福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準　HL2233		
達成目標	①体の機能や形態を理解するとともに立体構成（洋裁）とは何かを理解できる。☒ ②家庭科教育における衣生活分野を学ぶ意味について理解し、製作実習に必要な力を養う。☒ ③基本的な洋裁技術を修得するとともに、教科指導上の課題について理解し実践力を養う。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的な評価が達成度７割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	上記対象学生、教職履修学生	**成績評価 方法**	①授業への意欲・態度　10%　、②課題：部分作品（パターン、袖、衿等）20%　、③完成作品（基礎縫い、ブラウス製作、選択製作）60%　、④課題（評価票等）10%　として、①から④までの総合評価により60%以上を合格とする。
教科書	自作テキスト配付、プリント配付。		
参考書	文部科学省後援：全国高等学校家庭科被服製作技術検定指導要項、「ファッション造形基礎」「パターン・裁断・縫い方の基礎の基礎」文化出版局、文化ファッション大系　改訂版・服飾造形講座「ブラウス・ワンピース」文化出版局		
学生への要望	１．主体的・意欲的に取り組むこと。２．実習用具、材料は指示通り各自用意すること。３．製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進度を揃え、完了できるように心掛けること。		
オフィスタイム	家政学館４Ｆ被服学研究室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	オリエンテーション 1）被服製作に必要な実習用具について理解する。 2）衣生活における製作の意味を考える。	シラバスを確認し演習内容を理解する	20
2	実習内容と留意事項について	1）実習計画の提示☒ 2）体型と立体構成について☒ 3）被服製作の基本	シラバスを確認し演習内容を理解する ワークシートの整理	30
3	被服製作における基本	1）洋裁の基礎知識☒ 2）基本的技術の確認と定着 3）基礎縫いの実施と評価	ワークシートの整理	30
4	被服製作における基本	1）洋裁の基礎知識☒ 2）基本的技術の確認と定着 3）基礎縫いの実施と評価	ワークシートの整理	30
5	被服製作	1）パターンの記号を学ぶ☒ 2）パターンの利用の仕方と指導上の留意点を学ぶ	ワークシートの整理	30
6	ブラウスパターン作図	1）ブラウスのパターンを選定　☒ 2）ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出☒ 3）使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ	パターンの展開方法を理解する	30
7	ブラウス製作①ー基本を学ぶー	1）パターン修正　☒ 2）裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ☒	パターンの展開方法を理解する 裁断前の準備について理解する ワークシートの作成	30
8	ブラウス製作②ー基本を学ぶー	1）本縫い☒ 2）縫い代始末方法を学ぶ。ａ、ジグザグミシンの方法。ｂ、ロックミシン　ｃ、端ミシン☒ 3）接着芯の理解と取り扱いを学ぶ	パターンの展開方法を理解する 裁断前の準備について理解する ワークシートの作成	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	ブラウス製作③	ロックミシンの必要な個所を確認する。ロックミシンの使い方を学ぶ。ロックミシンを活用して縫いしろ始末を行う。※安全面に留意して、布地の扱いに配慮しながらロックミシンをかける。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
10	ブラウス製作④	身頃本縫い　まち針の打ち方、朕のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。図身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
11	ブラウス製作⑤	身頃本縫い　まち針の打ち方、朕のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。ポケットを作り、身ごろにポケットをつける。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
12	ブラウス製作⑥	表衿と裏衿の特徴を理解し、確認を行い、衿つくりを実施する。角衿の場合のきれいな角の出し方について、実技により学ぶ。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する 衿について提出できるように準備する	30
13	ブラウス製作⑦	デザインを生かした技法について学び、実践する。身ごろのヨークと肩、後ろ身ごろにタック寄せ、ギャザー寄せ等の手法を理解して身ごろの構成を考えながら製作する。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
14	ブラウス製作⑧	衿と身ごろとの関係を理解して、きれいにつけて仕上げるための方法について学ぶ。待ち針の役割を理解し、待ち針の打ち方を実践できるようにする。バランスを考えながら身ごろに衿がつけられるようにする。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
15	ブラウス製作⑨	バイアステープの役割について学び、衿付け縫い代始末の方法として扱い方を理解する。衿付け縫い代の始末をする。切り込みの必要性について理解し、きれいな仕上げに向けて実践する。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
16	ブラウス製作⑩	袖付けを行う。左右の確認と身ごろとの関係に留意して立体的に仕上げることの構成上のポイントを学び、袖をつける。袖下脇縫いを行う。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
17	ブラウス製作⑪	見返しと裾の始末を行い、仕上げを行う。 ミシンによるボタンホールの製作、ボタン穴の開け方を学ぶ。ボタンのつけ方を学ぶ。図	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
18	ブラウス製作⑫ー相互評価ー	1）仕上げ 2）着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 3）自己評価票を作成して提出	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
19	選択製作ーアウターパンツ①	1）製作計画の作成 2）デザイン、型紙作成	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
20	選択製作ーアウターパンツ②	1）製作計画の作成 2）デザイン、型紙作成	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
21	選択製作ーアウターパンツ③	1）製作計画の作成 2）裁断	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
22	選択製作ーアウターパンツ④	縫い代始末、しるしつけ図	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
23	選択製作ーアウターパンツ⑤	1）縫い代始末、しるしつけ図 2）ポケット付け	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
24	選択製作ーアウターパンツ⑥	脇縫い、また下縫い、また上縫い	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
25	選択製作ーアウターパンツ⑦	ウエストの始末、裾の始末	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
26	選択製作ーアウターパンツ⑧	仕上げ、相互評価	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
27	選択製作ーアウターパンツ⑨	ウエストの始末、裾の始末	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
28	選択製作ーアウターパンツ⑩	仕上げ、相互評価	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
29	総合評価	作品提出と共に、レポート課題の提出図 ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	レポートの作成	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
30	総合評価	作品提出と共に、レポート課題の提出☒ ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	レポートの作成	60

令和3年度

科目名	調理学演習	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	瀬谷　真理子,大泉　由美		
開講期	前期		
授業概要	調理の基本的な知識と技術を修得するために、家庭科教育における調理実習の献立をふまえ、代表的な料理（日本料理、西洋料理、中国料理）を演習することにより、教科指導において必要な実践力を高める。下ごしらえから盛り付けまでの流れを計画し、一人一人が個別に実践することにより、着実な技術を身につけていく。演習を通じて，調理学の基本的な知識と技術を修得するとともに食材の栄養価や色・形・味などの調理による変化とその理由を五感で理解しながら探究的な視野を大切にしてレポートを作成する。また、人々の暮らしにおける食生活を意識した状態別献立を取り入れ、日常食や行事食等、伝統的な食文化も大切にしながら調理における技術としての実践力を高め、自宅での実践により、調理に関する応用力を身につける。☒ポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 また，高等学校の家庭科や中学校の家庭科において、教える立場からの指導方法を含めながら実践することにより、基本的知識と技術の定着を図り、家庭科教員としての資質を身につける。さらに福島県高等学校の家庭科教育における実務経験を生かしながら実践的な教科指導に向けた応用力を養う。 　実務経歴：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準　HL2336☒ ☒		
達成目標	中学・高校の家庭科教師としての指導力や家庭での調理を実践するための基本的な知識や技術を修得することを目標とする。☒ ①野菜・果物、魚・肉などの食材に適した調理技術を修得し、指導することができる。☒ ②和洋中華料理の基本を修得し指導することができるとともに、調理上必須となる食品衛生、環境負荷削減の知識を修得し、行動できる。☒ ③日常的な献立から状態別献立、行事食までの調理について、基礎的な知識技術を習得し、実践できる。 単位認定の最低基準は、上記の①～③の総合的評価が達成度７割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力☒ 位置付け・水準 HU2336 ☒		
受講資格	上記対象学生、教職履修者は必修	**成績評価 方法**	①授業態度：２０%、②実技：４０%、③レポート：４０%とし、①から③の総合評価により６０%以上で合格とする。
教科書	「基礎から学ぶ調理実習」オーム社　☒ プリント配布		
参考書	「フードデザイン」教育図書、家庭科教育振興会　全国高等学校家庭科技術検定実施要項		
学生への要望	準備から後片付けまでが調理学演習の一環と考え，積極的に取り組むこと．☒ また，豊かな食生活は家族団欒を営む基礎となることを理解し，実習後は自宅での実践（復習）を必ず実施し，家族とのコミュニケーションを深める一助とすることを期待する．		
オフィスタイム	被服学研究室（家政学館４階）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／食材の下ごしらえ・切り方など	シラバスにそって授業の概要や到達目標，評価方法などを説明する．授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅で実践の必要性を認識する．☒	本日の講義内容をまとめ，問題点をピックアップする．	30
2	ガイダンス（1） 実習室・調理器具について・授業の進め方や評価方法	調理実習室の使い方、調理器具の使い方、洗い方、手入れ等について基本を学ぶ。使用していく教科書を用いて、調理の基本、調理実習時の衛生管理について理解させる。食することの意味について考え、デスカッションする。	本日の講義内容をまとめ，問題点をピックアップする．ワークシートの作成を行う。	30
3	ガイダンス（2） 文化鍋の使い方／西洋料理①	【文化鍋での炊飯とドライカレー，春野菜のスープ，いちごのミルクゼリー】のつくり方を学ぶ。 ①炊飯の原理を理解し、文化鍋での炊飯の仕方を学ぶ。 ②ゼラチンの特徴と扱い方を学ぶ。 ③果物の扱いについての基本を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
4	ガイダンス（2） 文化鍋の使い方／西洋料理①	【文化鍋での炊飯とドライカレー，春野菜のスープ，いちごのミルクゼリー】のつくり方を学ぶ。 ①炊飯の原理を理解し、文化鍋での炊飯の仕方を学ぶ。 ②ゼラチンの特徴と扱い方を学ぶ。 ③果物の扱いについての基本を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	日本料理① 旬の食材を使った調理	旬の食材を使った調理について学ぶ。【たけのこご飯、若竹汁、たけのこの天ぷら、いちご大福】☒ ①たけのこの下ごしらえと部位別調理☒ ②炊き込み飯の種類と作り方☒ ③だしの取り方☒ ④揚げ物について、衣のつくり方と揚げ方 ⑤白玉粉の特徴と取り扱い☒	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
6	日本料理① 旬の食材を使った調理	旬の食材を使った調理について学ぶ。【たけのこご飯、若竹汁、たけのこの天ぷら、いちご大福】☒ ①たけのこの下ごしらえと部位別調理☒ ②炊き込み飯の種類と作り方☒ ③だしの取り方☒ ④揚げ物について、衣のつくり方と揚げ方 ⑤白玉粉の特徴と取り扱い☒	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
7	西洋料理② 西洋料理の基本	【コンソメジュリアン，グラタン，グリーンサラダ，ブラマンジェ】　代表的な西洋料理の基本を学ぶ. ①ホワイトソースの理解、作り方 ②エビの下ごしらえと扱い ③ドレッシングの基本と作り方 ④コーンスターチの特徴と扱い方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
8	西洋料理② 西洋料理の基本	【コンソメジュリアン，グラタン，グリーンサラダ，ブラマンジェ】　代表的な西洋料理の基本を学ぶ. ①ホワイトソースの理解、作り方 ②エビの下ごしらえと扱い ③ドレッシングの基本と作り方 ④コーンスターチの特徴と扱い方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
9	日本料理② 丼物、和え物、澄まし汁の基本	【そぼろ飯、吉野鶏の澄まし汁、青菜のごま和え、フルーツ羹】　日常的な和風献立の基本を学ぶ。 ①そぼろのつくり方 ②煮出し汁の取り方と澄まし汁 ③野菜のゆで方と和え物の要領 ④寒天の扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
10	日本料理② 丼物、和え物、澄まし汁の基本	【そぼろ飯、吉野鶏の澄まし汁、青菜のごま和え、フルーツ羹】　日常的な和風献立の基本を学ぶ。 ①そぼろのつくり方 ②煮出し汁の取り方と澄まし汁 ③野菜のゆで方と和え物の要領 ④寒天の扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
11	中国料理①	【青椒肉絲、黄花湯、奶豆腐】 代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。※一品を実技テストを兼ねて行う。 ①中国料理の基本と特徴☒ ②寒天の扱い方☒ ③とろみのあるスープ（湯）のつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
12	中国料理①	【青椒肉絲、黄花湯、奶豆腐】 代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。※一品を実技テストを兼ねて行う。 ①中国料理の基本と特徴☒ ②寒天の扱い方☒ ③とろみのあるスープ（湯）のつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	中国料理②	【什錦炒飯、涼拌三絲、西米椰汁】　日常的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①炒飯の要領、食材の扱い ②はるさめの扱い方 ③薄焼き卵のつくり方 ④和え物の要領 ⑤タピオカの扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
14	中国料理②	【什錦炒飯、涼拌三絲、西米椰汁】　日常的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①炒飯の要領、食材の扱い ②はるさめの扱い方 ③薄焼き卵のつくり方 ④和え物の要領 ⑤タピオカの扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
15	状態別献立①　～高齢者向け和風献立～	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそぼろあんかけ】 ①炊き込みご飯のつくり方 ②各食材の扱い ③しんじょの扱い ④そぼろあんのつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
16	状態別献立①　～高齢者向け和風献立～	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそぼろあんかけ】 ①炊き込みご飯のつくり方 ②各食材の扱い ③しんじょの扱い ④そぼろあんのつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
17	状態別献立②　～子供向け洋風献立～	状態別献立として、実施する。子供向け（幼児・児童期）の献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【チキンピラフ、じゃがいもときのこのクリーム煮、トマトカップサラダ、二色ゼリー】 ①ピラフのつくり方、米の扱い方を理解する。 ②クリーム煮の基本を理解する。 ③トマトの扱い方を理解する。 ④ゼラチンの扱いと応用調理	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
18	状態別献立②　～子供向け洋風献立～	状態別献立として、実施する。子供向け（幼児・児童期）の献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【チキンピラフ、じゃがいもときのこのクリーム煮、トマトカップサラダ、二色ゼリー】 ①ピラフのつくり方、米の扱い方を理解する。 ②クリーム煮の基本を理解する。 ③トマトの扱い方を理解する。 ④ゼラチンの扱いと応用調理	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
19	状態別献立③　～成人向け和風献立～	状態別献立として、実施する。成人向けの献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【肉じゃが、菜飯、切り身魚のホイル焼き、カブと油揚げの味噌汁】 ①基本的な煮物のつくり方 ②ホイル焼きの要領 ③味噌汁の基本	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	状態別献立③　～成人向け和風献立～	状態別献立として、実施する。成人向けの献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【肉じゃが、菜飯、切り身魚のホイル焼き、カブと油揚げの味噌汁】 ①基本的な煮物のつくり方 ②ホイル焼きの要領 ③味噌汁の基本	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
21	中国料理③	【古老肉、涼拌海蜇、栗米湯】　日本で好まれる中国料理を実施する。 ①中国料理の溜菜の要領を学ぶ ②くらげの扱いを理解する ③とろみのあるスープの応用について	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
22	中国料理③	【古老肉、涼拌海蜇、栗米湯】　日本で好まれる中国料理を実施する。 ①中国料理の溜菜の要領を学ぶ ②くらげの扱いを理解する ③とろみのあるスープの応用について	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
23	弁当料理	日常食の一つとして昼食の献立を弁当料理として、基本的な理解と実践を行う。※盛り付けの実技テストを行う ①主菜、副菜への理解 ②常備菜のつくり方 ③彩の工夫	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
24	弁当料理	日常食の一つとして昼食の献立を弁当料理として、基本的な理解と実践を行う。※盛り付けの実技テストを行う ①主菜、副菜への理解 ②常備菜のつくり方 ③彩の工夫	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
25	行事食①　誕生日の献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。※一品を実技テストとして行う。【ハンバーグステーキ、クラムチャウダー、フルーツサラダ】 ①ひき肉を使った焼き物のつくり方 ②つなぎ材料の役割とその割合 ③貝類の扱い、煮込み方 ④果物の扱い、ソースのつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
26	行事食①　誕生日の献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。※一品を実技テストとして行う。【ハンバーグステーキ、クラムチャウダー、フルーツサラダ】 ①ひき肉を使った焼き物のつくり方 ②つなぎ材料の役割とその割合 ③貝類の扱い、煮込み方 ④果物の扱い、ソースのつくり方	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
27	行事食②　七夕祭りの献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【ちらし寿司、澄まし汁、青菜の辛し和え、フルーツみつ豆】 ①酢飯のつくり方 ②だし汁の取り方 ③青菜の扱い方 ④寒天の扱いと白玉粉の扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	行事食②　七夕祭りの献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【ちらし寿司、澄まし汁、青菜の辛し和え、フルーツみつ豆】 ①酢飯のつくり方 ②だし汁の取り方 ③青菜の扱い方 ④寒天の扱いと白玉粉の扱い	説明したレポートの書き方にそって，本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに，学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
29	行事食③　敬老の日の献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【天ぷら、茶わん蒸し、豆ごはん、水ようかん】 ①揚げ衣のつくり方 ②卵の性質、蒸し物の要領 ③寒天の扱い		60
30	行事食③　敬老の日の献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【天ぷら、茶わん蒸し、豆ごはん、水ようかん】 ①揚げ衣のつくり方 ②卵の性質、蒸し物の要領 ③寒天の扱い		60

令和3年度

科目名	建築設備	**対象**	
担当教員	藤田　延幸	**単位数**	家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 2単位 必修
開講期	前期	**必選**	
授業概要	授業の到達目標及びテーマ☒ 快適な住生活をおくるための建築設備（給排水、空調、電気）について理解する。☒ [履修カルテの評価項目]☒ ○基本的な設備機器の種類とシステムについて。☒ ○新エネルギーについての知識とエネルギー問題について☒ 授業の概要☒ 　快適な住生活をおくるために建築設備は必要不可欠なものである。近年は省エネルギー等により設備システムを効率よく使用することが求められている。本講義では基本的な建築設備の種類とそのシステムを理解するとともに、新エネルギーについての知識も学習する。☒ 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。☒		
達成目標	授業の到達目標及びテーマ☒ 快適な住生活をおくるための建築設備（給排水、空調、電気）について理解する。☒ [履修カルテの評価項目]☒ ○基本的な設備機器の種類とシステムについて。☒ ○新エネルギーについての知識とエネルギー問題について☒ 授業の概要☒ 　快適な住生活をおくるために建築設備は必要不可欠なものである。近年は省エネルギー等により設備システムを効率よく使用することが求められている。本講義では基本的な建築設備の種類とそのシステムを理解するとともに、新エネルギーについての知識も学習する。☒ ☒		
受講資格	人間生活学科建築デザインコース４年生	**成績評価方法**	定期試験により評価します。
教科書	「初学者の建築講座　建築設備（第二版）」著：大塚雅之　市ヶ谷出版社		
参考書	配付資料を使用します。		
学生への要望	積極的に授業に参加すること。		
オフィスタイム	月曜日授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の概要説明	授業の概要説明	授業内容を整理する。	30
2	建築計画と設備計画の関わりを講義し、設備の役割、意義を考える。	建築計画と設備計画の関わりを講義し、設備の役割、意義を考える。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	給排水設備について	給排水設備について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	住宅の中で最も設備が集中する台所、浴室、トイレ等の給排水設備の計画について	住宅の中で最も設備が集中する台所、浴室、トイレ等の給排水設備の計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	事務所ビルの給排水設備の計画について	事務所ビルの給排水設備の計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	事務所ビルの空調システムについて	事務所ビルの空調システムについて	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	事務所ビルの機械換気の種類と方式、全熱交換機の仕組みについて	事務所ビルの機械換気の種類と方式、全熱交換機の仕組みについて	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	住宅の電気設備計画について	住宅の電気設備計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	事務所ビルの電気設備計画について	事務所ビルの電気設備計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	ガス設備、消火設備、給湯設備、通信設備等について	ガス設備、消火設備、給湯設備、通信設備等について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	防災設備について	防災設備について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	建築物のライフサイクルからＬＣＥやＬＣＣＯ２について	建築物のライフサイクルからＬＣＥやＬＣＣＯ２について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	新エネルギー（燃料電池、地下水、風力等）の設備への応用について	新エネルギー（燃料電池、地下水、風力等）の設備への応用について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	太陽エネルギー利用について	太陽エネルギー利用について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	「エネルギー使用の合理化に関する法律」について	「エネルギー使用の合理化に関する法律」について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	建築法規Ⅰ	**対象**	
担当教員	佐久間　保一	**単位数**	家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
開講期	後期	**必選**	
授業概要	建築設計、施工において、建築法規を正しく理解することは、建築に携わる者の倫理上の第一歩です。本講義ではまず、めまぐるしく変わる建築法規の成り立ちを理解します。さらに単体規定、集団規定の基本的法規を学びます。☒ 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。		
達成目標	建築設計、施工において、建築法規を正しく理解することは、建築に携わる者の倫理上の第一歩です。本講義ではまず、めまぐるしく変わる建築法規の成り立ちを理解します。さらに単体規定、集団規定の基本的法規を学びます。		
受講資格	建築デザインコース	**成績評価方法**	定期試験
教科書	「図説やさしい建築法規」学芸出版社、「建築関係法令集」井上書院		
参考書	「図説やさしい建築法規」学芸出版社、「建築関係法令集」井上書院		
学生への要望	建築士試験問題を解くこと。実生活の中で法律を意識すること。		
オフィスタイム	水曜日授業開始前（創学館２階教務部内非常勤講師室）、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス、建築法規の成り立ち	これからの授業の進め方及び、建築法規を学ぶことの意義について、建築に携わる者の倫理面から講義します。次に基準法、政令、条例、告示等の法の成り立ち、及び法規上の接続詞や数量の読み方について解説します。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	建築法令集の活用法	建築関連法令集に、建築基準法、建築士法、都市計画法、建設業法、等の各法規及び各項目のインデックスを貼ります。このことにより法令集の概要及び成り立ちを理解します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	用語の定義1	建築で用いる用語（居室、新築、修繕、軒の高さ等）の定義について学びます。建築法規のみならず、実務においても基礎となる用語であることから、正しい理解が求められます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	用語の定義2	延焼の恐れのある部分、建築物の高さの定義、及び算出方法を学びます。このことから人間の生命を守る建築を創造することの責務について考えます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	敷地面積、建築面積、延面積の計算	敷地面積について、道路との関連について学びます。地下や軒の出がある場合の建築面積、延べ面積について、定義及び算出方法を学びます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	一般構造１	単体規定のあらましについ解説します。次に換気の重要性及び定義について学びます。天井の高さの定義及び算出方法について学習します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	一般構造2	居室における採光の重要性について学びます。次に有効採光面積の定義、及び算出方法について居室の定義を復習しながら学習します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	一般構造3	防火に関する用語（耐火構造、準耐火構造）の他、防火地域や準防火地域等のついて等について学びます。それぞれの相違をよく理解することが必要です。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	用途地域1	集団規定のあらましについて解説します。次に都市計画地域、市街化区域、市街化調整区域、用途地域等、さらに用途制限の考え方について説明します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	用途地域2	引き続き用途地域による用途制限について学びます。法令集の用途制限に関する別表をよく理解することが求められます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	建蔽率の定義及び計算	用途地域、建蔽率の定義、及び算出方法について学びます。建築設計の基礎となるものであることから確実に理解するよう講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	容積率の定義及び計算	容積率の定義及び算出方法について学びます。建築設計の基礎となるものであることから確実に理解するよう講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	高さ制限 1	建築物の高さを制限する道路斜線、隣地斜線、北側斜線について説明します。なかなか理解が難しい内容ですが都市計画との関連を説明しながら確実に理解するよう、講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	高さ制限2	引き続き道路斜線、隣地斜線北側斜線についての定義、及び計算方法について学びます。なかなか理解が難しい内容ですが都市計画との関連を説明しながら確実に理解するよう、講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	避難経路について	建築物における避難経路の確保のしかた及び二方向非難等の避難経路についいて解説します。このことから、人間の生命を守る建築物を創造することの責務について考えます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	建築法規Ⅱ	**対象**	
担当教員	佐久間　保一	**単位数**	家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 必修
開講期	前期	**必選**	
授業概要	建築法規Ⅰに引き続き、建築関連の法規を学び、設計・施工における法遵守の意義を学ぶ。建築基準法の構造強度、防火と内装制限，及び都市計画法、建築士法、建設業法等の重要ポイントを理解する。さらに建築士試験問題を解く実力を付ける。☒ 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 ☒ 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。 ☒		
達成目標	建築法規Ⅰに引き続き、建築関連の法規を学び、設計・施工における法遵守の意義を学ぶ。建築基準法の構造強度、防火と内装制限，及び都市計画法、建築士法、建設業法等の重要ポイントを理解する。さらに建築士試験問題を解く実力を付ける。☒ ☒		
受講資格	建築デザインコース☒	**成績評価方法**	定期試験☒
教科書	「初めての建築法規」学芸出版社☒ 「建築関係法令集」☒		
参考書	「初めての建築法規」学芸出版社☒ 「建築関係法令集」☒		
学生への要望	建築士試験問題を解くこと☒		
オフィスタイム	授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室☒ 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス　建築法規Ⅰの復習	授業の進め方の説明。建築法規Ⅰにおいて、理解が不十分であった項目を重点的に復習する。☒ 最近の建築法令の動き。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	構造強度（木造）１	木造建築の構造強度に関する基準法、及び同施行令について理解する。☒ 柱や梁で構成された木造在来工法についても復習する。☒ ＊建築物の高さについて復習する。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	構造強度（木造）２	施行令40～45条の地震や風圧に耐える木造住宅の意味を理解し、軸組み（壁量）計算方法を学ぶ。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	構造強度（木造）３	前授業に引き続き、施行令40～45条の地震力や風圧力に耐える木造住宅の意味を理解し軸組み（壁量）計算方法☒ を学ぶ。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	構造強度（木造）４	前授業に引き続き、施行令40～45条の地震力や風圧力に耐える木造住宅の意味を理解し軸組み（壁量）計算方法を☒ 学び、告示による建築端部の壁量計算方法を学ぶ。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	構造強度（木造）５　組石造	壁量計算の小テストにより、理解したことを確認する。施行令54条の組石造についての関連法規を学ぶ。☒ 併せて、組石造について理解する。☒	教科書を読む。小テスト対策をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	構造強度　補強コンクリートブロック造　鉄筋コンクリート造	施行令62条等の補強コンクリートブロック造についての関連法規を学ぶ。併せて、補強コンクリートブロック造について☒ 理解する。また、施行令72条等鉄筋コンクリートにおける関連法規を学ぶ。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	構造強度　鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造における、かぶり厚さ、柱の径等についてのポイントを学ぶ。併せて、鉄筋コンクリート造の構造につい☒ て学ぶ。☒	教科書を読む。小テスト対策をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	構造強度　荷重と外力	固定荷重、積載荷重、積雪荷重、風圧力、地震力等の荷重と外力が、法規によってどのように記載されているか、その☒ 意味を理解する（（施行令84条～）☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	防火と内装制限	屋根や外壁、防火壁等の防火に関わる関連法規及び、室内の内装制限を受ける建物について学び、安心安全な建築☒設計について考える（施行令112条他）☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	建築士法	建築士でなければ設計できない建築、建築士事務所の仕事について、建築士法に則りながら理解する。☒ 建築士の責務の重要さを学ぶ。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	都市計画法	都市計画法における、都市計画区域、市街化区域、市街化調整区域、開発行為について学ぶ。また用途地域について☒復習し、建築基準法との関連を確認する。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	建設業法　ハートビル法　消防法、品格法等	建設業法、ハートビル法、消防法、品格法等の関連法規の概要を学び、建築がたくさんの法律によって規制されている☒ ことを理解する。福島県条例と地域の景観条例の説明。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	復習１	建築法規に関して、これまでの授業において理解があいまいであった箇所を復習、確認する。☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	復習２	前授業に引き続き、建築法規に関して、これまでの授業において理解があいまいであった箇所を復習、確認する。☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	建築構造Ⅱ	**対象**	
担当教員	高橋　真里	**単位数**	家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
開講期	前期	**必選**	
授業概要	建築物を形作る建築工法には多くの種類があり、それぞれの特徴を持っている。本授業では、建築構造Ⅰに続き、「鉄筋コンクリート構造」、「鋼構造」の骨組みや仕上げの構成について理解することを目的としている。課題・レポートは添削・返却し、コメントによるフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準　HA2212☒ ☒ 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務。その経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務。		
達成目標	【履修カルテの評価項目】☒ ①鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造、鋼構造の基本的骨組みについて理解できたか。☒ ②木構造と鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造、鋼構造の設計上の違いについて明確に理解できているか。☒ ③鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造、鋼構造の経済スパン並びに適正スパンを理解し、適切なプランニングができるか。☒ 単位認定の最低基準：「授業内容の7割を理解していること」☒ ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力、問題解決力」「倫理観、社会的責任」		
受講資格	建築デザインコース	**成績評価方法**	小テスト50%、レポート30%、課題提出20%
教科書	建築構造☒ 実教出版		
参考書	適宜紹介		
学生への要望	積極的に建築物を見学することや多くの建築雑誌に目を通して、建築構造を身近に感じるよう心がけること。		
オフィスタイム	月曜日8:50～10:20、10:30～12:00、12:50～14:20、14:30～16:00☒ 水曜日8:50～10:20☒ 生活科学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	建築構造の概要説明。建築構造Ⅱで扱う範囲について説明し、受講上の留意点について確認する。	授業内容をテキストで復習	45
2	鉄筋コンクリート構造の特徴と構造形式	鉄筋コンクリート構造の一般的な特徴を把握させ一般的に用いられている構造形式を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
3	鉄筋の種類や規格	鉄筋の種類による形状・規格・表示方法を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
4	コンクリートの種類と性能	コンクリートのあらまし、特徴、種類を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
5	基礎の形式	地盤の性質、基礎各部の構成と種類、設計上の注意点について理解させる	授業内容をテキストで復習	45
6	主体構造	ラーメンを中心に、部材構成・断面の大きさのめやす・鉄筋の役割・組み方の基本、基準等について理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
7	外部仕上げ	外部仕上げについて、各部位の要求性能に合った材料を適切に選択できるように理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
8	内部仕上げ	内部仕上げについて、各部位の要求性能に合った材料を適切に選択できるように理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
9	壁式構造、プレストレスコンクリート構造	壁式構造、プレストレスコンクリート構造の構造形式の概略について理解させる。	レポート準備	60
10	鋼構造の特徴と構造形式	鋼構造の一般的な特徴を把握させ、一般的に用いられている構造形式を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
11	鋼と鋼材、鋼材の接合	鋼の特性、鋼材の規格、接合の種類・方法等を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
12	基礎の形式	鋼構造に適した基礎の種類・形式について理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
13	骨組の構成と部材１	ラーメン構造の特徴と部材構成、名称、働きについて理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
14	骨組の構成と部材２	トラス構造の特徴と部材構成、名称、働きについて理解させる。	レポート準備	60
15	外部仕上げ、内部仕上げ	鋼構造の外部・内部仕上げについて、各部位の要求性能に合った材料を適切に選択できるように理解させる。	授業内容をテキストで復習	45

令和3年度

科目名	建築施工	**対象 単位数 必選**	家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 必修
担当教員	堀井　勝典		
開講期	前期		
授業概要	（１）施工法の基礎的知識の理解☒ （２）実際の建物（設計図・ＯＨＰ・ビデオ）の紹介☒ 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計会社社長を務め、その経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計会社社長を務める。		
達成目標	（１）施工法の基礎的知識の理解☒ （２）実際の建物（設計図・ＯＨＰ・ビデオ）の紹介		
受講資格	人間生活学科建築デザインコース３年	**成績評価 方法**	出席（５０％）　試験（５０％）
教科書	建築施工教科書		
参考書	特に指定しないが、資料を配付する。☒		
学生への要望	とにかく授業に出ること		
オフィスタイム	水曜日授業開始前（創学館２階教務部内非常勤講師室）、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	序説	建築施工のあらまし、施工法の変遷について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	契約と見積	建築の見積・契約等の流れについて	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	工事計画・管理	工事計画・管理等の説明	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	仮設工事	何も作らない工事としての認識	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基礎工事	土工事、山留工事、基礎工事の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	鉄筋コンクリート工事	鉄筋工事、型枠工事の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	鉄筋コンクリート工事	コンクリートの性質、調合について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	鉄筋コンクリート工事	コンクリート工事の検査体制	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	鉄筋コンクリート工事	施工、各種コンクリート工事について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	鉄骨工事	工事作業、現場作業のあらまし	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	木工事	現場施工、各種工法の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	内外装仕上工事	各仕上げ工事の概要と施工法について（その１）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	内外装仕上工事	各仕上げ工事の概要と施工法について（その２）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	付帯設備工事	生活に必要な設備工事について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	まとめ	施工法のまとめ。補足説明。	授業内容、配付資料を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	生活学的法律論	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木　康元	**単位数**	
開講期	後期	**必選**	
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける☒ 〔授業全体の内容の理解〕☒ 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう☒ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕☒ 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること☒ 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕☒ 民法のうち「家族法」という分野につき基本的な知識を身につける☒ 〔授業全体の内容の理解〕☒ 家族法の基本知識を教え、成年後見制度等についても理解してもらう☒ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕☒ 婚姻、離婚、親子等について民法上の理解を身につけ日常生活に生かせること		
受講資格	家政学部１年	**成績評価方法**	ペーパー試験と出席の程度を考慮する
教科書	その都度指定する		
参考書	その都度指定する		
学生への要望	法律一般につき興味をもって欲しい☒		
オフィスタイム	授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室☒ 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	家族法とは	民法における家族法位置づけと家族の意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	婚姻（１）	婚姻の意味と婚約等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	婚姻（２）	婚姻の効力→婚姻をすると、夫婦はどのような義務を負うのか	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	離婚（１）	離婚の意味と実態等について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	離婚（２）	離婚の方法と実務から見た問題点について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	内縁	内縁の意味とその法的意味	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	親子（１）	親子の種別（実子・養子）と法的効果について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	親子（２）	親権の意味と内容について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	扶養	法律上の扶養義務者と現代的変遷について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	相続の基礎	相続の意味と現代的特色	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	相続人	誰が相続人になるのか、相続人に相続させたくない場合は	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	相続の効力（１）	遺産承継について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	相続の効力（２）	相続分と遺産分割について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	遺言	遺言の意義・方式等	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	成年後見	成年後見制度について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	生活学的経済論	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川　貴弘	**単位数**	
開講期	前期	**必選**	
授業概要	本授業の目的は、生活と密接にかかわる経済の基礎知識の習得と経済学的視点の確立である。不景気・デフレーション・円高・円安・インフレーション・消費生活・生活経済等、普段からニュースや新聞で取り上げられるものであるが、これらの経済的事象は私達の生活と密接にかかわっている。これら経済的事象を経済学的視点で見る目を養うことを本授業の目的としたい。☒ なお、在北京日本国大使館経済部での勤務経験を活かし、授業の中で経済統計の見方、マクロ経済の理論と実際について採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 在北京日本国大使館経済部専門調査員として主に中国経済の分析に従事。☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☒ 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☒ 【位置づけ・水準】　GU1109		
達成目標	【単位認定の最低基準】　☒ 経済的事象を経済的視点で見る目を養うことを到達目標とする。この目標の７割程度の達成をもって単位認定の最低基準とする。☒ ☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】　他との協調、人間形成		
受講資格	家政学部 生活科学科 1年生 ☒ 家政学部 食物栄養学科 1年生	**成績評価方法**	①小テスト30点（15点×２回）☒ ②レポート70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	伊藤元重「はじめての経済学（上）（下）」日経文庫、他必要に応じ授業の中で紹介する。		
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる経済関連の問題について関心を持つようにすること。		
オフィスタイム	火曜日　3コマ　水曜日4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について解説する。☒ 経済学とは何かを説明する第一の例としてインフレーションとデフレーションを取り上げ、両者が私達の生活に与える影響について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	経済学とは何か②	第二の例として円安と円高を取り上げ、両者が私達の生活にどのような影響を与えるのかについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	経済学とは何か③	経済学をめぐって行われてきた政策論争（自由貿易vs保護貿易）について学修することを通じて経済学への理解を深める。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	消費生活と経済①	消費と消費者の概念について、消費者の権利と責任について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	消費生活と経済②	様々な消費者問題とクーリングオフについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	消費生活と経済③	グリーンコンシューマーとフェアトレードの概念について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	消費生活と経済④	消費生活と経済について総まとめ。 小テスト1回目	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	30
8	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査①	世界と日本の家計研究の歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査②	エンゲルの法則とエンゲル係数の概念について学修する。近年のエンゲル係数の動向について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
10	食料・食品と経済①	食料自給率、食と流通等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	食料・食品と経済②	食と環境、食品廃棄物問題等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	30
12	行動経済学とその概要①	行動経済学とは何か、その概要について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
13	行動経済学とその概要②	行動経済学について、ナッジ（nudge）理論を元にその事例を紹介する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60
14	地域経済～郡山市の経済について①	地域経済とは何かを解説した上で、私達が住んでいる郡山市の経済とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。	60

15	地域経済～郡山市の経済について② まとめ	郡山市の経済とその特徴について学修する（前回の続き）。 これまでの学修内容を確認する。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

令和3年度

科目名	生活学的社会論	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川　貴弘	**単位数**	
開講期	前期	**必選**	
授業概要	私達は社会の中で生きており、生活と社会は切り離して考えることはできない。本授業では、私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているか、すなわち現代社会の特性、人と社会との関係、社会問題とその背景について理解を深め、考察する力を養うこと、更に社会と切り離せない生活の多様性についても理解することを目的としている。 なお、本講義では、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方、活用の仕方についても採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。　☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。 【位置づけ・水準】　GU1108		
達成目標	【単位認定の最低基準】 私達が生活している社会が、今現在どのような構造を持ち、どのような状態にあり、どのような課題を抱えているかについて、理解を深め、考察する力を養うことを目標とする。この目標の７割程度の達成をもって単位認定の最低基準とする。		
受講資格	家政学部 生活科学科 1年生 ☒ 家政学部 食物栄養学科 1年生	**成績評価方法**	①小テスト30点（15点× 2 回）☒ ②レポート70点
教科書	プリントを配布する。☒		
参考書	浅野智彦編著「社会学のことが面白いほどわかる本」、中経出版　他		
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる社会の問題について関心を持つようにすること。		
オフィスタイム	火曜日　3コマ　水曜日4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法について説明する。☒ 『社会』とは何か、今の日本『社会』はどのような状態にあるか、その一例として少子高齢化社会について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
2	少子高齢化社会と日本と世界①	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、日本の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
3	少子高齢化社会と日本と世界②	少子高齢化社会を計る様々な指標について学修し、世界各国の人口構造と高齢化について概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
4	少子高齢化社会と日本と世界③	平均寿命、平均余命、健康寿命などの概念、それら指標の現状ついて概観する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
5	社会と仕事・家族①	家族とその役割について学修する。 家庭において起こる問題―DVと児童虐待について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
6	社会と仕事・家族②	フリーターとニート（ひきこもりを含む）、日本的雇用慣行について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
7	社会と仕事・家族③	正規雇用と非正規雇用、働くことの意義について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
8	社会と自己と他者①	癒しと宗教、社会的自我と個人のアイデンティティについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
9	社会と自己と他者②	癒しと宗教、社会学から見た自殺問題について学修・考察する。小テスト（1回目予定）☒	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60
10	社会と国家①	社会学から見た国家（ルールと権力）、平等な社会と格差について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
11	社会と国家②	厚生労働省とその取り組み（１）年金制度、社会保障制度、介護保険制度について学修する。☒	配布したプリントの内容を読んでおくこと。	30
12	社会と国家③	厚生労働省とその取り組み（２）医療保険制度とその仕組みについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
13	社会と国家④	厚生労働省とその取り組み（３）「健康日本21」等について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60
14	社会と国家⑤	「地域保健法」と保健所の役割について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてこれまでの学修内容を踏まえ、レポートを作成すること。	60

15	まとめ	これまでの学修内容の確認と小テストの内容について復習する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。	60

令和3年度

科目名	日本国憲法	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木　康元	**単位数**	
開講期	前期	**必選**	
授業概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。☒ 履修カルテ評価項目☒ ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。☒ ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。☒ ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 ☒ 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。☒		
達成目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。☒ 履修カルテ評価項目☒ ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。☒ ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。☒ ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 ☒ ☒		
受講資格	家政学部１年生	**成績評価方法**	ペーパー試験(80%)と出席状況(20%)
教科書	憲法【第二版】☒ 弘文堂		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。		
オフィスタイム	火曜日☒ 授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室☒ 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特色、日本国憲法の歴史☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下の平等の意義☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	基本的人権⑦	経済的自由権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	基本的人権⑧	財産権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	基本的人権⑨	その他の人権について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	統治機構①	国会☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	統治機構②	内閣☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	統治機構③	裁判所☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	生活化学	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択
担当教員	大西　弘太郎	**単位数**	/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース
開講期	前期	**必選**	1年 2単位 選択
授業概要	生活科学部での専門科目学習において重要な化学系各講義を理解するための化学的基礎学力および知識の修得を目指す。高校化学の復習・補完および教職課程に必要な有機化学、食品化学、環境化学など専門化学系科目の導入知識の修得を目指す。 ☒ ☒ 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。☒ 実務経験：医師として医療機関に勤務している。 ☒ ☒ 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。 ☒ ☒ 位置づけ・水準 GU1112		
達成目標	原子の構造と化学結合についての化学的基礎知識を修得する。☒ 化学結合論に基づいた代表的な有機化合物の立体構造の推察力及び表現力を獲得する。☒ 有機化合物の構造と命名法の理解と代表的な有機化合物の命名能力を獲得する。☒ ☒ 単位認定の最低基準：化学的基礎知識が習得されていること。 ☒ ☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：他との協調、人間形成。		
受講資格	生活科学科社会福祉コース 1年☒ 生活科学科建築デザインコース 1年	**成績評価方法**	小テスト　(20%) ☒ 筆記試験　(80%)
教科書	なし		
参考書	生理学・生化学につながる　ていねいな化学(羊土社)		
学生への要望	講義での学習内容は、高校化学の復習に基づく化学的基礎知識を70%、専門化学系科目の導入知識を30%に設定している。１年後期以降に受講する専門化学系科目の準備として、本講義の学習内容をほぼ完全に理解・修得することが望ましい。☒ 学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。		
オフィスタイム	臨床医学研究室☒ 火曜日　13:00～17:00。☒ 木曜日　15:00～17:00。 ☒ 金曜日　08:30～17:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	物質の構成と原子構造	物質の構成。☒ 原子構造と周期表。	物質は何でできている？、粒子は常に動いている！、元素と原子と分子ってどう違うの？、荷電って何？、周期表って何？、等々……。	120
2	化学結合	イオン同士の結びつき、イオン結合。原子同士の結びつき、共有結合。金属同士の結びつき、金属結合。	イオンって何？、イオン結合って何？、共有結合って何？、ファンデルワールス力って何？、金属結合って何？、等々……。	120
3	物質量	原子量、分子量、式量。☒ 物質量と化学反応式。	原子量、分子量、式量って何？、質量って何？、体積、密度って何？、溶媒・溶質・溶液って何？、モル濃度って何？、化学反応式って何？、等々……。	120
4	酸と塩基。☒ 酸化還元反応。	酸と塩基。酸化還元反応。	酸、塩基とは？、酸・塩基の価数とは？、酸・塩基の強弱は電離度で決まる！、酸性・中性・塩基性、pH、中和、塩って何？。酸化と還元の3つの定義。電池の仕組み。	120
5	酵素反応と酸塩基平衡	酵素反応。☒ 体液の酸塩基平衡。	化学反応にも速度がある、化学反応による熱の出入り、化学反応にはエネルギーが必要、酵素は体内の化学反応を促進する。化学反応には方向性がある、平衡状態が崩れたらどうなるの？、pHの変化をやわらげる働き。	120
6	生体を構成する物質	糖質、脂質、タンパク質、核酸。	からだは有機物で出来ている。	120
7	気体の性質	気体・液体・固体、温度と状態、理想気体方程式。	物質の状態(特に気体について)予習復習をしましょう。	120
8	炭素化合物	アルカン。アルケン。シクロアルカン、シクロアルケン。	それぞれについて予習復習をしましょう。	120

9	官能基	アルコールとエーテル。アルデヒド。ケトン。カルボン酸。エステル。アミンとアミド。	それぞれについて予習復習をしましょう。	120
10	芳香族	芳香族化合物。	芳香族について予習復習をしましょう。	120
11	色素	色素。	色素について予習復習をしましょう。	120
12	香り、味	香り、味。	香り、味について予習復習をしましょう。	120
13	高分子	高分子とは何か？。ポリエチレンとその仲間。ナイロンとその仲間。ゴム・プラスチック・合成繊維など。	高分子について予習復習をしましょう。	120
14	環境化学	環境化学。	環境化学について予習復習をしましょう。	120
15	まとめ	総合討論。	講義の内容・程度・分量などについて全体的に討論をしましょう。	120

令和3年度

科目名	運動健康論	**対象**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	佐藤　浩明	**単位数**	
開講期	通年	**必選**	
授業概要	GU1119☒ 生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性を理解し、生涯にわたり自分の健康や体力に配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技、講義を通じて学びます。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。 ☒ ①運動と健康の関連を理解し、健康の在り方について学びます。☒ ②スポーツの意義を理解し、人間力について学びます。☒ ③運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。☒ ④運動を通して、基礎体力の維持、向上する方法について学びます。☒ ⑤授業最後にレポート等は返却し口頭またはコメントで説明します。		
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得する と共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける。レポート、実技テスト等を受けることを最低基準とする☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】☒ ・他との協調　・人間形成☒ 【食物栄養学科】食と健康の職人的専門として人々の健康と生活の向上に寄与するという意識と責任をもっている☒ スポーツを通して人間として人格形成を志向、自己の専門知識と技術を社会のために活かし、社会責任を果たす事ができる		
受講資格	家政学部 人間生活学科　生活総合コース 1年 2単位 選択☒ 家政学部 人間生活学科　福祉コース 1年 2単位 選択☒ 家政学部 人間生活学科　建築デザインコース 1年 2単位 選択家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択☒ ☒ ☒ ※教職課程履修者は必修	**成績評価方法**	平常点30点（取組姿勢）　試験・提出物70点（実技・レポート）☒ ※本科目は実技を含むため、出席、積極的な取組みも重視します。
教科書	特になし（必要に応じて資料等を配布します）		
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：㈶日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメゾット：高橋書店」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」		
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。☒ 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）		
オフィスタイム	火・木の9:00～16:00まで創学館NO4研究室☒ 佐藤		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明　②服装、準備物の確認（注意事項含む）　③グループ分け	運動着、水分の準備をしてくる事	30
2	縄跳び①／からだづくりの運動	【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）☒ ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30

3	縄跳び②／からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コーディネーショントレーニング　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）☒ ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
4	縄跳び③／からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コーディネーショントレーニング　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）☒ ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
5	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
6	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30

7	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
8	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃☒	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
9	フライングディスク③／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
10	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	0

11	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	0
12	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
13	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
14	ソフトバレーボール③／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30
15	実技のまとめ	≪まとめとして実技試験を行う≫☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）②レクリエーションゲーム　③実技試験　④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）　⑤体育館清掃	ストレッチ、準備運動で体のケアーをする。タオル、水分を準備してくる	30

16	第16回　オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状　オリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツの持つ魅力について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
17	第17回　生活と健康について①	≪健康とは何か≫☒ ☒ 健康について考える導入として、「健康の定義」をＷＨＯ（世界保健機関）の憲章をふまえ、様々な角度から学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
18	第18回　生活と健康について②	≪生活習慣病の原因・対策・予防と運動≫☒ ☒ ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し、運動との関係について学びます。☒ ②運動・休養と健康について学びます。☒ 。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
19	第19回　生活と健康について③	≪大学生の健康≫☒ ☒ 大学生の生活に潜む危険要因について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
20	第20回　生活とスポーツについて①	≪スポーツとは何か≫☒ ☒ スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
21	第21回　生活とスポーツについて②	≪生涯スポーツについて≫☒ ☒ 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う　②観る　③支える　④調べるの視点から学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
22	第22回　生活とスポーツについて③	≪大学生とスポーツ≫☒ ☒ 大学生になり高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康に興味を持ち、運動やスポーツにどう関わることができるかについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
23	第23回　スポーツから学ぶ①	≪フェアプレーについて≫☒ ☒ スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常の生活や、普段の行動にも通じるものがあります。☒ ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
24	第24回　スポーツから学ぶ②	≪メンタルトレーニング≫☒ ☒ 常に結果が求められるスポーツ選手（アスリート）のメンタルトレーニング、ポジティブシンキング、行動基準について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	0
25	第25回　スポーツから学ぶ③	≪目標設定≫☒ ☒ スポーツ選手（アスリート）の行動基準から自分の目標設定の方法について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	0
26	第26回　健康増進のための身体運動について①	≪体力とは≫☒ ☒ ①体力の概念と体力要素（身体的要素　精神的要素）について学びます。☒ ②運動の原理原則について理解し、効果的な運動の方法について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
27	第27回　健康増進のための身体運動について②	≪エクササイズの方法について☒ ☒ 健康の保持増進やからだをつくるための方法（①有酸素運動　②筋力トレーニング　③ストレッチ　④バランス等）や実施する際のポイントについて学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

28	第28回　コンディショニングについて	≪からだの調子を良くする・怪我の予防・対処方法≫☒ ☒ ①コンディショニングを崩す原因を理解し予防方法について学びます。☒ ②怪我の予防、応急処置の基本、熱中症対策について学びます。☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
29	第29回　健康的な生活について①	≪ライフスタイルについて≫☒ ☒ 自分のライフスタイル（生活習慣・運動習慣）を客観的に理解し、健康的な生活を過ごすための方法について学びます。☒ ☒ ☒ ☒	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
30	第30回　健康的な生活について②	≪良い習慣について≫☒ ☒ 行動を邪魔する要因を理解し、運動習慣をつける方法について学びます。☒ ※『健康なからだをつくる』をテーマに自分のライフスタイルについて考えます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

令和3年度

科目名	キャリアデザインⅡ	**対象**	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 1単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 1単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 1単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 1単位 選択
担当教員	森　みい	**単位数**	
開講期	前期	**必選**	
授業概要	【授業のねらい】☒ 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。☒ 　インターンシップ終了後に、課題・レポート提出及び、インターンシップ報告会を行い、課題についてフィードバックを行います。 ☒ 【授業の概要】☒ 　インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期6回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（3日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、就職指導にあたっている経験を活かし授業を行います。☒ ☒ ☒ GC1118☒		
達成目標	【授業終了時の達成目標】☒ 　インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、課題解決力を養っていきます。また、新たな学習意欲の契機となるように、仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解や充実感を感じ、人々の生活向上や社会に貢献ができることを目標とします。		
受講資格	特になし	**成績評価方法**	就業体験60％・報告会20％・提出物20％「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30　水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	インターンシップの概要☒ 4/8(Ｖコマ) ☒	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップに必要な書類についての確認する 。☒	就業体験先の希望調査があるので、企業・業界研究をしておく。 インターンシップの目標を設定する。	30
2	インターンシップの心構え☒ 5/13(Ｖコマ)	昨年のインターンシップを参考に自分は何を学びたいのか明確な目標を設定していく。	インターンシップを通して、企業や業界の働きについて考える。	30
3	インターンシップの心構え☒ 5/27(Ｖコマ)	働く人の話を聞き、仕事の内容、組織での関りを学び、インターンシップの考えを深化させていく。	インターンシップは具体的にどのように考えていくか、社会人の話を聞き、企業研究をする。	30
4	企業研究（講演)☒ 6/3（Ｖコマ）☒ ☒ ☒	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。また、人生をどのように生きていく、自分の将来のキャリアプランを考える。	企業の働きから、社会の動向を学び、働く事への理解を深める。	30
5	事前指導☒ (ビジネス文書作成)☒ 6/17Ｖコマ）☒	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。☒	手紙の書き方、ビジネスでのメール送信、電話の掛け方等、一般的なナマーを確認しておく。	30
6	事前指導☒ （マナー講座)☒ 7/1（Ｖコマ）☒	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。☒ 業体験先との打合せを始める。	挨拶・言葉遣いを実践で学んでいくので、印象のいいマナーを日常から意識をして練習する。	30
7	直前指導☒ (インターンシップ先の企業研究)7/15（Ｖコマ） ☒ ☒	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	インターンシップ先にアポイントを取り担当者と打合せをする。電話の掛け方、インターンシップに向けてマナーの練習をする。	30

8	インターンシップ 実施 1班8/18～8/20 2班8/25～8/27 ☒	各企業において、夏季休業中（8月中旬～下旬)に3日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	企業研究及び交通手段の確認をする。インターンシップ先の企業研究を行い、最終確認をする。	30
9	インターンシップ報告会☒ 9/2 （Ⅰコマ） ☒	事後報告会として、 クループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会の準備と提出物の最終確認をする。	30
10	インターンシップ報告会 ☒ 9/2 （Ⅱコマ） ☒ ☒	事後報告会として、 代表者の報告を企業の方も参加して実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会で発表し、報告者の発表から課題を考えていく。	30

令和3年度

科目名	臨床医学Ⅰ	**対象**	
担当教員	大西　弘太郎	**単位数**	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修
開講期	前期	**必選**	
授業概要	主な疾患の成因・病態・治療ならびに予防について、その概要を解説する。☒ ☒ 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。☒ 実務経験：医師として医療機関に勤務している。☒ ☒ 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。☒ ☒ 位置づけ・水準 FN2223		
達成目標	単位認定の最低基準：主な疾患の成因・病態・治療ならびに予防について、基本的知識が習得されていること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：研鑽、食生活への応用。		
受講資格	家政学部 食物栄養学科 2年 ☒ 同　編入生　3年	**成績評価方法**	小テスト　(20%)☒ 筆記試験　(80%)
教科書	疾病の成因・病態・診断・治療―人体の構造と機能および疾病の成り立ち。 竹中 優 (編集)、第２版、医歯薬出版株式会社		
参考書	特になし		
学生への要望	臨床医学の範囲は膨大である。教員が強調したポイントはその場で習得すること。☒ 理解の一助として動画を用いるが、その内容を逐一、記憶する必要はない。学生の理解度などによりスケジュールの変更もあり得る。理解し難いところは質問すること。		
オフィスタイム	臨床医学研究室☒ 火曜日　13:00～17:00。☒ 木曜日　15:00～17:00。☒ 金曜日　08:30～17:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	糖尿病とは	糖尿病とは☒ 糖尿病の症状と徴候☒ 糖尿病発症の危険因子☒ *1型糖尿病と2型糖尿病☒ * 糖尿病診断基準	糖尿病の分類・症状・検査・診断などについて予習・復習をしましょう。	120
2	糖尿病の合併症・治療・予防	糖尿病急性合併症☒ 糖尿病慢性合併症☒ *糖尿病細小血管障害☒ *糖尿病大血管障害☒ 糖尿病の治療☒ 糖尿病の予防☒	糖尿病の合併症・治療・予防などについて予習・復習をしましょう。	120
3	妊娠糖尿病	妊娠糖尿病の定義と診断基準☒	妊娠糖尿病と糖尿病合併妊娠について予習・復習をしましょう。	120
4	脂質異常症、高尿酸血症、通風	脂質異常症☒ 高尿酸血症☒ 通風　☒	脂質異常症、高尿酸血症について予習・復習をしましょう。	120
5	胃と食道の主な疾患	胃食道逆流症☒ 急性胃炎、慢性胃炎☒ 胃・十二指腸潰瘍☒ 胃がん☒ *ピロリ菌感染の臨床的意義☒ *胃切除後の合併症☒	食道と胃の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
6	小腸、大腸の主な疾患	急性腸炎、慢性腸炎☒ タンパク漏出性胃腸症☒ 炎症性腸疾患(クローン病と潰瘍性大腸炎)☒ 過敏性腸症候群☒ 腸結核☒ 大腸がん☒ 腸閉塞☒	小腸、大腸の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
7	肝炎	＊各種ウイルス肝炎の臨床特長☒ ＊感染様式と予防　☒ 慢性肝炎の自然経過☒	肝炎について予習・復習をしましょう。	120
8	肝硬変１	肝硬変とは☒ 背景疾患☒ ＊肝硬変の各種症状・身体所見	肝硬変について予習・復習をしましょう。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	肝硬変２、脂肪肝、肝細胞がん	肝硬変の治療と管理☒ ＊脂肪肝☒ ＊ＮＡＳＨの臨床的意義☒ 肝細胞がん☒	肝硬変、脂肪肝、肝細胞がんなどについて予習・復習をしましょう。	120
10	胆道系、膵臓の主な疾患	胆石症、胆のう炎☒ 急性膵炎☒ 慢性膵炎の臨床特長と経過☒ 膵臓がん	胆道系、膵臓の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
11	循環器疾患総論	循環器総論☒ 血栓防止機構☒ 動脈血栓症☒ 静脈血栓症☒ ＊エコノミークラス症候群	うっ血、充血、血栓、塞栓、梗塞などについて予習・復習をしましょう。	120
12	高血圧、動脈硬化	高血圧とは☒ *高血圧はなぜ危険か☒ 高血圧の診断基準☒ 動脈硬化☒ 動脈硬化の分類☒ 動脈硬化の予防☒ 粥状動脈硬化の臨床的意義	高血圧、動脈硬化などについて予習・復習をしましょう。	120
13	虚血性心疾患	狭心症とは☒ 不安定狭心症☒ 心筋梗塞☒ ＊急性冠症候群	虚血性心疾患について予習・復習をしましょう。	120
14	心不全	心不全とは☒ 心不全と背景疾患☒ ＊右心不全と左心不全	心不全について予習・復習をしましょう。	120
15	不整脈	刺激伝統系の解剖と生理☒ 不整脈をきたす機序☒ 不整脈の分類☒ ＊心臓突然死☒	不整脈について予習・復習をしましょう。	120

令和3年度

科目名	臨床医学Ⅱ	**対象**	
担当教員	大西　弘太郎	**単位数**	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修
開講期	後期	**必選**	
授業概要	主な疾患の成因・病態・治療ならびに予防について、その概要を解説する。☒ ☒ 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。☒ 実務経験：医師として医療機関に勤務している。☒ ☒ 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。☒ ☒ 位置づけ・水準 FN2224		
達成目標	単位認定の最低基準：主な疾患の成因・病態・治療ならびに予防について、基礎的知識が習得されていること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：研鑽、食生活への応用		
受講資格	食物栄養学科　2年☒ 同　　編入生　3年	**成績評価方法**	小テスト　(20%)☒ 筆記試験　(80%)
教科書	疾病の成因・病態・診断・治療ー人体の構造と機能および疾病の成り立ち。 竹中 優(編集)、第2版、医歯薬出版株式会社		
参考書	特になし		
学生への要望	臨床医学の範囲は膨大である。教員が強調したポイントはその場で習得すること。☒ 理解の一助として動画を用いるが、その内容を逐一、記憶する必要はない。学生の理解度などによりスケジュールの変更もあり得る。理解し難いところは質問すること。		
オフィスタイム	臨床医学研究室。☒ 金曜日　08:30～17:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	腎臓　その１	尿生成のメカニズムと腎臓の機能☒ 糸球体濾過率(GFR)の臨床的意義☒ 急性糸球体腎炎☒ ネフローゼ症候群☒	腎臓の構造・機能、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群などについて予習・復習をしましょう。	120
2	腎臓　その２	急性腎不全の定義☒ 急性腎不全の分類と病因☒ 急性腎不全の治療☒	急性腎不全について予習・復習をしましょう。	120
3	腎臓　その３、尿路、前立腺、透析	慢性腎不全の定義・病因・病態☒ 糖尿病性腎障害の病因・病態・病期分類☒ 慢性腎臓病の概念・病期分類☒ 尿路系の主な疾患☒ 前立腺の主な疾患☒ 透析☒	慢性腎不全、糖尿病性腎障害、慢性腎臓病、透析などについて予習・復習をしましょう。	120
4	ホルモン　その１	内分泌疾患の概要☒ 内分泌疾患のフィードバック機構☒ ☒ 視床下部ー下垂体系☒ 下垂体ホルモンの生産過剰と欠乏☒	内分泌疾患の概要、視床下部ー下垂体系の内分泌疾患について予習・復習をしましょう。	120
5	ホルモン　その２	甲状腺機能低下症・亢進症☒ 甲状腺ホルモンの生理作用☒ バセドウ病☒ 橋本病☒ ☒ 副甲状腺機能低下症・亢進症☒	主な甲状腺疾患、副甲状腺疾患について予習・復習をしましょう。	120
6	ホルモン　その３	原発性アルドステロン症☒ 二次性高血圧の臨床的重要性☒ クッシング症候群☒ 副腎皮質機能低下症	主な副腎疾患について予習・復習をしましょう。	120
7	精神病	摂食障害とは☒ 神経性無食欲症☒ 過食症☒ 摂食障害の治療と管理	神経性無食欲症などについて予習・復習をしましょう。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	認知症	認知症とは ☒ 認知症と物忘れとの異同 ☒ 認知症の中核症状と周辺症状 ☒ アルツハイマー病 ☒ 血管性認知症 ☒ ☒ パーキンソン病☒ パーキンソン症候群	認知症、パーキンソン病などについて予習・復習をしましょう。	120
9	呼吸器	慢性閉塞性肺疾患(COPD)とは ☒ *病理的特徴 ☒ *危険因子 ☒ *徴候と病態生理 ☒ *治療の概要 ☒ 気管支喘息☒ 気管支炎、肺炎☒ 肺結核 ☒	主な呼吸器疾患について予習・復習をしましょう。	120
10	血液 その１	鉄欠乏性貧血☒ 巨赤芽球性貧血☒ 葉酸欠乏と催奇形性☒ 再生不良性貧血☒ 溶血性貧血☒ ☒ 黄疸の分類	貧血、黄疸などについて予習・復習をしましょう。	120
11	血液 その２	白血病☒ 悪性リンパ腫☒ *成人T細胞白血病の成因☒ *成人T細胞白血病の予防☒ ☒ 凝固異常	血液系の悪性腫瘍、凝固異常などについて予習・復習をしましょう。	120
12	運動器	骨粗鬆症☒ 変形性関節症☒ サルコペニア☒ フレイルティ☒ ロコモティブシンドローム	主な運動器疾患について予習・復習をしましょう。	120
13	感染症	新興感染症☒ 再興感染症☒ 人獣共通感染症☒ 日和見感染症☒ 院内感染症☒ 性感染症	主な感染症について予習・復習をしましょう。	120
14	免疫・アレルギー　その１	自然免疫と獲得免疫☒ 液性免疫と細胞性免疫☒ ☒ アレルギーとは☒ アレルギーの４つのタイプ(クームス分類)☒ 食物アレルギー☒ アナフィラキシーとその対処☒	免疫学総論、アレルギーなどについて予習・復習をしましょう。	120
15	免疫・アレルギーその 2☒	膠原病、膠原病類似疾患☒ 自己免疫疾患☒ 後天性免疫不全症候群(AIDS)	主な膠原病、自己免疫疾患、免疫不全症などについて予習・復習をしましょう。	120

令和3年度

科目名	病理学	**対象**	
担当教員	大西　弘太郎	**単位数**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択
開講期	後期	**必選**	
授業概要	病理学の総論では、病因、退行性・進行性病変、代謝異常、免疫異常、感染、老化、放射線障害、腫瘍、先天性異常などを学ぶ。各論では、各系統や器官の主要な疾患の病態を学ぶ。☒ ☒ 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。☒ 実務経験：医師として医療機関に勤務している。☒ ☒ 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。☒ ☒ 位置づけ・水準 FN2125		
達成目標	単位認定の最低基準：主要な疾患、特に食事や栄養に関連する病態を概説できること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：研鑽、☒生活への応用。		
受講資格	食物栄養学科 1年	**成績評価方法**	小テスト　(20%)☒ 筆記試験　(80%)
教科書	シンプル病理学・第8版(笹野公伸、岡田保典、安井弥：南江堂)		
参考書	NEWエッセンシャル病理学・第6版(笹野公伸・澤井高志・長村義之：医歯薬出版株式会社)		
学生への要望	病気の原因と病態について日常的に興味を持つようにすること。☒ 学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。		
オフィスタイム	臨床医学研究室。☒ 金曜日　08:30～17:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	疾患、病因	病因とは病気の原因や成立ちをいい、外因と内因とがある。外因には生物・物理・化学的因子、栄養学的因子など、内因には代謝・遺伝子・免疫の異常、年齢などがある。	疾患、病因などについて予習・復習をしましょう。	120
2	細胞障害と細胞増殖	細胞の正常な形態や機能、増殖、細胞死を基本知識として、細胞障害による変性、遺伝子障害による疾病の成因と遺伝子修復について学ぶ。	細胞障害、細胞死、細胞増殖などについて予習・復習をしましょう。	120
3	組織、細胞の修復と再生	組織と細胞の再生とその機序を学び、再生の過剰、化生、治癒の様式、異物処理、器質化などを理解する。	再生、化生、過形成、肥大などについて予習・復習をしましょう。	120
4	循環障害	局所循環障害のうっ血、虚血、血栓、出血、梗塞などを学び、心不全、ショック、浮腫などの全身性循環障害の病態生理を理解する。	循環障害について予習・復習をしましょう。	120
5	炎症	炎症の定義と徴候を学び、その原因や炎症細胞、組織変化、組織修復機構を理解する。	炎症について予習・復習をしましょう。	120
6	感染症	病気の原因となる病原体の種類を学び、代表的な感染症の特徴を知る。病原体の感染形態に対する生体防御反応を学び、感染防御対策を考える。	感染症について予習・復習をしましょう。	120
7	免疫機構の異常	生体防御機構の主役である免疫機構を学び、その異常である免疫疾患を理解する。	主な免疫不全、アレルギー、膠原病などについて予習・復習をしましょう。	120
8	腫瘍	腫瘍の概念と病理形態学的特徴を学び、腫瘍の発生と進展、良性と悪性の鑑別、病理診断、疫学などを学ぶ。	腫瘍について予習・復習をしましょう。	120
9	遺伝と先天異常	染色体・遺伝子の構造を学び、その異常による発症の原理を理解する。代表的な染色体異常症や遺伝性疾患について学ぶ。	主な染色体異常、遺伝性疾患などについて予習・復習をしましょう。	120
10	代謝異常	代謝異常が主たる病因ではその病態変化を学ぶ。主要な代謝異常症について説明できるようにする。	主な代謝異常について予習・復習をしましょう。	120
11	老化	生命の終末に向けて老化が進む。この老化の特徴とメカニズムを学び、細胞・組織・器官の変化を理解する。	老化について予習・復習をしましょう。	120
12	循環器・造血系・運動器の病理	心臓、血管、骨、筋、骨髄、関節などの主要な病気の病態を学ぶ。	循環器、造血系、運動器などの主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
13	消化器の病理	口腔、消化管、唾液腺、肝臓、胆道系、膵臓などの主要な病気の病態を学ぶ。	消化器の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	呼吸器・泌尿器・生殖器の病理	気道や肺、腎臓や膀胱、性腺や子宮などの主要な病気の病態を学ぶ。	呼吸器、泌尿器、生殖器の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
15	神経系・内分泌系・感覚器の病理	脳、脊髄、神経、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、眼、皮膚等の主要な病気の病態を学ぶ。	神経系、内分泌、感覚器などの主要な疾患について予習・復習をしましょう。	120

令和3年度

科目名	微生物学	**対象**	
担当教員	澤渡　優喜	**単位数**	家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修
開講期	後期	**必選**	

授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ 管理栄養士を目指す皆さんは、微生物学を理解する必要があります。なぜなら、食品に微生物が関係しているからです。発酵食品、食品の腐敗及び微生物性食中毒、これら全てに微生物が関係しています。また、管理栄養士は病気についても理解する必要があります。そのため、微生物が関係する病気である感染症を理解するためにも、微生物学の知識が必要になります。本講義では、微生物学の基礎に加え、食品微生物学の分野及び病原微生物学の分野についても解説し、微生物学と関連分野の知識を修得してもらいます。☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ 微生物学の基礎では、微生物の種類・増殖条件・代謝などについて解説します。食品微生物学の分野では、食品の腐敗・酸敗・保存、発酵・醸造食品などについて解説します。病原微生物学分野では、免疫学・病原微生物などについて解説します。☒ 〔実務経験及び実務経歴〕☒ 食品企業で乳酸菌を利用した商品の研究開発を行っていました。特に、微生物の基礎及び食品微生物学については企業での研究開発の経験をもとに講義します。☒ 〔課題に対するフィードバックの方法〕☒ 授業の項目ごとに確認問題を配布します。確認問題を実施後、模範解答を配布しますので、自己採点後に提出してもらいます。実施状況の確認、評価後に確認問題は返却します。必要に応じてコメントでフィードバックします。☒ ☒ 位置づけ・水準　FN2127
達成目標	〔達成目標（授業終了時の達成課題）〕 微生物の基本的な性質と微生物の有用性と有害性を理解することを本講義の達成目標とします。 〔単位認定の最低基準〕☒ 授業内容の7割程度を理解していること。☒ 〔ディプロマ・ポリシーとの関係〕☒ 意識と責任感、衛生上の管理指導☒

受講資格	家政学部 食物栄養学科 1年	**成績評価方法**	レポートなど；20点、期末試験；80点とし、60点以上で単位を認定します。
教科書	エキスパート管理栄養士養成シリーズ６　微生物学（第３版）（㈱化学同人）（本体2,500円＋税）		
参考書	IFO微生物学概論（㈱培風館）（本体4,700円＋税）☒ ブラック微生物学 第3版（丸善出版㈱）（本体8,500円＋税）☒ 応用微生物学　改訂版　（㈱培風館）（本体2,900円＋税）☒ 応用微生物学 第3版（文永堂出版㈱）（本体5,000円＋税）☒ その他、授業中に紹介します。		
学生への要望	生物学を理解しておくと微生物学を理解しやすくなるので、「生活生物学」を復習しておいて下さい。微生物はとても身近な生物なので興味を持って受講をして下さい。		
オフィスタイム	火曜日　16:10～17:05　No.2 食品衛生学研究室☒ 木曜日　16:10～17:05　No.2 食品衛生学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	微生物学の歴史	微生物学の歴史について以下の項目を中心に説明します。 【項目】 微生物の発見、パスツール、コッホ、北里柴三郎、志賀潔、ウイルスの発見、化学療法、新興感染症、再興感染症 ＊教科書該当箇所；p1～7	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
2	微生物学の基礎（１）	微生物について概説した後に、細菌の特徴について説明します。 【項目】 〇微生物の特徴；微生物の種類、原核生物と真核生物、微生物の大きさ、微生物の分類、微生物の命名 ＊教科書該当箇所；p11～14 〇細菌；細菌の大きさ、代表的な染色方法、細菌の形、細菌の構造 ＊教科書の該当箇所；p15～19	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	微生物学の基礎（２）	細菌の生理について説明します。 【項目】 細菌の栄養要求性、細菌の増殖、細菌の増殖条件、細菌の代謝 ＊教科書の該当箇所；p21～33	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
4	微生物学の基礎（３）	真菌の特徴と生理について説明します。 【項目】 真菌の種類と分類、真菌の形、真菌の大きさ、真菌の構造、真菌の増殖、真菌の胞子、真菌の栄養要求性、真菌の代謝 ＊教科書の該当箇所；p100～106、p33	授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
5	微生物学の基礎（４）	ウイルスの特徴と増殖方法、プリオン、原虫及び寄生虫の特徴について説明します。 【項目】 〇ウイルス；ウイルスの構造、種類、増殖方法 ＊教科書の該当箇所；p19～20、p34 〇プリオン：プリオンの特徴 ＊教科書の該当箇所；p20～21 〇原虫・寄生虫；原虫・寄生虫の特徴 ＊教科書の該当箇所；p13～14	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
6	食品微生物学（１）	自然環境に存在する微生物と食品に存在する微生物の種類を説明します。 【項目】 自然界に存在する微生物の種類と特徴、食品に存在する微生物の種類と特徴、食品の化学的・物理的条件と微生物の増殖 ＊教科書の該当箇所；p37～47	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
7	食品微生物学（２）	微生物の腐敗・変敗と食品の保存法について説明します。 【項目】 食品の腐敗・変敗、食品の保存法 ＊教科書の該当箇所；p47～54	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
8	食品微生物学（３）	代表的な醸造、発酵食品の種類と製造方法について説明します。 【項目】 アルコール飲料、調味料、豆の発酵食品、乳の発酵食品、その他 ＊教科書の該当箇所；p54～67	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
9	免疫学（１）	免疫の概要について説明します。 【項目】 抗体と抗原、免疫応答、免疫の種類 ＊教科書の該当箇所；p147～159	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
10	免疫学（２）	予防接種やアレルギーなど免疫に関連する項目について説明します。 【項目】 予防接種、血清療法と免疫グロブリン療法、免疫不全症候群、アレルギー、自己免疫疾患 ＊教科書の該当箇所；p159～166	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
11	病原微生物学（１）	感染について概説した後に、病原性を示す代表的な細菌について説明します。 【項目】 〇感染；感染機構、感染の種類、病原因子、感染経路、感染症の診断 ＊教科書の該当箇所；p71～75 〇病原性細菌；病原性細菌の概要、消化器系感染病原菌 ＊教科書の該当箇所；p75～89	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	病原微生物学（２）	病原性を示す代表的な細菌について説明します。 【項目】 呼吸器系感染病原菌、皮膚・泌尿器・生殖器系感染病原菌、血液・神経系又は全身感染性病原菌、人獣共通感染症、日和見感染、輸入感染症、衛生指標細菌・環境細菌・人体常在細菌 ＊教科書の該当箇所；p89～100	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
13	病原微生物学（３）	真菌、ウイルス、タンパク質、原虫が原因となる感染症について説明します。 【項目】 真菌症、ウイルス感染症、プリオン、原虫感染 ＊教科書の該当箇所；p105～115	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
14	病原微生物学（４）	新興感染症・再興感染症と抗生物質について説明します。 【項目】 新興感染症、再興感染症、抗生物質 ＊教科書の該当箇所；p118～137	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。次回の授業で質問をします。	60
15	消毒・滅菌	殺菌、滅菌、消毒とこれらの手段について説明します。 【項目】 殺菌、滅菌、消毒、手段 ＊141～146	教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業終了後、復習をして下さい。	60

令和3年度

科目名	臨床検査実習	**対象**	
担当教員	常松　和夫	**単位数**	家政学部 食物栄養学科 3年 1単位 選択
開講期	後期	**必選**	
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ 臨床検査の知識習得☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ 血液検査、化学検査を主体にした疾患と血液数値との関連☒ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕☒ 特に貧血の分類方法、赤血球の産生、酸素動態と疾患の関連の理解など☒ 実務経験：臨床検査技師として医療法人に勤務。その経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：臨床検査技師として医療法人に勤務。		
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕☒ 臨床検査の知識習得☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ 血液検査、化学検査を主体にした疾患と血液数値との関連☒ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕☒ 特に貧血の分類方法、赤血球の産生、酸素動態と疾患の関連の理解など		
受講資格	食物栄養学科３年	**成績評価方法**	試験
教科書	系統看護講座　別巻６　臨床検査		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	積極的に授業に臨むこと		
オフィスタイム	授業開始前、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	一般検査	臨床検査の目的☒ 一般検査の種類、定性検査と定量検査など		0
2	一般検査	尿成分と沈渣、便潜血反応と問題点、穿刺液検査など		0
3	血液検査	血液採取と抗凝固剤、血球検査と基準値、赤血球恒数		0
4	血液検査	赤血球の生成と赤血球の異常など、貧血との関連		0
5	血液検査	白血球（基準値と分固）、白血球の形態の異常、血小板☒		0
6	血液検査	凝固検査など		0
7	化学検査	血清蛋白、酵素系検査とアイソザイム		0
8	化学検査	血糖関連検査、脂質検査など		0
9	化学検査	腎機能検査と電解質代謝		0
10	化学検査	微量元素、他		0
11	免疫血清	炎症マーカー、自己抗体、アレルギー検査、ホルモン、免疫グロブリンなど		0
12	実習	手指洗浄と付着細菌検査、血液細胞染色、網赤血球の染色、尿検査		0
13	実習	正常血球の観察、赤芽球の観察、貧血状態の赤血球の観察		0
14	実習	異常赤血球の観察と分類、網赤血球のカウント		0
15	微生物、生理検査	結核菌の検査、ウィルス感染症、心電図変化と電解質、まとめ		0

令和3年度

科目名	臨床栄養学Ⅱ	**対象**	
担当教員	黒澤　廣子	**単位数**	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
開講期	後期	**必選**	
授業概要	医療・介護・福祉における栄養管理について学ぶ。特に傷病者の栄養管理について、疾患・病態ごとに客観的栄養評価ができるようにする。また、チーム医療において管理栄養士の役割について学ぶ。医療機関、介護保険施設に勤務した経験をもとに、それぞれの病態に応じた食事療法について授業を行う。実務経歴：管理栄養士として医療機関（太田西ノ内病院）病院、介護保険施設（介護老人保健施設桔梗）に勤務。[課題]レポート・献立作成・栄養量計算の課題に対し、添削・返却し、コメントによるフイードバックを行う。 位置づけ・水準　FN2271		
達成目標	各疾患・病態時の体内代謝・生理学的・病理学的所見に基づいて、栄養管理の必要性が説明でき、各疾患の栄養アセスメントや疾患の病態をふまえた栄養ケアプラン・栄養教育を立案できる。計画に沿って栄養管理実施・モニタリング・評価ができるようにする。[授業修了時の到達課題]各疾患の病態や、体内代謝・生理学的・病理学的所見についてしっかり学び、疾患別の栄養管理を実際の場面で活用できるようにする。[単位認定の最低基準]内容の７割を理解していること。[ディプロマ・ポリシーとの関係]研鑽を積む、社会貢献力、意識と責任感		
受講資格	家政学部　食物栄養学科☒ ２年　２単位　　選択　後期	**成績評価方法**	試験８０点　提出物１０点　ノート課題１０点
教科書	臨床栄養学 疾患別編　改訂第２版☒ 本田佳子　　羊土社　その他プリント配布		
参考書	特になし		
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨むこと。毎回電卓、教科書は持参すること。		
オフィスタイム	水曜日　２コマ、４コマ☒ 食生活・栄養研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス　代謝系疾患・栄養障害	履修の手引き（平成３０年度入学生）　シラバス説明 第１章　代謝系疾患・栄養障害（低栄養、ビタミン異常症）　　教科書29ページ	臨床栄養学Ⅰで学んだ、栄養障害について予習する。栄養障害の穴埋め問題	20
2	代謝系疾患・栄養障害	第１章　代謝系疾患・栄養障害　　１．糖尿病（教科書15ページから）	第１回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第２回授業の予習	20
3	代謝系疾患・栄養障害	第１章　代謝系疾患・栄養障害　　１．糖尿病（教科書15ページから）	第２回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第３回授業の予習　食事記録のエネルギー計算	20
4	代謝系疾患・栄養障害	第１章　代謝系疾患・栄養障害　　２．脂質異常症（教科書20ページから）	第３回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第４回授業の予習	20
5	代謝系疾患・栄養障害	第１章　代謝系疾患・栄養障害　　３．肥満症（教科書23ページから）	第４回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第５回授業の予習　肥満・メタボリックシンドロームの穴埋め問題	20
6	消化管疾患	第３章　消化管疾患　１．口腔・歯科疾患　２．上部消化管疾患　３．下部消化管疾患　　（教科書54ページから）	第５回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第６回授業の予習　胃食道逆流症の穴埋め問題	20
7	嚥下障害　高齢期疾患	第１６章　嚥下障害　第２０章高齢期疾患　１．嚥下障害（教科書234ページから）　　１．高齢期疾患（教科書291ページから）２．褥瘡（教科書293ページから）	第６回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第７回授業の予習	20
8	肝臓・胆嚢・膵臓疾患	第４章　肝・胆・膵疾患　（教科書68ページから）	第７回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第８回授業の予習	20
9	循環器系疾患	第５章　循環器系疾患　（教科書85ページから）	第８回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第９回授業の予習	20
10	腎臓疾患	第６章　腎・尿路系疾患　（教科書98ページから）１．慢性腎臓病　２．糸球体腎炎　３．ネフローゼ症候群　４．腎不全５．糖尿病腎症　６．透析療法	第９回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第１０回授業の予習	20
11	内分泌系疾患　　呼吸器系疾患	第２章　内分泌系疾患（教科書39ページから）第８章　呼吸器泌系疾患　　（教科書141ページから）	第１０回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第１１回授業の予習	20
12	血液・造血系疾患障害　運動器（骨格）系疾患障害	第９章　血液・造血系疾患（教科書149ページから）第１０章　運動器（骨格）泌系疾患（教科書160ページから）	第１１回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第１２回授業の予習　貧血の穴埋め問題	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	免疫・アレルギー系疾患感染症	第１１章　免疫・アレルギー系疾患（教科書172ページから）　第１２章　感染症（教科書189ページから）	第１２回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第１３回授業の予習	20
14	がんとターミナルケア周術期の管理クリティカルケア	第１３章　がんとターミナルケア（教科書199ページから）第１４章　周術期の管理（教科書212ページから）第１５章　クリティカルケア（教科書222ページから）	第１３回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第１４回授業の予習	20
15	妊産婦疾患	第１９章　妊産婦疾患　（教科書275ページから）　1．肥満、やせ2．貧血3．妊娠高血圧症4．妊娠糖尿病	第１４回授業の復習とノート整理と教科書を参考に第１５回授業の予習　妊産婦・授乳婦の疾患（肥満・貧血・糖尿病・高血圧）の穴埋め問題	20

令和3年度

科目名	栄養管理学Ⅰ	**対象**	
担当教員	黒澤　廣子	**単位数**	家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 必修
開講期	前期	**必選**	
授業概要	[目的]①臨床栄養学で学習したことを基に、患者の的確な栄養評価・判定を行い効果的な栄養補給を行い栄養状態を維持していくための能力を身につける。②チーム医療が治療効果に大きく影響することから、社会人基礎力（チームワーク、状況把握、課題発見力）の向上☒ [授業の内容の概要]疾患別の栄養管理の重要事項を理解し、実践力向上のため症例を通して、栄養評価、栄養量算出、栄養補給法及び栄養教育について、ＰＯＳに基づいた栄養記録を実施する。☒ 医療機関、介護保険施設に勤務した経験をもとに、それぞれの病態毎の症例を通して栄養管理についての授業を行う。実務経歴：管理栄養士として医療機関（太田西ノ内病院）、介護保険施設（介護老人保健施設桔梗）に勤務。[課題]レポート・献立作成・栄養量計算の課題に対し、添削・返却し、コメントによるフイードバックを行う。 ☒ 位置づけ・水準　FN2372		
達成目標	[目標]疾患別の栄養管理を検査データーや患者の客観的指標を基にマネジメントができる。[単位認定の最低基準] 内容の７割を理解していること。[ディプロマ・ポリシーとの関係]研鑽を積む、社会貢献力、意識と責任感		
受講資格	家政学部　食物栄養学科☒ ３年　２単位　　必修　　前期	**成績評価方法**	試験　８０点　提出物　１０点　　栄養管理計画書作成　１０点
教科書	新しい臨床栄養管理学　第３版　渡邉早苗　寺本房子　笠原賀子　松崎政三編医歯薬出版　その他プリント配布		
参考書	特になし		
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨むこと。		
オフィスタイム	火曜日　１０：３０～１２：００　水曜日　14：40～16：00☒ ☒ 食生活・栄養研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進め方や評価方法等を理解する。☒ 授業を受けるにあたっての必要となる事前学習や授業後の事後学習の必要性を認識する。☒	栄養管理について、臨床栄養学Ⅱの臨床検査値の見方などについて定期試験の内容を基に復習する。	30
2	チーム医療	チーム医療の意義と役割☒　　教科書　５３ページ☒	チーム医療の実際について「ＮＳＴ活動の現状」のレポートを復習する	30
3	必要栄養量の算出	エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、ビタミン、ミネラルについて　教科書　５０ページ	必要栄養量の算出について復習する。	30
4	栄養アセスメントについて	栄養パラメーター　身体計測・血液・尿検査等☒ 教科書　４７ページ☒	栄養アセスメント方法の項目の意義について復習する。	30
5	栄養管理計画書について	医療施設、介護福祉施設の栄養管理システム☒ 教科書３８ページ☒	栄養管理計画書と栄養ケアマネジメントの相違について復習する。	30
6	栄養管理計画書作成	症例に基づき計画書を作成する	症例を基に栄養管理計画書、栄養管理経過表（モニタリング）の作成課題	30
7	ベットサイドの栄養管理　①栄養障害	①低栄養、褥瘡症例について　教科書　６６ページ☒ 栄養アセスメント☒　　必要栄養量の算出☒	低栄養、褥瘡患者への栄養管理について復習する。	30
8	ベットサイドの栄養管理　②肥満症	②代謝疾患（肥満症）　教科書　６８ページ☒ 栄養アセスメント☒　必要栄養量の算出☒　　栄養・食事療法☒	肥満症治療の分類について復習する。	30
9	ベットサイドの栄養管理　③メタボリックシンドローム	③メタボリックシンドローム　教科書　７０ページ☒ 栄養アセスメント☒　必要栄養量の算出☒　栄養・食事療法☒	メタボリックシンドロームの症例のアディポサイトカインについて復習する。	30
10	ベットサイドの栄養管理　④糖尿病	④糖尿病　教科書　７２ページ☒ 栄養アセスメント☒　必要栄養量の算出☒ 栄養・食事療法☒	糖尿病患者への低血糖対策と薬物療法について復習する。	30
11	ベットサイドの栄養管理　⑤脂質異常症	⑤脂質異常症　教科書　７６ページ☒ 栄養アセスメント☒　必要栄養量の算出☒ 栄養・食事療法☒	脂質異常症の薬物療法について復習する。	30
12	ベットサイドの栄養管理　⑥高尿酸血症	⑥高尿酸血症　教科書　８０ページ☒ 栄養アセスメント☒　必要栄養量の算出☒ 栄養・食事療法☒	高尿酸血症の食事療法のポイントについて復習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	ベットサイドの栄養管理　⑦消化器疾患	⑦消化器疾患　　教科書　８２ページ☒ 栄養アセスメント☒　　必要栄養量の算出☒ 栄養・食事療法☒	炎症性腸疾患のクローン病と潰瘍性大腸炎の違いについて復習する。	30
14	栄養記録について	ＰＯＳ・ＰＯＭＲの記録方法　☒　教科書５７ページ☒	ＰＯＳシステムとＳＯＡＰの記録のフローを復習する。	30
15	栄養記録の実際	症例による記録の実践	ＳＯＡＰの記録方法につて復習する。	30

令和3年度

科目名	栄養管理学Ⅱ	**対象**	
担当教員	黒澤　廣子	**単位数**	家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択
開講期	後期	**必選**	
授業概要	項を理解し、実践力向上のため症例を通して、栄養評価、栄養量算出、栄養補給法及び栄養教育について、ＰＯＳに基づいた栄養記録を実施する。ＮＣＰ（栄養ケアプロセス）に沿った栄養評価・栄養診断（ＰＥＳ報告）についても学ぶ。☒ 必要に応じてスライドを使用し、資料や文献・疾病ごとの最新の診断基準ガイドラインなども適宜紹介する。また、栄養に関連深い疾患の病態や治療法を学修するため症例検討等の演習を取り入れていく。医療機関、介護保険施設に勤務した経験をもとに、症例を通して栄養管理の実際の授業を行う。実務経験：医療機関、介護保険施設に勤務した経験をもとに、それぞれの病態に応じた献立作成とそれを基に調理実習を行い評価、講評する。実務経歴：管理栄養士として医療機関（太田西ノ内病院）病院、介護保険施設（介護老人保健施設桔梗）に勤務。[課題]レポート・献立作成・栄養量計算の課題に対し、添削・返却し、コメントによるフイードバックを行う。　位置づけ・水準　FN2373		
達成目標	病院、診療所、その他の医療施設や福祉施設において治療中の入院患者、外来患者や入所者の栄養管理を実際の場面で展開できる技術を習得する。[単位認定の最低基準]内容の７割を理解していること。[ディプロマ・ポリシーとの関係]研鑽を積む、社会貢献力、意識と責任感		
受講資格	家政学部　食物栄養学科☒ ３年　　2単位　　選択	**成績評価方法**	試験８０点　提出物１０点　課題１０点（各回授業毎に国家試験の過去問を解き、ノートに問題・解説を記載する）
教科書	新しい臨床栄養管理　第３版（栄養管理学Ⅰで使用したもの）渡邉早苗　寺本房子　　笠原賀子　松崎政三編　医歯薬出版　その他プリント配布		
参考書	特になし		
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨むこと。		
オフィスタイム	水曜日　１０：３０～１２：００☒ ・１４：３０～１６：００☒ 食生活・栄養研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	栄養管理学Ⅰを振り返る　授業の進め方や評価方法等を理解する。授業を受けるにあたっての必要となる事前学習や授業後の事後学習の必要性を認識する。	必要エネルギー量を算出するための活動係数、ストレス係数について復習する。	20
2	胃・十二指腸潰瘍	胃・十二指腸潰瘍の栄養管理　臨床データーを読み取り　適正な栄養必要量の算出と栄養管理 栄養アセスメント　教科書　８６ページ	胃・十二指腸潰瘍の栄養指導について復習する。	20
3	肝硬変	肝硬変の栄養管理　臨床データーを読み取り　適正な栄養必要量の算出と栄養管理 栄養アセスメント　教科書　９２・９３ページ	肝硬変の食事療法で重要なフィッシャー比について復習する。	20
4	高血圧	高血圧症の栄養管理　臨床データーを読み取り　適正な栄養必要量の算出と栄養管理 栄養アセスメント　教科書　９６・９７ページ	高血圧の薬物療法についてまとめる。	20
5	心疾患・動脈硬化	心疾患の栄養管理　臨床データーを読み取り　適正な栄養必要量の算出と栄養管理 栄養アセスメント　教科書　９８～１０１ページ	脂質異常症の臨床検査値の見方についてまとめる。	20
6	慢性腎臓病（透析）	慢性腎臓病の栄養管理　臨床データーを読み取り　適正な栄養必要量の算出と栄養管理 栄養アセスメント　教科書　１０４～１０７ページ	症例より透析患者の栄養管理の中でも水分管理（水分出納）についてまとめる。	20
7	糖尿病腎症	糖尿病腎症の栄養管理　臨床データーを読み取り　適正な栄養必要量の算出と栄養管理 栄養アセスメント教科書　１０８・１０９ページ	慢性腎臓病と糖尿病腎症の食事療法の違いについて、患者の視点からまとめる。	20
8	症例検討（各自が考える）	①患者データ年齢、職業、家族構成、主病名等　②臨床所見　身長、体重、血圧、症例に関係する臨床検査値等　③経緯　④食事摂取・生活状況考える　⇒それに対する栄養管理（必要栄養量の決定・留意すべき事項・栄養指導等）	栄養管理ⅠとⅡで学んだ症例について復習する	20
9	膵炎	膵炎の栄養管理　臨床データーを読み取り　適正な栄養必要量の算出と栄養管理 栄養アセスメント　教科書　８８・８９ページ	膵炎の臨床診断基準について復習する。	20
10	脳梗塞	脳梗塞の栄養管理　臨床データーを読み取り　適正な栄養必要量の算出と栄養管理 栄養アセスメント　教科書　１１４ページ	脳梗塞の後遺症の嚥下障害の食形態についてまとめる。	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	貧血	貧血の栄養管理　　臨床データーを読み取り　適正な栄養必要量の算出と栄養管理 栄養アセスメント　　教科書　１１５ページ	貧血の分類と食事療法についてまとめる。	20
12	骨粗鬆症	骨粗鬆症の栄養管理　　臨床データーを読み取り　適正な栄養必要量の算出と栄養管理 栄養アセスメント　　教科書　１１６・１１７ページ	骨粗鬆症における骨の新陳代謝について理解できるようまとめる。	20
13	胃がん	胃がんの栄養管理　　臨床データーを読み取り　適正な栄養必要量の算出と栄養管理 栄養アセスメント　　教科書　１１８・１１９ページ	胃がんによる胃切除術の後遺症についてまとめる。	20
14	外傷・熱傷	外傷・熱傷の栄養管理　　臨床データーを読み取り　適正な栄養必要量の算出と栄養管理 栄養アセスメント　　教科書　１２２・１２３ページ	熱傷患者の栄養管理についてまとめる。	20
15	妊娠糖尿病	妊娠糖尿病の栄養管理　　臨床データーを読み取り　適正な栄養必要量の算出と栄養管理 栄養アセスメント　　教科書　１４０ページ	妊娠糖尿病の栄養管理についてまとめる。	20

令和3年度

科目名	臨床栄養学実習Ⅰ	**対象**	
担当教員	黒澤　廣子	**単位数**	家政学部 食物栄養学科 2年 1単位 必修
開講期	後期	**必選**	
授業概要	〔目的]入院時食事療養における献立作成や栄養相談の基本となることについて実習を行い、管理栄養士として臨床の場面で実践できるようにする。☒ [授業の内容の概要]臨床栄養学の学習と疾患別の献立作成と調理実習を行い、更に実践的にするための模擬集団栄養指導とグループワークを実施する。☒ 医療機関、介護保険施設に勤務した経験をもとに、それぞれの病態に応じた献立作成とそれを基に調理実習を行い評価、講評する。実務経歴：管理栄養士として医療機関（太田西ノ内病院）病院、介護保険施設（介護老人保健施設桔梗）に勤務。[課題]レポート・献立作成・栄養量計算の課題に対し、添削・返却し、コメントによるフイードバックを行う。☒ 位置づけ・水準　FN2274		
達成目標	入院時食事療養における献立作成や栄養相談の基本となることについて実習を行い、管理栄養士として臨床の場面で実践できるようにする。[授業修了時の到達課題]疾患別の献立作成と調理技術を習得する。[単位認定の最低基準]内容の７割を理解していること。[ディプロマ・ポリシーとの関係]研鑽を積む、社会貢献力、意識と責任感		
受講資格	家政学部　食物栄養学科☒ ２年　１単位　　必修	**成績評価方法**	筆記試験７０点、提出物１０点、課題（自宅での調理）２０点
教科書	食事療法実務入門（学建書院）栄養食事療法の実習（医歯薬出版）糖尿病の食品交換表　腎臓病の食品交換表		
参考書	特になし		
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨むこと。☒ 解らないことをそのままにしない。		
オフィスタイム	水曜日　１０：３０～１２：００　１４：３０～１６：００☒ 食生活・栄養研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス　病院給食 演習問題（ 黒澤・本間）	病院における入院時食事療養費、ＤＰＣ、約束食事箋について　①入院時食事療養費の適温給食、栄養指導と採算性 ②入院患者の栄養量と摂取量	「食事療養実務入門」教科書の148ページからの入院時食事制度概説を復習する。	30
2	ガイダンス　病院給食 演習問題（黒澤・本間）	病院における入院時食事療養費、ＤＰＣ、約束食事箋について　①入院時食事療養費の適温給食、栄養指導と採算性 ②入院患者の栄養量と摂取量	「食事療養実務入門」教科書の148ページからの入院時食事制度概説を復習する。	30
3	一般食 演習問題（黒澤・本間）	治療食の種類　一般治療食 ①症例による栄養量の計算と濃厚流動食選定　②一般食患者の年齢構成及び荷重平均計算 ③常食から全がゆ食へ展開食	常食から全がゆ食の展開食の課題の取り組み	30
4	一般食 演習問題（黒澤・本間）	治療食の種類　一般治療食 ①症例による栄養量の計算と濃厚流動食選定　②一般食患者の年齢構成及び荷重平均計算 ③常食から全がゆ食へ展開食	常食から全がゆ食の展開食の課題の取り組み	30
5	治療食（黒澤・本間）	糖尿病食の食品交換表の使い方について　胃・十二指腸潰瘍について	糖尿病食品交換表についての復習	30
6	治療食（黒澤・本間）	糖尿病食の食品交換表の使い方について　胃・十二指腸潰瘍について	糖尿病食品交換表についての復習	30
7	糖尿病食品交換表を用いた調理実習（１食分）と単位計算（黒澤・本間）	献立作成上の注意点等　調理実習（１食分）と単位計算	食品交換表の単位数の計算	30
8	糖尿病食品交換表を用いた調理実習（１食分）と単位計算（黒澤・本間）	献立作成上の注意点等　調理実習（１食分）と単位計算	集団栄養指導の管理栄養士担当の学生は資料作成　それ以外の学生は食品交換表の見方について復習	30
9	演習（糖尿病の集団指導）　グループワーク（黒澤・本間）	①グループ毎に指導者と患者を設定し集団栄養指導を実施（４０分）②症例によるグループワーク　発表	自宅での調理の課題の取り組み	30
10	演習（糖尿病の集団指導）　グループワーク（黒澤・本間）	①グループ毎に指導者と患者を設定し集団栄養指導を実施（４０分）②症例によるグループワーク　発表	自宅での調理の課題の取り組み	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	糖尿病食品交換表を用いた献立作成（黒澤・本間）	食品交換表を用いた献立作成（１日　1，600kcal） 教科書「栄養食事療法の実習」71ページ参照	食品交換表の単位数の計算	30
12	糖尿病食品交換表を用いた献立作成（黒澤・本間）	食品交換表を用いた献立作成（　１日　1，600kcal） 教科書「栄養食事療法の実習」71ページ参照	食品交換表の単位数の計算	30
13	糖尿病1600kcal常食の試作（黒澤・本間）	グループの中で１日分の試作（1，６００kcal食） レポート作成（写真を入れて、ＰＦＣと材料費、動物タンパク比、コメント、感想）	調理実習のレポート作成（ＰＦＣ・動物性たんぱく質比、食材料費の算出）	30
14	糖尿病1600kcal常食の試作（黒澤・本間）	グループの中で１日分の試作（1，６００kcal食） レポート作成（写真を入れて、ＰＦＣと材料費、動物タンパク比、コメント、感想）	調理実習のレポート作成（ＰＦＣ・動物性たんぱく質比、食材料費の算出）	30
15	演習（胃潰瘍、十二指腸潰瘍の集団栄養指導）　（黒澤・本間）	①グループ毎に指導者と患者を設定し集団栄養指導を実施（４０分）②症例によるグループワーク　発表	自宅での調理の課題の取り組み	30
16	演習（胃潰瘍、十二指腸潰瘍の集団栄養指導）（黒澤・本間）	①グループ毎に指導者と患者を設定し集団栄養指導を実施（４０分）②症例によるグループワーク　発表	自宅での調理の課題の取り組み	30
17	胃・十二指腸潰瘍1600kcal全粥献立作成（黒澤・本間）	献立作成　「食事療養実務入門」の教科書136ページの食品構成を参考にする。エネルギー　1，600kcal　たんぱく質　70ｇ	胃・十二指腸潰瘍に適した食品の選択について教科書78ページを確認しておくこと。	30
18	胃・十二指腸潰瘍1600kcal全粥献立作成（黒澤・本間）	献立作成　「食事療養実務入門」の教科書136ページの食品構成を参考にする。エネルギー　1，600kcal　たんぱく質　70ｇ	胃・十二指腸潰瘍に適した食品の選択について教科書78ページを確認しておくこと。	30
19	胃・十二指腸潰瘍　1600kcal全粥試作（黒澤・本間）	グループの中で１日分の試作（胃・十二指腸潰瘍食　1，６００kcal食） レポート作成（写真を入れて、ＰＦＣと材料費、動物タンパク比、コメント、感想）	調理実習のレポート作成（ＰＦＣ・動物性たんぱく質比、食材料費の算出）	30
20	胃・十二指腸潰瘍　1600kcal全粥試作（黒澤・本間）	グループの中で１日分の試作（胃・十二指腸潰瘍食　1，６００kcal食） レポート作成（写真を入れて、ＰＦＣと材料費、動物タンパク比、コメント、感想）	調理実習のレポート作成（ＰＦＣ・動物性たんぱく質比、食材料費の算出）	30
21	高齢者食（黒澤・本間）	①ビデオ（ＣＶＤ）学習　②トロミ調整食品を牛乳に薄いとろみ、中間のとろみ、濃いとろみの3種類のとろみを実習　【とろみ測定版（ラインスプレッドテスト）の実施】　③あいーと試食	リハビリテーション学会嚥下調整食分類2013について教科書228ページを復習する	30
22	高齢者食（黒澤・本間）	①ビデオ（ＣＶＤ）学習　②トロミ調整食品を牛乳に薄いとろみ、中間のとろみ、濃いとろみの3種類のとろみを実習　【とろみ測定版（ラインスプレッドテスト）の実施】　③あいーと試食	リハビリテーション学会嚥下調整食分類2013について教科書228ページを復習する	30
23	介護食（黒澤・本間）	①高齢者の献立作成（献立用紙はＡ４サイズ縦）　常食⇒全がゆ食⇒嚥下調整食３の展開食	学会分類の嚥下調整食３について食形態を確認する。	30
24	介護食（黒澤・本間）	①高齢者の献立作成（献立用紙はＡ４サイズ縦）　常食⇒全がゆ食⇒嚥下調整食３の展開食	学会分類の嚥下調整食３について食形態を確認する。	30
25	介護食の調理実習　介助方法実技（黒澤・本間）	①スルーパートナーを使用し嚥下調整食３（ソフト食）の作成　②①の調理したものを介護実習室にて介助と被介護者と体験	摂食・嚥下のしくみについて復習する	30
26	介護食の調理実習　介助方法実技（黒澤・本間）	①スルーパートナーを使用し嚥下調整食３（ソフト食）の作成　②①の調理したものを介護実習室にて介助と被介護者と体験	摂食・嚥下のしくみについて復習する	30
27	褥瘡（黒澤・本間）	症例による栄養量算出と経腸栄養剤の選定と提供栄養量について	褥瘡のステージ分類について復習する	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	褥瘡（黒澤・本間）	症例による栄養量算出と経腸栄養剤の選定と提供栄養量について	褥瘡のステージ分類について復習する	30
29	静脈栄養法・経管栄養法（黒澤・本間）	病態別栄養剤について　（腎不全用、肝不全用、呼吸器不全用、がん患者用、免疫調整栄養）　①輸液のＮＰＣ／Ｎ比について演習　②症例検討栄養剤の選定	経腸栄養剤の種類について教科書262～267ページの付録で復習する	30
30	静脈栄養・経管栄養（黒澤・本間）	病態別栄養剤について　（腎不全用、肝不全用、呼吸器不全用、がん患者用、免疫調整栄養）　①輸液のＮＰＣ／Ｎ比について演習　②症例検討栄養剤の選定	経腸栄養剤の種類について教科書262～267ページの付録で復習する	30

令和3年度

科目名	臨床栄養学実習Ⅱ	**対象**	
担当教員	黒澤　廣子,橋本　杏菜	**単位数**	家政学部 食物栄養学科 3年 1単位 必修
開講期	前期	**必選**	
授業概要	〔目的]入院時食事療養における献立作成や栄養相談の基本となることについて実習を行い、管理栄養士として臨床の場面で実践できるようにする。☒ [授業の内容の概要]臨床栄養学の学習と疾患別の献立作成と調理実習を行い、更に実践的にするための模擬集団栄養指導とグループワークを実施する。☒ 医療機関、介護保険施設に勤務した経験をもとに、それぞれの病態に応じた献立作成とそれを基に調理実習を行い評価、講評する。実務経歴：管理栄養士として医療機関（太田西ノ内病院）病院、介護保険施設（介護老人保健施設桔梗）に勤務。☒ [課題]レポート・献立作成・栄養量計算の課題に対し、添削・返却し、コメントによるフイードバックを行う。☒ ☒ 位置づけ・水準　FN2375		
達成目標	[目標] 疾患毎の病態を理解したうえで献立作成及び調理技術を身に付ける。[単位認定の最低基準] 内容の７割を理解していること。[ディプロマ・ポリシーとの関係]研鑽を積む、社会貢献力、意識と責任感		
受講資格	家政学部　食物栄養学科　３年１単位　必修	**成績評価方法**	筆記試験７０点、提出物１０点、課題（診療報酬の食事療養費と栄養指導に関するまとめ）２０点
教科書	食事療法実務入門（学建書院）栄養食事療法の実習（医歯薬出版）糖尿病の食品交換表　腎臓病の食品交換表　　臨床栄養学実習Ⅰと同様		
参考書	特になし		
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨むこと。		
オフィスタイム	火曜日　１０：３０～１２：００　　水曜日　14：40～16：00☒ ☒ 食生活・栄養研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	高血圧・心臓病・脂質異常症食（黒澤・本間）	高血圧が長期間持続すると、脳疾患、高血圧性心疾患、動脈硬化を招く。食塩制限は６ｇ未満である。心不全で浮腫のある場合は、食塩制限と水分制限を行う。脂質異常症においてはコレステロール、中性脂肪の高い場合の食品の組み合わせを考える。	調理における塩分濃度をもとに、調味料の使用量が計算できるように復習する。	20
2	高血圧・心臓病・脂質異常症食（黒澤・本間）	高血圧が長期間持続すると、脳疾患、高血圧性心疾患、動脈硬化を招く。食塩制限は６ｇ未満である。心不全で浮腫のある場合は、食塩制限と水分制限を行う。脂質異常症においてはコレステロール、中性脂肪の高い場合の食品の組み合わせを考える。	調理における塩分濃度をもとに、調味料の使用量が計算できるように復習する。	20
3	脂質異常症の模擬集団栄養指導③とグループワーク（黒澤・本間）	１コマ　グループ毎に１人が代表で模擬集団指導の実施☒ ２コマ　症例に対するグループワーク☒	集団栄養指導の管理栄養士担当の学生は資料作成をする。その他の学生は脂質異常の臨床検査値の見方を復習する。	20
4	脂質異常症の模擬集団栄養指導③とグループワーク（黒澤・本間）	１コマ　グループ毎に１人が代表で模擬集団指導の実施☒ ２コマ　症例に対するグループワーク☒	集団栄養指導の管理栄養士担当の学生は資料作成をする。その他の学生は脂質異常の臨床検査値の見方を復習する。	20
5	脂質異常症食の献立作成（黒澤・本間）	脂質異常症　１６００kcal　たんぱく質７０ｇ、脂質４０ｇ食塩６ｇ未満　コレステロール２００ｍｇの献立作成	コレステロールの多い食品や食物繊維の多い食品選択ができるよう復習する。	20
6	脂質異常症食の献立作成（黒澤・本間）	脂質異常症　１６００kcal　たんぱく質７０ｇ、脂質４０ｇ食塩６ｇ未満　コレステロール２００ｍｇの献立作成	コレステロールの多い食品や食物繊維の多い食品選択ができるよう復習する。	20
7	脂質異常症食　１６００kcal　たんぱく質７０ｇ、脂質４０ｇ食塩６ｇ　コレステロール２００ｍｇの調理実習（黒澤・本間）	グループの代表者の献立を３食分を作成し試食する。料理の手順、材料の割合、彩り、盛り付け、季節感など試食後の感想を提出する。	調理実習のレポート作成。（ＰＦＣ、動物性たんぱく質比、食材料費の算出）	20
8	脂質異常症食　１６００kcal　たんぱく質７０ｇ、脂質４０ｇ食塩６ｇ　コレステロール２００ｍｇの調理実習（黒澤・本間）	グループの代表者の献立を３食分を作成し試食する。料理の手順、材料の割合、彩り、盛り付け、季節感など試食後の感想を提出する。	調理実習のレポート作成。（ＰＦＣ、動物性たんぱく質比、食材料費の算出）	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	間接熱量測定（メタボリックアナライザーを使って測定）グループワーク（黒澤・本間）	グループ内の1人が測定（測定条件①姿勢座位②空腹時（食後４時間以上経過）③喫煙・カフェイン飲料控える④10分程度座位で安静にした後測定が望ましい　⇒Ａ．Haris-Benedict式　Ｂ．日本人の食事摂取基準を用いた　Ｃ．国立健康・栄養研究所の式　等の簡易式との比較をする	栄養管理学Ⅰの授業の必要栄養量の算出を復習する。	20
10	間接熱量測定（メタボリックアナライザーを使って測定）グループワーク（黒澤・本間）	グループ内の1人が測定（測定条件①姿勢座位②空腹時（食後４時間以上経過）③喫煙・カフェイン飲料控える④10分程度座位で安静にした後測定が望ましい　⇒Ａ．Haris-Benedict式　Ｂ．日本人の食事摂取基準を用いた　Ｃ．国立健康・栄養研究所の式　等の簡易式との比較をする	栄養管理学Ⅰの授業の必要栄養量の算出を復習する。	20
11	肝臓病食　膵臓病食（黒澤・本間）	肝臓病は急性期と慢性期に分けられる。慢性期には代償期と非代償期に分けられ、非代償期の栄養管理について学ぶ。☒炎は急性膵炎・慢性膵炎に分けられる。膵臓病の特徴と使用食品について学び、膵炎回復期・寛解期の献立を作成する。	肝臓病、膵臓病の臨床検査値の見方を復習する。	20
12	肝臓病食　膵臓病食（黒澤・本間）	肝臓病は急性期と慢性期に分けられる。慢性期には代償期と非代償期に分けられ、非代償期の栄養管理について学ぶ。☒炎は急性膵炎・慢性膵炎に分けられる。膵臓病の特徴と使用食品について学び、膵炎回復期・寛解期の献立を作成する。	肝臓病、膵臓病の臨床検査値の見方を復習する。	20
13	肝臓病食（肝硬変）の献立作成（黒澤・本間）	肝臓食　1200kcal たんぱく質　40g　脂質　25g　食塩　5gの献立作成　アミノレバンEN２袋（エネルギー420kcal　たんぱく質27ｇ）肝不全用経口栄養剤	肝硬変の非代償期の食事療法について復習する。	20
14	肝臓病食（肝硬変）の献立作成（黒澤・本間）	肝臓食　1200kcal たんぱく質　40g　脂質　25g　食塩　5gの献立作成　アミノレバンEN２袋（エネルギー420kcal　たんぱく質27ｇ）肝不全用経口栄養剤	肝硬変の非代償期の食事療法について復習する。	20
15	膵臓病食の模擬集団栄養指導④とグループワーク（黒澤・本間）	１コマ　グループ毎に１人が代表で模擬集団指導の実施☒ ２コマ　症例に対するグループワーク☒	集団栄養指導の管理栄養士担当の学生は資料作成をする。その他の学生は膵臓病の食事療法を復習する。	20
16	膵臓病食の模擬集団栄養指導④とグループワーク（黒澤・本間）	１コマ　グループ毎に１人が代表で模擬集団指導の実施☒ ２コマ　症例に対するグループワーク☒	集団栄養指導の管理栄養士担当の学生は資料作成をする。その他の学生は膵臓病の食事療法を復習する。	20
17	膵臓病食安定期の献立作成（黒澤・本間）	1700kcal　たんぱく質　70g　脂質　30g以下　食塩8g未満　常食の献立作成　（ＭＣＴの使用）	自宅での調理の課題の取り組み	20
18	膵臓病食安定期の献立作成（黒澤・本間）	1700kcal　たんぱく質　70g　脂質　30g以下　食塩8g未満　常食の献立作成　（ＭＣＴの使用）	自宅での調理の課題の取り組み	20
19	膵臓病食調理実習（黒澤・本間）	グループの代表者の献立を1日3食分を作製し試食する。調理の手順、材料の割合、彩り、盛り付け、季節感など　試食後の感想を提出する。	調理実習のレポート作成。（ＰＦＣ、動物性たんぱく質比、食材料費の算出）	20
20	膵臓病食調理実習（黒澤・本間）	グループの代表者の献立を1日3食分を作製し試食する。調理の手順、材料の割合、彩り、盛り付け、季節感など　試食後の感想を提出する。	調理実習のレポート作成。（ＰＦＣ、動物性たんぱく質比、食材料費の算出）	20
21	腎臓病食　治療用特殊食品を活用した調理実習（黒澤・本間）	保存期慢性腎不全、血液透析、腹膜透析の食事療法では治療用食品が開発されている。腎臓病治療用食品が開発されている。エネルギー調整食品、たんぱく調整食品、食塩調整食品、低リン食品がある。	自宅での調理の課題の取り組み	20
22	腎臓病食　治療用特殊食品を活用した調理実習（黒澤・本間）	保存期慢性腎不全、血液透析、腹膜透析の食事療法では治療用食品が開発されている。腎臓病治療用食品が開発されている。エネルギー調整食品、たんぱく調整食品、食塩調整食品、低リン食品がある。	自宅での調理の課題の取り組み	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	腎臓病食の模擬集団栄養指導⑤とグループワーク（黒澤・本間）	１コマ　グループ毎に１人が代表で模擬集団指導の実施☒ ２コマ　症例に対するグループワーク☒	集団栄養指導の管理栄養士担当の学生は資料作成をする。その他の学生は慢性腎臓病の臨床検査値の見方を復習する。	20
24	腎臓病食の模擬集団栄養指導⑤とグループワーク（黒澤・本間）	１コマ　グループ毎に１人が代表で模擬集団指導の実施☒ ２コマ　症例に対するグループワーク☒	集団栄養指導の管理栄養士担当の学生は資料作成をする。その他の学生は慢性腎臓病の臨床検査値の見方を復習する。	20
25	腎臓病食の献立作成（黒澤・本間）	保存期慢性腎不全食　1800kcal　たんぱく質　40g　食塩5g　献立作成	腎臓病食品交換表の使い方を復習する。	20
26	腎臓病食の献立作成（黒澤・本間）	保存期慢性腎不全食　1800kcal　たんぱく質　40g　食塩5g　献立作成	腎臓病食品交換表の使い方を復習する。	20
27	腎臓病食調理実習（黒澤・本間）	グループの代表者の献立を1日3食分を作製し試食する。調理の手順、材料の割合、彩り、盛り付け、季節感など　試食後の感想を提出する	調理実習のレポート作成。（ＰＦＣ、動物性たんぱく質比、食材料費の算出）	20
28	腎臓病食調理実習（黒澤・本間）	グループの代表者の献立を1日3食分を作製し試食する。調理の手順、材料の割合、彩り、盛り付け、季節感など　試食後の感想を提出する	調理実習のレポート作成。（ＰＦＣ、動物性たんぱく質比、食材料費の算出）	20
29	入院時食事療養における食事摂取基準の取り扱い（黒澤・本間）	①食事摂取基準基準の運用と「食事基準」　②食品構成と食品類別荷重平均成分表にいて　③食類類別荷重平均成分表の作成	食品類別荷重平均成分表の作成	20
30	入院時食事療養における食事摂取基準の取り扱い（黒澤・本間）	①食事摂取基準基準の運用と「食事基準」　②食品構成と食品類別荷重平均成分表にいて　③食類類別荷重平均成分表の作成	食品類別荷重平均成分表の作成	20

令和3年度

科目名	公衆栄養学Ⅰ	**対象**	
担当教員	星　千歳	**単位数**	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修
開講期	後期	**必選**	
授業概要	[授業の目的・ねらい]☒ 地域社会や集団生活など広い範囲で国民の健康を図るための栄養活動・栄養疫学などについて学習し、実際の現場でのとらえ方や課題について把握できるようにする。☒ [授業全体の内容の概要]☒ 公衆栄養学の概念、健康・栄養問題の現状と課題、栄養疫学、地域診断と公衆栄養マネジメント、公衆栄養プログラムの展開を解説する。また、保健所に勤務した経験をもとに実際の現場での活動内容や課題について講義する。☒ 実務経験：福島県の職員(管理栄養士)として保健所と病院に勤務☒ 【課題に対するフィードバックの方法】小テスト実施後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業でフィードバックを行う。☒ 【位置付け・水準】FN2276		
達成目標	地域社会や集団生活など広い範囲で国民の健康を図るための栄養活動・栄養疫学などの公衆栄養について理解できる。☒ 【単位認定の最低基準】授業内容の6割を理解していること。☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】研鑽、社会貢献、意識と責任感		
受講資格	食物栄養学科 ２年	**成績評価方法**	①小テスト　３０点☒ ②定期試験　７０点
教科書	サクセス管理栄養士・栄養士養成講座　公衆栄養学　2021年版　　第一出版　　井上浩一、草間かおる、村山伸子		
参考書	公衆衛生がみえる　2020-2021　☒ディックメディア		
学生への要望	・常に受け身の姿勢ではなく、主体的・積極的な姿勢で授業に臨むこと☒☒ ・毎回、教科書は持参すること。		
オフィスタイム	木曜日5コマ（16：10～17：05）、金曜日5コマ（16：10～17：05）☒ 食生活・栄養研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	公衆栄養学の概念	公衆栄養学の定義を理解し、公衆栄養学の意義・目的を認識する。☒ また、公衆栄養活動の視点および方向性について学ぶ。☒ ☒	終了後、授業内容を復習する。	30
2	公衆栄養学の概念	公衆栄養活動は、生態系保全、地域づくり、ヘルスプロモーション、疾病予防などと密接なかかわりについて基本的な事項を学ぶ。☒ ☒ ☒	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
3	健康・栄養問題の現状と課題	疾病構造から健康状態の変化を理解し、現状とその対策について学ぶ。☒ ・死因別統計☒　・平均寿命、健康寿命 ・生活習慣病の有病率	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
4	健康・栄養問題の現状と課題	食事の変化について理解し、栄養上の現状と課題を学ぶ。☒ ・エネルギー、栄養素摂取量☒・食品群別摂取量 ・料理、食事パターン☒ ☒	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
5	健康・栄養問題の現状と課題	食生活の変化など、それぞれの変遷から健康栄養上の課題を整理し、今後の対策を検討するための基礎を学ぶ。☒ ・食生活　　・食知識、食態度、食スキル	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
6	健康・栄養問題の現状と課題	食環境の変化は、人々のおかれている自然、社会、経済など、様々な因子によって左右されるため各省庁が発表している統計について理解する。☒ ・食品生産、流通☒ ・フードバランスシート（食料需給表）☒ ・食料自給率☒ ☒	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	健康・栄養問題の現状と課題	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題について学ぶ。☒ ・先進諸国、発展途上国の現状と課題☒ ・先進国と開発途上国の地域格差☒ 小テストを行う。 ☒	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
8	栄養疫学	栄養疫学の役割と公衆栄養活動への応用について解説する。☒	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
9	栄養疫学	食事摂取量の測定方法について解説する。☒ ・食事記録法と24時間思い出し法☒ ・食物摂取頻度調査法☒ ・食事摂取量を反映する身体測定値、生化学的指標 小テストを行う。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
10	栄養疫学	食事調査の種類と特徴につて解説し、食事摂取量の評価方法としての食事摂取基準による評価について学ぶ。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
11	栄養疫学	総エネルギー調整栄養摂取量の必要性について解説し、残差法、栄養素密度法について学ぶ。　☒ ☒	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
12	地域診断と公衆栄養マネジメント	公衆栄養マネジメントの基本的な考え方やその必要性を学ぶとともに、、適切な展開とするために求められる公衆栄養アセスメントの目的や方法について理解する。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
13	地域診断と公衆栄養マネジメント	公衆栄養プログラムにおける目標設定の方法を理解し、取り組みの計画・実施・評価の各段階に応じた望ましい対応について学ぶ。 小テストを行う。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
14	公衆栄養プログラムの展開	具体的な公衆栄養活動の事例を通して、地域特性に対応したプログラムの展開と、食環境整備のためのプログラムの展開について学ぶ。 ☒	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
15	公衆栄養プログラムの展開	具体的な公衆栄養活動の事例を通して、地域集団の特性別に対応したプログラムとして、ライフステージ別と生活習慣病ハイリスク集団のプログラムについて学ぶ。 小テストを行う。 ☒	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30

令和3年度

科目名	公衆栄養学Ⅱ	**対象**	
担当教員	星　千歳	**単位数**	家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択
開講期	前期	**必選**	
授業概要	[授業の目的・ねらい]☒ 地域社会や集団生活など広い範囲で国民の健康を増進するための栄養活動・栄養施策について学習し、公衆栄養活動の実際的展開等を理解する。☒ [授業全体の概要]☒ 公衆栄養関連法規・国の健康増進基本方針・諸外国の健康・栄養政策等について解説する。また、保健所に勤務した経験をもとに実際の現場での活動内容や課題について講義する。☒ 実務経歴：福島県の職員（管理栄養士）として保健所と病院に勤務☒ 【課題に対するフィードバックの方法】小テスト実施後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業でフィードバックを行う。☒ 【位置付け・水準】FN2377		
達成目標	[達成目標] ☒ 地域社会や集団生活など広い範囲で国民の健康を増進するための栄養活動・栄養施策が理解できる。☒ 【単位認定の最低基準】授業内容の6割を理解していること。☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】研鑽、社会貢献、意識と責任感		
受講資格	食物栄養学科　3年	**成績評価方法**	①小テスト　30点☒ ②定期試験　70点
教科書	サクセス管理栄養士・栄養士養成講座　公衆栄養学　2020年版　第一出版　井上浩一、草間かおる、村山伸子		
参考書	公衆衛生がみえる　2020-2021　メディックメディア		
学生への要望	・常に受け身の姿勢ではなく、主体的・積極的な姿勢で授業に臨むこと☒ ・毎回、教科書は持参すること。☒ ・地域活動の視点から地域や集団を対象とした公衆栄養活動に関心を持つこと。		
オフィスタイム	木曜日5コマ（16：10～17：05）、金曜日5コマ（16：10～17：05）☒ 食生活・栄養研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	わが国の公衆栄養活動	公衆栄養活動の役割、公衆行政の組織と人材育成について理解する。	終了後、授業内容を復習する。	30
2	公衆栄養関連法規	公衆栄養関係法規と制定の経緯・意義について学び、わが国の健康づくり対策を理解する。☒ ・地域保健法☒ ・保健所、市町村保健センターの役割	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
3	公衆栄養関連法規	公衆栄養関係法規と制定の経緯・意義について学び、わが国の健康づくり対策を理解する。☒ ☒･ 健康増進法	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
4	公衆栄養関連法規	公衆栄養関係法規と制定の経緯・意義について学び、わが国の健康づくり対策を理解する。☒ ・ 食育基本法	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
5	公衆栄養関連法規	公衆栄養関係法規と制定の経緯・意義について学び、わが国の健康づくり対策を理解する。☒ ・母子保健法　・高齢者の医療の確保に関する法律 ・介護保険法　・食品表示法	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
6	わが国の管理栄養士・栄養士制度	管理栄養士制度・栄養士制度の沿革や管理栄養士養成制度の変遷について理解する。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
7	健康づくり施策の経緯と意義	第1次国民健康づくり対策、第２次国民健康づくり対策（アクティブ80ヘルスプラン）について解説する。 小テストを行う。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
8	健康増進基本方針と地方計画	健康づくり施策の歴史的変換を踏まえ、現行の施策の目的、対象、概要について解説する。健康日本（第一次）、健康フロンティア戦略等について理解する。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
9	健康日本２１（第二次）	健康日本２１（第二次）の目的、対策の概要について解説する。　☒	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	国民健康・栄養調査	わが国の健康づくり施策の基礎資料の一つである国民健康・栄養調査について、意義、目的、内容、方法について解説する。 小テストを行う。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
11	国民健康・栄養調査	国民健康・栄養調査の結果に基づいて施策立案や評価の活用について解説する。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
12	実施に関連する指針、ツール	食生活指針や食事バランスガイド、運動指針の内容について解説する。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
13	諸外国の健康栄養政策	国際的な健康・栄養問題と開発途上国に対する国連の施策、先進国の政策について理解する。 小テストを行う。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
14	食事摂取基準	食事調査と食事摂取基準について解説し、評価方法を学ぶ。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
15	まとめ	授業の復習とまとめを行う。 小テストを行う。	終了後、テストに向けて各単元の理解を教科書等を用いて復習する。	30

令和3年度

科目名	公衆栄養学実習	**対象**	
担当教員	星　千歳,根本　絢香	**単位数**	家政学部 食物栄養学科 3年 1単位 必修
開講期	前期	**必選**	
授業概要	公衆栄養マネジメントの考え方・方法について解説し、地域特性に対応した公衆栄養プログラムの展開について学び、公衆栄養活動で求められる知識や技術を実習する。また、保健所に勤務した経験をもとに実際の現場での活動内容や課題について講義する。☒ 実務経歴：福島県の職員（管理栄養士）として保健所と病院に勤務☒ 【課題に対するフィードバック】最終授業でフィードバックを行う。☒ 【位置付け・水準】FN2378		
達成目標	国民の健康を増進するための栄養施策をもとに公衆栄養活動の健康事業を展開できる。☒ 【単位認定の最低基準】授業内容の6割を理解していること。☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】研鑽、社会貢献、意識と責任感		
受講資格	家政学部　食物栄養学科　3年	**成績評価方法**	①小テスト　50点☒ ②課題　20店 ③プレゼンテーション　30点
教科書	公衆栄養学実習～事例から学ぶ公衆栄養プログラムの展開～　同文書院　手嶋哲子、田中久子		
参考書	サクセス管理栄養士・栄養士養成講座　公衆栄養学　2020年版　第一出版　井上浩一、草間かおる、村山伸子		
学生への要望	・常に受け身の姿勢ではなく、主体的・積極的な姿勢で授業に臨むこと。 ・毎回、教科書・参考書・PCは持参すること。☒ ・グループワークに積極的に参加すること。　☒ ・食、栄養、公衆栄養の分野に関わる新聞記事を読み、収集すること。		
オフィスタイム	木曜日5コマ（16：10～17：05）、金曜日5コマ（16：10～17：05）　☒ 食生活・栄養研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	公衆栄養学実習の目的 （担当：星、根本）	・公衆栄養学実習の目指すところを説明する。☒ ・公衆栄養学実習の意義について示し、本授業の解説と評価方法について説明する。☒ ・グループ編成	終了後、授業内容を復習する。	30
2	地域における公衆栄養プログラム （担当：星、根本）	・公衆栄養活動(PDCAサイクルに基づいた展開）について解説する。☒	終了後、授業内容を復習する。	30
3	公衆栄養アセスメント （担当：星、根本）	・地域診断のための情報源と情報収集について解説する。 ・地域診断アセスメントを行う。	地域診断アセスメントをまとめる。	30
4	公衆栄養アセスメント （担当：星、根本）	・地域診断のための情報源と情報収集について解説する。 ・地域診断アセスメントを行う。	地域診断アセスメントをまとめる。	30
5	公衆栄養プログラムの計画策定 （担当：星、根本）	・公衆栄養プログラムの計画立案について解説する。 ・地域診断アセスメントから目標設定し、事業計画ワークシートを作成する。	事業計画ワークシートを作成する。	30
6	公衆栄養プログラムの計画策定 （担当：星、根本）	・公衆栄養プログラムの計画立案について解説する。 ・地域診断アセスメントから目標設定し、事業計画ワークシートを作成する。	事業計画ワークシートを作成する。	30
7	公衆栄養の現状と問題点① （担当：星、根本）	・各ライフステージ（妊娠授乳期・幼児期・学童期・思春期・成人期・高齢期）の「食と健康に関わる問題点」について理解し、改善点を考える。 ・小テストを行う。　☒ ☒	予習として応用栄養学の教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
8	公衆栄養の現状と問題点① （担当：星、根本）	・各ライフステージ（妊娠授乳期・幼児期・学童期・思春期・成人期・高齢期）の「食と健康に関わる問題点」について理解し、改善点を考える。　☒ ☒	予習として応用栄養学の教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
9	公衆栄養プログラムの展開 （担当：星、根本）	・ライフステージ別の地域住民の方を対象とした事業計画を作成する。	事業計画を作成する。	30
10	公衆栄養プログラムの展開 （担当：星、根本）	・事業計画をもとにグループで話し合い、題材を一つ選びパンフレットを作成する。☒	パンフレットを作成する。	30
11	公衆栄養プログラムの展開 （担当：星、根本）	・グループでパンフレットを作成する。 ・パンフレットを完成させる。	パンフレットを作成する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	公衆栄養プログラムの展開 （担当：星、根本）	・グループでパンフレットを作成する。 ・パンフレットを完成させる。	パンフレットを作成する。	30
13	公衆栄養プログラムの展開 （担当：星、根本）	・グループでパンフレットと同じ題材をもとにポスターを作成する。	ポスターを作成する。	30
14	公衆栄養プログラムの展開 （担当：星、根本）	・グループでパンフレットと同じ題材をもとにポスターを作成する。	ポスターを作成する。	30
15	公衆栄養プログラムの展開 （担当：星、根本）	・プレゼンテーションについて説明する。 ・グループでポスターを完成させる。 ・発表の準備とレジメの作成をする。	レジメの作成をする。	30
16	公衆栄養プログラムの展開 （担当：星、根本）	・プレゼンテーションについて説明する。 ・グループでポスターを完成させる。 ・発表の準備とレジメの作成をする。	レジメの作成をする。	30
17	発表会 （担当：星、根本）	・地域住民の方々を対象とした媒体作成の発表会(ポスター、パンフレット)☒ ・各グループのテーマ、内容(見易さ･わかりやすさ)、発表時間などを総合し、各グループの感想をまとめる。	発表会の準備をする。	30
18	発表会 （担当：星、根本）	・地域住民の方々を対象とした媒体作成の発表会(ポスター、パンフレット)☒ ・各グループのテーマ、内容(見易さ･わかりやすさ)、発表時間などを総合し、各グループの感想をまとめる。	発表会の準備をする。	30
19	国の栄養施策 （担当：星、根本）	・「健康日本21」の概要、項目、数値について解説する。☒ ・健康日本21報告からわかることをまとめる。☒ ・出身地の都道府県の「健康日本21計画」について調べる。☒	終了後、授業内容を復習する。	30
20	国の栄養施策 （担当：星、根本）	・「健康日本21」の概要、項目、数値について解説する。☒ ・健康日本21報告からわかることをまとめる。☒ ・出身地の都道府県の「健康日本21計画」について調べる。☒	終了後、授業内容を復習する。	30
21	国民健康・栄養調査 （担当：星、根本）	・国民健康･栄養調査の概要、要点について解説する。☒ ・国民健康･栄養調査結果から問題点を把握し改善点について考える。☒	終了後、授業内容を復習する。	30
22	国民健康・栄養調査 （担当：星、根本）	・国民健康･栄養調査の概要、要点について解説する。☒ ・国民健康･栄養調査結果から問題点を把握し改善点について考える。☒	終了後、授業内容を復習する。	30
23	公衆栄養の現状と問題点② （担当：星、根本）	・生活習慣病ハイリスク集団の「食と健康に関わる問題点」について理解し、改善点を考える。☒ ・特定健康診査、特定保健指導について解説する ・実践演習を行う。☒ ・小テストを行う。	終了後、授業内容を復習する。	30
24	公衆栄養の現状と問題点② （担当：星、根本）	・生活習慣病ハイリスク集団の「食と健康に関わる問題点」について理解し、改善点を考える。☒ ・特定健康診査、特定保健指導について解説する ・実践演習を行う。☒	終了後、授業内容を復習する。	30
25	栄養・食生活支援と食を通した社会環境の整備（食環境） （担当：星、根本）	・施策と食環境整備、食を通じた社会環境の整備の促進について解説する。☒ ・食環境整備に関する取り組みを調べる。 ・小テストを行う。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
26	栄養・食生活支援と食を通した社会環境の整備（食環境） （担当：星、根本）	・施策と食環境整備、食を通じた社会環境の整備の促進について解説する。☒ ・食環境整備に関する取り組みを調べる。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
27	栄養・食生活支援と食を通した社会環境の整備（健康危機管理） （担当：星、根本）	・災害時における栄養・食生活と管理栄養士の活動について解説する。☒ ・災害時における食生活支援について考える。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
28	栄養・食生活支援と食を通した社会環境の整備（健康危機管理） （担当：星、根本）	・災害時における栄養・食生活と管理栄養士の活動について解説する。☒ ・災害時における食生活支援について考える。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
29	まとめ （担当：星、根本）	・.☒衆栄養学実習のまとめを行う。 ・.保健所・保健センター実習について説明する・ ・小テストを行う。 ☒	終了後、授業内容を復習する。	30
30	まとめ （担当：星、根本）	・.☒衆栄養学実習のまとめを行う。 ・.保健所・保健センター実習について説明する。 ☒	終了後、授業内容を復習する。	30

令和3年度

科目名	日本国憲法	**対象**	
担当教員	鈴木　康元	**単位数**	短期大学部 幼児教育学科　1年 2単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択
開講期	I	**必選**	
授業概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。☒ 履修カルテ評価項目☒ ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。☒ ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。☒ ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 ☒ 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。☒		
達成目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。☒ 履修カルテ評価項目☒ ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。☒ ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。☒ ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 ☒ ☒		
受講資格	幼児教育学科１年生	**成績評価方法**	ペーパー試験(80%)と出席状況(20%)
教科書	憲法【第二版】☒ 弘文堂		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。		
オフィスタイム	授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室 ☒		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特色、日本国憲法の歴史☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下の平等の意義☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	基本的人権⑦	経済的自由権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	基本的人権⑧	財産権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	基本的人権⑨	その他の人権について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	統治機構①	国会☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	統治機構②	内閣☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	統治機構③	裁判所☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	健康スポーツ論	**対象 単位数 必選**	短期大学部 幼児教育学科　1年 1単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択
担当教員	佐藤　浩明		
開講期	Ⅱ		
授業概要	GC1114☒ 健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、スポーツの意義、特性を理解し、生涯にわたって自ら健康について考え行動できる力を習得する。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミニュケーションや協調性を指導します。 ☒ ①運動と健康の関連を理解し、エクササイズの方法や身体についての基礎知識を学びます。☒ ②スポーツの意義を理解し、自分の健康や行動のありかたについて学びます。☒ ③レポート、等は口頭またはコメントで書き返却します。		
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得する と共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力☒ （人間性）を身に付ける。また健康で豊かな生活を営むことができる人間の育成を教育の目的とする。☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】☒ ・他との協調　・人間形成☒ レポート、実技テスト等を受けることを最低基準とする。		
受講資格	幼児教育学科　１年生☒ ☒ ※教職課程履修者は必修	**成績評価 方法**	レポート60点　平常点　40点（取組姿勢・提出物）
教科書	特になし（必要に応じて資料、課題を配布します）		
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」		
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。		
オフィスタイム	火・水・木の9:00～16:00まで創学館NO4研究室☒ （佐藤）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状やオリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツが持つ魅力について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
2	生活と健康について①	《健康とは何か》☒ ☒ 健康について考える導入として「健康の定義」をWHO（世界保健機関）の憲章をふまえ様々な角度から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
3	生活と健康について②	《生活習慣病の原因・対策・予防と運動》☒ ☒ ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し運動との関係について学びます。☒ ②運動・休養と健康の関係について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
4	生活と健康について③	《大学生の健康》☒ ☒ 大学生の生活に潜む健康を害する危険について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
5	生活とスポーツについて①	《スポーツとは何か》☒ ☒ スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
6	生活とスポーツについて②	《生涯スポーツについて》☒ ☒ 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う　②観る　③支える　④調べるの視点から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
7	生活とスポーツについて③	《大学生とスポーツ》☒ ☒ 大学生になり、高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康について興味を持ち、運動やスポーツについてどう関わることができるかについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	スポーツから学ぶ①	《フェアプレーについて》☒ ☒ スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常の生活や普段の行動にも通じるものがあります。ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

令和3年度

科目名	スポーツ実技	**対象**	
担当教員	佐藤　浩明	**単位数**	短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択
開講期	Ⅰ	**必選**	
授業概要	GC1115☒ 生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性や楽しさを理解し、生涯にわたって自分の健康や体力について配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技を通して学びます。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミニュケーションや協調性を指導します。 ☒ ①運動の重要性を理解し、健康との関連について学びます。☒ ②運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。☒ ③運動を通して基礎体力の維持、向上する方法について学びます。☒ ④レポートは口頭またはコメントを書き返却をます。		
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得する と共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力（人間性）を身に付ける。また健康で豊かな生活を営むことができる人間の育成を教育の目的とする。☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】☒ ・他との協調　・人間形成☒ レポート、実技テスト等を受けることを最低基準とする。		
受講資格	健康栄養学科　1年生	**成績評価方法**	取組姿勢40点　実技試験60点☒ ※本科目は実技科目のため出席、積極的な取組みを重視します）
教科書	特になし（必要に応じて資料等配布します）		
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：㈶日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメゾット：高橋書店」		
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。☒ 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）		
オフィスタイム	火、水、木の9:00～16:00まで　創学館NO4研究室 佐藤		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明　②服装、準備物の確認（注意事項含む）　③グループ分け	運動着、水分を準備してくる事	30
2	縄跳び①／からだづくりの運動	【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）☒ ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	縄跳び②／からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コーディネーショントレーニング　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）☒ ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
4	縄跳び③／からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②コーディネーショントレーニング　③レクリエーションゲーム　④からだづくりの運動　⑤縄跳び（個人およびグループ）　⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）☒ ⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
5	フライングディスク④／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
6	フライングディスク④／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	フライングディスク④／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
8	フライングディスク④／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
9	フライングディスク④／からだづくりの運動	【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】☒ ☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④フライングディスク（グループ対抗戦）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
10	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
12	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
13	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30
14	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】☒ ☒ 【到達目標】☒ ＊スポーツ種目に必要な技術を習得する☒ ＊コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る☒ ☒ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）　②からだづくりの運動　③レクリエーションゲーム　④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム）　⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）⑦体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	実技のまとめ	≪まとめとして実技試験を行う≫ ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ）②レクリエーションゲーム　③実技試験　④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア）　⑤体育館清掃	ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する	30

令和3年度

科目名	キャリアデザインⅡ	**対象**	
担当教員	森　みい	**単位数**	短期大学部 幼児教育学科　1年 1単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択
開講期	Ⅰ	**必選**	
授業概要	【授業のねらい】☒ 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。インターンシップ終了後に、課題・レポート提出及び、インターンシップ報告会を行い、課題についてフィードバックを行います。 ☒ ☒ 【授業の概要】☒ インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（3日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。☒当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し就職指導にあたっております。企業と学生の状況を把握しながら、就職支援には長く携わり、希望に添った将来のキャリアを築く支援をしています。 ☒ ☒		
達成目標	【授業終了時の達成目標】☒ インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることをことを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、責任の重さや成し遂げる充実感や社会への貢献を感じ取る事を目的とします。論理的思考力を身につけ、いつも明るく笑顔で目標を高く持ち、努力を惜しまない人物を育成します。		
受講資格	特になし	**成績評価方法**	就業体験60％・報告会20％・提出物20％☒認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30　水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	インターンシップの概要☒ 4/8(Ｖコマ) ☒	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップに必要な書類についての確認する 。☒	就業体験先の希望調査があるので、企業・業界研究をしておく。 インターンシップの目標を設定する。	30
2	インターンシップの心構え☒ 5/13(Ｖコマ)	昨年のインターンシップを参考に自分は何を学びたいのか明確な目標を設定していく。	インターンシップを通して、企業や業界の働きについて考える。	30
3	インターンシップの心構え☒ 5/27(Ｖコマ)	働く人の話を聞き、仕事の内容、組織での関りを学び、インターンシップの考えを深化させていく。	インターンシップは具体的にどのように考えていくか、社会人の話を聞き、企業研究をする。	30
4	企業研究 (講演)☒ 6/3 (Ｖコマ) ☒ ☒ ☒	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。また、人生をどのように生きていくか、自分の将来のキャリアプランを考える。	企業の働きから、社会の動向を学び、働く事への理解を深める。	30
5	事前指導☒ (ビジネス文書作成)☒ 6/17Ｖコマ) ☒	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。☒	手紙の書き方、ビジネスでのメール送信、電話の掛け方等、一般的なナマーを確認しておく。	30
6	事前指導☒ （マナー講座)☒ 7/1（Ｖコマ）☒	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。☒業体験先との打合せを始める。	挨拶・言葉遣いを実践で学んでいくので、印象のいいマナーを日常から意識をして練習する。	30
7	直前指導☒ (インターンシップ先の企業研究)7/15（Ｖコマ） ☒ ☒	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	インターンシップ先にアポイントを取り担当者と打合せをする。電話の掛け方、インターンシップに向けてマナーの練習をする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	インターンシップ 実施 1班8/18～8/20 2班8/25～8/27 ☒	各企業において、夏季休業中（8月中旬～下旬)に3日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	企業研究及び交通手段の確認をする。インターンシップ先の企業研究を行い、最終確認をする。	30
9	インターンシップ報告会☒ 9/3　（Ⅰコマ）　☒	事後報告会として、クループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会の準備と提出物の最終確認をする。	30
10	インターンシップ報告会 ☒ 9/③（Ⅱコマ）　☒ ☒	事後報告会として、代表者の報告を企業の方も参加して実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会で発表し、報告者の発表から課題を考えていく。	30

令和3年度

科目名	病理学	**対象**	
担当教員	大西　弘太郎	**単位数**	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 必修
開講期	III	**必選**	

授業概要	[講義のねらい]☒ 疾患の原因と病態について理解をする。疾患の本質についての科学的根拠を蓄積し、今後の医療に活かす。☒ ☒ [講義全体の内容の概要]☒ 病理学の総論では、病因、退行性・進行性病変、代謝異常、免疫異常、感染、老化、放射線障害、腫瘍、先天性異常などを学ぶ。各論では、各系統や器官の主要な疾患の病態を学ぶ。☒ ☒ 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。☒ 実務経験：医師として医療機関に勤務している。☒ ☒ 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。☒ ☒ 位置づけ・水準 HN2314
達成目標	単位認定の最低基準：主要な疾患、特に食事や栄養に関連する病態を概説できること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：食と健康の理解、問題対処能力。

受講資格	健康栄養学科 2年	**成績評価方法**	小テスト　(20%)☒ 筆記試験　(80%)
教科書	シンプル病理学・第8版(笹野公伸、岡田保典、安井弥：南江堂)		
参考書	NEWエッセンシャル病理学・第6版(笹野公伸・澤井高志・長村義之：医歯薬出版株式会社)		
学生への要望	病気の原因と病態について日常的に興味を持つようにすること。☒ 学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。		
オフィスタイム	臨床医学研究室☒ 火曜日　13:00～17:00。☒ 木曜日　15:00～17:00。☒ 金曜日　08:30～17:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	疾患、病因	病因とは病気の原因や成立ちをいい、外因と内因とがある。外因には生物・物理・化学的因子、栄養学的因子など、内因には代謝・遺伝子・免疫の異常、年齢などがある。	疾患、病因などについて予習・復習をしましょう。	120
2	細胞障害と細胞増殖	細胞の正常な形態や機能、増殖、細胞死を基本知識として、細胞障害による変性、遺伝子障害による疾病の成因と遺伝子修復について学ぶ。	細胞障害、細胞死、細胞増殖などについて予習・復習をしましょう。	120
3	組織、細胞の修復と再生	組織と細胞の再生とその機序を学び、再生の過剰、化生、治癒の様式、異物処理、器質化などを理解する。	再生、化生、過形成、肥大などについて予習・復習をしましょう。	120
4	循環障害	局所循環障害のうっ血、虚血、血栓、出血、梗塞などを学び、心不全、ショック、浮腫などの全身性循環障害の病態生理を理解する。	循環障害について予習・復習をしましょう。	120
5	炎症	炎症の定義と徴候を学び、その原因や炎症細胞、組織変化、組織修復機構を理解する。	炎症について予習・復習をしましょう。	120
6	感染症	病気の原因となる病原体の種類を学び、代表的な感染症の特徴を知る。病原体の感染形態に対する生体防御反応を学び、感染防御対策を考える。	感染症について予習・復習をしましょう。	120
7	免疫機構の異常	生体防御機構の主役である免疫機構を学び、その異常である免疫疾患を理解する。	主な免疫不全、アレルギー、膠原病などについて予習・復習をしましょう。	120
8	腫瘍	腫瘍の概念と病理形態学的特徴を学び、腫瘍の発生と進展、良性と悪性の鑑別、病理診断、疫学などを学ぶ。	腫瘍について予習・復習をしましょう。	120
9	遺伝と先天異常	染色体・遺伝子の構造を学び、その異常による発症の原理を理解する。代表的な染色体異常症や遺伝性疾患について学ぶ。	主な染色体異常、遺伝性疾患などについて予習・復習をしましょう。	120
10	代謝異常	代謝異常が主たる病因ではその病態変化を学ぶ。主要な代謝異常症について説明できるようにする。	主な代謝異常について予習・復習をしましょう。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	老化	生命の終末に向けて老化が進む。この老化の特徴とメカニズムを学び、細胞・組織・器官の変化を理解する。	老化について予習・復習をしましょう。	120
12	循環器・造血系・運動器の病理	心臓、血管、骨、筋、骨髄、関節などの主要な病気の病態を学ぶ。	循環器、造血系、運動器などの主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
13	消化器の病理	口腔、消化管、唾液腺、肝臓、胆道系、膵臓などの主要な病気の病態を学ぶ。	消化器の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
14	呼吸器・泌尿器・生殖器の病理	気道や肺、腎臓や膀胱、性腺や子宮などの主要な病気の病態を学ぶ。	呼吸器、泌尿器、生殖器の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
15	神経系・内分泌系・感覚器の病理	脳、脊髄、神経、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、眼、皮膚等の主要な病気の病態を学ぶ。	神経系、内分泌、感覚器などの主要な疾患について予習・復習をしましょう。	120

令和3年度

科目名	食品学Ⅰ	**対象**	
担当教員	澤渡　優喜	**単位数**	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 必修
開講期	Ⅱ	**必選**	

授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ 栄養士又はフードスペシャリストとして、食品成分、食品の物性、官能評価、健康食品の制度・表示及び食品成分表を理解してもらうことを本授業の目的としています。☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ 食品学Ⅰでは食品関連科目の基礎となる内容を学んでいきます。まず、食品の概要について学んだ後に、食品の水分、炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、無機質および核酸について学んでいきます。また、食品の味、香り、色成分および食品成分間の相互作用について、さらに、食品の物性、官能評価、健康食品の制度・表示および食品成分表について学んでいきます。☒ 〔実務経験に関連する内容〕☒ 食品企業で乳酸菌を利用した商品の研究開発を行っていました。食品企業での経験をもとに、食品成分などについて講義をします。☒ 〔課題に対するフィードバックの方法〕☒ 授業の項目ごとに確認問題を配布します。確認問題を実施後、模範解答を配布しますので、自己採点後に提出してもらいます。実施状況の確認、評価後に確認問題は返却します。必要に応じてコメントでフィードバクします。☒ ☒ 位置づけ・水準　HN2221
達成目標	〔達成目標（授業終了時の達成課題）〕　☒ 食品成分、食品の物性、官能評価、健康食品の制度・表示及び食品成分表について理解をしているだけではなく、他者に説明でき、さらには課題解決に応用できる状態になっていることを本授業の達成目標とします。☒ 〔単位認定の最低基準〕☒ 授業内容の7割程度を理解していること。☒ 〔ディプロマ・ポリシーとの関係〕☒ 食と健康の理解、専門性で社会貢献

受講資格	特になし。	**成績評価方法**	確認問題；40点、期末試験；60点とし、60点以上の得点で単位を認定します。
教科書	＜はじめて学ぶ＞健康・栄養系教科書シリーズ③　食べ物と健康Ⅰ 第2版　食品成分を理解するための基礎（本体2,000円＋税）		
参考書	なし		
学生への要望	身近な食品についての授業です。興味をもって受講して下さい。また、食事を摂るときやスーパーマーケットなどに行ったときには、ぜひ、食品学Ⅰの内容を思い出して下さい。普段何気なく見ている食品の見え方が変わります。		
オフィスタイム	火曜日　16:10～17:05　食品衛生学研究室 ☒ 木曜日　16:10～17:05　食品衛生学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	人と食べ物	食品とは何かを理解した後に、食に関する歴史、食品の成分、食に関する問題および食品の分類について学んでいきます。 〔学修目標〕 ・食品を原料、生産様式、主要栄養素に基づいて分類できる。	p1～14をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
2	食品成分を理解するための化学	次回以降の授業で学ぶ食品の成分や化学的な食品の性質を理解するために、必要不可欠な化学について学んでいきます。	p17～25をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
3	食品成分①　水分	食品中の水分は食品の保存性、調理加工および食味などに関与しています。この水の特性を学んだ後に、水分活性や低温保存について学んでいきます。 〔学修目標〕 ・食品中の水の状態（結合水、自由水）と貯蔵性との関連を説明できる。	p27～33をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
4	食品成分②　炭水化物（1）	炭水化物の役割として、エネルギー源、味の成分、物性・保水性への影響および生理作用についてを学んでいきます。また、炭水化物の種類として単糖、誘導糖およびオリゴ糖について学んでいきます。 〔学修目標〕 ・食品中の炭水化物（単糖、オリゴ糖）の種類、性質、所在について説明できる。	p33～41をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	食品成分②　炭水化物（２）	炭水化物の種類として多糖について学んでいきます。また、食物繊維やその他の炭水化物、デンプンの食品化学的特徴および炭水化物の栄養機能について学んでいきます。 〔学修目標〕 ・食品中の炭水化物（多糖、食物繊維）の種類、性質、所在について説明できる。	p41～50をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
6	食品成分③　脂質	脂質の構成成分である脂肪酸について学んだ後に、脂質の種類として単純脂質、複合脂質およびステロールについて学んでいきます。また、油脂の性質の指標、油脂の酸化および油脂の栄養機能について学んでいきます。 〔学修目標〕 ・食品中の脂質の種類、性質、所在を説明できる。	p50～64をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
7	食品成分④　タンパク質	タンパク質の構成成分であるアミノ酸について学んだ後に、タンパク質の構造、分類、変性などの変化、栄養機能および酵素について学んでいきます。 〔学修目標〕 ・食品中のアミノ酸、ペプチド、タンパク質の種類、性質、所在を説明できる。	p64～74をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
8	食品成分⑤　ビタミン、無機質、核酸	ビタミンについては種類、機能および安定性を、無機質については種類および機能を、核酸については構造、うま味との関係および魚類の鮮度判定について学んでいきます。 〔学修目標〕 ・食品中のミネラル（無機質）、ビタミンの種類、性質、所在について説明できる。	p75～89をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
9	食品の味と香り成分	食品のおいしさに関係する味と香りの成分について学んでいきます。 〔学修目標〕 ・食品中の味、香りに関する成分の種類、性質ついて説明できる。	p93～102をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
10	食品の色成分	食品のおいしさに関係する色の成分について学んでいきます。 〔学修目標〕 ・食品中の色に関する成分の種類、性質ついて説明できる。	p102～109をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
11	食品成分間の相互作用	食品成分間の相互作用として、炭水化物と脂質の相互作用、脂質とタンパク質の相互作用、褐変および酵素による成分変化について学んでいきます。	p111～118をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
12	食品の物性とおいしさ	食品の物性に関連する項目としてコロイドの科学、レオロジーおよびテクスチャーについて学んでいきます。	p119～129をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
13	食品の官能評価	食品のおいしさを評価する方法である官能評価について学んでいきます。	p131～138をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
14	食品の機能性と健康食品	食品の三つの機能を学んでいきます。また、健康食品に関係する制度や表示について学んでいきます。 〔学修目標〕 ・食品の一次、二次および三次機能の概念について説明できる。 ・特別用途食品について説明できる。 ・保健機能食品（特定保健用食品、機能性表示食品、栄養機能食品）について説明できる。 ・いわゆる健康食品について概説できる。	p139～149をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	食品成分表	食品成分表の使用目的、数値・表記の意味および成分値の算出方法について学んでいきます。 〔学修目標〕 ・食品成分表の気品的な構成について説明できる。 ・収載成分の分析法について説明できる。 ・食品成分表の利用における留意点を説明できる。 ☒	p153～163をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60

令和3年度

科目名	食品学Ⅱ	**対象**	
担当教員	澤渡　優喜	**単位数**	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 必修
開講期	Ⅲ	**必選**	

授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ 調理や食品加工をするためには食品の特性を知る必要があります。本講義では食品の特性やその加工品について解説します。☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ 植物性食品および動物性食品についてそれらの特性や代表的な加工品について解説します。更に、食品の保存方法と規格基準についても解説します。☒ 〔実務経験に関する内容〕☒ 食品企業で乳酸菌を利用した商品の研究開発を行っていました。特に食品の加工については、食品企業での経験をもとに講義します。☒ 〔課題に対するフィードバックの方法〕☒ 授業の項目ごとに確認問題を配布します。確認問題を実施後、模範解答を配布しますので、自己採点後に提出してもらいます。実施状況の確認、評価後に確認問題は返却します。必要に応じてコメントでフィードバックします。☒ ☒ 位置づけ・水準　HN2322
達成目標	〔達成目標（授業終了時の達成課題）〕☒ 代表的な食品の特性や加工食品の加工方法について専門的な知識が身についており、調理に応用したり他者に説明をしたりできるようになっていることを本授業の達成目標とします。☒ 〔単位認定の最低基準〕☒ 授業内容の7割程度を理解していること。☒ 〔ディプロマ・ポリシーとの関係〕☒ 食と健康の理解、専門性で社会貢献

受講資格	短期大学部 健康栄養学科 2年	**成績評価方法**	確認問題40点、定期試験60点とし、計60点以上で単位を認定します。
教科書	＜初めて学ぶ＞健康・栄養系教科書シリーズ④　食べ物と健康Ⅱ　第２版　知っておきたい食品素材と加工の基礎（㈱化学同人）（本体2,100円＋税）		
参考書	なし。		
学生への要望	食品学Ⅰで学修した食品成分名を復習しておいて下さい。食品学Ⅱでも食品成分名は頻繁に出てきます。食品学Ⅱでは私たちが普段食べている食品の勉強をします。この食品はどのように製造されているのかなど、食品に興味を持って受講をして下さい。		
オフィスタイム	火曜日　16:10～17:05　食品衛生学研究室 ☒ 水曜日　16:10～17:05　食品衛生学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	穀類とその加工品	米、小麦、大麦、トウモロコシ、ソバおよびその他の穀類について解説します。穀類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・穀類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・穀類の加工に伴う食品成分の物性および化学的、栄養学的変化を説明できる。	p1～14をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
2	イモ類および種実類とそれらの加工品	ジャガイモ、サツマイモ、サトイモ、ヤマイモおよびその他のイモ類、クリ、ギンナン、アーモンド、落花生、ゴマおよびその他の種実類について解説します。イモ類と種実類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・イモ類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・イモ類の加工に伴う食品成分の物性および化学的変化を説明できる。 ・種実類の特徴と主要な加工品を説明できる。	p15～23をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
3	豆類とその加工品	大豆、小豆、インゲンマメ、エンドウおよびその他の豆類について解説します。豆類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・豆類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・豆類の加工に伴う食品成分の物性および化学的、栄養学的変化を説明できる。	p24～34をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	野菜類とその加工品	葉菜類、茎菜類、根菜類、果菜類、花菜類、未熟豆および山菜類について解説します。野菜類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・野菜類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・野菜類の加工に伴う食品成分の物性および化学的、栄養学的変化を説明できる。	p35～48をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
5	果実類とその加工品	仁果類、核果類、準仁果類、しょう果類、堅果類およびその他の果実類について解説します。果実類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・果実類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・果実類の加工に伴う食品成分の物性および化学的変化を説明できる。	p49～57をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
6	キノコ類とその加工品	シイタケ、エノキタケ、シメジ、マッシュルーム、ナメコ、マイタケ、エリンギ、マツタケ、キクラゲ、トリュフおよびその他のキノコ類について解説します。キノコ類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・キノコ類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・キノコ類の加工に伴う食品成分の栄養学的変化を説明できる。	p58～61をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
7	藻類とその加工品	緑藻類、褐藻類および紅藻類ついて解説します。藻類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・藻類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・藻類の加工に伴う食品成分の物性変化を説明できる。	p62～65をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
8	魚介類とその加工品	魚類、甲殻類および軟体動物、魚介類の成分、筋肉構造、死後硬直、鮮度判定および魚介類の加工品について解説します。魚介類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・魚類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・魚類の加工に伴う食品成分の物性および化学的変化を説明できる。	p66～86をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
9	肉類とその加工品	食肉の種類、成分、筋肉構造、死後硬直および加工品について解説します。食肉の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・肉類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・肉類の加工に伴う食品成分の物性および化学的変化を説明できる。	p87～98をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
10	卵類とその加工品	卵の種類、構造、成分および加工品について解説します。卵類の種類、特性および加工品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・卵類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・卵類の加工に伴う食品成分の物性および化学的変化を説明できる。	p99～109をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	乳類とその加工品	乳の成分および加工品について解説します。乳の特性および乳製品について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・乳類の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・乳類の加工に伴う食品成分の物性および化学的変化を説明できる。	p110～121をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
12	食用油脂、調味料	植物油脂、動物油脂、食用加工油脂、食塩、甘味料、発酵調味料、うま味調味料および風味調味料について解説します。食用油脂と調味料の種類、特性および加工方法について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・食用油脂の特徴と主要な加工品およびその加工原理を説明できる。 ・食用油脂の加工に伴う食品成分の物性および化学的変化を説明できる。 ・主要な調味料の特徴と加工原理を説明できる。	p123～138をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
13	香辛料、嗜好品	香辛料および嗜好品について解説します。香辛料と嗜好品の種類および特徴について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・主要な香辛料の特徴を説明できる。 ・主要なし好品の特徴と加工原理を説明できる。 ・主要なし好品の加工に伴う食品成分の化学的変化を説明できる。	p138～150をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
14	食品の保存	食品の保存性に関わる、水分活性、pH、温度および殺菌について解説します。食品の保存性を高める方法について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・食品の劣化原因とその防止方法について説明できる。	p151～153をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
15	食品の規格	食品の規格・表示、保健機能食品、特定用途食品および機能性表示食品について解説します。食品の規格・表示について理解をして下さい。 〔学修の目標〕 ・特別用途食品について説明できる。 ・保健機能食品（特定保健用食品、機能性表示食品、栄養機能食品）について説明できる。	p153～168をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60

令和3年度

科目名	食品衛生学	**対象**	
担当教員	澤渡　優喜	**単位数**	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 必修
開講期	II	**必選**	

授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ 栄養士又はフードスペシャリストとして、安全な食品とはどのようなものか？どのように食の安全性が担保されているのかを理解してもらうことを本授業の目的としています。　☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ 食品衛生と法規、食品の変質、食中毒、経口感染症・寄生虫、食品中の汚染・有害物質、食品添加物、食品の衛生管理と食品の安全性問題および食品の容器包装について解説します。☒ 〔実務経験に関する内容〕☒ 食品企業で乳酸菌を利用した商品の研究開発を行っていました。食品企業での経験をもとに、安全な食品について講義をします。☒ 〔課題に対するフィードバックの方法〕☒ 授業の項目ごとに確認問題を配布します。確認問題を実施後、模範解答を配布しますので、自己採点後に提出してもらいます。実施状況の確認、評価後に確認問題は返却します。必要に応じてコメントでフィードバクします。☒ ☒ 位置づけ・水準　HN2223
達成目標	〔達成目標（授業終了時の達成課題）〕☒ 栄養士又はフードスペシャリストとして、普段食べいている食品の安全性がどのように担保されているのかを理解しており、また、自ら調理をする場合、食中毒を防ぐためにはどのような点に注意すべきかを理解していることを本授業の達成目標とします。☒ 〔単位認定の最低基準〕☒ 授業内容の7割程度を理解していること。☒ 〔ディプロマ・ポリシーとの関係〕☒ 食と健康の理解、専門性で社会貢献

受講資格	短期大学部 健康栄養学科 1年	**成績評価方法**	確認問題；40点、期末試験；60点とし、60点以上の得点で単位を認定します。
教科書	＜はじめて学ぶ＞健康・栄養系教科書シリーズ⑪　食品衛生学　食の安全性を理解するために（本体2,000円＋税）		
参考書	なし。		
学生への要望	食の安全は私たちにとってとても身近な事柄です。　ニュースなどで報道される食の安全に関する問題に興味を持ち、積極的に授業に参加して下さい。		
オフィスタイム	火曜日　16:10～17:05　食品衛生学研究室 木曜日　16:10～17:05　食品衛生学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	食品衛生と法規	食品衛生とは何か？について述べた後に食品衛生行政について概説します。食品衛生に関わる体制や法律などを理解して下さい。 〔学修目標〕 ・食品衛生、食品安全性確保に関する法規（食品安全基本法、食品衛生法、食品表示法など）と行政制度を概説できる。	p1～14をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
2	食品と微生物	私たちの肉眼では見えないほど小さな生物を微生物と呼びます。この微生物は私たちの周囲に存在し有用な微生物もいれば有害な微生物もいます。また、有用でも有害でもない微生物もいます。多くの場合、私たちが食べる食品にも微生物が存在します。本講義では食品に関係する微生物の特徴について解説します。☒微生物の特徴や微生物の増殖条件などを理解して下さい。☒	事前に配布するプリントを読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
3	食品の変質	食品の変質には微生物学的な変質（腐敗や酸敗など）と化学的な変質があります。本講義では食品の変質、鮮度判定および変質の防止方法について解説します。変質の種類、判定方法および防止方法を理解して下さい。 〔学修目標〕 ・食費の劣化原因とその防止方法について説明できる。	p17～28をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
4	食中毒の概要	食中毒の定義、分類および発生状況について解説します。食中毒の種類や発生状況の特徴を理解して下さい。 〔学修目標〕 ・食中毒の定義、発生状況について説明できる。	p29～38をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	微生物性食中毒①	サルモネラやノロウイルスなどの微生物が原因となる食中毒について、原因微生物の特徴、主な原因食品、症状および予防策などについて解説します。原因微生物の種類、原因食品、症状および予防策を理解して下さい。☒	p38～47をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
6	微生物性食中毒②	同上。☒ 〔学修目標〕 ・病原微生物による食中毒の原因や主な汚染源、症状、予防法について説明できる。	p47～58をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
7	化学性食中毒と自然毒食中毒	化学物質の混入や食品の変質で発生する化学物質が原因となる化学性食中毒およびフグ毒や毒キノコなどの自然毒食中毒について解説します。☒中毒の原因物質名や食中毒の発生原因を理解して下さい。 〔学修目標〕 ・自然毒および化学性の食中毒の原因や主な汚染源、症状、予防法について説明できる。	p58～71をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
8	食中毒の予防と消毒・殺菌・滅菌 経口感染症・人畜共通感染症	食中毒予防の基本的な考え方および微生物の消毒・殺菌・滅菌方法について解説します。食中毒予防法と消毒・殺菌・滅菌の実際の手段を理解して下さい。 主な経口感染症と人畜共通感染症について解説します。原因微生物の種類、感染源および症状を理解して下さい。 〔学修目標〕 ・食品による感染症（人畜共通感染症を含む）とその予防法について説明できる。	p71～74をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。 p77～80、p87～88をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
9	寄生虫症	食品の種類によっては、寄生虫に注意をしなくてはいけません。魚介類、畜肉類、野菜・果実類・水などから感染の恐れのある寄生虫について解説します。特に、寄生虫の種類と原因食品を理解して下さい。☒ 〔学修目標〕 ・食品による寄生虫症とその予防法について説明できる。	p80～87をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
10	食品中の汚染・有害物質	食品に関連する有害物質として、カビ毒、化学物質、内分泌攪乱物質、有害金属、放射性物質、加熱調理で生成する有害成分および食物アレルギーについて解説します。各有害物質の名前と特徴を理解して下さい。 〔学修目標〕 ・食物アレルギーの原因食品について説明できる。 ・食品汚染物質（カビ毒、有害元素、放射性物質、農薬など）について説明できる。	p91～105をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
11	食品添加物（1）（総論）	食品添加物の役割、安全性、使用基準および表示について解説します。食品添加物の使用基準の決定方法の理解は必須ですが、表示のルールも複雑なので正しく理解をするようにして下さい。☒ 〔学修目標〕 ・食品添加物の安全性について説明できる。	p107～111、p119～124をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
12	食品添加物（2）（各論）	食品添加物（1）に続き、各食品添加物の機能や特徴などについて解説します。食品添加物の使用目的を理解して下さい。☒ 〔学修目標〕 ・食品添加物の種類と用途について説明できる。	p111～118、p124～125をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	食品衛生管理	食中毒を発生させないためには、どのようなことに注意をして調理や食品加工をすべきか？本講義では、食品取扱施設や家庭などでの一般的な衛生管理の考え方について解説します。更に、HACCPについても解説します。食中毒を防止するための考え方を理解して下さい。☒ 〔学修目標〕 ・食品衛生管理（一般的衛生管理プログラム、HACCPなど）について説明できる。	p127～135をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
14	食品の安全性問題	遺伝子組換え食品、放射線と食品、農薬と食品およびリスク分析と食品の安全性に関する国際化について解説します。それぞれの安全性問題について理解して下さい。☒ 〔学修目標〕 ・食品のハザード（危害要因）とリスクについて説明できる。 ・食品衛生、食品の安全性確保に関するリスク分析（リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーション）の考え方を説明できる。	p137～154をよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60
15	その他	その他として、食品に使用する包装資材料の種類と用途、食品による窒息事故リスクについて説明します。 〔学修目標〕 ・食品による窒息とその予防について説明できる。	事前に配布するプリントをよく読んで授業に参加して下さい。授業終了後、確認問題を使って復習をして下さい。	60

令和3年度

科目名	食品学実験	**対象**	
担当教員	澤渡　優喜	**単位数**	短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択
開講期	II	**必選**	

授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ 本実験では代表的な食品成分の分析方法の習得を目指します。更に、食品加工の原理を実験を通して学びます。☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ 食品成分の分析、食品加工実験。　☒ 〔実務経験に関連する内容〕☒ 食品企業で乳酸菌を利用した商品の研究開発を行っていました。食品企業での経験をもとに実験方法を解説します。☒ 〔課題に対するフィードバックの方法〕☒ 提出されたレポートは、内容確認、評価およびコメント記入後に返却します。☒ ☒ 位置づけ・水準　HN2224
達成目標	〔達成目標（授業終了時の達成課題）〕☒ 食品成分の基本的な分析方法を習得し、また、食品加工の原理を理解することを本実験の達成目標とします。☒ 〔単位認定の最低基準〕☒ 授業内容の7割程度を理解していること。☒ 〔ディプロマ・ポリシーとの関係〕☒ 食と健康の理解、問題対処能力

受講資格	短期大学部　健康栄養学科　1年	**成績評価方法**	レポート；50点、期末試験；50点とし、計60点以上で単位を認定します。
教科書	資料を配布します。		
参考書	授業の中で紹介します。		
学生への要望	実験室内でのルールを厳守して下さい。ルールを守らないと、大きな事故が起きてしまう恐れがあります。特に、実験室での飲食は厳禁です。実験は目的が大事です。授業の最初に実験の目的を明確にしますので、良く説明を聞いて実験に取組んで下さい。☒		
オフィスタイム	澤渡　☒ 火曜日　16:10～17:05　食品衛生学研究室 ☒ 木曜日　16:10～17:05　食品衛生学研究室 ☒ 加藤 火曜日　16:10～17:05　調理学研究室 木曜日　16:10～17:05　調理学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス、安全教育　澤渡・加藤	○ガイダンス 食品学実験の予定と評価方法を説明します。 ○安全教育 安全に実験を行うための一般的なルールについて説明します。	シラバスをよく読んでおいて下さい。	30
2	実験器具　澤渡・加藤	○実験器具 適切に実験を進めるために実験器具の特徴、使い方および洗浄方法について説明します。	授業終了後、復習をして下さい。	30
3	実験の基本操作（１）　澤渡・加藤	[概要]試料の採取法、秤量、ろ過および洗浄などの食品学実験の基本操作を学びます。 [達成目標]基本的な実験操作ができる。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
4	実験の基本操作（２）　澤渡・加藤	実験の基本操作（１）と同じ。	レポートを作成して下さい。	60
5	水分定量（１）	[概要]食品の水分定量方法を学びます。 [達成目標]食品の水分を定量できる。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
6	水分定量（２）　澤渡・加藤	水分の定量（１）と同じ。	レポートを作成して下さい。	60
7	デンプン粒の観察（１）	[概要]様々な植物性食品に含まれるデンプン粒を顕微鏡で観察しその形状をスケッチします。 [達成目標]植物性食品の違いでデンプン粒の形状が異なることを理解できている。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
8	デンプン粒の観察（２）	デンプン粒の観察（２）と同じ。	レポートを作成して下さい。	60
9	中和滴定（１）　澤渡・加藤	[概要]中和滴定に使用する水酸化ナトリウム水溶液の力価をコハク酸水溶液を用いて決定します。 [達成目標]中和滴定の定量原理を理解し、滴定操作ができる。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
10	中和滴定（２）　澤渡・加藤	中和滴定（１）と同じ。	レポートを作成して下さい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	食品の酸度分析（1）　澤渡・加藤	[概要]水酸化ナトリウム水溶液を使用して各食品の酸度を分析します。 [達成目標]各食品の酸度の違いを理解する。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
12	食品の酸度分析（2）　澤渡・加藤	食品の酸度分析（1）と同じ。	レポートを作成して下さい。	60
13	タンパク質の定量（1）	[概要]ビウレット法で食品に含まれるタンパク質量を定量するため、タンパク質濃度が既知のサンプルを用いて検量線を作成します。 [達成目標]ビウレット法の分析で検量線を作成することができる。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
14	タンパク質の定量（2）　澤渡・加藤	タンパク質の定量（1）と同じ。	授業終了後、検量線を作成する意味を復習しておいて下さい。	60
15	タンパク質の定量（3）　澤渡・加藤	[概要]ビウレット法で食品に含まれるタンパク質の量を定量します。 [達成目標]ビウレット法で食品中のタンパク質を定量することができる。 [進め方]実験はグループで協力して進めます。実験結果をグループに聞きますので、グループでまとめておいて下さい。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
16	タンパク質の定量（4）　澤渡・加藤	タンパク質の定量（3）と同じ。	レポートを作成して下さい。	60
17	糖の分析（1）　澤渡・加藤	[概要]食品中の還元糖をソモギーの変法で定量します。 [達成目標]ソモギーの変法で還元糖を定量することができる。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
18	糖の分析（2）　澤渡・加藤	糖の分析（1）と同じ。	レポートを作成して下さい。	60
19	食塩の定量（1）　澤渡・加藤	[概要]各食品の塩化ナトリウム量を塩分計を使用して定量します。 [達成目標]塩分計の正しく使用することができる。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
20	食塩の定量（2）　澤渡・加藤	食塩の定量（1）と同じ。	レポートを作成して下さい。	60
21	食品の非酵素的褐変（1）　澤渡・加藤	[概要]アミノ・カルボニル反応のモデル実験を行い、pH、糖の種類が食品の褐変現象に及ぼす影響を確認します。 [達成目標]食品の非酵素的褐変の原理を理解できている。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
22	食品の非酵素的褐変（2）　澤渡・加藤	食品の非酵素的褐変（1）と同じ。	レポートを作成して下さい。	60
23	パン生地発酵試験（1）　澤渡・加藤	[概要]パン生地にパン酵母を添加してパン生地の膨化の程度を調べる [達成目標]パン生地の発酵原理を理解できている。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
24	パン生地発酵試験（2）　澤渡・加藤	パン生地発酵試験（1）と同じ。	レポートを作成して下さい。	60
25	植物性、動物性食品の加工（1）　澤渡・加藤	[概要]豆乳、牛乳、発酵乳の製造原理を実験を通して学びます。 [達成目標]豆乳や牛乳のが凝固する原理を理解できている。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
26	植物性、動物性食品の加工（2）　澤渡・加藤	植物性、動物性食品の加工（1）と同じ。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	60
27	植物性、動物性食品の加工（3）　澤渡・加藤	植物性、動物性食品の加工（1）と同じ。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
28	植物性、動物性食品の加工（4）　澤渡・加藤	植物性、動物性食品の加工（1）と同じ。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	まとめ（1）　澤渡・加藤	食品学実験では実験を行いましたが、知識として覚えておく必要があることも沢山あります。解説をしながら皆さんにも質問をしますので、知識の定着を目指して下さい。	今までの授業の内容を復習しておいて下さい。	15
30	まとめ（2）　澤渡・加藤	まとめ（2）	まとめの内容を復習して下さい。	30

令和3年度

科目名	食品衛生学実験	**対象**	
担当教員	澤渡　優喜,関　葵	**単位数**	短期大学部 健康栄養学科 2年 1単位 選択
開講期	III	**必選**	
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ 本実験では初歩的な食品微生物の実験方法習得します。また、微生物の特性を実験を進めながら理解し、腐敗や食中毒を防止するためにはどのようなことに気を付ける必要があるのかについて学びます。更に、食品添加物の分析、食品の鮮度判定試験および水道水の検査を行い、食品の安全を保証するための多数ある分析・判定方法の一部を理解します。☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ 微生物実験、食品添加物の分析、食品の鮮度判定試験および水道水の検査を行います。　☒ 〔実務経験に関する内容〕☒ 食品企業で乳酸菌を利用した商品の研究開発を行っていました。食品企業での経験をもとに実験方法を解説します。☒ 〔課題に対するフィードバックの方法〕☒ 提出されたレポートは、内容確認、評価およびコメント記入後に返却します。☒ ☒ 位置づけ・水準　HN2325		
達成目標	〔達成目標（授業終了時の達成課題）〕☒ 初歩的な食品微生物の実験ができる。さらに、食品の安全性を保証する分析方法を理解する。以上のことを達成目標とします。☒ 〔単位認定の最低基準〕☒ 授業内容の7割程度を理解していること。☒ 〔ディプロマ・ポリシーとの関係〕☒ 食と健康の理解、問題対処能力		
受講資格	短期大学部 健康栄養学科 2年	**成績評価方法**	レポート；50点、期末試験；50点とし、計60点以上で単位を認定します。
教科書	資料を配布します。		
参考書	授業の中で紹介します。		
学生への要望	実験室内でのルールを厳守して下さい。ルールを守らないと、大きな事故が起きてしまう恐れがあります。特に、実験室での飲食は厳禁です。実験は目的が大事です。授業の最初に実験の目的を明確にしますので、良く説明を聞いて実験に取組んで下さい。☒		
オフィスタイム	澤渡　☒ 火曜日　16:10～17:05　食品衛生学研究室 ☒ 木曜日　16:10～17:05　食品衛生学研究室　☒ 加藤 火曜日　16:10～17:05　調理学研究室 木曜日　16:10～17:05　調理学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス、安全教育　澤渡・加藤	○ガイダンス 食品衛生学実験の予定と評価方法を説明します。 ○安全教育 安全に実験を行うための一般的なルールについて説明します。	シラバスを読んでおいて下さい。	15
2	微生物学概論　澤渡・加藤	○微生物学概論 微生物学実験を行うために必要な微生物学を概説します。	復習をして下さい。	30
3	落下細菌の検査①　澤渡・加藤	[概要]理化学実験室の落下細菌を検査することで、理化学実験室の衛生度を確認します。この時間は、概要の説明、培地作成を行います。 [達成目標]落下微生物の検査の意義を理解する。培地を理解する。	シラバスで内容を確認しておいて下さい。	15
4	落下細菌の検査②　澤渡・加藤	[概要]この時間は、落下細菌の検査を行います。 [達成目標]落下細菌の検査方法を理解する。	実施内容を復習して下さい。	30
5	落下細菌の検査③　澤渡・加藤	[概要]この時間は、寒天培地に形成したコロニーを観察して理化学実験室の衛生度を確認します。 [達成目標]落下細菌の結果から、空中にどの程度の微生物が存在しているのかを理解する。	シラバスで内容を確認しておいて下さい。	15
6	落下細菌の検査④　澤渡・加藤	[概要]今回の実験結果をもとに、レポートの作成方法を説明します。説明内容に沿ってレポートを作成して下さい。 [達成目標]レポートの作成方法を理解する。	レポートを作成して下さい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	身近な微生物の観察①　澤渡・加藤	[概要]発酵食品中に含まれるカビ、酵母、細菌を顕微鏡で観察し、これらの微生物の形態や大きさを理解してもらいます。今回の実験では、顕微鏡の準備を行います。 [達成目標]顕微鏡の操作方法を理解する。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
8	身近な微生物の観察②　澤渡・加藤	[概要]今回の実験では、顕微鏡で発酵食品中に含まれる微生物を観察し、微生物の形態を正しくスケッチします。 [達成目標]微生物の形態と大きさを理解する。	レポートを作成して下さい。	60
9	グラム染色①　澤渡・加藤	[概要]細菌は細胞壁の構造の違いでグラム陽性菌とグラム陰性菌に分別できます。分別は、細菌をグラム染色法で染色後に顕微鏡で染色された細菌の色を確認することで行います。今回の実験では2種類の細菌をグラム染色法で染め分けます。 [達成目標]グラム染色の方法を理解する。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
10	グラム染色②　澤渡・加藤	[概要]今回の実験では、染まった細菌を顕微鏡で観察して細菌のグラム染色の結果を判定します。 [達成目標]グラム染色の結果の判定をできるようになる。	レポートを作成して下さい。	60
11	微生物の分離と培養（発酵）①澤渡・加藤	[概要]微生物の基本操作を学ぶため、発酵乳から乳酸菌を分離し、分離した乳酸菌を乳原料に接種、発酵し、発酵乳ができるかどうかを確認します。今回の実験では準備として乳酸菌の分離培地を準備します。 [達成目標]細菌の分離、接種方法を理解する。また、分離培地を準備できるようになる。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
12	微生物の分離と培養（発酵）②澤渡・加藤	[概要]今回の実験では、発酵乳から乳酸菌を分離するため培地に発酵乳を無菌条件で画線します。 [達成目標]無菌条件で培地への画線方法ができるようになる。	実施内容を復習して下さい。	30
13	微生物の分離と培養（発酵）③澤渡・加藤	[概要]今回の実験では、分離した乳酸菌を接種する乳原料をの準備をします。 [達成目標]原料乳を準備できるようになる。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
14	微生物の分離と培養（発酵）④	[概要]今回の実験では、分離した乳酸菌を準備した乳原料に無菌条件で接種します。 [達成目標]無菌条件で準備した乳原料に分離した乳酸菌を接種できるようになる。	実施内容を復習して下さい。	30
15	微生物の分離と培養（発酵）⑤澤渡・加藤	[概要]今回の実験では、凝固性と発酵物のpHから乳酸発酵の状態を確認する。。 [達成目標]指示薬を使って発酵の有無と程度を確認できるようになる。	レポートを作成して下さい。	60
16	食品中に含まれる微生物の生菌数測定①　澤渡・加藤	[概要]食品中に含まれる乳酸菌数と大腸菌群数を調べます。今回の実験では、測定に必要な食品サンプルの希釈液を調製します。 [達成目標]食品サンプルの希釈液を調製できるようになる。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
17	食品中に含まれる微生物の生菌数測定②　澤渡・加藤	[概要]今回の実験では、測定に使用する培地を調製します。 [達成目標]培地を調製できるようになる。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
18	食品中に含まれる微生物の生菌数測定③　澤渡・加藤	[概要]今回の実験では、食品サンプルを希釈液で段階希希釈し、乳酸菌数と大腸菌群を測定します。 [達成目標]生菌数を測定できるようになる。	実施内容を復習して下さい。	30
19	食品中に含まれる微生物の生菌数測定④　澤渡・加藤	[概要]今回の実験では、培地に形成されるコロニーの数を計測し、その値から生菌数を算出します。 [達成目標]コロニー数から生菌数を算出できるようになる。	レポートを作成して下さい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	保存料の定量試験①　澤渡・加藤	[概要]ソルビン酸を使用している市販食品からソルビン酸を抽出し使用量を定量し、使用基準内であることを確認します。今回は、食品からのソルビン酸の抽出を行います。 [達成目標]食品サンプルからソルビン酸を抽出できるようになる。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
21	保存料の定量試験②　澤渡・加藤	［概要］今回は、食品から抽出したソルビン酸を定量するため、既知濃度のソルビン酸を用いて検量線を作成し、食品中に含まれるソルビン酸を定量します。 [達成目標]抽出液中のソルビン酸の定量ができるようになる。	実施内容を復習して下さい。	30
22	保存料の定量試験③　澤渡・加藤	21回目と同じ。	レポートを作成して下さい。	60
23	水道水の検査①　澤渡・加藤	[概要]飲んだり、調理に使用したりする水道水は安全であることが必要です。本実験では、水道水について説明した後に、水道水に含まれる残留塩素濃度と生菌数を測定します。今回は、残留塩素濃度を測定します。 [達成目標]水道水の残留塩素を測定できるようになる。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	15
24	水道水の検査②　澤渡・加藤	[概要]今回は、生菌数と大腸菌群数を測定します。 [達成目標]水道水の生菌数と大腸菌群数を測定できるようになる。	実施内容を復習して下さい。	30
25	水道水の検査③　澤渡・加藤	[概要]今回は、コロニーの計測を行い、水道水の衛生度を確認します。 [達成目標]水道水の衛生度を確認できるようになる。	レポートを作成して下さい。	60
26	食品の鮮度判定試験　澤渡・加藤	[概要]牛乳と米の鮮度判定を行います。 [達成目標]牛乳と米の鮮度判定ができる。	レポートを作成して下さい。	60
27	着色料の定性試験①　澤渡・加藤	[概要]各食品から着色料を抽出し、合成物なのか、天然物なのかを判断します。 [達成目標]食品に使用される着色料が合成物なのか、天然物なのかを判断できる。	シラバスで実験内容を確認し、どんな実験かを必要に応じてインターネットなどで下調べをして下さい。	30
28	着色料の定性試験②　澤渡・加藤	27回目と同じ。	レポートを作成して下さい。	60
29	まとめ①　澤渡・加藤	食品衛生学実験では主に実験を行いましたが、知識として覚えておく必要があることも沢山あります。覚えておく必要のある内容を復習していきます。	今までの授業の内容を復習しておいて下さい。	60
30	まとめ②　澤渡・加藤	29回目と同じ	今までの授業の内容を復習しておいて下さい。	60

令和3年度

科目名	公衆栄養学	**対象**	
担当教員	星　千歳	**単位数**	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 必修
開講期	Ⅳ	**必選**	
授業概要	[授業の目的・ねらい]☒ 地域社会や集団生活など広い範囲で国民の健康を図るための栄養活動・栄養施策などについて学習し、実際の現場でのとらえ方や課題について把握できるようにする。☒ [授業全体の内容の概要」☒ 公衆栄養学の概念、健康・栄養問題の現状と課題、栄養政策、栄養疫学、地域診断と公衆栄養マネジメント、公衆栄養プログラムの展開について解説する。また、保健所に勤務した経験をもとに実際の現場での活動内容や課題について講義する。☒ 実務経歴：福島県の職員（管理栄養士）として保健所と病院に勤務☒ 【課題に対するフィードバック方法】小テスト実施後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業でフィードバックを行う。☒ 【位置付け・水準】HN2441		
達成目標	[達成目標]☒ 地域社会や集団生活など広い範囲で国民の健康を図るための栄養活動・栄養施策が理解できる。☒ 【単位認定の最低基準】授業内容の6割を理解していること。☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】食と健康の理解、専門性で社旗貢献		
受講資格	健康栄養学科　2年	**成績評価方法**	①小テスト　40点☒ ②定期試験　60点
教科書	サクセス管理栄養士・栄養士養成講座　公衆栄養学　2021年版　第一出版　井上浩一、草間かおる、村山伸子、		
参考書	特になし		
学生への要望	・常に受け身の姿勢ではなく、主体的・積極的な姿勢で授業に臨むこと。☒ ・毎回、教科書は持参すること。 ・地域活動、集団健康管理、行政など「公衆栄養学」の視点から地域や集団を対象とした公衆栄養活動に関心を持つこと。		
オフィスタイム	木曜日5コマ（16：10～17：05）、金曜日5コマ（16：10～17：05）　☒ 食生活・栄養研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	公衆栄養の概念	公衆栄養学の定義や歴史を理解し、公衆栄養活動の基本と展開過程について学ぶ。	終了後、授業内容を復習する。	30
2	健康・栄養問題の現状と課題	わが国における人口構造、疾病構造、食事・食生活について、それぞれの変遷から健康栄養上の現状課題を理解し、☒今後の対策を検討するための基礎を学ぶ。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後。授業内容を復習する。	30
3	健康・栄養問題の現状と課題	わが国の食環境の変化について学び、現状とその対策について理解する。☒ 諸外国の健康・栄養問題の現状と課題について学ぶ。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後。授業内容を復習する。	30
4	栄養政策	わが国の栄養行政組織と公衆栄養活動の役割について学ぶ。☒ 特に保健所と市町村保健センターの役割がどのように異なるのか、また、それぞれの機関で働く行政栄養士の業務内容と役割を理解する。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後。授業内容を復習する。	30
5	栄養政策	公衆栄養関連法規とわが国の管理栄養士・栄養士制度の内容を理解する。☒ 小テストを行う。 ☒	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後。授業内容を復習する。	30
6	栄養政策	わが国の健康づくり対策や栄養政策の内容を理解する。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後。授業内容を復習する。	30
7	栄養政策	食生活指針や食事バランスガイド、運動指針などのツールの内容を理解する。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後。授業内容を復習する。	30
8	栄養政策	国民栄養・健康調査の内容とわが国の健康づくり対策への活用について理解する。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後。授業内容を復習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	栄養疫学	栄養疫学は人の集団を対象として、健康や疾病とその栄養との関係を明らかにすることを目的としていることを学び、公衆栄養活動における疫学の重要性を理解する。 食事調査の方法と種類、活用場面に応じた適切な方法の選択について理解する。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後。授業内容を復習する。	30
10	栄養疫学	食事摂取量の評価方法は、食事調査の結果から栄養素摂取量を計算し、食事摂取基準を用いて摂取量の評価を行うことを学ぶ。 小テストを行う。☒	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後。授業内容を復習する。	30
11	地域診断と公衆栄養マネジメント	公衆栄養マネジメントの考え方と、地域住民などのコミュニティのニーズや栄養状態など総合的なアセスメントをすることが重要であることを理解する。食事摂取基準の活用や面接法・質問法による調査方法について学ぶ。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後。授業内容を復習する。	30
12	地域診断と公衆栄養マネジメント	公衆栄養プログラムの目標設定では、アセスメントの結果の評価をし、改善課題に基づいて目標の設定と計画のポイントについて学ぶ。 小テストを行う。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後。授業内容を復習する。	30
13	地域診断と公衆栄養マネジメント	公衆栄養プログラムの計画、実施は、地域住民などのコミュニティを対象としており、成果を得るには、具体的な目標の設定と住民参画が大切であることを学ぶ。☒	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後。授業内容を復習する。	30
14	公衆栄養プログラムの展開	地域特性に対応したプログラムの展開と食環境整備のためのプログラムの展開を学ぶ。☒	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後。授業内容を復習する。	30
15	公衆栄養プログラムの展開	地域集団の特性別プログラムとして、ライフステージ別プログラムと生活習慣病ハイリスク集団のプログラムを学ぶ。 小テストを行う。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後。授業内容を復習する。	30

令和3年度

科目名	食商品学	**対象**	
担当教員	長谷川　貴弘	**単位数**	短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 必修
開講期	Ⅳ	**必選**	

授業概要	【授業の目的・ねらい】☒ 本授業では、現代社会の食品の消費と流通の現状を理解し、よりよい食品選択を行う知識を獲得することを目的とする。☒ ☒ 【授業全体の内容の概要】☒ フードスペシャリストは、「食」に関する総合的･体系的な知識・技術を身につけることが期待されている。その中でも私達が毎日食卓で目にする食品・食材が、生産から消費されるまで、どのような流通ルートを経てきているかを知ることは非常に重要なこととなる。本授業では、食市場の変化、食品の流通、フードマーケティング、食品消費の理論と現状について採り上げる。☒ ☒ なお、在日本北京大使館経済部での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方、経済理論についても採り上げていく。☒ 【実務経歴☒ 在北京日本国大使館経済部専門調査員としてとして従事。☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。 【位置づけ・水準】　HN2461 ☒
達成目標	【単位認定の最低基準】 フードスペシャリスト資格認定試験の食品流通・消費に関する科目の問題に答えることのできる知識・見識を身に着けることを到達目標とする。 このため、授業で採り上げるテキストの内容の７割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。

受講資格	短期大学部　健康栄養学科 2年生	**成績評価方法**	①小テスト20点（20点×1回）☒ ②期末試験80点☒
教科書	「食品の消費と流通」（日本フードスペシャリスト協会編）		
参考書	「フードスペシャリスト論」（日本フードスペシャリスト協会編）		
学生への要望	テキストをきちんと読み込んで、授業に積極的に取り組むこと。☒		
オフィスタイム	火曜日　2コマ　金曜日　4コマ☒ 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・食市場の変化①	授業の進め方、評価方法について説明する。 食市場とその変化、消費者の食品消費の変化について学修する。☒	テキスト第1章「食市場の変化」及び第3章「外食・中食産業のマーチャンダイジング」の部分に目を通しておく。 プリントを読み返して復習をすること。	60
2	食市場の変化②	少子・高齢化が変える食市場について学修する。	テキスト第1章「食市場の変化」及び第4章「外食・中食産業のマーチャンダイジング」の部分に目を通しておく。 プリントを読み返して復習をすること。	60
3	食市場の変化③	消費者の食品消費の変化について、並びに需要の価格弾力性と所得弾力性について学修する。	テキスト第1章「食市場の変化」及び第5章「外食・中食産業のマーチャンダイジング」の部分に目を通しておく。 プリントを読み返して復習をすること。	60
4	食品の流通①	食品流通の役割、流通の社会的使命について学修する。	テキスト第2章「食品の流通」の部分に目を通しておく。 プリントを読み返して復習をすること。	60
5	食品の流通②	卸売市場流通と加工食品の卸売業者流通について学修する。	テキスト第2章「食品の流通」の部分に目を通しておく。 プリントを読み返して復習をすること。	60
6	食品の流通③	食品の小売り流通について学修する。	テキスト第2章「食品の流通」の部分に目を通しておく。 プリントを読み返して復習をすること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	フードマーケティング①	マーケティングの要素である4Pと4Cについて学修する。	テキスト第5章「フードマーケティング」の部分に目を通しておく。 プリントを読み返して復習をすること。	60
8	フードマーケティング②	商品のライフサイクルの理論と実際及び各種マーケティング戦略について学修する。	テキスト第5章「フードマーケティング」の部分に目を通しておく。 プリントを読み返して復習をすること。	60
9	食品消費の課題①	食料消費と環境問題、3R（リデュース、リユース、リサイクル）、食品のリサイクル・食品廃棄物問題について学修する。	テキスト第6章「食料消費の課題」の部分に目を通しておく。 プリントを読み返して復習をすること。	60
10	食品消費の課題②	食品の安全性及び関連項目について学修する。	テキスト第6章「食料消費の課題」の部分に目を通しておく。 プリントを読み返して復習をすること。	90
11	食品の分類と流通	食品の分類及び温度帯別食品流通について学修する。 小テストを実施する。	テキスト第4章「主要食品の流通」の部分に目を通しておく。 プリントを読み返して復習をし、小テストに備えること。	90
12	これまでの学修内容まとめ①	「フードスペシャリスト認定試験」の「食品の流通と消費」に関連する問題を解くことを通じて、これまでの授業内容を復習する。	これまで配布したプリントを読み返して復習し、認定試験に備えること。	90
13	これまでの学修内容のまとめ②	「フードスペシャリスト認定試験」の「食品の流通と消費」に関連する問題を解くことを通じて、これまでの授業内容を復習する。	これまで配布したプリントを読み返して復習し、認定試験に備えること。	90
14	主要食品の流通①	各種食商品の流通について学修する。	テキスト第4章「主要食品の流通」の部分に目を通しておく。 プリントを読み返して復習をすること。	60
15	主要食品の流通②	各種食商品の流通について学修する（前回の続き）。	テキスト第4章「主要食品の流通」の部分に目を通しておく。 これまで配布したプリントを読み返して復習し、定期試験に備えること。	90

令和3年度

科目名	日本国憲法	**対象**	
担当教員	鈴木　康元	**単位数**	短期大学部 幼児教育学科　1年 2単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択
開講期	I	**必選**	
授業概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。☒ 履修カルテ評価項目☒ ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。☒ ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。☒ ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 ☒ 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。☒		
達成目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。☒ 履修カルテ評価項目☒ ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。☒ ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。☒ ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。 ☒ ☒		
受講資格	幼児教育学科１年生	**成績評価方法**	ペーパー試験(80%)と出席状況(20%)
教科書	憲法【第二版】☒ 弘文堂		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。		
オフィスタイム	授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室 ☒		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特色、日本国憲法の歴史☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下の平等の意義☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	基本的人権⑦	経済的自由権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	基本的人権⑧	財産権☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	基本的人権⑨	その他の人権について☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	統治機構①	国会☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	統治機構②	内閣☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	統治機構③	裁判所☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

令和3年度

科目名	健康スポーツ論	**対象 単位数 必選**	短期大学部 幼児教育学科　1年 1単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択
担当教員	佐藤　浩明		
開講期	Ⅱ		
授業概要	GC1114☒ 健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、スポーツの意義、特性を理解し、生涯にわたって自ら健康について考え行動できる力を習得する。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミニュケーションや協調性を指導します。 ☒ ①運動と健康の関連を理解し、エクササイズの方法や身体についての基礎知識を学びます。☒ ②スポーツの意義を理解し、自分の健康や行動のありかたについて学びます。☒ ③レポート、等は口頭またはコメントで書き返却します。		
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得する と共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力☒ （人間性）を身に付ける。また健康で豊かな生活を営むことができる人間の育成を教育の目的とする。☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】☒ ・他との協調　・人間形成☒ レポート、実技テスト等を受けることを最低基準とする。		
受講資格	幼児教育学科　１年生☒ ☒ ※教職課程履修者は必修	**成績評価 方法**	レポート60点　平常点　40点（取組姿勢・提出物）
教科書	特になし（必要に応じて資料、課題を配布します）		
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」		
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。		
オフィスタイム	火・水・木の9:00～16:00まで創学館NO4研究室☒ （佐藤）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状やオリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツが持つ魅力について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
2	生活と健康について①	《健康とは何か》☒ ☒ 健康について考える導入として「健康の定義」をWHO（世界保健機関）の憲章をふまえ様々な角度から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
3	生活と健康について②	《生活習慣病の原因・対策・予防と運動》☒ ☒ ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し運動との関係について学びます。☒ ②運動・休養と健康の関係について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
4	生活と健康について③	《大学生の健康》☒ ☒ 大学生の生活に潜む健康を害する危険について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
5	生活とスポーツについて①	《スポーツとは何か》☒ ☒ スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
6	生活とスポーツについて②	《生涯スポーツについて》☒ ☒ 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う　②観る　③支える　④調べるの視点から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30
7	生活とスポーツについて③	《大学生とスポーツ》☒ ☒ 大学生になり、高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康について興味を持ち、運動やスポーツについてどう関わることができるかについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	スポーツから学ぶ①	《フェアプレーについて》☒ ☒ スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常の生活や普段の行動にも通じるものがあります。ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う	30

令和3年度

科目名	キャリアデザインⅡ	**対象**	
担当教員	森　みい	**単位数**	短期大学部 幼児教育学科　1年 1単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択
開講期	Ⅰ	**必選**	
授業概要	【授業のねらい】☒ 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。インターンシップ終了後に、課題・レポート提出及び、インターンシップ報告会を行い、課題についてフィードバックを行います。 ☒ ☒ 【授業の概要】☒ インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（3日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。☒当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し就職指導にあたっております。企業と学生の状況を把握しながら、就職支援には長く携わり、希望に添った将来のキャリアを築く支援をしています。 ☒ ☒		
達成目標	【授業終了時の達成目標】☒ インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることをことを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、責任の重さや成し遂げる充実感や社会への貢献を感じ取る事を目的とします。論理的思考力を身につけ、いつも明るく笑顔で目標を高く持ち、努力を惜しまない人物を育成します。		
受講資格	特になし	**成績評価方法**	就業体験60％・報告会20％・提出物20％☒認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30　水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	インターンシップの概要☒ 4/8(Ｖコマ) ☒	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップに必要な書類についての確認する 。☒	就業体験先の希望調査があるので、企業・業界研究をしておく。 インターンシップの目標を設定する。	30
2	インターンシップの心構え☒ 5/13(Ｖコマ)	昨年のインターンシップを参考に自分は何を学びたいのか明確な目標を設定していく。	インターンシップを通して、企業や業界の働きについて考える。	30
3	インターンシップの心構え☒ 5/27(Ｖコマ)	働く人の話を聞き、仕事の内容、組織での関りを学び、インターンシップの考えを深化させていく。	インターンシップは具体的にどのように考えていくか、社会人の話を聞き、企業研究をする。	30
4	企業研究 (講演)☒ 6/3 (Ｖコマ) ☒ ☒ ☒	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。また、人生をどのように生きていくか、自分の将来のキャリアプランを考える。	企業の働きから、社会の動向を学び、働く事への理解を深める。	30
5	事前指導☒ (ビジネス文書作成)☒ 6/17Ｖコマ) ☒	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。☒	手紙の書き方、ビジネスでのメール送信、電話の掛け方等、一般的なナマーを確認しておく。	30
6	事前指導☒ （マナー講座)☒ 7/1（Ｖコマ）☒	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。☒業体験先との打合せを始める。	挨拶・言葉遣いを実践で学んでいくので、印象のいいマナーを日常から意識をして練習する。	30
7	直前指導☒ (インターンシップ先の企業研究)7/15（Ｖコマ） ☒ ☒	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	インターンシップ先にアポイントを取り担当者と打合せをする。電話の掛け方、インターンシップに向けてマナーの練習をする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	インターンシップ 実施 1班8/18～8/20 2班8/25～8/27 ☒	各企業において、夏季休業中（8月中旬～下旬)に3日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	企業研究及び交通手段の確認をする。インターンシップ先の企業研究を行い、最終確認をする。	30
9	インターンシップ報告会☒ 9/3　（Ⅰコマ）　☒	事後報告会として、クループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会の準備と提出物の最終確認をする。	30
10	インターンシップ報告会 ☒ 9/③（Ⅱコマ）　☒ ☒	事後報告会として、代表者の報告を企業の方も参加して実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会で発表し、報告者の発表から課題を考えていく。	30

令和3年度

科目名	教育・保育課程論	**対象**	
担当教員	山上　裕子	**単位数**	短期大学部 幼児教育学科　1年 2単位 選択
開講期	Ⅱ	**必選**	
授業概要	生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育において、幼児期にふさわしい教育・保育課程はどのようなものか。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基準にした計画を立てられるために必要な基礎を講義する。具体的には、教育・保育課程の役割や意義、編成の方法、指導案の作成、カリキュラム・マネジメントなどを取りあげる。また附属幼稚園での勤務をもとに、実際の保育現場での子どもの姿等や保育者の関わりの様子をスライドやビデオなどで示しつつ、具体的な子どもの姿や保育についての現代的な課題についての話題を提供し、指導計画作成のイメージがつくように活動グループ・ワークを行いつつ、現場に直結する力を身につけていく。なお、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☒ 実務経験（賀門博康）：幼稚園教諭(現在は園長)として郡山女子大学附属幼稚園に勤務 位置づけ・水準　CE2115		
達成目標	本科目は、ディプロマ・ポリシーの「保育の内容理解と総合的計画力」と「保育の方法と技術力」に対応している。 ☒ ①教育・保育課程の役割と意義を、7割以上理解できたか。☒ ②教育・保育課程の編成と指導計画の作成方法について、7割以上理解できたか。☒ ③教育・保育課程のマネジメントの必要性を、7割以上理解できたか。		
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	**成績評価方法**	授業参加度３０％　レポート７０％
教科書	・幼稚園教育要領（平成２９年３月告示　文部科学省）　☒ ・保育所保育指針（平成２９年３月告示　厚生労働省）☒ ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示　内閣府）☒ ・岩崎順子・及川留美・粕谷亘正『教育・保育課程論～書いて学べる指導計画～』萌文書林、２０１５年。		
参考書	・その他、授業中に適宜プリントを配布する。		
学生への要望	授業用のノートを用意すること。☒ 欠席、遅刻はしないようにすること。☒ 指導計画の作成にはイメージの豊かさが大事である。授業内容に沿った気づきや発想を、積極的に発言すること。		
オフィスタイム	山上　木曜日：１４：３０～１６：００　833研究室☒ 金曜日：１２：５０～１４：２０　833研究室　☒ 賀門　月～金曜日　１０：００～１１：３０　附属幼稚園応接室☒ １５：００～１７：００　附属幼稚園応接室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション （担当：山上　裕子）	・講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。保育活動がどのように行われているのか、気づいたことを共有する。	事前にシラバスを確認し、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の記載を概観する。	60
2	教育・保育課程とは何か （担当：山上　裕子）	・カリキュラムの発生を知ることをとおして、経験カリキュラムについて学ぶ。また、我が国日本で告示された教育要領等の学校教育における位置づけや性格を学び、教育課程等を作成する必要性について考える。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容を確認する。	60
3	教育要領の変遷 （担当：山上　裕子）	・戦後「保育要領」として生まれ、「幼稚園教育要領」として今日まで改訂されてきた変遷を知る。その際、社会からの要請が関連していたことを理解する。また、同時に「保育所保育指針」の変遷についても学ぶ。これまで学んだことをまとめる。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の変遷をまとめる。	60
4	教育課程・指導計画の種類（担当：賀門　康博）	・保育三法令(幼稚園教育要領・保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領)について、２９年度の改訂版をもとに、それぞれの内容と関連性を話しつつ、“3つの視点（０歳)”“５領域（１～５歳）”“１０の姿”などのキーワードを学び、保育の置けるその位置づけを理解する。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」で要となる“3つの視点（０歳)”“５領域（１～５歳）”“１０の姿”について、語彙等を理解する。	60
5	子どもの多面的な理解（５領域・１０の姿等から） （担当：賀門　康博）	・５領域や１０の姿等の内容を照らし合わせながら、子どもの姿や日々の生活・体験が子ども達の成長にとってどういった意味を持つのかについて、ビデオなどの視聴をつつ、理解を深める。	「５領域」及び「１０の姿」といった観点の存在について理解する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	指導計画の構成について①（担当：賀門　康博）	・指導計画はどういった構成になっており、それぞれがどういった関係であるのかについて、全体像を理解する。また、構成要素のうち、「子どもの姿」「ねらい」「内容」について掘り下げ、その意味を理解する。	指導計画における「子どもの姿」「ねらい」「内容」についてそれぞれの意味と違いを理解する。	60
7	指導計画の構成について②（担当：賀門　康博）	・前回に続き、指導計画の構成について学ぶ。全体の構成を考えつつ、構成要素のうち「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」について掘り下げ、その意味を理解する。	指導計画における「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」についてそれぞれの意味と違いを理解する。	60
8	指導計画作成の実際①（子どもの姿①）（担当：賀門　康博）	・前回までに学んだ指導計画の全体像の理解を踏まえ、以後4回にわたり各論的にワークを行い、実際の記述の仕方などを学ぶ。この回では指導計画の基礎となる「子どもの姿」について、“個の理解”と“全体の理解”の重要性について学ぶ。また、ビデオなどを用いながら行動観察などでのポイントやその意味を理解する。	子どもの定型的な発達の姿を理解しつつ、各年齢において重要とされる関わりについてポイントを理解する。	60
9	指導計画作成の実際①（子どもの姿②）（担当：賀門　康博）	・前回から引き続き、子どもの姿についてのワークを行う。実際に実習でクラス担当になり、部分実習などで全体への指導を行う際に、クラス全体の状態をどのように指導計画に反映させるかについて、幾つかの視点を提示しつつ、指導計画への記述について理解する。	個の発達の姿を理解しつつ、集団保育の中で重要とされる関わりについてポイントを理解する。	60
10	指導計画作成の実際②（ねらい・内容）（担当：賀門　康博）	・前回に引き続きワークを行う。この回では、子どもの姿を踏まえた上で、どのように「ねらい」や「内容」を立てていくかについてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	子どもの姿をもとにした「ねらい」の立て方について、５領域等の視点を持った考え方のポイントを理解する。	60
11	指導計画作成の実際③（環境設定・予想される子どもの姿）（担当：賀門　康博）	・前回に引き続きワークを行う。この回では、前回理解したねらいや内容に準じて、どういった形で「環境構成」をし、「子どもの姿を予想する」かについてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	「ねらい」を実現するために必要な「環境構成」と「子どもの予想される姿」について、記載の項目とポイントを理解する。	60
12	指導計画作成の実際④（保育者の援助・配慮）（担当：賀門　康博）	・前回に引き続きワークを行う。この回では、活動の内容や予想される子どもの姿に対して、ねらいを達成するための「保育者の援助や配慮」についてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	「予想される子どもの姿」に対して保育者としての関わり方(援助・配慮)の重要性について理解する。	60
13	カリキュラム・マネジメントについて①（担当：賀門　康博）	・これまでに学んだ指導計画(部分指導・一日指導)が、子どもたちの日々の成長の中でどういった見通しをもって作成されるべきであるかについて、より長期的な教育課程との関連や、小学校との連携（指導要録の作成）の意味と関連させながら学ぶ。	保育における現代的な課題について概観する。	60
14	カリキュラム・マネジメントについて②（担当：賀門　康博）	・カリキュラムの評価や発達や環境の違いに応じて、柔軟に対応(ネージメント)していくことの大切さを知る。	PDCAサイクルについて理解し、現代的な課題に対して指導計画を体操させていく重要性を理解する。	60
15	まとめ（担当：山上　裕子）	・これまで授業で学んできたことを、実習で経験したことをとおして振り返り、教育・保育課程の役割や意義等を再確認する。	ノートやプリントを整理し、幼稚園実習及び保育実習に向けて基礎となる視点を再確認する。	60

令和3年度

科目名	子どもの健康と安全	**対象**	
担当教員	永瀬　悦子	**単位数**	短期大学部 幼児教育学科　2年 1単位 選択
開講期	Ⅲ	**必選**	
授業概要	「子どもの保健」で学んだ内容を基礎として、保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について学修する。助産師・看護師として医療機関勤務および乳幼児健診等をしてきた経験を活かして、子どもの体調不良等に対する適切な対応、感染症対策、健康及び安全管理の体制について学修する。☒ 【課題に対するフィードバック方法】①最終授業で全体に対するフィードバックを行う。②課題・レポート提出後、フィードバックの時間を設定し連絡する。③レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行う☒ 【授業の目的・ねらい】☒ 「子どもの保健」の基礎知識をもとに、保育現場で実践できる子どもの健康管理や成長・発達を促す養護技術・保育における健康及び安全の管理について知識・技術を学ぶ。☒ 【位置づけ・水準】CE2241		
達成目標	1)保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について総合的に計画・実践内容を述べることができる 2)保育における子どもの発達を理解し、衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策の支援について説明できる。 3)子どもの体調不良等に対する適切な対応方や技術について述べることができる。 4)保育における感染症対策について説明できる。　5)保育における保健の学修した知識や技術を統合し、子どもの健康が逸脱した時の問題解決方法を説明できる。　6)子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の根底には幅広い教養と豊かな人間性や規範意識があることを説明できる　ディプロマポリシーとの関係から「保育の内容理解と総合計画力」「「子どもの発達の理解と支援の力」「保育の方法と技術力」「豊かな人間性と規範意識」「問題解決力」「表現力とコミュニケーション能力」を身に付けることを達成目標にする。これらのことを7割達成すれば単位認定とする。		
受講資格	保育士資格取得を希望する学生	**成績評価方法**	筆記試験60点、レポート40点
教科書	松本峰雄監修『子どもの保健と安全演習ブック』ミネルヴァ書房　2020年☒ 咲間まり子編著『コンパス乳児保育』建帛社　2018年☒ ※随時、資料配布		
参考書	『保育所保育指針』フレーベル館　2017年		
学生への要望	乳幼児のケアをおこなうためには、根拠のある確かな知識（頭）、愛情や相手を思いやる心、適切で正確な技術（技）が大切である。講義は積極的にのぞむことを期待する。		
オフィスタイム	火曜日　Ⅲ時限（12：50～14：30）　832研究室☒ 木曜日　Ⅰ時限（8：50～10：20）　832研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	感染症対策	1)感染症の集団発生の予防　2)感染症発生時と罹患後の対応　※長時間生活する保育所等の施設は、子どもたちにとり過ごしやすく、安全・衛生的な環境を整えることの大切さを理解する。病気の予防や感染症拡大を防止する衛生管理を学ぶ。	『2018年改訂版、保育所における感染症対策ガイドライン』(平成30年3月厚生労働省)をよく読む	60
2	子どもの体調不良等に対する適切な対応①	1)子どもの状態観察と評価　※子どもの生理機能を理解して、子どもの状態観察と評価を学ぶ。	教科書をよく読み学びを深める	60
3	子どもの体調不良等に対する適切な対応②	1)薬の与薬　2)体調不良や傷害が発生した場合の対応　※健康状態の観察と薬の与え方について学び、正しく行うことを身につける。	家庭生活にある薬の種類と使用方法を調べる	60
4	子どもの体調不良等に対する適切な対応③	1)救急処置や救急蘇生法　2)応急処置 ※乳幼児救急蘇生法の方法について理解し、包帯や三角布を利用した応急処置の実技の体験学習をする。	救急蘇生法について教科書を用いて学修する	60
5	保育における健康及び安全の管理	1)保育における保健的対応の基本的な考え方　2)保育における健康を促進する関わり　3)個別的な配慮を要する子ども・障害のある子どもへの対応　※慢性疾患やアレルギー疾患等をもちながら生活する子どもと家族支援の方法を学ぶ。子どもなりの成長・発達とは何かを考える。	教科書をよく読み学びを深める	60
6	保育における保健的対応	1)衛生管理　2)事故防止及び安全対策3)危機管理と災害への備え　※教育・保育施設における事故防止と安全対策の必要を理解し、危機管理と災害への備えの重要性を学ぶ。	『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)をよく読む	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	健康及び安全の管理の実施体制	1)職員間の連携・協働と組織的取組　2)保育における保健活動の計画及び評価　3)母子保健・地域保健における自治体との連携　4)家庭、専門機関、地域の関係機関との連携　※子どもの育ちや子育て支援制度、地域の社会資源や関係機関について理解する。	『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』(平成23年3月厚生労働省)をよく読む	60
8	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助	1)子どもの健康と保育環境(身体計測と評価)　2)子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全管理 3)子どもの生活習慣と心身の健康増進を図るための健康管理　※子どもの健康の維持・増進にむけ保健計画を作成し、職員全体でねらいと目的を共通理解して実践していくことを理解する。保健計画および成長・発達の評価の資料となる身体計測の技術と留意点を学ぶ。	子どもの健康を増進するために必要な「保健たより」を作成する	60

令和3年度

科目名	社会福祉	**対象**	
担当教員	近内　直美	**単位数**	短期大学部 幼児教育学科　1年 2単位 必修
開講期	Ⅰ	**必選**	
授業概要	社会福祉学とは何かを考え、人権について知り、権利を守るための法律や制度、行政の仕組みを知り、活用できる知識を持つ☒ 適宜レポートや発表を通し,双方向型の授業を行い、考える力をつける。 ☒後の授業に課題やレポートなどを全体にフィードバックする 地域包括支援センターでの勤務経験を活かし、事例などを交えながら実践に結び付く授業を行う☒ 実務経験：地域包括支援センター所長（兼務・社会福祉士・主任介護支援専門員）として勤務☒ 位置づけ：水準　CF2105		
達成目標	①社会福祉の歴史や現状から考え方を学ぶ☒ ②社会福祉の対象者を知る☒ ③社会福祉の法律や制度、行政機関の仕組みをを学ぶ☒ 単位認定の最低基準は、：「内容の8割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の本質理解・豊かな人間性と規範意識		
受講資格	幼児教育学科	**成績評価方法**	試験７０％、課題３０％
教科書	新基本保育シリーズ４「社会福祉」　中央法規		
参考書	適宜紹介する。		
学生への要望	・社会福祉の授業を通して、人と関わることの意味、意義を考えてほしい。☒ ・社会福祉の制度を活用できるよう意識して学んでほしい。		
オフィスタイム	月曜日Ⅳ時限・金曜日Ⅲ時限　創学館４Ｆ 研究室№６		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 社会福祉の理念と歴史的変遷	・社会福祉の概念 ・社会福祉の歴史的変遷 ・社会福祉の現代的課題	・社会福祉とは何かを理解する	30
2	子ども家庭支援と社会福祉	・社会福祉の専門職としての保育士と保育所、子ども家庭支援について ・地域子育て支援と課題	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
3	社会福祉の制度と法体系	・社会福祉における法体制と制度の種類や内容 ・社会福祉の法制度の活用	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
4	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等	・社会福祉の行財政 ・社会福祉施設とは	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
5	社会福祉の専門職	・社会福祉の専門職の資格、職種	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
6	社会保障および関連制度の概要	・社会保障制度とは ・子どもを育てる世帯の現状 ・新しい社会的リスク	・テキストで予習を行う ・課題を行う（社会福祉の制度について）	90
7	相談援助の理論	・相談援助の理論 ･保育所、児童福祉士等における相談	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
8	相談援助の意義と機能	・相談援助の特徴 ・相談援助の原則、意義と機能	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
9	相談援助の対象と過程	・保育における相談援助 ・相談援助に求められる対応	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
10	相談援助の方法と技術	・保育現場おける相談援助の方法と技術 ・相談援助活動のこれから	・テキストで予習を行う☒ ・授業内容のポイントをまとめる	30
11	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ	・権利擁護と苦情解決 ・権利擁護の仕組みや制度	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
12	少子高齢化社会における子育て支援	・少子化の現状と対策 ・少子化対策における保育所の役割や期待	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
13	共生社会の実現と障害者施策	・障害者について知り、施策を考える	・テキストで予習を行う ・課題を行う（保育士の倫理について）	90
14	在宅福祉・地域福祉の推進	・地域福祉の概念 ・地域における子育て支援と保育所との関係 ・保育士に求められる役割	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
15	諸外国の社会福祉の動向 まとめ	・社会福祉と福祉国家（海外の福祉） ・課題やレポートなどを全体にフィードバックする	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30

令和3年度

科目名	特別支援教育基礎論	**対象**	
担当教員	小林　徹	**単位数**	短期大学部 幼児教育学科　1年 2単位 必修
開講期	II	**必選**	
授業概要	中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験や市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験に基づき、研究成果も踏まえて以下の内容を講義する。☒ 1．特別支援教育を支える理念や歴史的変遷について理解する。☒ 2．特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。☒ 3．さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。☒ 4．障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。☒ 5．特別支援教育の実際について理解を深める。☒ 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。 ☒ ☒ 位置づけ・水準　CE2117		
達成目標	1．特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。☒ 2．障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。☒ 3．さまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について理解できたか。☒ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力		
受講資格	幼児教育学科の学生を中心とする	**成績評価方法**	平常点５０点（小テスト、提出物、遅刻や授業態度による減点）　期末試験５０点
教科書	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい,2020☒ 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 ☒ 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018 ☒ 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018		
参考書	七木田敦編著『保育そこが知りたい！気になる子Ｑ＆Ａ』チャイルド本社,2008		
学生への要望	障がいや障がい児について関心をもち、学習を深めてほしい。☒		
オフィスタイム	毎週火曜・木曜16：10～17：05、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	特別支援教育の考え方	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念について学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	特別支援教育の歴史	特別支援教育と障がい児保育の歴史的変遷について学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	特別支援教育の制度と仕組み	特別支援教育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	発達障がいの理解と支援①	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいとの関連について映像を通して学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	発達障がいの理解と支援②	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を通して学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	発達障がいへのアプローチ	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。☒ 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	障がい児の子育て	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	知的障がい	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	自閉症	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	その他の障がい	映像を通してその他の障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	障がい児支援の工夫	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	他機関との連携	ゲストスピーカーを招いて、特別支援教育に関するさまざまな機関との連携について学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	子ども理解と保育方法①	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	子ども理解と保育方法②	子どもとその特別な教育的ニーズから、個別の指導計画を作成し、適切で具体的な保育方法を考える。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ	学習内容を振り返り、保育者として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

令和3年度

科目名	情報処理Ⅰ	**対象**	
担当教員	山口　猛,小林　若菜	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
開講期	Ⅰ	**必選**	
授業概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成について学習する。☒ 実務経歴：システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務☒ システム開発・情報処理の経験をもとに、文書作成・表計算についての授業を行う。 フィードバックとして、未提出物がある場合や提出物の内容が不十分である場合などは追加課題の実施等を行う。 位置づけ・水準 CD1130		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。☒ 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解		
受講資格	なし。	**成績評価方法**	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題１を２０％、課題２を４０％、課題３を４０％とする。
教科書	イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Office 365・Office 2019対応、noa出版 (2019)		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月曜日２・４限, 芸術館2階　No.3地域創成学科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。	復習として次のことを行うこと。 ・Webメールから携帯電話へメールを送信する(正しく着信することを確認する)。 ・携帯電話からWebメールのアドレスへメールを送信する。メールが転送されることを確認する。	45
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえ、インターネットを利用するためのセキュリティーについて触れる。☒	復習として、次の点についてまとめること。 ・URLの構造 ・インターネットを利用する際に注意すべきポイント	45
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、TO, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。☒た Email を利用するためのセキュリティについて学ぶ。ローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。☒	復習として、Emailアドレスの構造とTO, CC, BCC の違いをまとめること。	30
4	課題1	インターネット (ブラウザ・メールなど) の用法について、正しく利用できるか確認をする。☒ また次回以降の教材の準備を行う。 教材のダウンロード http://www.noa-prolab.co.jp/download/	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	30
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。☒	復習として、eLearning Systemを用いてWord STEP2 確認テスト1を実施すること。	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。☒	復習として、eLearning Systemを用いてWord STEP2 確認テスト2を実施すること。	20
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となるExcel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。☒	復習として、eLearning Systemを用いてWord STEP2 確認テスト3, 確認テスト4を実施すること。	40
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。☒	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	60
9	表の作成	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、オートフィルや書式の設定などについて学ぶ。	復習として、授業内でオートフィルの機能を用いて作成した連続データを、再度作成してみること。	30
10	計算とアドレス	数式を用いた計算方法を学ぶ。特に表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。☒	予習として教科書のp.132からp.141までを読んでおくこと。	30
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。☒	予習として教科書のp.132からp.152までを読んでおくこと。	30
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。☒	復習として、eLearning Systemを用いてExcel STEP2 確認テスト5, 確認テスト6を実施すること。	30
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。☒	復習として、eLearning Systemを用いてExcel STEP3 確認テスト1, 確認テスト2を実施すること。	30
14	課題３	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。☒	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	60
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ	予習として、パワーポイントに関する章を読んでおくこと。	30

令和3年度

科目名	キャリアデザインⅡ	**対象**	
担当教員	森　みい	**単位数**	短期大学部 幼児教育学科　1年 1単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択
開講期	Ⅰ	**必選**	
授業概要	【授業のねらい】☒ 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。インターンシップ終了後に、課題・レポート提出及び、インターンシップ報告会を行い、課題についてフィードバックを行います。 ☒ ☒ 【授業の概要】☒ インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（3日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。☒当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し就職指導にあたっております。企業と学生の状況を把握しながら、就職支援には長く携わり、希望に添った将来のキャリアを築く支援をしています。 ☒ ☒		
達成目標	【授業終了時の達成目標】☒ インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることをことを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、責任の重さや成し遂げる充実感や社会への貢献を感じ取る事を目的とします。論理的思考力を身につけ、いつも明るく笑顔で目標を高く持ち、努力を惜しまない人物を育成します。		
受講資格	特になし	**成績評価方法**	就業体験60％・報告会20％・提出物20％☒認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30　水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	インターンシップの概要☒ 4/8(Ｖコマ) ☒	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップに必要な書類についての確認する 。☒	就業体験先の希望調査があるので、企業・業界研究をしておく。 インターンシップの目標を設定する。	30
2	インターンシップの心構え☒ 5/13(Ｖコマ)	昨年のインターンシップを参考に自分は何を学びたいのか明確な目標を設定していく。	インターンシップを通して、企業や業界の働きについて考える。	30
3	インターンシップの心構え☒ 5/27(Ｖコマ)	働く人の話を聞き、仕事の内容、組織での関りを学び、インターンシップの考えを深化させていく。	インターンシップは具体的にどのように考えていくか、社会人の話を聞き、企業研究をする。	30
4	企業研究 (講演)☒ 6/3 (Ｖコマ) ☒ ☒ ☒	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。また、人生をどのように生きていくか、自分の将来のキャリアプランを考える。	企業の働きから、社会の動向を学び、働く事への理解を深める。	30
5	事前指導☒ (ビジネス文書作成)☒ 6/17Ｖコマ) ☒	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。☒	手紙の書き方、ビジネスでのメール送信、電話の掛け方等、一般的なナマーを確認しておく。	30
6	事前指導☒ （マナー講座)☒ 7/1（Ｖコマ）☒	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。☒業体験先との打合せを始める。	挨拶・言葉遣いを実践で学んでいくので、印象のいいマナーを日常から意識をして練習する。	30
7	直前指導☒ (インターンシップ先の企業研究)7/15（Ｖコマ） ☒ ☒	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	インターンシップ先にアポイントを取り担当者と打合せをする。電話の掛け方、インターンシップに向けてマナーの練習をする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	インターンシップ 実施 1班8/18～8/20 2班8/25～8/27 ☒	各企業において、夏季休業中（8月中旬～下旬)に3日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	企業研究及び交通手段の確認をする。インターンシップ先の企業研究を行い、最終確認をする。	30
9	インターンシップ報告会☒ 9/3　（Ⅰコマ）　☒	事後報告会として、クループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会の準備と提出物の最終確認をする。	30
10	インターンシップ報告会 ☒ 9/③（Ⅱコマ）　☒ ☒	事後報告会として、代表者の報告を企業の方も参加して実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会で発表し、報告者の発表から課題を考えていく。	30

令和3年度

科目名	生涯学習概論	**対象**	
担当教員	瀬谷　真理子	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
開講期	Ⅰ	**必選**	
授業概要	「生涯学習」の現代的意義と「社会教育」の概念と意義について、基本的な内容の理解をしていきます。その理解を踏まえて、多角的な視点から「生涯学習」を分析し、社会教育施設としての公民館や博物館、図書館等の役割について考察するとともに学習支援者としての役割について考察していきます。授業全体を通して、主体的で対話的な深い学びの実践を目指します。毎回、授業の内容から課題をとらえ実施する課題レポートは、評価を加えて次回授業冒頭に返却し、フィードバックします。また、「学び」について様々な角度から考えていくため、現代的課題をとらえながら我が国の現状と課題について考え、未来に向けた学びの視点を育んでいきます。さらに最終回の授業において、授業全体をフィードバックします。☒ なお、福島県の教育行政において実務経験である社会教育課勤務を活かした社会教育主事の視点での実践的な指導を行うとともに学校教育現場の実務経験をふまえながら学校教育との関連性を持たせ、社会教育施設の役割や生涯学習の意義を捉える観点を重視します。 ☒ 実務経歴：福島県立高等学校校長、教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。 ☒ ☒ 位置づけ・水準　CD1104		
達成目標	1.現代的課題を踏まえ「生涯学習」の意義と必然性を理解する。☒ 2.「社会教育」と「生涯学習」の関連性を理解する。 3.「生涯学習」の観点から社会教育施設の意義を理解する。☒ 4.「知の拠点」としての社会教育施設の役割を理解する。☒ 5.家庭教育について現状と課題を把握し、地域における家庭教育支援のあり方を考える。☒ 6.主体的で対話的な学びを通じて、生涯学習を推進するための学習支援者としての実践力を育む。☒ 単位認定の最低基準は、上記1～6の総合的評価が達成度７割以上であること。 ☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、創造的思考力、主体的行動力		
受講資格	科目を選択履修した者、司書、学芸員補資格取得希望者	**成績評価方法**	各授業ごとに実施されるワークシート、自宅学習の課題として出される課題レポート（40%）、最終回のまとめの授業で実施される理解度確認テスト（50%）、授業への意欲・態度（10%） 以上の内容で総合評価し60%以上が合格となる。
教科書	二訂「生涯学習概論」執筆・編集代表　馬場祐次朗 授業ごとに作成した自筆ノートと配布プリントを一緒にファイリングすること。		
参考書	・山本順一、前平泰志、渡邉洋子監修『生涯学習概論－知識基盤社会で学ぶ・学びを支える』ミネルヴァ書房、2014年☒ ・浅井経子編著『生涯学習概論－生涯学習社会への道－増補改訂版』理想社		
学生への要望	「生涯学習」とは、何か。「学ぶ」とは何か。未来に向けて何が課題となっているのか。社会教育の果たす役割と社会教育施設の意義を踏まえ、確かな知識を獲得しながら、自己の思考を展開していく主体的な姿勢を持って授業に臨んでください。		
オフィスタイム	被服学研究室（家政学館4階）☒		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション☒	前半は、授業を受けるにあたっての一般的注意事項や授業計画・評価方法等について説明する。生涯学習について導入を行う。 「学び」について、次の授業までにレポートにまとめる。☒	ノート整理☒ 課題レポート	90
2	「生涯学習」の現代的意義	前時の教育モデルに関する受講生の認識を基盤にしながら、「生涯学習」とは何か、「学ぶ」とは？について理解を深める。	ノート整理☒ 課題レポート	90
3	「生涯学習振興施策」の動向	「生涯学習論」について、リカレント教育について、学びについて理解を深める。	ノート整理☒ 課題レポート	90
4	「社会教育」の概念と意義	「社会教育」の概念と意義について理解を深め「社会教育」の特質について注目し、日本における歴史的展開とその意義を理解する。	ノート整理☒ 課題レポート	90
5	「社会教育」の特質	「社会教育」の特質について理解し、デンマークにおけるワーク・ライフ・バランスについて着目し子育て支援策についても理解を深める。	ノート整理☒ 課題レポート	90
6	「社会教育」の対象	「社会教育」の対象として学習者の特性を理解し、「社会教育」の内容、方法、形態について学ぶ。	ノート整理☒ 課題レポート	90
7	日本における社会教育の歴史的展開	日本における社会教育の歴史的展開とその意義について理解を深める。	ノート整理☒ 課題レポート	90
8	社会教育の基本法令・施策	社会教育の基本法令から学校教育との連携やその補完機能としての期待を担った社会教育の役割を理解する。	ノート整理☒ 課題レポート	90
9	社会教育に関する団体と指導者	社会教育に関する団体について理解を深め、行政との関係と団体への学びの支援、社会教育に関する指導者について学ぶ。	ノート整理☒ 課題レポート	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	社会教育施設の意義と役割	社会教育施設の法的根拠や「知の拠点」として果たす役割について、各社会教育施設の特徴を把握しながら理解を深める。	ノート整理☒ 課題レポート	90
11	社会教育施設における事業と生涯学習	地域における「知の拠点」としての役割を果たすとともに、人々の「生涯学習」を支援するための事業について、図書館、公民館における事業について理解する。	ノート整理☒ 課題レポート	90
12	生涯学習社会と家庭教育	現代社会における子育ての現状と課題を把握しながら、地域における家庭教育支援に向けた生涯学習施策について考える。スウェーデンにおけるワーク・ライフ・バランスについて着目し子育て支援策についても理解を深め、我が国との比較により、今後の支援策の在り方を考える。	ノート整理☒ 課題レポート	90
13	生涯学習社会と学校教育	学校教育との連携において社会教育の果たす役割を認識しながら、「学校」「家庭」「地域」の一体となった教育を推進していくために必要な施策について考える。	ノート整理☒ 課題レポート	90
14	現代的課題と生涯学習の役割	知識を創る学習を奨励する意味での「知識基盤社会」の持つ可能性と課題とを明らかにする。	ノート整理☒ 課題レポート	90
15	授業のまとめ	授業のまとめを行う。	確認テスト☒ レポート	90

令和3年度

科目名	図書館概論	**対象**	
担当教員	和知　剛	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
開講期	I	**必選**	
授業概要	「図書館」とは何か，その意義と役割を，その理念・歴史・教養の3つの面からそれぞれ説き起こす。講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。市井においては公共図書館のよき理解者であり利用者，大学においては大学図書館のよき利用者たることを目指す。担当教員はこれまで大学図書館に30年ほど勤務してきた実務経験から得た，専門的な知識および専門的なスキルを活用して，図書館の過去と現在，そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。☒ 担当教員は大学図書館に30年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。☒ ☒ 位置づけ・水準　CD2110		
達成目標	単位認定の最低基準は，①内容の8割を理解すること，②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探求し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることである。		
受講資格	地域創成学科に在籍する1年生。司書ユニット受講の有無は問わない。	**成績評価方法**	レポート3割，期末試験7割で評価します。
教科書	『図書館情報学基礎資料』樹村房		
参考書	大学図書館のNDC010-019に排架されている書籍はすべて参考書		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがある。		
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分－12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	図書館のイメージとその多様性	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	「図書館」とは何か	「図書館」の定義と公共図書館vs公立図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	図書館施設・図書館建築	図書館建築に求められる機能と役割	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	図書館資料	図書館資料の種類と求められる役割	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	図書館員	図書館員に求められる役割	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	図書館利用者	「図書館利用者」とは誰のことか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	図書館史（1）	図書館の起源・イギリスの公共図書館・アメリカの公共図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	図書館史（2）	日本の公共図書館史（1）明治・大正時代まで	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	図書館史（3）	日本の公共図書館史（2）昭和戦前期	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	図書館史（4）	日本の公共図書館史（3）戦後復興から『市民の図書館』の時代へ	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	図書館史（5）	日本の公共図書館史（4）ポスト『市民の図書館』の動き	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	「社会的共通資本」としての図書館	「図書館」に期待されている役割・場所としての図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	図書館を支える基盤（1）	出版流通業界について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	図書館を支える基盤（2）	「読書」について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	「図書館」とは何か・再び	これまでの講義のまとめとこれからの展望	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

令和3年度

科目名	博物館概論	**対象 単位数 必選**	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	會田　容弘		
開講期	Ⅰ		
授業概要	東北大学文学部考古学研究室助手として研究室が保管する考古資料の貸し出し業務を行った。奥松島縄文村歴史資料館学芸員として歴史資料館立ち上げの過程に携わり、常設展製作、映像資料の製作を行った。オープン後は企画展・体験学習の実施、博物館経営、発掘調査による資料収集を担ってきた。それらの経験を活かし、博物館の様々な側面を経験に基づいて講義を行う。博物館概論とは博物館法施行規則に記載されている博物館学芸員資格を取得するための必修科目のひとつである。本科目を履修する学生は博物館学芸員資格を取得し、将来博物館学芸員という職業に就くことを希望し、学芸員としての専門性は各自の専攻分野によって養われつつあることが前提となる。博物館概論もその専門性と密接にかかわる部分がある。特に地域創成学科では選択専門科目でもあることから、法規、倫理、歴史、学芸員の仕事など博物館について広範囲に学習する。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。☒ 位置付け水準　CD2120		
達成目標	＜到達目標＞博物館学芸員課程科目の基礎を理解し、博物館の専門分野の理解に至るに、十分な知識を獲得すること。☒ 博物館利用者として、十分な知識を持つこと。単位認定の最低基準は授業内容の7割以上を理解していること。ディプロマポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力		
受講資格	地域創成学科学生及び学芸員資格取得希望学生	**成績評価 方法**	レポートと試験(レポート50%、試験50%)。６０点以上で合格とする。学芸員資格取得には80%以上の授業理解を求める。
教科書	『博物館概論』		
参考書	文化学科（資格課程）報告集第４～21集,地域創成学科報告集第1・２集		
学生への要望	博物館で将来働くことを希望する学生はなるべく多くの博物館施設を見学していることが望ましい。また、博物館が置かれている社会状況についても十分注意を払ってほしい。		
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日2・4時限目。重要な質問がある場合は事前にメールでアポをとってから面会に来ること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	0：博物館学の受講の前に	博物館学は地域創成学科卒業選択共通専門科目であると同時に、学芸員資格課程の必修科目である。学芸員資格を取得するための方法、及び学芸員資格取得に必要な必修科目、選択科目に博物館法施行規則にのっとり、説明を行う。☒	授業内容を整理し、レポートで用いる見学したい博物館を博物館・美術館ホームページなどで検索する。	30
2	1：博物館とは何か	教育基本法－社会教育法－博物館法－博物館法施行令－博物館法施行規則－基準－取り扱いに基づいて、日本における博物館の法的位置づけを説明する。☒	授業内容を整理し、見学したい博物館の事前調査を行い、その博物館の使命や概要をまとめておく。博物館の見学を行う。	30
3	2：続・博物館とは何か	博物館について、博物館法をもとに説明する。法規はシラバスに掲載されているホームページを開き、ダウンロードしておく必要がある。☒ ☒	授業内容を整理し、授業で取り上げた教育基本法－社会教育法－博物館法－博物館法施行令－博物館法施行規則－基準－を出力し、ノートに加えておく。	30
4	3：さまざまな博物館	博物館はその収集展示する資料による分類、設立主体による分類、博物館法による制度別分類、運営手法による分類、機能による分類、資料の展示場所による分類ができる。実例をあげながらそれを説明する。	授業内容を整理し、見学した博物館について概要、展示内容、注目した点などを箇条書きにまとめておく。	30
5	4：博物館学芸員の役割（1）	博物館法、公立博物館の条例に記された博物館学芸員の役割について、法規に基づいた説明を行う。	授業内容を整理し、レポートを作成してみる。	30
6	5：博物館学芸員の役割（2）	奥松島縄文村歴史資料館学芸員の実例をあげながら、学芸員の一年を通した仕事内容を説明する。	授業内容を整理し、レポートを推敲し、不足部分を補う。	30
7	6：博物館の歴史（1）	欧米における博物館の成立から現代にいたる博物館について、通史的に説明する。博物館前史の説明を行う。近代博物館成立以前に博物的機能をもった様々な施設を紹介する。☒	授業内容を整理し、レポートを完成させる。	30
8	7：博物館の歴史（2）	日本における近代博物館の歴史は東京国立博物館の歴史でもある。国威発揚の帝室博物館、教育施設としての科学博物館を対比しながら説明する。☒	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のＨＰを閲覧する	30
9	8：博物館の歴史（3）	地方博物館は1970年代から整備される。それ以前にも博覧会、私立博物館、私立美術館、水族館などが地方に建設されていた。東北地方の博物館の歴史をみてゆく。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のＨＰを閲覧する。	30
10	9：博物館組織と運営	博物館法に基づいた博物館組織を説明し、実例をあげてその運営を解説する。☒	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のＨＰを閲覧する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	１０：生涯学習と博物館、地域社会と博物館	生涯学習をおこなう博物館の実例をあげて説明する。地域社会と博物館の関係をとりあげ説明する。☒	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のＨＰを閲覧する。	30
12	１１：学校教育と博物館、文化財保護と博物館、自然保護と博物館	学校教育と連携した博物館の実例の説明、文化財保護・自然保護を押し進める博物館の実例をあげて説明する。☒	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のＨＰを閲覧する。文化財保護法を出力し、ノートに加える。	30
13	１２：博物館の現状と課題（１）	博物館の置かれているさまざまな問題について検討する。博物館法改正の現状や指定管理者制度導入、平成の大合併による市町村博物館の実態などについて実例をあげて検討する。	授業内容を整理し、指定管理者制度についてネットでしらべてみる。	30
14	１３：博物館の現状と課題（２）	博物館の位置づけは時代によって異なる。博物館法が成立した1950年代と現代では社会環境が大きく異なっている。今博物館は何を求められ、博物館は何ができるのかを考え、これからの博物館について、望ましい姿を模索する。	授業内容を整理し、試験に備え、全体を振り返ってみる。、	30
15	１４：博物館の危機管理	３・１１東日本大震災で多くの博物館は被災した。これらのことから博物館における危機管理の問題が改めて注目されている。阪神大震災などと比較しながら博物館の被害状況、対応、再生を考えてみたい。	授業内容を整理し、試験に備え、全体を振り返ってみる。、	30

令和3年度

科目名	デザイン論	**対象**	
担当教員	小松　太志	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
開講期	II	**必選**	

授業概要	▼授業の目的・ねらい ①近代デザインの歴史を概観し、デザインが社会とどのような関わりを持って発展してきたのかについて理解を深める。 ②近年の社会的動向から、拡張したデザインの概念について理解を深める。 ▼授業全体の内容の概要 ①近代デザイン史を概説する。 ②「デザイン思考」をもとに、課題解決手法としてのデザインについて学修する。 ③ソーシャルデザインの事例をもとに社会的課題を解決するためのデザインについて学修する。 ▼実務経験に関連する内容 広告制作会社に勤務した経験を活かして、コミュニケーション手法としてのデザインについて実例とともに説明する。 実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務 ▼課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
達成目標	▼達成目標 ①近代デザイン史の概要を理解している。 ②デザインに基づく思考やものの見方を理解している。 ③社会との関わりの中でデザインの果たす役割について理解している。 ▼単位認定の最低基準 ・授業内容の7割を理解していること。 ▼ディプロマ・ポリシーとの関係

受講資格	地域創成学科1年	**成績評価方法**	授業の総合的理解度が７割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。 ①授業への態度・意欲（30%） ②授業内容の理解度（30%） ③期末レポート（40%）

教科書	適宜、ハンドアウトを配布する。
参考書	適宜、提示する。
学生への要望	・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。
オフィスタイム	火曜日　12:50～16:00　No.3地域創成学科研究室

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	ガイダンス⇒デザインの履修、授業内容について説明する。	【事前学習】身の回りのデザインについて調べる。 【事後学習】授業で紹介したデザイナーについて調べる。	60
2	デザインのコトバ	デザイン理論を学修するにあたってデザインにかかわる言葉について全体的に説明する。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
3	デザインのコトバ	デザイン理論を学修するにあたってデザインにかかわる言葉について全体的に説明する。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
4	近代デザインの歴史的背景と思想	近代以降のデザイン史について概説する。デザイン史の流れと概念の変遷を理解する。近代デザインの萌芽とされるアーツ・アンド・クラフツ運動を中心に19世紀のデザインについて学修する。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
5	近代デザインの歴史的背景と思想	アール・ヌーヴォーに代表される19世紀末から20世紀初頭のデザイン運動について学修する。 20世紀初頭のドイツ工作連盟からバウハウス閉校までの歴史を学修する。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
6	近代デザインの歴史的背景と思想	20世紀初頭～戦後の日本やアメリカ，ヨーロッパを中心としたデザイン運動について包括的に学修する。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
7	デザインの種類	現在のデザインの概念・領域は拡張している。全体像を把握するために，デザインを媒体や表現手法で分類し概観する。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	デザインの種類	現在のデザインの概念・領域は拡張している。全体像を把握するために，デザインを媒体や表現手法で分類し概観する。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
9	デザインのプロセス	現在，デザインの概念はかつてないほどに拡張して，多様な分野でデザインの思考や技術は必要とされている。デザインプロセスについて学修し、デザインの本質的価値は何かを考える。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
10	デザインのプロセス	コンセプトからデザインを考える。コト・モノには目的や機能があり，制作物としてつくられるものは全て目的・機能のために設計されている。デザイン事例とともにコンセプトと制作物の関係を探る。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
11	デザインのプロセス	コンセプトからデザインを考える。コンセプトがどのように制作物に反映されるべきか。レイアウトや配色，タイポグラフィの観点からコンセプトについて考える。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
12	デザインのプロセス	コンセプトからデザインを考える。コンセプトがどのように制作物に反映されるべきか。レイアウトや配色，タイポグラフィの観点からコンセプトについて考える。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
13	社会とデザイン①	社会的課題に対してその解決策をデザインする行為をソーシャルデザインと呼ぶ。ソーシャルデザインの事例を紹介し、社会におけるデザインの果たす役割について考える。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
14	社会とデザイン②	社会的課題に対してその解決策をデザインする行為をソーシャルデザインと呼ぶ。ソーシャルデザインの事例を紹介し、社会におけるデザインの果たす役割について考える。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60
15	社会とデザイン③	社会的課題に対してその解決策をデザインする行為をソーシャルデザインと呼ぶ。ソーシャルデザインの事例を紹介し、社会におけるデザインの果たす役割について考える。	【事前学習】配布資料を読んで、予習する。 【事後学習】授業内容をまとめる。	60

令和3年度

科目名	情報処理Ⅱ	**対象**	
担当教員	山口　猛	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
開講期	Ⅱ	**必選**	
授業概要	いかなる職業においても必要なパソコン活用能力の習得に向けて、情報処理士の資格取得が目指せることは、ご承知の通りです。昨今の就職活動や就業後のキャリアアップにおいて注目されている、Microsoft Office Specialist Word2019の受験に相当する内容を学びます。また、IT企業でのシステムエンジニア勤務経験を活かし、実務的なパソコン活用力について考慮した授業を行います。☒ ☒ 実務経歴：システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務☒ システム開発・情報処理の経験をもとに、文書作成・表計算についての授業を行う。☒ ☒ 間違いの多い箇所の解説を授業で解説することで、フィードバックを行います。☒ また、随時質問を授業内外で受け付け、対面でフィードバックを行います。☒ ☒ 位置づけ・水準　CD2130		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。☒ 1. Microsoft Office Specialist Word2019スペシャリストレベルの合格に必要なスキルを身につける☒ 2. Word2019の応用的な利用方法を身につける☒ 3. Word2019において、操作時の不明点を自分で調べ、解決することができる☒ ☒ 模擬試験プログラムを実施し、６０％以上の理解・正解すること☒ ディプロマポリシーとの関係：知識理解		
受講資格	なし。	**成績評価方法**	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価は学習意欲（随時課題提出）20%、模擬試験プログラム成績80%とする。
教科書	Microsoft Word 2019 対策テキスト& 問題集		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月曜日２・４限、芸術館2階　No.3地域創成学科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、パソコンのセットアップを行う。	パソコンのセットアップ後の、操作方法を復習する。	30
2	文書の作成と管理（１）	テンプレート、PDF作成、外部データインポート、検索、ハイパーリンク、ページ設定、ヘッダー・フッター、頁番号、プロパティ設定、クイックアクセスツールバー設定、アクセシビリティ検査、下位バージョン互換性検査	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
3	文書の作成と管理（２）	2回目と同じ。（テンプレート、PDF作成、外部データインポート、検索、ハイパーリンク、ページ設定、ヘッダー・フッター、頁番号、プロパティ設定、クイックアクセスツールバー設定、アクセシビリティ検査、下位バージョン互換性検査）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
4	文字、段落、セクションの書式設定（１）	置換、オートコレクト、特殊文字、フォント変更、行の間隔、段落の間隔、配置、インデント、書式コピー、強調表示、ワードアート、組み込みスタイル、ページ区切り、段組み、セクション区切り	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
5	文字、段落、セクションの書式設定（２）	4回目と同じ。（置換、オートコレクト、特殊文字、フォント変更、行の間隔、段落の間隔、配置、インデント、書式コピー、強調表示、ワードアート、組み込みスタイル、ページ区切り、段組み、セクション区切り）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
6	表やリストの作成（１）	表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、箇条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
7	表やリストの作成（２）	6回目と同じ。（表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、箇条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	参考資料の作成と管理（1）	脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
9	参考資料の作成と管理（2）	8回目と同じ。（脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
10	グラフィック要素の挿入と書式設定（1）	図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
11	グラフィック要素の挿入と書式設定（2）	10回目と同じ（図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
12	模擬試験（1）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
13	模擬試験（2）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
14	模擬試験（3）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
15	まとめ	総合確認と、Microsoft Office Specialist Word2019スペシャリストレベル 受験計画	授業内で指定する模擬試験について、100%中80%程度の正解率を目指し、実施する。	60

令和3年度

科目名	情報処理III	**対象**	
担当教員	山口　猛	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
開講期	III	**必選**	

授業概要	いかなる職業においても必要なパソコン活用能力の習得に向けて、情報処理士の資格取得が目指せることは、ご承知の通りです。昨今の就職活動や就業後のキャリアアップにおいて注目されている、Microsoft Office Specialist Excel2016の受験に相当する内容を学びます。また、IT企業でのシステムエンジニア勤務経験を活かし、実務的なパソコン活用力について考慮した授業を行います。☒ ☒ 実務経歴：システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務☒ システム開発・情報処理の経験をもとに、文書作成・表計算についての授業を行う。☒ ☒ 間違いの多い箇所の解説を授業で解説することで、フィードバックを行います。☒ また、随時質問を授業内外で受け付け、対面でフィードバックを行います。☒ ☒ 位置づけ・水準　CD2230
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。☒ 1. Microsoft Office Specialist Excel2016スペシャリストレベルの合格に必要なスキルを身につける☒ 2. Excel2016の応用的な利用方法を身につける☒ 3. Excel2016において、操作時の不明点を自分で調べ、解決することができる☒ ☒ 課題１～３を実施し、６０％以上の理解・正解すること☒ ☒ ディプロマポリシーとの関係：知識理解

受講資格	なし。	**成績評価方法**	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題１を２０％、課題２を４０％、課題３を４０％とする。
教科書	Microsoft Excel 2016 対策テキスト& 問題集		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月曜日２・４限、芸術館2階　No.3地域創成学科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、パソコンのセットアップを行う。	パソコンのセットアップ後の、操作方法を復習する。	30
2	ワークシートやブックの作成と管理（1）	1-1　ワークシートやブックを作成する 1-2　ワークシートやブック内を移動する 1-3　ワークシートやブックの書式を設定する	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
3	ワークシートやブックの作成と管理（2）	1-4　ワークシートやブックのオプションと表示をカスタマイズする 1-5　配布するためにワークシートやブックを設定する 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
4	セルやセル範囲のデータの管理（1）	2-1　セルやセル範囲にデータを挿入する 2-2　セルやセル範囲の書式を設定する 2-3　データをまとめる、整理する 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
5	テーブルの作成	3-1　テーブルを作成する、管理する 3-2　テーブルのスタイルと設定オプションを管理する 3-3　テーブルのレコードを抽出する、並べ替える 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
6	数式や関数を使用した演算の実行	4-1　関数を使用してデータを集計する 4-2　関数を使用して条件付きの計算を実行する 4-3 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	表やリストの作成	6回目と同じ。（表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、箇条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
8	参考資料の作成と管理（1）	脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
9	参考資料の作成と管理（2）	8回目と同じ。（脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
10	グラフィック要素の挿入と書式設定（1）	図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
11	グラフィック要素の挿入と書式設定（2）	10回目と同じ（図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
12	模擬試験（1）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
13	模擬試験（2）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
14	模擬試験（3）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
15	まとめ	総合確認と、Microsoft Office Specialist Excel2016スペシャリストレベル 受験計画	授業内で指定する模擬試験について、100%中80%程度の正解率を目指し、実施する。	60

令和3年度

科目名	考古学	**対象**	
担当教員	會田　容弘	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
開講期	Ⅱ	**必選**	
授業概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。史跡整備、埋蔵文化財の範囲確認・試掘・記録保存、学術調査などのさまざまな目的の発掘調査の実務経験を活かし、現実社会に応用できる実践的な考古学について講義を行う。考古学は物から人類の過去を明らかにする学問である。考古資料というモノからどのようにして人類の過去を明らかにするのか、考古学の基本的な考え方、方法について講義を行う。課題は「めばえ」を通じて発表し、学生は期限までに提出する。それを添削し、コメントを加えフィードバックを行う。☒ 位置付け・水準CD2153		
達成目標	＜到達目標＞考古学の基本概念、用語を理解し、考古学論文を読解するの十分な知識を得ること。成績認定基準に基づき、７割以上の理解が望ましい。 ディプロマポリシーとの関係：知識理解創造的思考力		
受講資格	地域創成学科学生	**成績評価方法**	試験結果と授業への積極的な参加度を評価し、100点を満点とする。６０点以上を合格とする。考古学で卒業論文を作成する学生は、講義内容の8割以上の理解が望ましい。
教科書	浜田耕作『通論考古学』、泉拓良『考古学ーその方法と現状』		
参考書	授業の中で紹介する。		
学生への要望	予習復習を行うこと。シラバスを参考にして、事前学習を行うこと講義で用いたパワーポイントは講義後、公開するので、復習で授業内容を確認すること。		
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日２・４時限目。考古学研究室または考古学実習室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	考古学とは何か	考古学的な思考の成立と簡単な研究史を述べた上で、考古学の定義と範囲について述べる。考古学のめざすものについて、考古学の現代的諸問題を説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
2	考古資料論（1）	考古資料については浜田耕作の定義を紹介し、遺物、遺構、遺跡について説明し、それらを分類し、その特質を説明する。考古資料の特質、考古資料の資料的価値、考古学の限界について説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
3	考古資料論（2）	考古資料の分類を説明し、実際の遺物を実例を示しながら説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
4	発掘調査の方法	分布調査、測量調査、予備調査、本調査の方法について説明し、さらに文化財保護法にある発掘調査の法的手続きについて説明する。	授業内容を整理する。	30
5	発掘調査の実例	郡山女子大学短期大学部文化学科考古学研究室で2001年から継続して行っている笹山原遺跡No.16の調査の積み重ねとその成果について、記録画像を見ながら説明する。宮城県東松島市里浜貝塚の発掘調査について調査の記録画像を見ながら説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
6	文化財保護法	日本では考古学と文化財は不可分の関係にある。戦後日本の考古学は埋蔵文化財保護のために莫大な予算を投入した。その法的背景にある文化財保護法について説明する。	授業で取り上げた文化財保護法を指定HPからダウンロードし、熟読すること。	30
7	層位学的研究法	特殊的研究法のひとつである層位学的研究法を概説する。☒ 層位学的編年の例☒ 1）☒窟堆積層によるフランス旧石器の編年☒ 2）☒山灰編年学を用いた広域編年☒ 3）☒塚堆積層を用いた縄文土器編年	授業内容を整理する。	30
8	層位的研究法の実例	松本彦七郎博士の里浜貝塚の層位的発掘調査について、東北大学理学部に保管されていた松本資料を用いて再検討を行った。その結果松本博士は正しく層位的発掘を行っていたことが明らかになった。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
9	型式学的研究法	古典的型式学。浜田耕作の型式学を説明し、O．モンテリウスや田中琢の例示した型式の組列を説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	型式学的研究法の実例	型式の考古学的意味について考える。Ｊ．ディーツとデスレフスンの「ドクロ、智天使、柳と骨壷」の論文を説明し、型式の意味を考える。☒ 型式の認定方法について様々な議論がある。ホッドソンが４人の考古学者と1人の解剖学者に留め針を分類させた結果とコンピュータを用いた分析について説明する。	授業内容を整理する。	30
11	暦年代決定の方法	暦は年代決定の物差しである。キリスト紀元をいかにさかのぼらせることができるか。エジプト王名表をもとに、民衆暦とソティス暦を繋ぎ合わせたマイヤーの研究を紹介する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
12	暦年代決定の実例	日本の先史時代の暦年代は中国の暦に頼らざるを得ない。中国と直接交渉のない時代は朝鮮半島を経由して暦年代を決定している。暦年代を決定する資料を紹介しながら、日本の暦年代について説明する。日本国内においても、暦年代を決定するためには大きな困難を伴う。文献と考古資料の間がそこにはある。文献や文字資料を用いて考古資料の相対編年に暦年代を与える問題点を検討する。	授業内容を整理する。	30
13	理化学的年代決定法（１）	理化学的年代決定法は暦とはまったく別の原理に基づいて年代を決定する方法である。地球の周期的な変化に基づく年代推定法と不安定な原子が崩壊する速度を時間の単位する方法がある。まず、地球の周期的な変化から説明する。年輪年代決定法の原理と実際の応用例について説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
14	理化学的年代決定法（２）	放射性炭素年代測定法の原理を説明し、その実際の測定方法、測定資料、測定例を紹介する。放射性炭素年代測定法の登場によって考古学界に起こった短期編年・長期編年論争について説明する。放射性炭素年代決定法によって明らかになった年代の実例。放射性炭素年代測定の補正によって暦年代に置きなおされた年代とその問題点を検討する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
15	考古学と現代社会	考古学と現代社会の関係を述べ、考古学の将来を考える。	授業内容を整理する。	30

令和3年度

科目名	介護概論	**対象**	
担当教員	廣野　正子	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
開講期	Ⅳ	**必選**	
授業概要	介護の社会化の背景を理解し介護の意義について演習や映像などを通して考える。さらに、「介護」について自分自身に起こりえることを理解し、そこから人の理解として、からだのメカニズムを基に健康なからだを考察して介護が必要な方の理解につなげる。☒ また、リアクションペーパー・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。☒ ☒ 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護概論の授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ 位置づけ・水準　CD2142		
達成目標	介護は生活の中に存在する身近な行為であることを理解し、介護を通して生活の質を考慮した人生を考えることができる。☒ １．介護の社会化による介護保険制度を理解する。☒ ２．地域における高齢者を把握し、介護を必要とするひとを理解する。☒ ３．からだのメカニズムを理解し、自身の体調管理につなげることができる。☒ 単位認定の最低基準：からだのメカニズムについて7割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力		
受講資格	地域創成学科２年生	**成績評価方法**	リアクションペーパー14回分（60点）☒ 筆記試験（40点）
教科書	なし　授業毎に必要な資料等を配布します。		
参考書	授業の中で随時紹介します。		
学生への要望	介護は身近な課題であることを理解し、主体的に学んでください。		
オフィスタイム	時間：水曜日１限、木曜日１限☒ 場所：創学館４階№１研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1．授業の目的とシラバスについて説明	「介護」のイメージをまとめる。	30
2	介護の歴史	1．介護の意義 2．日本における介護の成り立ち	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
3	介護の歴史	1．老人ホームの質的変化 2．介護の社会化	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
4	介護事例	1．介護の実践（事例から考察） 2．脳血管障害	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
5	介護の理解	1．介護福祉の概念 2．自己実現「マズローの欲求」	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
6	高齢者の理解	1．目の病気、難聴、加齢による変化（消化）	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
7	高齢者の理解	1．老化の定義 2．介護保険制度	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
8	認知症の理解	1．認知症の定義 2．中核症状、周辺症状	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
9	認知症の理解	1．認知症に種類 アルツハイマー型認知症と脳血管認知症	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
10	認知症の理解	1．長谷川式簡易スケール 「認知症の第一人者が認知症になった」	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
11	認知症の理解	1．認知症予防 2．介護予防	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
12	ストレス	1．ストレス 2．アンガーマネジメント	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
13	アロマテラピー	1．アロマテラピーのメカニズム 2．女性のからだのリズム	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
14	アロマテラピー	1．高齢者、介護者のアロマテラピー 2．アロマテラピーの取り入れ方	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
15	介護概論のまとめ	1．高齢者の日常から介護を考える 2．これまでの授業の総括	「介護」の意義を考察し、加齢に伴う身体のメカニズムについて理解する。	30

令和3年度

科目名	ＣＧ基礎Ⅰ	**対象**	
担当教員	小松　太志	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
開講期	Ⅰ	**必選**	

授業概要	▼授業の目的・ねらい ①造形表現を行なう上で必要となるコンピュータの基礎知識・操作方法を修得すること。 ②Draw系グラフィックソフトウェアの操作方法を修得すること。 ③コンピュータを使用して、用途・目的に応じた適切なデザイン制作を行えるようになること。 ▼授業全体の内容の概要 ①グラフィックアプリケーション（Draw系）の操作方法（オブジェクトの選択・描画・編集・カラー設定・レイヤー操作）を学修する。 ②Illustrator®クリエイター能力認定試験対応のテキストを使用して、授業を行なう。 ▼実務経験に関連する内容 ・広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザイン制作におけるコンピュータ利用についての実践的な指導も行う。 ・実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務 ▼課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
達成目標	▼達成目標 ①コンピュータ・グラフィックス技術の基礎的理解が為されている。 ②グラフィックアプリケーション（Draw系）の基礎的操作方法を習得している。 ③コンピュータによる造形表現の特性が理解できている。 ▼単位認定の最低基準 ・授業内容の7割を理解していること。 ▼ディプロマ・ポリシーとの関係

受講資格	地域創成学科１年☒	**成績評価方法**	授業の総合的理解度が７割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。☒ ①課題作品の制作過程（40%）☒ ②課題作品（40%）☒ ③課題作品の提出状況（20%）
教科書	Illustrator®クイックマスターCC Windows&Mac、株式会社ウイネット		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。		
オフィスタイム	火曜日　12:50～16:00　No.3地域創成学科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	▼ ＣＧ基礎 Ⅱ の授業計画と授業目標について説明する。 ▼CG演習室の使用方法と機器設備について説明する。授業で使用するコンピュータに個々のアカウントを作成する。	【事前学習】CG分野作品について調べる。 【事後学習】コンピュータの基本操作について復習する。	60
2	基本操作	▼Illustratorの起動と作業エリア、アートワークの表示とプリント、環境設定について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部　基本操作編 Chapter1」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
3	オブジェクトの基本操作	▼塗りと線、オブジェクトの描画、基本的な編集操作、レイアウトの補助機能について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部　基本操作編 Chapter2」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
4	パスの描画(1)	▼パスの基本的な描画、パスの編集について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部　基本操作編 Chapter3」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
5	パスの描画(2)	▼パスの基本的な描画、パスの編集について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部　基本操作編 Chapter3」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	カラー設定	▼カラーパレットによるカラー設定、スウォッチ、パターン、グラデーション、アピアランスについて学修する。	【事前学習】テキスト「第1部　基本操作編 Chapter4」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
7	オブジェクトの編集	▼ レイヤー、パスの編集、オブジェクトの組み合わせによる編集について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部　基本操作編 Chapter5」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
8	文字	▼文字の作成、文字関連の機能について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部　基本操作編 Chapter6」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
9	知識理解の確認①	▼実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について、復習する。	【事前学習】テキスト「第2部　コンテンツ制作編 Chapter1」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
10	知識理解の確認②	▼模擬テストの結果を確認する。回答について、解説を行なう。	【事前学習】テキスト「第2部　コンテンツ制作編 Chapter1」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
11	知識理解の確認③	▼実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について、復習する。	【事前学習】テキスト「第2部　コンテンツ制作編 Chapter2」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
12	知識理解の確認④	▼模擬テストの結果を確認する。回答について、解説を行なう。	【事前学習】テキスト「第2部　コンテンツ制作編 Chapter2」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
13	知識理解の確認⑤	▼実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について、復習する。	【事前学習】テキスト「第2部　コンテンツ制作編 Chapter4」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
14	知識理解の確認⑥	▼模擬テストの結果を確認する。回答について、解説を行なう。	【事前学習】テキスト「第2部　コンテンツ制作編 Chapter5」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
15	知識理解の確認⑦	▼実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について、復習する。	【事前学習】テキスト「第2部　コンテンツ制作編 Chapter5」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60

令和3年度

科目名	ＣＧ基礎Ⅱ	**対象**	
担当教員	小松　太志	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
開講期	Ⅱ	**必選**	

授業概要	▼授業の目的・ねらい ①造形表現を行なう上で必要となるコンピュータの基礎知識・操作方法を修得すること。 ②Paint系ソフトウェアの操作方法を修得すること。 ③コンピュータを使用して、用途・目的に応じた適切な画像編集を行えるようになること。 ▼授業全体の内容の概要 ①グラフィックアプリケーション（Paint系）の操作方法（オブジェクトの選択・描画・編集・カラー設定・レイヤー操作）を学修する。 ②Photoshop®クリエイター能力認定試験対応のテキストを使用して、授業を行なう。 ▼実務経験に関連する内容 ・広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザイン制作におけるコンピュータ利用についての実践的な指導も行う。 ・実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務 ▼課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
達成目標	▼達成目標 ①コンピュータ・グラフィックス技術の基礎的理解が為されている。 ②グラフィックアプリケーション（Paint系）の基礎的操作方法を習得している。 ③コンピュータによる造形表現の特性が理解できている。 ▼単位認定の最低基準 ・授業内容の7割を理解していること。 ▼ディプロマ・ポリシーとの関係

受講資格	地域創成学科１年☒	**成績評価方法**	授業の総合的理解度が７割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。☒ ①課題作品の制作過程（40%）☒ ②課題作品（40%）☒ ③課題作品の提出状況（20%）
教科書	Photoshop®クイックマスターCC Windows&Mac、株式会社ウイネット		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。		
オフィスタイム	火曜日　12:50～16:00　No.3地域創成学科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	▼ＣＧ基礎 2の授業計画と授業目標について説明する。 ▼CG演習室の使用方法と機器設備について説明する。授業で使用するコンピュータに個々のアカウントを作成する。	【事前学習】CG分野作品について調べる。 【事後学習】コンピュータの基本操作について復習する。	60
2	Paint系アプリケーションとは	▼ファイル操作、作業エリア、画面表示と色の選択、環境設定について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部　基本操作編 Chapter1」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
3	選択範囲の作成	▼選択ツールとその他の選択方法について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部　基本操作編 Chapter2」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
4	画像の移動と変形	▼画像解像度とサイズ変更、画像のコピー&ペースト、画像の変形について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部　基本操作編 Chapter3」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
5	カラーモードと色調補正	▼カラーモード、色調補正について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部　基本操作編 Chapter4」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	ペイント	▼ペイント系のツール、レタッチ系のツール、ペイント系のコマンドについて学修する。	【事前学習】テキスト「第1部　基本操作編 Chapter5」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
7	レイヤーの操作	▼レイヤーの基本操作、調整レイヤーと塗りつぶしレイヤーについて学修する。	【事前学習】テキスト「第1部　基本操作編 Chapter6」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
8	パスとシェイプ、テキスト	▼パスの作成と編集、シェイプについて学修する。 ▼テキストの入力と編集、文字の加工について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部　基本操作編 Chapter7およびChapter8」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
9	フィルター	▼フィルタの概要と使用について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部　基本操作編 Chapter9」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
10	画像の入出力	▼保存形式、プリントとスキャナーについて学修する。	【事前学習】テキスト「第1部　基本操作編 Chapter10」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
11	知識理解の確認①	▼実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について、復習する。	【事前学習】テキスト「第2部　コンテンツの制作編 Chapter1」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
12	知識理解の確認②	▼模擬テストの結果を確認する。回答について、解説を行なう。	【事前学習】テキスト「第2部　コンテンツの制作編 Chapter2」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
13	知識理解の確認③	▼実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について、復習する。	【事前学習】テキスト「第2部　コンテンツの制作編 Chapter3」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
14	知識理解の確認④	▼模擬テストの結果を確認する。回答について、解説を行なう。	【事前学習】テキスト「第2部　コンテンツの制作編 Chapter4」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
15	知識理解の確認⑤	▼実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について、復習する。	【事前学習】テキスト「第2部　コンテンツの制作編 Chapter4」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60

令和3年度

科目名	考古学実習	**対象**	
担当教員	會田　容弘	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
開講期	通年	**必選**	
授業概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。史跡整備、埋蔵文化財の範囲確認・試掘・記録保存、学術調査などのさまざまな目的の発掘調査の実務経験を活かし、遺跡の発掘調査準備、調査、整理作業の実習を行う。5月に実施する実習発掘調査に向けて、様々な発掘調査の方法、実際について講義と実習を行ないながら学んでゆく。本年は５月８日から18日まで笹山原遺跡Ｎｏ．１６の実習発掘を実施する（會田容弘・洪惠媛授業担当）。受講者は発掘調査に参加しなくてはならない。発掘調査終了後は、発掘調査で出土した遺物の整理を行う。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。☒ 位置付け・水準CD2253		
達成目標	＜到達目標＞発掘調査の全過程を理解し、実際の発掘調査を行う場合、作業、資料整理の流れを理解できるレベルに到達できること。発掘調査・報告書製作補助ができること。単位認定の最低基準は授業内容の7割以上を理解していること。DPとの関係：課題解決力、主体的行動力		
受講資格	１年次において考古学を履修しているか、考古学の基本知識を有していること。	**成績評価方法**	レポート及び実習課題と授業への積極的な貢献状況を100点を満点として評価する。60点以上で合格とするが卒業論文を考古学で作成する学生は80%以上の理解が必要である。
教科書	『発掘調査のてびき』		
参考書	文化学科（資格課程）報告集第４～21集,地域創成学科報告集第1・２集☒		
学生への要望	考古学実習を受講する学生は5月に実施する笹山原遺跡Ｎｏ．１６の発掘調査に参加しなくてはなりません。何らかの事情で、全期間発掘調査に参加できない学生は會田に相談してください。		
オフィスタイム	考古学研究室または考古学実習室。火曜日3時限目・水曜日2・4時限目。メールの質問も可。レポート作成に関する質問を行う場合は事前にメールで質問内容を示してアポをとること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	猪苗代湖の自然史	笹山原遺跡群の位置する猪苗代湖の自然史について、福島大学を中心とした研究成果を紹介する。磐梯山の火山学的研究と湿原のボーリング調査によって得られた植生史から、人類が生活できる環境の変遷を述べる。	過去の発掘調査の理解。	30
2	笹山原遺跡群の調査史	郡山女子大学短期大学部考古学研究室によって実施された、笹山原Ａ遺跡、Ｎｏ．８遺跡、No.16遺跡の発掘調査の調査成果を紹介する。	過去の発掘調査の理解。	30
3	発掘調査の方法（１）	遺跡発掘調査方法について笹山原遺跡No.16の調査を示しながら講義を行う。発掘調査の手引きを参照する。	過去の発掘調査の理解。	30
4	発掘調査の方法（２）	発掘調査で用いる機材の名称、使い方について講義を行い、それを用いた実習を行なう。発掘調査の手引きを参照する。	過去の発掘調査の理解。	30
5	発掘調査実習（１）	笹山原遺跡において発掘調査における記録方法を説明する。出土位置の記録方法、レベルの使い方、平面図の描き方、層序断面図の描き方を説明する。発掘現場で用いる野帳の使い方、毎日記録する調査日誌の書き方を説明する。（會田容弘・洪惠媛授業担当）	発掘調査を行うにあたっての基礎的知識なので、各自内容を野帳にまとめておき、必要に応じて現場で確認できるように準備しておく。	30
6	発掘調査実習（２）	発掘調査区の設定を行う。設定した発掘区の表土除去を行う。（會田容弘・洪惠媛授業担当）	野帳に発掘調査の記録の整理。野帳をもとに、その日に行った調査内容を整理し、日誌にまとめる。	30
7	発掘調査実習（３）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱａ層上面の精査及び掘り下げ。（會田容弘・洪惠媛授業担当）	野帳に発掘調査の記録の整理。野帳をもとに、その日に行った調査内容を整理し、日誌にまとめる。	30
8	発掘調査実習（４）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱａ層上面の精査及び掘り下げ。（會田容弘・洪惠媛授業担当）	野帳に発掘調査の記録の整理。野帳をもとに、その日に行った調査内容を整理し、日誌にまとめる。	30
9	発掘調査実習（５）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱａ層上面の精査及び掘り下げ。（會田容弘・洪惠媛授業担当）	野帳に発掘調査の記録の整理。野帳をもとに、その日に行った調査内容を整理し、日誌にまとめる。	30
10	発掘調査実習（６）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱｂ層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。（會田容弘・洪惠媛授業担当）	野帳に発掘調査の記録の整理。野帳をもとに、その日に行った調査内容を整理し、日誌にまとめる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	発掘調査実習（７）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱｂ層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。（會田容弘・洪惠媛授業担当）	野帳に発掘調査の記録の整理。野帳をもとに、その日に行った調査内容を整理し、日誌にまとめる。	30
12	発掘調査実習（８）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅱｂ層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。（會田容弘・洪惠媛授業担当）	野帳に発掘調査の記録の整理。野帳をもとに、その日に行った調査内容を整理し、日誌にまとめる。	30
13	発掘調査実習（９）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。（會田容弘・洪惠媛授業担当）	野帳に発掘調査の記録の整理。野帳をもとに、その日に行った調査内容を整理し、日誌にまとめる。	30
14	発掘調査実習（１０）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。（會田容弘・洪惠媛授業担当）	野帳に発掘調査の記録の整理。野帳をもとに、その日に行った調査内容を整理し、日誌にまとめる。	30
15	発掘調査実習（１１）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。（會田容弘・洪惠媛授業担当）	野帳に発掘調査の記録の整理。野帳をもとに、その日に行った調査内容を整理し、日誌にまとめる。	30
16	発掘調査実習（１２）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。（會田容弘・洪惠媛授業担当）	野帳に発掘調査の記録の整理。野帳をもとに、その日に行った調査内容を整理し、日誌にまとめる。	30
17	発掘調査実習（１３）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。（會田容弘・洪惠媛授業担当）	野帳に発掘調査の記録の整理。野帳をもとに、その日に行った調査内容を整理し、日誌にまとめる。	30
18	発掘調査実習（１４）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。（會田容弘・洪惠媛授業担当）	野帳に発掘調査の記録の整理。野帳をもとに、その日に行った調査内容を整理し、日誌にまとめる。	30
19	発掘調査のまとめ	笹山原遺跡N0.１６において発掘調査経過、調査内容、最終的な調査成果について説明する。（會田容弘・洪惠媛授業担当）	発掘調査時に作成した野帳と日誌、授業の「発掘調査のまとめ」を参考にし、「笹山原の思い出」というレポートを作成する。	30
20	資料整理実習（１）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った実習内容を日誌にまとめる。	30
21	資料整理実習（２）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った実習内容を日誌にまとめる。	30
22	資料整理実習（３）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った実習内容を日誌にまとめる。	30
23	資料整理実習（４）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った実習内容を日誌にまとめる。	30
24	資料整理実習（５）	縄文土器整理法。縄文土器の製作技術、型式、機能について観察方法を説明し、実習を行う。	授業で行った実習内容を日誌にまとめる。	30
25	資料整理実習（６）	縄文土器の記録方法としての拓本、実測について説明し、実習を行う。	授業で行った実習内容を日誌にまとめる。	30
26	資料整理実習（７）	石器の実測法。石器製作技術の説明を行い、石器実測図の描き方を説明する。	授業で行った実習内容を日誌にまとめる。	30
27	資料整理実習（８）	石器実測実習。石器の実測図を描く実習を行なう。	授業で行った実習内容を日誌にまとめる。	30
28	資料整理実習（９）	石器・縄文土器の写真撮影方法を説明し、実習を行う。	授業で行った実習内容を日誌にまとめる。	30
29	資料整理実習（１０）	報告書作成のための図版作成方法を説明し、実習を行う。	授業で行った実習内容を日誌にまとめる。。	30
30	発掘調査・整理の成果	考古学実習の総まとめを行う。	実習で行った整理作業の過程を日誌からまとめ、整理作業の成果とともにレポートとして提出する。	30

令和3年度

科目名	Ｗｅｂデザイン	**対象**	
担当教員	小松　太志	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
開講期	III	**必選**	

授業概要	▼授業の目的・ねらい ①Webを活用したビジュアルコミュニケーション能力の養成 ②情報の構造化と視覚化に関する理解の促進 ▼授業全体の内容の概要 ①インターネットの基礎理解とHTML，CSSを使用したWebサイト制作について学修する。 ②演習を通して、情報を構造的に捉え、視覚を通して効果的に伝達する方法を理解する。 ▼実務経験に関連する内容 広告制作会社に勤務した経験を活かして、ビジュアルコミュニケーションの視点からWeb制作についての授業を行う。 実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務 ▼課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
達成目標	▼達成目標 ①HTML、CSSについて基礎的理解ができている。 ②HTML、CSSを使用して簡易なWebサイトを制作できる。 ③ユーザビリティ、アクセシビリティについて理解している。 ④情報の構造化と視覚化について理解している。 ▼単位認定の最低基準 ・授業内容の7割を理解していること。 ▼ディプロマ・ポリシーとの関係

受講資格	・地域創成学科２年 対象☒ ・CG基礎Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。	**成績評価方法**	授業の総合的理解度が７割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。 ①課題作品の制作過程（40%） ②課題作品（40%） ③課題作品の提出状況（20%）

教科書	Webクリエイター能力認定試験エキスパート　公式テキストブック、鷹野 雅弘、マイナビ出版
参考書	適宜、提示する。
学生への要望	・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。
オフィスタイム	火曜日　12:50～16:00　No.3地域創成学科研究室

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	▼Webデザインの授業計画と授業目標について説明する。 ▼CG演習室の使用方法と機器設備について説明する。授業で使用するコンピュータに個々のアカウントを作成する。	【事前学修】さまざまなWebサイトを閲覧する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
2	Webサイト・制作の基礎知識	Webサイトの基礎知識、ページを構成するファイル、Webページを作る手順、HTMLファイル・CSSファイル編集の基本操作について学修する。	【事前学修】教科書「第１章（pp.16-31）」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
3	HTMLの基礎①	HTMLの基礎、HTML5の特徴、HTMLの記述法について学修する。	【事前学修】教科書「第２章（pp.36-42）」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
4	HTMLの基礎②	第３回の授業に基づいて、HTMLを使用してページを作成する。	【事前学修】教科書「第２章（pp.44-55）」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
5	CSSの基礎①	CSSの基礎知識、セレクターについて学修する。	【事前学修】教科書「第３章（pp.58-61）」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
6	CSSの基礎②	CSSの使用・外部CSSファイルの読み込みについて学修する。第4回の授業で作成したHTMLファイルにCSSを適用する。	【事前学修】教科書「第３章（pp.62-76）」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	ページの作成①	Webページを作成しながら、HTML及びCSSについて理解を深める。サイト共通のHTMLとCSSを作成する。 HTML：ページの基本構造・リンク・背景の設定、CSS：テキスト関連プロパティ・paddingとmarginプロパティの設定	【事前学修】教科書「第４章（pp.82-100）」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
8	ページの作成②	Webページを作成しながら、HTML及びCSSについて理解を深める。ページのメイン領域を作成する。 HTML：画像の挿入・箇条書きリスト・クラス属性の設定、CSS：リスト関連プロパティの設定	【事前学修】教科書「第４章（pp.101-108）」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
9	ページの作成③	Webページを作成しながら、HTML及びCSSについて理解を深める。ページレイアウトを整える。 CSS：floatプロパティの設定	【事前学修】教科書「第４章（pp.108-122）」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
10	テーブルとそのスタイル①	テーブルの作成、及び基本設定について学修する。	【事前学修】教科書「第５章（pp.126-134）」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
11	テーブルとそのスタイル②	テーブルにCSSを設定して、デザインを整える。	【事前学修】教科書「第５章（pp.136-146）」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
12	フォーム①	フォーム領域、コントロールをHTMLで作成する。	【事前学修】教科書「第６章（pp.150-161）」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
13	フォーム②	フォーム領域、コントロールのCSSを設定する。	【事前学修】教科書「第６章（pp.163-166）」について予習する。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90
14	知識理解の確認①	▼実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について、復習する。	【事前学修】これまでの教科書内容について、復習する。 【事後学修】模擬テストを復習する。	90
15	知識理解の確認②	▼模擬テストの結果を確認する。回答について、解説を行なう。	【事前学修】模擬テストの不明点を明らかにしておく。 【事後学修】授業内容についてまとめる。	90

令和3年度

科目名	図書館サービス概論	**対象**	
担当教員	和知　剛	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
開講期	II	**必選**	
授業概要	公共図書館をはじめとする各館種で行われている「図書館サービス」の種類とそのあらましを学ぶ。図書館サービスの内容を覚え，図書館で働く際はもとより，図書館を利用する側になったときも，的確なサービスを選択し図書館を効率的に利用できる社会人になる。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た，専門的な知識および専門的なスキルを活用して，図書館の過去と現在，そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していくとともに，学生自らが図書館サービスを調査報告する課題と機会を設けて，学生が主体的に学ぶことを身につける。☒ 講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。☒ 担当教員は大学図書館に30年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。☒ ☒ 位置づけ・水準　CD2112		
達成目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー③にある「地域社会において円滑に対応できるコミュニケーション力を活かしながら、現代社会の多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。		
受講資格	地域創成学科に所属し，図書館司書課程を選択している学生	**成績評価方法**	レポート5割，期末試験5割
教科書	講義ではその都度プリントを配布します		
参考書	参考書よりも，自ら図書館利用者となって足繁く通い，実際に様々なサービスを享受することが講義の参考になります		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜－木曜 のそれぞれ2コマ目（10時30分－12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	「図書館サービス」のあらまし：意義と理念	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	「図書館サービス」とは（1）	実際に行われている「図書館サービス」の類型	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	「図書館サービス」とは（2）	「図書館サービス」は外部からどのように見られているか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	学生による事例報告（1）	国立国会図書館，移動図書館，専門図書館，病院図書室	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	学生による事例報告（2）	コレクション構築（蔵書構成論），蔵書管理，閲覧・貸出，予約・リクエスト	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	学生による事例報告（3）	複写サービス，参考図書，地域資料，逐次刊行物（継続資料）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	学生による事例報告（4）	オーディオ・ヴィジュアル（AV）資料，新聞，上映会，演奏会	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	学生による事例報告（５）	地域交流・集会，読書会，TRPG・ボードゲーム，レファレンスサービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	学生による事例報告（６）	レフェラルサービス，エンペディット・ライブラリアン，広報，展示	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	学生による事例報告（７）	利用者支援（利用者教育），読書通帳，児童サービス，ヤングアダルトサービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	学生による事例報告（８）	認知症の方へのサービス，多文化サービス，法情報サービス，視覚・聴覚障碍者へのサービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	学生による事例報告（９）	アウトリーチサービス，ビジネス支援・課題解決型サービス，電子書籍，医療情報サービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	学生による事例報告（１０）	学校図書館との相互協力，大学図書館との相互協力，博物館・美術館との連携，公民館との連携	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	まとめ（１）	「図書館サービス」計画の策定と評価	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	まとめ（２）	「図書館サービス」のこれから	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

令和3年度

科目名	図書館情報資源概論	**対象**	
担当教員	和知　剛	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
開講期	Ⅰ	**必選**	
授業概要	図書館で扱う情報資源の歴史について学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た，専門的な知識および専門的なスキルを活用して，図書館の過去と現在，そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。☒ 担当教員は大学図書館に30年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。☒ ☒ 位置づけ・水準　CD2113		
達成目標	目標は①図書館で扱う情報資源は一朝一夕にいまの形になったものではないことを8割理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探求し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。		
受講資格	地域創成学科に在籍し司書課程を受講している学生	**成績評価方法**	レポート3割，期末試験7割で評価します。
教科書	その都度プリントを配布。		
参考書	NDC014，021，023に分類される書籍		
学生への要望	知識を習得する講義です。受講生の無断欠席は受講を継続する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分－12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション(1)	記憶と記録のメディア	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	イントロダクション(2)	アナログからデジタルへ	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	文字の歴史(1)	文字の誕生	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	文字の歴史(2)	日本における文字の歴史	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	紙の歴史(1)	紙以前の記録媒体と紙の出現	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	紙の歴史(2)	紙の発明と伝播	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	印刷の歴史(1)	黎明期の印刷（木版印刷）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	印刷の歴史(2)	活字の発明	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	印刷の歴史(3)	活版印刷の発明	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	書物について	さまざまな書物のかたち	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	近代出版の歴史(1)	16世紀ヨーロッパの出版	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	近代出版の歴史(2)	17世紀ヨーロッパの出版	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	近代出版の歴史(3)	近世日本の出版(1)	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	近代出版の歴史(4)	近世日本の出版(2)	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	近代出版の歴史(5)	明治時代以降の出版	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

令和3年度

科目名	情報資源組織論	**対象**	
担当教員	和知　剛	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
開講期	II	**必選**	
授業概要	図書館業務において「混沌（カオス）」から「秩序（コスモス）」を作り出し，利用者に必要な情報資源を提供しやすくしておくことの手段のひとつが「情報資源の組織化」であることを学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た，専門的な知識および専門的なスキルを活用して，図書館の過去と現在，そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に30年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。 位置づけ：水準　CD2114		
達成目標	情報資源および情報資源の組織化に関する基礎的な知識を修得することを目標とする		
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	**成績評価方法**	レポート4割，期末試験6割で評価します。
教科書	プリントをその都度配布します		
参考書	『知識資源のメタデータ』（谷口・緑川），『情報資源の組織化と提供』（根本・岸和田）など		
学生への要望	知識を習得する講義です。受講生の無断欠席は受講を継続する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	毎週月曜－木曜の2コマ（10時半から12時まで）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	自己紹介と講義の目的	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	「情報資源」とは何か（1）	情報(information)，情報資源(information resource)についてそれぞれ考える	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	「情報資源」とは何か（2）	「データ→情報→知識→知恵」という定説を疑い，「Information→分析→Intelligence」という流れを併せて考える	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	メタデータとは何か（1）	「情報資源」の組織化とは，情報資源が図書館業務においてどのような状態になることか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	メタデータとは何か（2）	所蔵/所有を超えた情報資源の「目録化」	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	図書館と「目録化」	混沌から秩序を生み出し，図書館利用者が必要としている情報資源を必要なときに提供するための仕事としての目録作成について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	図書館目録の簡単な歴史	FRBR/RDAに至る目録規則の話	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	書誌コントロールとMARC	書誌コントロールの歴史と標準化	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	書誌ユーティリティとコピーカタロギング	書誌ユーティリティの構築とコピーカタロギングの導入に伴う目録作成の合理化と目録作成業務の地位低下	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	インターミッション	ここまでのおさらい	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	日本目録規則のはなし	日本における「目録法」の歴史と現在	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	日本十進分類法のはなし	日本における「分類法」の歴史と現在	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	OPACの簡単な歴史	OPAC（Online Public Access Catalog）の歴史と現在	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	OPACの未来	リンクリゾルバ/ディスカバリーサービス/OPACのGoogle化	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	まとめ	図書館目録の「未来への展望」はありやなしや	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

令和3年度

科目名	図書館情報技術論	**対象 単位数 必選**	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	和知　剛		
開講期	IV		
授業概要	現在の図書館の現場において使われている情報技術（ICT）にどのようなものがあるかを学ぶとともに，これまでの歴史を踏まえ，技術を支える法制度の現状を見て，単なる知識の習得に終わらない，情報技術の「困難さ」をめぐる思考を深めていく。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た，専門的な知識および専門的なスキルを活用して，図書館の過去と現在，そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。図書館サービスに有効に活用されている情報技術にどのようなものがあるかを学修し，エンドユーザーとして使いこなすことが可能になることを目指す。☒ 講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。☒ 担当教員は大学図書館に30年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。☒ ☒ 位置づけ・水準　CD2115		
達成目標	目標は①内容の7割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探求し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。		
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	**成績評価 方法**	レポート3割，期末試験7割で評価します。
教科書	プリントをその都度配布します		
参考書	「ITパスポート試験」「基本情報技術者試験」の教科書，参考書の類を読んでおくと理解に役立ちます。☒ 『電子書籍と電子ジャーナル』（日本図書館情報学会研究委員会編/勉誠出版）☒ 『メタデータとウェブサービス』（日本図書館情報学会研究委員会編/勉誠出版）		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜－木曜 のそれぞれ2コマ目（10時30分－12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	図書館に限定せず，アナログからデジタルへのテクノロジーの歴史について。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	コンピュータ（電子計算機）の簡単な歴史	機械式計算機からノイマン型コンピュータまで。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	コンピュータの構成要素	コンピュータの構成要素とその機能，種類と役割について。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	ソフトウェアとハードウェア	オペレーションズシステム（OS），アプリケーションソフトウェア（アプリ），ファイルシステムなどについて。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	システムの構成要素	現在の主要なコンピュータシステムの構成要素について。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	データベースのしくみと現在	データベースの役割と種類，主にリレーショナル・データベースについて。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	デジタルアーカイブの現在	デジタルアーカイブとは何を目的としているのか，使われている技術はどのようなものか。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	インターネットの簡単な歴史	インターネット黎明期から現在に至る歴史を解説。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	情報セキュリティ対策	「情報セキュリティ」が図書館においても重視されるのはなぜか。ポリシーとマネジメントを組織として確立し，適切なリスク管理を実施することが必要。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	情報技術をめぐる法制度	知的財産権，セキュリティ，プライバシーに関する法制度	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	図書館システムの歴史としくみ	図書館システムのはじまりから最近の動向について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	電子書籍と電子ジャーナル	その基礎知識とこれまでの動向について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	図書館とウェブサービス	RSS，WebAPI，SNSをそれぞれ図書館サービスに利活用する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	テクノロジーを用いた障碍のあるひとへの図書館サービス	マルチメディアデイジーほか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	講義のまとめ	図書館はこれから，どこへ向かうのか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

令和3年度

科目名	図書館制度・経営論	**対象 単位数 必選**	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	和知　剛		
開講期	III		
授業概要	公共図書館の経営に関して必要な法制度および代表的な公共図書館経営論について学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た，専門的な知識および専門的なスキルを活用して，図書館の過去と現在，そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。図書館をとりまく環境（法律・政策・社会）やニーズ（社会的需要・利用者の要求）を考えながら，どのように経営されるのかについて理解を深める。☒ 講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。☒ 担当教員は大学図書館に30年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。☒ ☒ 位置づけ・水準　CD2116		
達成目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探求し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。		
受講資格	地域創成学科に在籍し司書課程を受講している学生	**成績評価 方法**	レポート3割，期末試験7割
教科書	その都度プリントを配布		
参考書	NDC013に排架されている書籍を中心に		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがある。		
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分－12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	「図書館制度・経営論」において何が問題になってきたのか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	地方行政とその制度（1）	その組織	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	地方行政とその制度（2）	その法制度	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	図書館をめぐる法規	日本国憲法，地方自治法，教育基本法，子どもの読書活動の推進に関する法律	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	図書館法逐条講義（1）	図書館法の成立と逐条解説	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	図書館法逐条講義（2）	逐条解説（続）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	図書館法逐条講義（3）	改正の概略	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	リクエストアワー（1）	質問にお答えします	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	出版流通（１）	図書館の書架に並ぶ本は誰が作っているのか？	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	出版流通（２）	書籍の販売について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	出版流通（３）	再販制度について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	図書館の危機管理	自然災害と人災	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	図書館の評価	業務統計と評価指標	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	リクエストアワー（2）	質問にお答えします	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	これまでのまとめ	「理想の図書館経営」とは	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

令和3年度

科目名	情報サービス論	**対象**	
担当教員	和知　剛	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
開講期	III	**必選**	
授業概要	まず各自の情報リテラシーを高め，その上で図書館における情報サービス（主にレファレンス）業務に関する知識を学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た，専門的な知識および専門的なスキルを活用して，図書館の過去と現在，そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。情報を取り扱うための新しい情報サービスについて学修し，情報を選択するための多様な手段を習得する。☒ 講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。☒ 担当教員は大学図書館に30年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。☒ ☒ 位置づけ・水準　CD2117		
達成目標	目標は①内容の7割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探求し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。		
受講資格	地域創成学科に所属し，図書館司書課程を選択している学生	**成績評価方法**	レポート4割，期末試験6割で評価します。
教科書	その都度プリントを配布。		
参考書	NDC015に分類される書籍		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分－12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	情報リテラシー概説	講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に30年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
2	しらべる力を身につける	「しらべる」ために必要な能力について	講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に31年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
3	その情報はどこから	主にインターネット上で拡散するフェイクニュース/オルタナティブ・ファクトを注意深く選択から外すために	講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に32年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
4	情報収集	情報に対する「感度」を上げるために各々がなすべきことについて	講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に33年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
5	情報の分析	informationとintelligenceの違い	講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に34年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
6	情報リテラシー教育	図書館における基本的な考え方とその事例紹介	講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に35年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	図書館の広報	基本的な考え方とその事例紹介	講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に36年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
8	オープンサイエンス・オープンデータ	情報の「見える化」への取り組み	講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に37年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
9	もののインターネット（IoT）	IoTの現状と図書館への応用	講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に38年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
10	AI	学術情報の流通とAIの寄与	講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に39年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
11	研究評価	学術雑誌と研究評価に関わる技術	講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に40年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
12	リクエストアワー	これまで受けた質問への回答	講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に41年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
13	情報メディア論再考	コミュニケーションの枠組みとしての「メディア」ほか	講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に42年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
14	情報リテラシー再考	その情報はどこから？	講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に43年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60
15	まとめ	これまでのおさらい	講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に44年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。	60

令和3年度

科目名	情報サービス演習	**対象 単位数 必選**	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	和知　剛		
開講期	通年		
授業概要	PDCAサイクルに倣って，情報サービスの各種の業務における設計から評価までを考える能力，利用者の質問に対する適切かつ柔軟なレファレンスサービスと情報検索サービスの適用が可能な能力，そして積極的な発信型情報サービスの演習を通して，実践的な能力を養成する。☒ また図書館における種々の情報サービスについて設計・展開・評価を，それぞれ実際の業務に近い形で実習し，学生が相互にそのプロセスと結果に評価を加える。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た，専門的な知識および専門的なスキルを活用して，図書館の過去と現在，そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について，演習を通して解説していく。☒ 講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーもしくは報告の記録の記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。☒ 担当教員は大学図書館に30年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。☒ ☒ 位置づけ・水準　CD2217		
達成目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー③にある「地域社会において円滑に対応できるコミュニケーション力を活かしながら、現代社会の多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。		
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	**成績評価 方法**	課題レポート（4本程度）で評価します
教科書	プリントをその都度配布します		
参考書	あらかじめ☒ レファレンス協同データベース ☒ http://crd.ndl.go.jp/reference/☒ 等を見ておくように。		
学生への要望	技術と能力を習得する演習です。受講生の無断欠席は演習を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜－木曜 のそれぞれ2コマ目（10時30分－12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	情報サービス演習の目的と概要	当演習の目的と概要を説明する。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	図書館報・図書館だよりを作ろう(1)	架空の市町村にある，架空の公共図書館による「図書館報・図書館だより」を編集する	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
3	図書館報・図書館だよりを作ろう(2)	架空の市町村にある，架空の公共図書館による「図書館報・図書館だより」を編集する	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
4	図書館報・図書館だよりを作ろう(3)	架空の市町村にある，架空の公共図書館による「図書館報・図書館だより」を編集する	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
5	図書館報・図書館だよりを作ろう(4)	架空の市町村にある，架空の公共図書館による「図書館報・図書館だより」を編集する	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
6	図書館報・図書館だよりを作ろう(5)	進捗状況の中間報告	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
7	図書館報・図書館だよりを作ろう(6)	架空の市町村にある，架空の公共図書館による「図書館報・図書館だより」を編集する	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
8	図書館報・図書館だよりを作ろう(7)	架空の市町村にある，架空の公共図書館による「図書館報・図書館だより」を編集する	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	図書館報・図書館だよりを作ろう(8)	図書館報・図書館だよりの完成品を披露し，報告と評価を行う	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
10	パスファインダーを作ろう(1)	初心者の情報探索の道標となる「パスファインダー」を作成する	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
11	パスファインダーを作ろう(2)	初心者の情報探索の道標となる「パスファインダー」を作成する	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
12	パスファインダーを作ろう(3)	初心者の情報探索の道標となる「パスファインダー」を作成する	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
13	パスファインダーを作ろう(4)	初心者の情報探索の道標となる「パスファインダー」を作成する	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
14	パスファインダーを作ろう(5)	初心者の情報探索の道標となる「パスファインダー」を作成する	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
15	パスファインダーを作ろう(6)	初心者の情報探索の道標となる「パスファインダー」を作成する	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
16	レファレンスコレクションの構築を考える	これからの図書館経営にふさわしいレファレンスコレクションの内容を考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
17	構築されたレファレンスコレクションを評価する	これからの図書館経営にふさわしいレファレンスコレクションの評価を考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
18	レファレンスサービスの展開（1）	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
19	レファレンスサービスの展開（2）	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
20	レファレンスサービスの展開（3）	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
21	レファレンスサービスの展開（4）	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
22	レファレンスサービスの展開（5）	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	レファレンスサービスの展開（6）	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
24	レファレンスサービスの展開（7）	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
25	レファレンスサービスの展開（8）	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
26	レファレンスサービスの展開（9）	レファレンス課題の解法を考える。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
27	ビブリオバトル	知的書評合戦「ビブリオバトル」を開催する。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
28	レファレンスサービスの評価（1）	図書館における「情報サービス」の一環としてのレファレンスサービスを，これから図書館経営の中でどのように評価し，活用していき，図書館経営のアピールポイントとしていくことが可能なのかを考えていく。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
29	レファレンスサービスの評価（2）	図書館における「情報サービス」の一環としてのレファレンスサービスを，これから図書館経営の中でどのように評価し，活用していき，図書館経営のアピールポイントとしていくことが可能なのかを考えていく。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
30	レファレンスサービスの評価（3）	図書館における「情報サービス」の一環としてのレファレンスサービスを，これから図書館経営の中でどのように評価し，活用していき，図書館経営のアピールポイントとしていくことが可能なのかを考えていく。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

令和3年度

科目名	情報資源組織演習	**対象 単位数 必選**	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員	和知　剛		
開講期	通年		
授業概要	日本でもっとも利用されている，情報資源を組織化するためのツールである『日本十進分類法』，『日本目録規則』，『基本件名標目表』を中心に，国立情報学研究所のNACSIS-CATや国立国会図書館件名標目表，基本的なメタデータの記述規則であるDublin Core等も交えつつ，情報資源の組織化の実際を学び，受講生がこれらのツールを用いて図書館目録の整理を行うに必要な知識と技術を習得する。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た，専門的な知識および専門的なスキルを活用して，図書館の過去と現在，そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について，演習を通じて解説していく。図書館利用者がその検索結果を以って，充分な図書館利用を可能にする目録の提供が可能な技術の習得を目標とする。☒ 講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーもしくは報告の記録の記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。☒ 担当教員は大学図書館に30年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。☒ ☒ 位置づけ・水準　CD2214		
達成目標	目標は①内容の7割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー③にある「地域社会において円滑に対応できるコミュニケーション力を活かしながら、現代社会の多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。		
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	**成績評価 方法**	レポート5割，期末試験5割で評価します。
教科書	プリントをその都度配布します		
参考書	『日本十進分類法』新訂9版・新訂10版☒ 『日本目録規則』1987年版改訂3版，2018年版☒ 他		
学生への要望	技術を習得する演習です。受講生の無断欠席は演習を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜－木曜 のそれぞれ2コマ目（10時30分－12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	情報資源組織論演習の目的と概要について	自己紹介。演習の目的と１年間の概要を説明する。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	「情報資源」とは何か(1)	図書館が何を以って「情報資源」と捉えるのかを考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	「情報資源」とは何か(2)	図書館が何を以って「情報資源」と捉えるのかを考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	「情報資源」とは何か(3)	図書館が何を以って「情報資源」と捉えるのかを考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	情報資源を「組織化」するとは(1)	情報資源の「組織化」とはどのような作業を指し，組織化することによって何を達成することが可能になるのかを考える。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
6	情報資源を「組織化」するとは(3)	情報資源の「組織化」とはどのような作業を指し，組織化することによって何を達成することが可能になるのかを考える。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
7	情報資源を「組織化」するとは(3)	情報資源の「組織化」とはどのような作業を指し，組織化することによって何を達成することが可能になるのかを考える。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
8	新しい目録規則(1)	新しい目録規則である『日本目録規則』2018年版および「CAT2020」（国立情報学研究所）を解説し，簡単な利用方法を学ぶ	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	新しい目録規則(2)	新しい目録規則である『日本目録規則』2018年版および「CAT2021」（国立情報学研究所）を解説し，簡単な利用方法を学ぶ	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
10	新しい目録規則(3)	新しい目録規則である『日本目録規則』2018年版および「CAT2022」（国立情報学研究所）を解説し，簡単な利用方法を学ぶ	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
11	新しい目録規則(4)	新しい目録規則である『日本目録規則』2018年版および「CAT2023」（国立情報学研究所）を解説し，簡単な利用方法を学ぶ	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
12	情報資源組織化の技法(1)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法（NDC）』および『日本目録規則（NCR）』，『基本件名標目表（BSH）』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
13	情報資源組織化の技法(2)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法（NDC）』および『日本目録規則（NCR）』，『基本件名標目表（BSH）』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
14	情報資源組織化の技法(3)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法（NDC）』および『日本目録規則（NCR）』，『基本件名標目表（BSH）』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
15	情報資源組織化の技法(4)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法（NDC）』および『日本目録規則（NCR）』，『基本件名標目表（BSH）』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
16	情報資源組織化の技法(5)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法（NDC）』および『日本目録規則（NCR）』，『基本件名標目表（BSH）』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
17	情報資源組織化の技法(6)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法（NDC）』および『日本目録規則（NCR）』，『基本件名標目表（BSH）』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
18	情報資源組織化の技法(7)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法（NDC）』および『日本目録規則（NCR）』，『基本件名標目表（BSH）』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
19	情報資源組織化の技法(8)	図書館における情報資源組織化のツールであるところの『日本十進分類法（NDC）』および『日本目録規則（NCR）』，『基本件名標目表（BSH）』の使い方を学ぶ。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
20	情報資源組織化の実際(1)	情報資源組織化のツールを駆使して，実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
21	情報資源組織化の実際(2)	情報資源組織化のツールを駆使して，実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
22	情報資源組織化の実際(3)	情報資源組織化のツールを駆使して，実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
23	情報資源組織化の実際(4)	情報資源組織化のツールを駆使して，実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
24	情報資源組織化の実際(5)	情報資源組織化のツールを駆使して，実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
25	情報資源組織化の実際(6)	情報資源組織化のツールを駆使して，実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
26	情報資源組織化の実際(7)	情報資源組織化のツールを駆使して，実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
27	情報資源組織化の実際(8)	情報資源組織化のツールを駆使して，実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
28	情報資源組織化の実際(9)	情報資源組織化のツールを駆使して，実際に情報資源の組織化を企図する。	課題レポートを作成・提出し，その内容について配布されたプリント等で充分に復習し，事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
29	情報資源組織化のまとめ(1)	情報資源の組織化とは何を意図し，何を達成すべきものなのか，改めて考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
30	情報資源組織化のまとめ(2)	情報資源の組織化とは何を意図し，何を達成すべきものなのか，改めて考える。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

令和3年度

科目名	図書館基礎特論	**対象**	
担当教員	和知　剛	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
開講期	IV	**必選**	
授業概要	図書館業務の上で必要不可欠な参照文書である「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の任務と目標」「図書館の設置及び運営の望ましい基準」について学び，ライブラリアンシップの醸成に努める。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た，専門的な知識および専門的なスキルを活用して，図書館の過去と現在，そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の任務と目標」「図書館の設置及び運営の望ましい基準」を学び，その現実的な運用精神を習得する。☒ 講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。☒ 担当教員は大学図書館に30年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。☒ ☒ 位置づけ・水準　CD2118		
達成目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探求し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。		
受講資格	地域創成学科に所属し，司書ユニットを選択している学生	**成績評価方法**	レポートの成績による
教科書	その都度プリントを配布。「図書館の自由に関する宣言」はあらかじめ日本図書館協会のサイト等で確認しておくこと。		
参考書	「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の任務と目標」「図書館の設置及び運営の望ましい基準」に関連する書籍		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜－木曜 のそれぞれ2コマ目（10時30分－12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の任務と目標」「図書館の設置及び運営の望ましい基準」の歴史	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	図書館の自由に関する宣言(1)	知る権利の保障	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	図書館の自由に関する宣言(2)	利用者の秘密	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	図書館の自由に関する宣言(3)	「図書館の自由に関する宣言」における「自由」を巡る諸問題	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	図書館員の倫理綱領	利用者に対する責任	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	公立図書館の任務と目標	資料に対する責任	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	図書館の設置及び運営の望ましい基準	研修に努める責任	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	まとめ	「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の任務と目標」「図書館の設置及び運営の望ましい基準」のこれから	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

令和3年度

科目名	図書館情報資源特論	**対象**	
担当教員	和知　剛	**単位数**	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
開講期	IV	**必選**	
授業概要	著作権法制度について，その概要を学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た，専門的な知識および専門的なスキルを活用して，著作権制度の沿革および日本の現行著作権法制度とその問題点について解説する。現在の日本の著作権法制度について知り，著作物の適切な利用法を習得する。☒ なお，「図書館基礎特論」から続く時間割になるが別の講義である。☒ 講義の最後に毎回，時間をとってミニットペーパーの記入を求め，質問・意見を受け付け後日回答する。☒ 担当教員は大学図書館に30年勤務し，目録作成や閲覧参考業務の経験がある。☒ ☒ 位置づけ・水準　CD2213		
達成目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探求し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。		
受講資格	地域創成学科に所属し，司書ユニットを選択している学生	**成績評価方法**	レポートの成績による
教科書	『著作権テキスト』（文化庁）文化庁著作権課のページから最新のテキストを受講生各自がダウンロードすること		
参考書	雑誌「ジュリスト」「情報の科学と技術」の特集号ほか		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	月曜－木曜 のそれぞれ2コマ目（10時30分－12時）に図書館情報学研究室まで		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	知的財産権の概要	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	著作権法制度(1)	著作権制度の沿革と概要	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	著作権法制度(2)	著作物とは・現行の著作権制度における「権利」について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	著作権法制度(3)	著作者人格権・財産権としての著作権	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	著作権法制度(4)	著作隣接権・保護期間・外国の著作物の保護	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	著作権法制度(5)	他人の著作物の利用・著作物等の「例外的な無断使用」ができる場合	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	著作権法制度(6)	著作物等の「例外的な無断使用」ができる場合（続き）・著作権侵害とその対策	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	まとめ	直近の著作権法改正とその目的	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

令和3年度

科目名	日本古代の歴史と文化	**対象**	
担当教員	會田　容弘	**単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
開講期	通年	**必選**	
授業概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。考古学的な方法により書かれた通史である奈良文化財研究所編『日本の考古学』をテキストにして、具体的な事例を補いながら授業を進める。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。 ☒ 位置付け・水準：CS2202		
達成目標	＜到達目標＞日本原始・古代史の最新の考古学的成果の理解し、それについて説明ができるレベルにまで到達できること。単位認定の基準は授業内容を7割以上理解していることが望まれる。ディプロマポリシーとの関係：研究能力と研究課題☒		
受講資格	考古学・古代史の基礎理解があること	**成績評価方法**	授業への参加度を平常点とし、課題レポートを課す(平常点30%、レポート70%)。　授業の60%以上の理解が必要である。考古学で専攻科論文を作成する学生は80%以上の理解が必要である。
教科書	奈良文化財研究所編『日本の考古学』上下(学生社) ☒		
参考書	講義中に紹介する。		
学生への要望	授業の前に教科書を熟読し、わからない点などを確認し、ノートを作成すること。復習には授業時の内容をノートにまとめておくこと。		
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日２・４時限目。考古学研究室または考古学実習室。☒ 時間があいている限り、対応する。メールの質問も可。面接が必要な場合はメールでアポをとってから質問時間を設ける。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	日本考古学・日本歴史学の時代区分	時代区分論は歴史観だけでなく、考古学の世界では新発見によって変化する。また、日本という枠組みの変化もある。日本列島の地域区分とその中の時代区分を概観する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
2	日本列島の形成史	地質学、地形学、古環境学からみた日本列島の形成過程を概観する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
3	旧石器時代概説	後期旧石器時代の列島に展開した石器群の全体像を把握した上で、世界的な寒冷化に適応した旧石器☒ 人の姿を見てゆく。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
4	更新世と完新世の哺乳動物	日本では動物化石の出土がきわめて少ない。更新世において、人類遺物との共伴が認められるのは、花泉と野尻湖である。人類遺物の共伴しない石灰岩地帯から出土した化石の情報を含めて、概観する。完新世になると貝塚が形成されるので動物相と人類との関係がより明瞭になる。特に哺乳動物と人類の関係を考察する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
5	更新世と完新世の植物	植物相は泥炭層などの調査により花粉分析や大型植物遺体の研究によって具体的に議論されている。特に植物相の変化と人類の行動の変化が大きな意味を持ってくる。基本的な研究方法を理解したうえで、これまでの研究成果を概観する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
6	東北アジアと日本の旧石器	東北アジアの中に日本の旧石器を位置付けようという解釈の試みが盛んである。それらの研究者がどのような目論見でそのような研究方向を目指すのか、その理解が必要である。そして、その方法は何か。批判的に研究をが概観したい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
7	旧石器時代の地域色、集落と集団	近年の日本旧石器研究の成果は地域性、集落が見えてきたとの理解である。どのような研究方法でそれが見えるようになったのか、そしてその見えたものはなんなのか。研究成果を批判的に理解し、新たな研究目的と方法を考えてゆきたい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	縄文時代概説	縄文時代の時間的枠組み、その要素を文化史的に位置付けてみる。それが、日本考古学が蓄積してきた縄文時代研究である。そしてその中から、いくつかの問題点を抽出してゆきたい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
9	縄文人	縄文文化の担い手である縄文人の形質人類学的特徴をみてゆく。さらに近年の遺伝子研究の成果から、縄文人の成り立ちについて、その後の縄文人の行方、日本人との関係まで、研究の最先端を概観する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
10	定住と縄文文化の成立	列島内の気候及び環境変化状況を見た上で、定住生活の意味を考える。定住生活の開始期である縄文草創期の住居遺構、土器、石器について地域の多様性を見てゆく。縄文早期には列島の地域ごとに小さな環境に適応した多様な集落の様相が明らかになる。大規模な集落を形成する遺跡も最近明らかになっている。それらの具体的事例を検討しながら、縄文社会の確立する過程をみてゆきたい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
11	地域間の交流、大陸との交流	ヒスイ、黒曜石など産地の限定される資料を用いて、交易の可能性を検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
12	縄文時代の住居と集落	温暖化した気候の中で大規模な集落が形成されるようになる。青森県三内丸山遺跡や長野県阿久遺跡☒ などが代表的である。集落を構成する住居・墓地・広場・貯蔵穴・廃棄場の様相を実例を検討しながら☒ 理解を深めてゆく。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
13	竪穴住居の構造	様々な竪穴住居の復元案が提示され、復元家屋が作られている。考古学的証拠との整合性という面からみてゆく。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
14	縄文社会と狩猟獲得技術	縄文社会を狩猟獲得技術の面から見てゆく。それを支えた技術の姿を明らかにする。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
15	貝塚ー狩猟と漁労	貝塚研究の重要性を里浜貝塚研・中沢目貝塚などの研究を通してみてゆく。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
16	縄文土器の年代学・型式学	松本彦七郎と山内清男の縄文土器型式学をみてゆく。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
17	最初の土器	最古の土器研究の歴史と現在知られている最古級の土器を概観する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
18	生活道具としての土器とその技術	縄文土器の製作技術を動作連鎖仮説と実験を通してみてゆく。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	勝坂式土器様式圏と火炎土器様式圏の対立	土器型式を人間集団の特徴としてとらえる縄文土器型式学がどのような議論を行っているのかを理解する。そして、その論拠がどこになるのかを検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
20	亀ヶ岡式土器	縄文晩期特に東北地方に広がる亀ヶ岡文化についてその多様な工芸品の具体例を検討する。さらに、最近明らかになりつつある亀ヶ岡文化の集落構成について検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
21	縄文世界の土器造形とその展開	造形物としての縄文土器もその技術から明らかにする。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
22	縄文墓地	縄文時代を通して様々な墓制、埋葬法、墓域構成が見られる。時代地域の特性を具体的に見てゆく。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
23	なぜ縄文時代は終わったのか	北海道には弥生文化が到達しなかった。続縄文文化と呼ばれる縄文時代以来の狩猟採集社会が継続して□いた。東北の弥生文化との相違点を見てゆく。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
24	縄文人から弥生人へ	形質人類学からみた縄文人と弥生人の特徴を見てゆく。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
25	弥生時代の始まり	AMS放射性炭素年代測定法の導入により、弥生時代の開始時期が５００年これまでよりも古くなるという□仮説が提示された。その論拠を明らかにする。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
26	弥生時代概説	九州北部に導入された水稲稲作はその他にも金属器など多様な物質文化をもたらした。その結果、西日□本では水稲稲作が成長した結果、大規模な集落が形成され、さらには集落間の抗争がおこり、階級社会□が発生する。その過程を西日本の遺跡をもとに検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
27	稲の起源	稲の登場は年代論と不可分である。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
28	稲作の伝播ーブタ・水田・農村	弥生時代の稲作中心の複合農業について概観し、列島内の違いをみてゆく。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
29	弥生文化ー石器・鉄器・木器	弥生時代になって新たに登場する鉄器、経文時代以来作られてきた石器と木器。素材を同じくして新たな道具が加わる。そして失われた道具もある。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
30	青銅器の生産	九州から機内まで見られる青銅器の生産遺跡とその生産のあり方を概観する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60

令和3年度

科目名	日本の考古学	**対象**	
担当教員	會田　容弘	**単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
開講期	通年	**必選**	
授業概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。東北大学では中沢目貝塚の発掘と報告、奥松島縄文村歴史資料館では里浜貝塚の発掘調査と報告書作成をおこなってきた。その経験と研究成果を用いて、先史時代における考古資料を用いた人間の動作連鎖の復元研究の方法を提示する。具体的な研究例として宮城県東松島市里浜貝塚の調査成果を用いる。里浜貝塚からは石、粘土、鹿角などの様々な素材を用いた物質資料が出土している。資料の観察だけでなく、製作実験を行うことで、資料の技術的理解を深めることができる。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。 位置付け・水準CS2105☒		
達成目標	＜到達目標＞貝塚出土資料分析の過程を理解し、実践的な調査を行うに十分な知識をもつレベルに到達すること。単位認定の基準は授業内容を7割以上理解していることが望まれる。ディプロマポリシーとの関係：専門的知識・研究能力		
受講資格	考古学の基本理解があること	**成績評価方法**	レポートと授業への主体的参加度合を加味して評価する。100点を満点とし、60点以上で合格とするがが、考古学で論文を作成する学生には80%以上の授業理解を求める。
教科書	授業中に紹介する		
参考書	里浜貝塚Ⅰ～Ⅸ　東北歴史博物館　里浜貝塚－平成９～１２年度発掘調査概報ー『松島湾の縄文カレンダー　里浜貝塚』「展望　考古学動作連鎖研究の社会的効用－遺跡博物館での活用法－」『考古学研究』第64巻第4号pp.31-35(2018.3)「縄文土器の動作連鎖ー笹山原遺跡No.16の資料分析を通してー」『福島考古』第59号pp.1-14（柿沼梨沙と共著）（2017.11.20）		
学生への要望	参考書を読み、予習・復習を行い授業に参加すること。ノートをまとめておくこと。授業で用いたパワーポイントは「めばえ」で公開するので、復習に用いること。		
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日２・４時限目。☒ 時間がある限り対応するが、論文に関する質問については事前にメールでアポをとり、質問内容を知らせること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	里浜貝塚の位置と環境	里浜貝塚の位置と環境、周辺遺跡について。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
2	里浜貝塚研究史	里浜貝塚の研究の歴史。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
3	里浜貝塚の発掘（1）	里浜貝塚里・西畑・寺下囲地点の調査結果	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
4	里浜貝塚の発掘（2）	里浜貝塚台囲地点の発掘調査。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
5	里浜貝塚の発掘（3）	里浜貝塚畑中・梨木地点の発掘調査。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
6	里浜環境史	泥炭層の植物遺体、花粉化石の分析による周辺環境の変遷史。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
7	縄文時代の前期・中期の里浜	縄文時代の前期・中期の里浜の集落、墓城、貝塚のありかた。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
8	縄文時代後期の里浜	縄文時代後期の里浜の集落、墓城、貝塚のありかた。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
9	縄文時代晩期、弥生時代の里浜貝塚	縄文時代晩期、弥生時代初等の集落、墓城、貝塚、製塩炉、浜辺の利用のありかた。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
10	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(1)	漁労活動。猟具と対象魚。採集対象魚。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
11	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(2)	狩猟対象鳥獣と狩猟具。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
12	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(3)	採集対象植物と植物加工具	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(4)	漁労具の素材調達と製作技術	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
14	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(5)	狩猟具の素材調達と製作技術	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
15	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(6)	植物加工具の素材調達と製作技術	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
16	里浜貝塚の発掘（1）	里浜貝塚の平成８年度の発掘調査の成果と課題。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
17	里浜貝塚の発掘（2）	里浜貝塚平成９年の発掘調査の成果と課題。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
18	里浜貝塚の発掘(3)	里浜貝塚の平成１０年発掘調査の成果と課題。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
19	里浜貝塚の発掘（4）	里浜貝塚の平成１１年発掘調査の成果と課題。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
20	里浜人の土器作り（１）	里浜貝塚出土の土器を観察し、その作り方、文様施文方法などを動作連鎖に基づいた仮説を作る。	仮説をレポートにして提出する。	60
21	里浜人の土器作り（２）	仮説に基づいた土器製作実験計画を立てる。	仮説を発表し、議論する。	60
22	里浜人の土器作り（３）	実験的に土器を製作する。	土器製作実験を行う。	60
23	里浜人の土器作り（４）	実験的に土器を製作する。	土器製作実験を行う。	60
24	里浜人の土器作り（５）	実験的に土器を製作する。	土器製作実験を行う。	60
25	里浜人の石器作り（１）	石器石材の検討を行う。	縄文人の石器石材について笹山山原遺跡と比較してみる。	60
26	里浜人の石器作り（２）	石の割れの基本的理解。実験的に製作した石器を観察し、割れ面の理解を深める。	実験製作品を観察し、記述する。	60
27	里浜人の石器作り（３）	石器製作における加撃法、加撃具と残された痕跡の比較を行う。	加撃法・加撃具の明らかな実験石器と里浜貝塚出土遺物との比較を行い、レポートにする。	60
28	里浜人の石器作り（４）	縄文晩期前半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物（２）	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
29	里浜人の石器作り（５）	実際に実験的に石器を製作してみる。	自分で作った石器について、記述してみる。	60
30	里浜人のモノつくりのまとめ	モノつくりの理解と動作連鎖の考え方を説明する。	実験研究をまとめ、何が理解できたかをまとめて提出する。	60

令和3年度

科目名	考古学特論	**対象 単位数 必選**	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
担当教員	會田　容弘		
開講期	通年		
授業概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。史跡整備、埋蔵文化財の範囲確認・試掘・記録保存、学術調査などのさまざまな目的の発掘調査の実務経験を活かし、遺跡の発掘調査準備、調査、整理作業の実際を学ぶ。考古資料の基本的な操作方法を理解することが目標である。会津若松市笹山原遺跡１６の発掘調査実習を通して発掘方法を理解する。次に出土資料の資料化の過程を理解する。課題に対するレポートはデータおよび版下図として提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。 位置付け・水準CS2104☒		
達成目標	＜到達目標＞発掘調査で出土した資料を考古学研究の資料として利用できるまで整理できる能力を身に着けるレベルまで到達すること。単位認定の最低基準は授業内容の7割以上を理解していること。ディプロマポリシーとの関係：研究能力と研究課題		
受講資格	考古学の基本理解があること	**成績評価 方法**	レポートと授業への主体的参加度を評価する。100点を満点とし、60点以上で合格とする。考古学論文を作成する学生は80%以上の理解を求める。
教科書	『発掘調査のてびき』		
参考書	文化学科（資格課程）報告集第４～21集　地域創成学科報告集第1・２集		
学生への要望	考古学実習発掘に参加すること。この授業は実習作業が中心になる。資料を配布するので事前にそれを読み、確認しておくことが予習である。授業後、授業内容をノートに作成し復習すること。特に実測図の作成は授業時間で完成できない場合はあき時間に完成させること。		
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日２・４時限目。　☒ 時間があいている限り、対応するが論文作成に関する質問は事前にアポをとり、質問内容を知らせること。メールの質問も可。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	笹山原遺跡１６の調査経過	会津若松市笹山原遺跡１６のこれまでの発掘調査の経過を説明する。	過去の発掘調査の理解。	60
2	笹山原遺跡１６の調査方法	笹山原遺跡１６の発掘調査方法について説明を行い、実際に調査を行う準備を行う。	過去の発掘調査の理解。	60
3	笹山原遺跡群の研究成果	これまでの笹山原遺跡群の調査成果をまとめ、その意義と今後の課題について検討する。	過去の発掘調査の理解。	60
4	発掘調査実習（１）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱａ層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
5	発掘調査実習（２）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱａ層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
6	発掘調査実習（３）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱａ層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
7	発掘調査実習（４）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱｂ層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
8	発掘調査実習（５）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱｂ層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
9	発掘調査実習（６）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱｂ層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
10	発掘調査実習（７）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
11	発掘調査実習（８）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
12	発掘調査実習（９）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
13	発掘調査実習（１０）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	発掘調査実習（１１）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
15	発掘調査実習（１２）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
16	石器実測の方法	石の割れの原理を説明し、石器の実測方法について説明を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
17	石器実測（１）	実験で製作した剥片の実測を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
18	石器実測（２）	笹山原No.16遺跡から出土した後期旧石器を資料として実測を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
19	石器実測（３）	笹山原No.16遺跡から出土した石核を用いて実測を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
20	石器実測（４）	笹山原No.16遺跡から出土した石器を用いて、実測を行う。	完成した石器実測図をレポートとして提出する。	60
21	接合資料の理解	笹山原No16遺跡から出土した石器の中に、接合資料が含まれている。この接合資料を用いて、笹山原☒No.16遺跡で行われた、石器製作技術理解の方法を述べる。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
22	石器属性分析の方法	石器を記述するために属性を抽出し、記述する。その方法を学ぶ。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
23	石器属性計測実習	石器の属性を実際に計測し、抽出する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
24	石器属性分析の実際	抽出した属性をEXCELに入力し、属性分析を行う。	授業で行った属性分析結果をExcelに入力し、グラフに出力し、提出する。	60
25	石器写真撮影	笹山原No.16遺跡出土の石器の写真撮影実習。	授業で撮影した写真をフォトショップとイラストレーターを用いてレイアウトし、データを提出する。	60
26	報告書製作１	実測図のトレース、分布図の作成、属性表、調査内容の記述などの説明を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
27	報告書製作２	実測した石器のトレースを行い、版下のレイアウトを行う。	トレースした図をレイアウトし、版下を作成し、提出する。	60
28	報告書製作３	分布図を作成し、石器の出土位置を合成する。母岩別分布図を作成する。それらをトレースし、版下を☒作成する。	遺構図をレイアウトし、版下を作成し、提出する。	60
29	報告書製作４	遺構実測図の合成し、トレースを行い、遺構図面の版下を作成する。	分布図をレイアウトし、版下を作成し、提出する。	60
30	報告書製作５	報告書の体裁及び章立てなどの説明を行い、文章を実際に書いてみる。	遺物、分布、遺構の記述を行い、レポートとして提出する。	60

令和3年度

科目名	考古学演習	**対象**	
担当教員	會田　容弘	**単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
開講期	通年	**必選**	
授業概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。考古資料を用いた実際的研究を行ってきた経験を授業に生かし、指導する。発掘調査に参加し、出土した資料整理を通し、実際の考古資料を扱いその観察方法、記述方法を学び、実践する。さらに、実物資料認識の方法、その資料の関連研究を中心にまとめ、発表をおこない、学生同士の討論を行い、学習を深めて行くのが目標である。☒ 本学では２００１年以来会津若松市湊町大字赤井字笹山原に位置する笹山原遺跡Ｎｏ．１６の発掘調査を継続して行っている。笹山原遺跡Ｎｏ．１６は平安時代、縄文時代前期、後期旧石器時代の複合遺跡でそこから出土した資料を用いて、実践的な演習を行う。☒ 発掘資料の整理、データ整理、記録法、写真撮影などの実践を踏まえて、資料に対する認識力を深め、論文読解を経て、学術的議論ができるような訓練を行う。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。 位置付け・水準CS2209☒		
達成目標	＜到達目標＞考古資料の理解を経て、考古資料の考古学的基礎に基づいた記述が可能なレベルにまで到達できること。☒ 考古学の学術論文を読み、批判的に検討できるレベルに到達すること。単位認定の最低基準は授業内容の7割以上を理解していること。ディプロマポリシーとの関係：研究課題と論理的・創造的		
受講資格	考古学の十分な理解があること	**成績評価方法**	レポート及び発表内容(レポート70%、発表30%)で60点以上の理解度で、合とする。考古学で論文を作成する学生は80点以上の理解度を求める。☒
教科書	イニザン他『石器研究入門』☒ 山中一郎「考古学における方法の問題」		
参考書	文化学科（資格課程）報告集第４～21集　地域創成学科報告集第1・2集		
学生への要望	考古学実習発掘に参加すること。発表と議論が中心になるので事前の準備を十分行うこと。事前準備が予習にあたる。発表内容への指摘点、修正指導点は復習としておこなってほしい。		
オフィスタイム	水曜日2・4時限目。緊急の場合はそれ以外でも可。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	考古学演習の説明	演習の進め方についての説明。	過去の発掘調査の理解。	60
2	発掘調査準備（１）	笹山原遺跡Ｎｏ．１６の発掘調査を行うにあたっての基本的な準備を行う。機材の確認、機材の操作方法の確認、発掘調査過程の確認を行う。	過去の発掘調査の理解。	60
3	発掘調査準備（２）	発掘調査に用いる図面、遺物カード、手引きなどの製作を行う。	過去の発掘調査の理解。	60
4	発掘調査実習（１）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱａ層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	60
5	発掘調査実習（２）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱａ層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	60
6	発掘調査実習（３）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱａ層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	60
7	発掘調査実習（４）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱｂ層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
8	発掘調査実習（５）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱｂ層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
9	発掘調査実習（６）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱｂ層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
10	発掘調査実習（７）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
11	発掘調査実習（８）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
12	発掘調査実習（９）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
13	発掘調査実習（１０）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
14	発掘調査実習（１１）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
15	笹山原遺跡No.１６の石器遺物観察（１）	実際に出土した笹山原遺跡Ｎｏ．１６の石器遺物の全体を観察する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	笹山原遺跡No.１６の石器遺物観察（２）	石材分類。笹山原遺跡Ｎｏ．１６から出土する石器遺物は様々な石材が用いられている。石材を理解し、その石材別の分類を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
17	笹山原遺跡No.１６の石器遺物観察（３）	母岩分類。同一の石材であっても、異なる母岩から製作されている。中には同一母岩から剥離された石器が存在することがある。それらを認識し分類する。☒	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
18	笹山原遺跡No.１６の石器遺物観察（４）	同一母岩に分類したものの中で、遺跡の中で剥片剥離行為がなされた場合、まれに接合する場合がある。それを捜し求める作業を行う。全部のピースがそろっていない立体ジグソーパズルである。接合する資料が確認された場合、それはその石器が持ち運ばれたか、石器製作中に飛び散ったかなどという具体的に石器時代人の行為を実証することができる。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
19	笹山原遺跡No.１６の石器遺物観察（５）	石器接合作業。石材、同一母岩データのデータベースへの入力。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
20	笹山原遺跡No.１６の石器遺物観察（６）	石器接合作業。石材、同一母岩データのデータベースへの入力。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
21	石器の記録（１）	石器の記録方法として実測と写真撮影がある。その基本を説明する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
22	石器の記録（２）	写真撮影と実測を実際に行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
23	土師器の写真撮影	土師器の記録方法として写真撮影を行う。デジタルカメラを用いて、ライティングを調節しながら行☒ う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
24	土師器の観察（１）	土師器の破片資料の観察を行う。観察表の作成を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
25	土師器の観察（２）	土師器の観察表を作成し、集計を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
26	土師器の実験考古学	粘土を用いて土師器を実験的に製作する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
27	縄文土器の理解	笹山原遺跡Ｎｏ．１６から出土した縄文土器破片を観察し、との特徴を調べる。胎土、文様、器形、調☒ 整などの要素の見かたについて説明し、実際の遺物解説の発表を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
28	縄文土器の記録	縄文土器の記録方法として、拓本をとる。拓本の技術は既に修得しているので、実際に笹山原Ｎｏ．１☒ ６遺跡出土の縄文土器を採拓し、前回の観察内容を記述し、発表する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
29	縄文時代の石器理解	縄文時代の石器を検討する。笹山原Ｎｏ．１６遺跡から出土した縄文時代の石器を取り上げ、その石☒ 材、製作技術の特徴についてそれぞれ発表する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
30	縄文時代の石器の記録	石器を理解したうえで、写真撮影、実測を行う。撮影方法、実測方法については、博物館実習、日本の☒ 考古学で修得していることを前提に行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60